2026年度
大学院公共政策研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9000】 政治理論［杉田　敦］ 春学期授業/Spring 1
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9001】 行政学基礎［林　嶺那］ 春学期後半/Spring(2nd half) .. 2
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9002】 比較行政研究［申　龍徹］ 春学期後半/Spring(2nd half) 3
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9003】 公共哲学基礎［宮川　裕二］ 秋学期前半/Fall(1st half) . 4
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9004】 政治制度研究［河野　有理］ 春学期授業/Spring 5
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9005】 政策学基礎［西谷内　博美］ 秋学期前半/Fall(1st half) . 6
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9006】 現代政治分析研究［白鳥　浩］ 春学期前半/Spring(1st half) 7
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9007】 公共政策とジャーナリズム［白鳥　浩、読売新聞社講師］ 春学期後半/Spring(2nd half) 8
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9008】 公共政策の経済分析［北浦　康嗣］ 秋学期授業/Fall 9
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9009】 財政学基礎［其田　茂樹］ 秋学期前半/Fall(1st half) 10
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9010】 経済学基礎［芦谷　典子］ 春学期前半/Spring(1st half) . 11
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9011】 環境哲学・倫理学［吉永　明弘］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 13
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9012】 環境法基礎［永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎］ 春学期前半/Spring(1st half) 14
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9013】 地球環境学基礎［佐々木　大輔］ 春学期後半/Spring(2nd half) 16
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9014】 国際政治学基礎［青野　利彦］ 春学期授業/Spring 17
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9015】 国際協力論［武貞　稔彦］ 秋学期前半/Fall(1st half) 18
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9016】 サステイナビリティ研究入門［湯澤　規子］ 春学期前半/Spring(1st half) 20
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9017】 ＳＤＧｓへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】［武貞　稔彦］ 秋学期前半/Fall(1st half) 21
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9018】 公共政策と持続可能な社会づくり［林　嶺那、加藤　寛之、杉崎　和久、土山　希美枝、多田　和美、中筋　直哉、廣瀬　克哉］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 22
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9019】 政策法務論［神﨑　一郎］ 春学期後半/Spring(2nd half) 24
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9020】 立法学研究［神﨑　一郎］ 春学期前半/Spring(1st half) . 26
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9021】 政策評価論［南島　和久］ 春学期後半/Spring(2nd half) 28
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9022】 社会調査法１［中筋　直哉］ 春学期前半/Spring(1st half) 30
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9023】 社会調査法２［見田　朱子］ 春学期後半/Spring(2nd half) 31
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9024】 社会調査法３［見田　朱子］ 秋学期前半/Fall(1st half) . 32
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9025】 社会調査法４［藤本　篤二郎］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 34
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9026】 社会調査法５［中筋　直哉］ 秋学期前半/Fall(1st half) . 36
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9027】 社会調査法６［見田　朱子］ 秋学期後半/Fall(2nd half) . 37
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9028】 社会調査法７［藤本　篤二郎］ 春学期後半/Spring(2nd half) 39
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9029】 社会調査法８［見田　朱子］ 春学期前半/Spring(1st half) 41
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9033】 地域コンサルティング論［佐谷　和江］ 春学期前半/Spring(1st half) 42
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9034】 ファシリテーション演習［德田　太郎］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 44
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9035】 ＣＳＲ論［長谷川　直哉］ 春学期前半/Spring(1st half) . 46
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9037】 政策研究概論（外国語）※中国語［毛　桂榮］ 秋学期授業/Fall 48

公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9038】 公共政策論文技法1［白鳥　浩、宮﨑　一徳、笹米地　真理］ 春学期前半/Spring(1st half) 50
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9039】 学術的文章作成演習（基礎）［西谷内　博美］ 春学期前半/Spring(1st half) 51
公共政策学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9040】 学術的文章作成演習（応用）［西谷内　博美］ 春学期後半/Spring(2nd half) 53
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9041】 政策学研究［西谷内　博美］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 55
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9042】 行政学事例研究の方法［林　嶺那］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 56
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9045】 自治体議会論［鍵屋　一］ 春学期後半/Spring(2nd half) 57
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9046】 公務員制度研究［森谷　明浩］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 58
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9047】 都市政策概論［杉崎　和久］ 春学期後半/Spring(2nd half) 60
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9048】 都市政策事例研究［杉崎　和久］ 秋学期前半/Fall(1st half) 61
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9052】 コミュニティ制度論［西谷内　博美］ 春学期後半/Spring(2nd half) 62
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9053】 日本政治史研究［明田川　融］ 春学期授業/Spring 63
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9056】 防災危機管理研究［鍵屋　一］ 春学期前半/Spring(1st half) 64
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9057】 雇用労働政策研究［濱口　桂一郎］ 秋学期前半/Fall(1st half) 66
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9058】 政策過程事例研究［鄭　智允］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 67
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9059】 政策開発実践論［藤原　大、清水　英弥、肥沼　位昌］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 68
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9060】 公共政策実践論1［鳥山　亜由美、吉田　泰、小澤　一貴］ 春学期後半/Spring(2nd half) 69
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9061】 公共政策実践論2［荒木　進太郎、竹野　克己、関口　栄子］ 秋学期前半/Fall(1st half) 71
公共政策学専攻_（修士課程）公共マネジメントコース専門科目【X9062】 公共政策実践論3［小西　真樹、坪田　祥宣、伊藤　哲也］ 秋学期前半/Fall(1st half) 73
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9063】ガバナンス研究［芦立　秀朗］春学期前半/Spring(1st half) 75
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9064】 リージョナリズムと非政府組織［上原　史子］ 集中・その他/intensive・other courses 76
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9065】 企業論［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 78
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9066】 グローバル企業戦略論［岩田　智］ 春学期後半/Spring(2nd half) 79
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9067】 市民社会ガバナンス論［池本　修悟］ 春学期後半/Spring(2nd half) 80
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9068】 ＮＰＯ論［池本　修悟］ 春学期前半/Spring(1st half) 82
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9070】 都市ガバナンス論［植木　豊］ 秋学期前半/Fall(1st half) 84
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9072】 文化政策研究［松本　茂章］ 春学期前半/Spring(1st half) 85
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9073】 シンクタンク論［蒔田　純］ 集中・その他/intensive・other courses 87
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9074】 行政法研究［天本　哲史］ 秋学期前半/Fall(1st half) 89
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9076】 ジェンダー政策研究［浅野　幸子］ 春学期後半/Spring(2nd half) 90

公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9077】公共哲学研究［西谷内　博美］春学期前半/Spring(1st half) 93
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9078】 イノベーション政策論［海上　泰生］ 春学期後半/Spring(2nd half) 94
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9079】 外交政策論［宮本　悟］ 春学期後半/Spring(2nd half) 96
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9080】 国際環境政策の社会学［島田　昭仁］ 春学期授業/Spring 98
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9081】地球環境生態学［鞠子　茂］集中・その他/intensive・other courses 100
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9083】比較公共政策論［桐谷　仁］春学期後半/Spring(2nd half) 101
公共政策学専攻_（修士課程）政策研究コース専門科目【X9084】 社会保障政策［原田　悠希］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 103
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9100】 論文研究指導１Ａ［杉崎　和久］ 春学期授業/Spring 105
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9101】 論文研究指導１Ｂ［杉崎　和久］ 秋学期授業/Fall 106
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9102】 論文研究指導１Ａ［土山　希美枝］ 春学期授業/Spring 107
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9103】 論文研究指導１Ｂ［土山　希美枝］ 秋学期授業/Fall 108
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9106】 論文研究指導１Ａ［林　嶺那］ 春学期授業/Spring 109
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9107】 論文研究指導１Ｂ［林　嶺那］ 秋学期授業/Fall 110
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9108】 論文研究指導１Ａ［廣瀬　克哉］ 春学期授業/Spring 111
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9109】 論文研究指導１Ｂ［廣瀬　克哉］ 秋学期授業/Fall 112
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9110】 論文研究指導１Ａ［天本　哲史］ 春学期授業/Spring 113
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9111】 論文研究指導１Ｂ［天本　哲史］ 秋学期授業/Fall 114
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9112】 論文研究指導１Ａ［糸久　正人］ 春学期授業/Spring 115
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9113】 論文研究指導１Ｂ［糸久　正人］ 秋学期授業/Fall 116
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9114】 論文研究指導１Ａ［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 117
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9115】 論文研究指導１Ｂ［加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 118
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9116】 論文研究指導１Ａ［北浦　康嗣］ 春学期授業/Spring 119
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9117】 論文研究指導１Ｂ［北浦　康嗣］ 秋学期授業/Fall 120
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9118】 論文研究指導１Ａ［白鳥　浩］ 春学期授業/Spring 121
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9119】 論文研究指導１Ｂ［白鳥　浩］ 秋学期授業/Fall 122
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9120】 論文研究指導１Ａ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 123
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9121】 論文研究指導１Ｂ［多田　和美］ 秋学期授業/Fall 124
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9124】 論文研究指導１Ａ［中筋　直哉］ 春学期授業/Spring 125
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9125】 論文研究指導１Ｂ［中筋　直哉］ 秋学期授業/Fall 126
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9132】 論文研究指導２Ａ［林　嶺那］ 春学期授業/Spring 127
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9133】 論文研究指導２Ｂ［林　嶺那］ 秋学期授業/Fall 128
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9134】 論文研究指導２Ａ［廣瀬　克哉］ 春学期授業/Spring 129
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9135】 論文研究指導２Ｂ［廣瀬　克哉］ 秋学期授業/Fall 130
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9138】 論文研究指導２Ａ［糸久　正人］ 春学期授業/Spring 131
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9139】 論文研究指導２Ｂ［糸久　正人］ 秋学期授業/Fall 132
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9140】 論文研究指導２Ａ［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 133
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9141】 論文研究指導２Ｂ［加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 134
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9144】 論文研究指導２Ａ［白鳥　浩］ 春学期授業/Spring 135
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9145】 論文研究指導２Ｂ［白鳥　浩］ 秋学期授業/Fall 136
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9146】 論文研究指導２Ａ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 137
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9147】 論文研究指導２Ｂ［多田　和美］ 秋学期授業/Fall 138
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9150】 論文研究指導２Ａ［中筋　直哉］ 春学期授業/Spring 139
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9151】 論文研究指導２Ｂ［中筋　直哉］ 秋学期授業/Fall 140
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9300】 公共政策学特殊研究１Ａ［杉崎　和久］ 春学期授業/Spring 141
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9301】 公共政策学特殊研究１Ｂ［杉崎　和久］ 秋学期授業/Fall 142
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9302】 公共政策学特殊研究１Ａ［土山　希美枝］ 春学期授業/Spring 143

公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9303】 公共政策学特殊研究１Ｂ［土山　希美枝］ 秋学期授業/Fall 144
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9306】 公共政策学特殊研究１Ａ［林　嶺那］ 春学期授業/Spring 145
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9307】 公共政策学特殊研究１Ｂ［林　嶺那］ 秋学期授業/Fall 146
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9308】 公共政策学特殊研究１Ａ［廣瀬　克哉］ 春学期授業/Spring 147
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9309】 公共政策学特殊研究１Ｂ［廣瀬　克哉］ 秋学期授業/Fall 148
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9310】 公共政策学特殊研究１Ａ［天本　哲史］ 春学期授業/Spring 149
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9311】 公共政策学特殊研究１Ｂ［天本　哲史］ 秋学期授業/Fall 150
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9312】 公共政策学特殊研究１Ａ［糸久　正人］ 春学期授業/Spring 151
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9313】 公共政策学特殊研究１Ｂ［糸久　正人］ 秋学期授業/Fall 152
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9314】 公共政策学特殊研究１Ａ［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 153
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9315】 公共政策学特殊研究１Ｂ［加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 154
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9316】 公共政策学特殊研究１Ａ［北浦　康嗣］ 春学期授業/Spring 155
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9317】 公共政策学特殊研究１Ｂ［北浦　康嗣］ 秋学期授業/Fall 156
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9318】 公共政策学特殊研究１Ａ［白鳥　浩］ 春学期授業/Spring 157
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9319】 公共政策学特殊研究１Ｂ［白鳥　浩］ 秋学期授業/Fall 158
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9320】 公共政策学特殊研究１Ａ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 159
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9321】 公共政策学特殊研究１Ｂ［多田　和美］ 秋学期授業/Fall 160
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9324】 公共政策学特殊研究１Ａ［中筋　直哉］ 春学期授業/Spring 161
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9325】 公共政策学特殊研究１Ｂ［中筋　直哉］ 秋学期授業/Fall 162
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9332】 公共政策学特殊研究２Ａ［林　嶺那］ 春学期授業/Spring 163
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9333】 公共政策学特殊研究２Ｂ［林　嶺那］ 秋学期授業/Fall 164
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9338】 公共政策学特殊研究２Ａ［天本　哲史］ 春学期授業/Spring 165
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9339】 公共政策学特殊研究２Ｂ［天本　哲史］ 秋学期授業/Fall 166
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9340】 公共政策学特殊研究２Ａ［糸久　正人］ 春学期授業/Spring 167
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9341】 公共政策学特殊研究２Ｂ［糸久　正人］ 秋学期授業/Fall 168
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9346】 公共政策学特殊研究２Ａ［白鳥　浩］ 春学期授業/Spring 169
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9347】 公共政策学特殊研究２Ｂ［白鳥　浩］ 秋学期授業/Fall 170
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9348】 公共政策学特殊研究２Ａ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 171

公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9349】 公共政策学特殊研究２Ｂ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 172
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9354】 公共政策学特殊研究３Ａ［杉崎　和久］ 春学期授業/Spring 173
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9355】 公共政策学特殊研究３Ｂ［杉崎　和久］ 秋学期授業/Fall 174
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9356】 公共政策学特殊研究３Ａ［土山　希美枝］ 春学期授業/Spring 175
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9357】 公共政策学特殊研究３Ｂ［土山　希美枝］ 秋学期授業/Fall 176
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9360】 公共政策学特殊研究３Ａ［林　嶺那］ 春学期授業/Spring 177
【X9361】 公共政策学特殊研究３Ｂ［林　嶺那］ 秋学期授業/Fall 178
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9362】 公共政策学特殊研究３Ａ［廣瀬　克哉］ 春学期授業/Spring 179
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9363】 公共政策学特殊研究３Ｂ［廣瀬　克哉］ 秋学期授業/Fall 180
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9366】 公共政策学特殊研究３Ａ［天本　哲史］ 春学期授業/Spring 181
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9367】 公共政策学特殊研究３Ｂ［天本　哲史］ 秋学期授業/Fall 182
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9370】 公共政策学特殊研究３Ａ［加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 183
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9371】 公共政策学特殊研究３Ｂ［加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 184
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9374】 公共政策学特殊研究３Ａ［白鳥　浩］ 春学期授業/Spring 185
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9375】 公共政策学特殊研究３Ｂ［白鳥　浩］ 秋学期授業/Fall 186
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9376】 公共政策学特殊研究３Ａ［多田　和美］ 春学期授業/Spring 187
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9377】 公共政策学特殊研究３Ｂ［多田　和美］ 秋学期授業/Fall 188
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9380】 公共政策学特殊研究３Ａ［中筋　直哉］ 春学期授業/Spring 189
公共政策学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9381】 公共政策学特殊研究３Ｂ［中筋　直哉］ 秋学期授業/Fall 190
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目【X9402】 行政学特殊研究［林　嶺那］ 春学期後半/Spring(2nd half) 191
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目【X9403】 行政学事例特殊研究［林　嶺那］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 192
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目【X9404】 都市政策特殊研究［杉崎　和久］ 春学期後半/Spring(2nd half) 193
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目【X9405】 都市政策事例特殊研究［杉崎　和久］ 秋学期前半/Fall(1st half) 194
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目【X9406】 コミュニティ政策特殊研究［西谷内　博美］ 春学期後半/Spring(2nd half) 195
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9414】 公共政策ワークショップ（政策研究）１Ａ［多田　和美、加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 196
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9415】 公共政策ワークショップ（政策研究）１Ｂ［多田　和美、加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 197
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9416】 公共政策ワークショップ（政策研究）２Ａ　［多田　和美、加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 198
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9417】 公共政策ワークショップ（政策研究）２Ｂ　［多田　和美、加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 199
公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9418】 公共政策ワークショップ（政策研究）３Ａ　［多田　和美、加藤　寛之］ 春学期授業/Spring 200

公共政策学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（ワークショップ科目）【X9419】 公共政策ワークショップ（政策研究）３Ｂ［多田　和美、加藤　寛之］ 秋学期授業/Fall 201
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9500】 行政学基礎［林　嶺那］ 春学期後半/Spring(2nd half) 202
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9501】 比較行政研究［申　龍徹］ 春学期後半/Spring(2nd half) 203
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9502】 公共哲学基礎［宮川　裕二］ 秋学期前半/Fall(1st half) 204
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9503】 政策学基礎［西谷内　博美］ 秋学期前半/Fall(1st half) 205
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9504】 現代政治分析研究［白鳥　浩］ 春学期前半/Spring(1st half) 206
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9505】 公共政策とジャーナリズム［白鳥　浩、読売新聞社講師］ 春学期後半/Spring(2nd half) 207
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9506】 公共政策の経済分析［北浦　康嗣］ 秋学期授業/Fall 208
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9507】 財政学基礎［其田　茂樹］ 秋学期前半/Fall(1st half) 209
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9508】 経済学基礎［芦谷　典子］ 春学期前半/Spring(1st half) 210
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9509】 環境哲学・倫理学［吉永　明弘］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 212
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9510】 環境法基礎［永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎］ 春学期前半/Spring(1st half) 213
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9511】 地球環境学基礎［佐々木　大輔］ 春学期後半/Spring(2nd half) 215
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9512】国際政治学基礎［青野　利彦］ 春学期授業/Spring 216
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9513】 国際協力論［武貞　稔彦］ 秋学期前半/Fall(1st half) 217
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9514】 サステイナビリティ研究入門［湯澤　規子、金光　秀和、藤田　研二郎、長谷川　直哉、渡邊　誠、佐々木　大輔、櫻井　洋介］ 春学期前半/Spring(1st half) 219
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9515】 ＳＤＧｓへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】［武貞　稔彦、（一社）SDGs市民社会ネットワーク（新田英理子、長島美紀、星野智子）］ 秋学期前半/Fall(1st half) 220
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9516】 公共政策と持続可能な社会づくり［土山　希美枝］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 221
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9517】政策法務論［神﨑　一郎］ 春学期後半/Spring(2nd half) 223
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9518】 立法学研究［神﨑　一郎］ 春学期前半/Spring(1st half) 225
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9519】政策評価論［南島　和久］ 春学期後半/Spring(2nd half) 227
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9520】社会調査法１［中筋　直哉］ 春学期前半/Spring(1st half) 229
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9521】社会調査法２［見田　朱子］ 春学期後半/Spring(2nd half) 230
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9522】 社会調査法３［見田　朱子］ 秋学期前半/Fall(1st half) 231
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9523】社会調査法４［藤本　篤二郎］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 233
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9524】 社会調査法５［中筋　直哉］ 秋学期前半/Fall(1st half) 235
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9525】 社会調査法６［見田　朱子］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 236
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9526】社会調査法７［藤本　篤二郎］ 春学期後半/Spring(2nd half) 238

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9527】社会調査法８［見田　朱子］春学期前半/Spring(1st half) …… 240
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9531】 地域コンサルティング論［佐谷　和江］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 241
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9532】 ファシリテーション演習［德田　太郎］ 秋学期後半/Fall(2nd half) …… 243
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9534】 政策研究概論（外国語）※中国語［毛　桂榮］ 秋学期授業/Fall …… 245
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9535】 公共政策論文技法1 ［白鳥　浩］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 247
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9536】 学術的文章作成演習（基礎）［西谷内　博美］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 248
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究科共通科目【X9537】 学術的文章作成演習（応用）［西谷内　博美］ 春学期後半/Spring(2nd half) …… 250
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9539】 環境私法［永野　秀雄］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 252
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9540】 環境政策法務と条例［朝賀　広伸］ 秋学期後半/Fall(2nd half) …… 253
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9541】 国際環境法［岡松　暁子］ 春学期後半/Spring(2nd half) …… 255
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9543】 外交政策論［宮本　悟］ 春学期後半/Spring(2nd half) …… 256
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9546】 地域環境文化研究［梶　裕史］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 258
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9550】 地域環境計画研究［湯澤　規子］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 259
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9552】 環境ガバナンスⅠ ［藤田　研二郎］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 260
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9554】 サステイナビリティ・レポーティング［八木　裕之］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 262
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9555】 環境経済論［杉野　誠］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 264
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9556】 サステイナブル経営論［長谷川　直哉］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 266
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9560】 グローバル環境経営論［鶴田　佳史］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 268
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9561】 開発経済論［山田　英嗣］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 269
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9565】 国際ＮＧＯ・ＮＰＯ論［小野　行雄］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 272
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9566】 ヒューマン・エコロジー［高橋　五月］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 273
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9567】 社会起業家論［松本　勝男］ 春学期前半/Spring(1st half) …… 274
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9568】 国際環境政策の社会学［島田　昭仁］ 春学期授業/Spring …… 276
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9570】 環境資源・エネルギー政策論［土井　菜保子］ 春学期授業/Spring …… 278
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9572】 自然環境共生研究［高田　雅之］ 秋学期前半/Fall(1st half) …… 280
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9573】 大気人間環境論［北川　徹哉］ 秋学期後半/Fall(2nd half) …… 282
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9575】 地球環境生態学［鞠子　茂］ 集中・その他/intensive・other courses …… 283
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9576】 サステイナビリティ学事例研究Ⅱ ［杉戸　信彦］ 春学期後半/Spring(2nd half) …… 284

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9577】 サステイナビリティ学事例研究III ［渡邊　誠］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 285
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）サステイナビリティ学専攻専門科目【X9578】 労働政策論［櫻井　洋介］ 春学期前半/Spring(1st half) 287
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9600】論文研究指導１Ａ［岡松　暁子］ 春学期授業/Spring 289
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9601】 論文研究指導１Ｂ［岡松　暁子］ 秋学期授業/Fall 290
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9602】 論文研究指導１Ａ［金藤　正直］ 春学期授業/Spring 291
公共政策学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9603】 論文研究指導１Ｂ［金藤　正直］ 秋学期授業/Fall 292
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9604】論文研究指導１Ａ［金光　秀和］ 春学期授業/Spring 294
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9605】 論文研究指導１Ｂ［金光　秀和］ 秋学期授業/Fall 296
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9606】論文研究指導１Ａ［北川　徹哉］ 春学期授業/Spring 298
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9607】 論文研究指導１Ｂ［北川　徹哉］ 秋学期授業/Fall 299
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9610】論文研究指導１Ａ［杉戸　信彦］ 春学期授業/Spring 300
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9611】 論文研究指導１Ｂ［杉戸　信彦］ 秋学期授業/Fall 301
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9612】論文研究指導１Ａ［杉野　誠］ 春学期授業/Spring 302
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9613】 論文研究指導１Ｂ［杉野　誠］ 秋学期授業/Fall 303
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9614】論文研究指導１Ａ［高田　雅之］ 春学期授業/Spring 304
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9615】 論文研究指導１Ｂ［高田　雅之］ 秋学期授業/Fall 305
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9616】論文研究指導１Ａ［高橋　五月］ 春学期授業/Spring 306
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9617】 論文研究指導１Ｂ［高橋　五月］ 秋学期授業/Fall 307
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9618】論文研究指導１Ａ［武貞　稔彦］ 春学期授業/Spring 308
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9619】 論文研究指導１Ｂ［武貞　稔彦］ 秋学期授業/Fall 310
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9620】論文研究指導１Ａ［辻　英史］ 春学期授業/Spring 311
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9621】 論文研究指導１Ｂ［辻　英史］ 秋学期授業/Fall 312
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9622】論文研究指導１Ａ［永野　秀雄］ 春学期授業/Spring 313
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9623】 論文研究指導１Ｂ［永野　秀雄］ 秋学期授業/Fall 314
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9624】 論文研究指導１Ａ［長谷川　直哉］ 春学期授業/Spring 315
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9625】論文研究指導１Ｂ［長谷川　直哉］ 秋学期授業/Fall 316
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9626】 論文研究指導１Ａ［藤田　研二郎］ 春学期授業/Spring 317
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9627】論文研究指導１Ｂ［藤田　研二郎］ 秋学期授業/Fall 318
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9628】 論文研究指導１Ａ［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 319
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9629】論文研究指導１Ｂ［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 320
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9630】論文研究指導１Ａ［松本　倫明］ 春学期授業/Spring 321
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9631】 論文研究指導１Ｂ［松本　倫明］ 秋学期授業/Fall 322
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9632】論文研究指導１Ａ［宮川　路子］ 春学期授業/Spring 323
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9633】 論文研究指導１Ｂ［宮川　路子］ 秋学期授業/Fall 324
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9634】論文研究指導１Ａ［湯澤　規子］ 春学期授業/Spring 325
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9635】 論文研究指導１Ｂ［湯澤　規子］ 秋学期授業/Fall 326
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9636】論文研究指導１Ａ［吉永　明弘］ 春学期授業/Spring 327
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9637】 論文研究指導１Ｂ［吉永　明弘］ 秋学期授業/Fall 328
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9638】論文研究指導１Ａ［渡邊　誠］ 春学期授業/Spring 329
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9639】 論文研究指導１Ｂ［渡邊　誠］ 秋学期授業/Fall 330
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9640】論文研究指導２Ａ［金藤　正直］ 春学期授業/Spring 331
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9641】 論文研究指導２Ｂ［金藤　正直］ 秋学期授業/Fall 332
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9642】論文研究指導２Ａ［小島　聡］ 春学期授業/Spring 333
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9643】 論文研究指導２Ｂ［小島　聡］ 秋学期授業/Fall 334
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9644】論文研究指導２Ａ［高田　雅之］ 春学期授業/Spring 335
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9645】 論文研究指導２Ｂ［高田　雅之］ 秋学期授業/Fall 336
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9646】論文研究指導２Ａ［武貞　稔彦］ 春学期授業/Spring 337
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9647】 論文研究指導２Ｂ［武貞　稔彦］ 秋学期授業/Fall 338
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9648】 論文研究指導２Ａ［長谷川　直哉］ 春学期授業/Spring 339
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9649】論文研究指導２Ｂ［長谷川　直哉］ 秋学期授業/Fall 340

サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9650】 論文研究指導２Ａ［藤田　研二郎］ 春学期授業/Spring 341
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9651】論文研究指導２Ｂ［藤田　研二郎］ 秋学期授業/Fall 342
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9652】 論文研究指導２Ａ［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 343
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9653】論文研究指導２Ｂ［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 344
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9654】論文研究指導２Ａ［宮川　路子］ 春学期授業/Spring 345
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9655】 論文研究指導２Ｂ［宮川　路子］ 秋学期授業/Fall 346
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9662】 論文研究指導２Ａ［杉野　誠］ 春学期授業/Spring 347
サステイナビリティ学専攻_（修士課程）研究指導科目【X9663】 論文研究指導２Ｂ［杉野　誠］ 秋学期授業/Fall 348
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9700】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［岡松　暁子］ 春学期授業/Spring 349
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9701】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［岡松　暁子］ 秋学期授業/Fall 350
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9702】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［金藤　正直］ 春学期授業/Spring 351
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9703】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［金藤　正直］ 秋学期授業/Fall 352
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9704】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［金光　秀和］ 春学期授業/Spring 353
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9705】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［金光　秀和］ 秋学期授業/Fall 354
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9706】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［北川　徹哉］ 春学期授業/Spring 355
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9707】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［北川　徹哉］ 秋学期授業/Fall 356
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9710】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［杉戸　信彦］ 春学期授業/Spring 357
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9711】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［杉戸　信彦］ 秋学期授業/Fall 358
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9712】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［杉野　誠］ 春学期授業/Spring 359
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9713】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［杉野　誠］ 秋学期授業/Fall 360
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9714】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［高田　雅之］ 春学期授業/Spring 361
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9715】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［高田　雅之］ 秋学期授業/Fall 362
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9716】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［高橋　五月］ 春学期授業/Spring 363
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9717】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［高橋　五月］ 秋学期授業/Fall 364
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9718】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［武貞　稔彦］ 春学期授業/Spring 365
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9719】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［武貞　稔彦］ 秋学期授業/Fall 367
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9720】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［辻　英史］ 春学期授業/Spring 368
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9721】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［辻　英史］ 秋学期授業/Fall 369
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9722】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［永野　秀雄］ 春学期授業/Spring 370
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9723】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ［永野　秀雄］ 秋学期授業/Fall 371
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9724】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ［長谷川　直哉］ 春学期授業/Spring 372

サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9725】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［長谷川　直哉］ 秋学期授業/Fall 373
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9726】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 374
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9727】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 375
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9728】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［藤田　研二郎］ 春学期授業/Spring 376
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9729】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［藤田　研二郎］ 秋学期授業/Fall 377
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9730】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［松本　倫明］ 春学期授業/Spring 378
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9731】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［松本　倫明］ 秋学期授業/Fall 379
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9732】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［宮川　路子］ 春学期授業/Spring 380
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9733】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［宮川　路子］ 秋学期授業/Fall 381
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9734】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［湯澤　規子］ 春学期授業/Spring 382
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9735】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［湯澤　規子］ 秋学期授業/Fall 383
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9736】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［吉永　明弘］ 春学期授業/Spring 384
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9737】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［吉永　明弘］ 秋学期授業/Fall 385
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9738】 サステイナビリティ特殊研究１Ａ
［渡邊　誠］ 春学期授業/Spring 386
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9739】 サステイナビリティ特殊研究１Ｂ
［渡邊　誠］ 秋学期授業/Fall 387
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9740】 サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［金藤　正直］ 春学期授業/Spring 388
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9741】 サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［金藤　正直］ 秋学期授業/Fall 389
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9744】 サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［杉野　誠］ 春学期授業/Spring 390
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9745】 サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［杉野　誠］ 秋学期授業/Fall 391
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9750】 サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［長谷川　直哉］ 春学期授業/Spring 392
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9751】 サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［長谷川　直哉］ 秋学期授業/Fall 393
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9752】 サステイナビリティ特殊研究２Ａ
［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 394
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9753】 サステイナビリティ特殊研究２Ｂ
［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 395
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9760】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［金藤　正直］ 春学期授業/Spring 396
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9761】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［金藤　正直］ 秋学期授業/Fall 397
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9762】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［小島　聡］ 春学期授業/Spring 398
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9763】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ
［小島　聡］ 秋学期授業/Fall 399
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9764】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ
［杉野　誠］ 春学期授業/Spring 400

サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9765】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［杉野　誠］ 秋学期授業/Fall 401
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9766】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［武貞　稔彦］ 春学期授業/Spring 402
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9767】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［武貞　稔彦］ 秋学期授業/Fall 403
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9768】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［長谷川　直哉］ 春学期授業/Spring 404
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9769】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［長谷川　直哉］ 秋学期授業/Fall 405
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9770】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［佐々木　大輔］ 春学期授業/Spring 406
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9771】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［佐々木　大輔］ 秋学期授業/Fall 407
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9772】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［宮川　路子］ 春学期授業/Spring 408
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9773】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［宮川　路子］ 秋学期授業/Fall 409
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9776】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［渡邊　誠］ 春学期授業/Spring 410
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9777】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［渡邊　誠］ 秋学期授業/Fall 411
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9778】 サステイナビリティ特殊研究３Ａ［高田　雅之］ 春学期授業/Spring 412
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）必修科目（研究指導科目）【X9779】 サステイナビリティ特殊研究３Ｂ［高田　雅之］ 秋学期授業/Fall 413
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9800】 環境法基礎D［永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎］ 春学期前半/Spring(1st half) 414
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9801】 地球環境学基礎D［佐々木　大輔］ 春学期後半/Spring(2nd half) 416
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9802】 国際協力論D［武貞　稔彦］ 秋学期前半/Fall(1st half) 417
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9808】 環境私法D［永野　秀雄］ 秋学期前半/Fall(1st half) 419
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9809】 自然環境共生研究D［高田　雅之］ 秋学期前半/Fall(1st half) 420
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9811】 大気人間環境論D［北川　徹哉］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 422
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9814】 環境経済論D［杉野　誠］ 春学期前半/Spring(1st half) 423
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9817】 サステイナブル経営論D［長谷川　直哉］ 春学期前半/Spring(1st half) 425
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9818】 地域環境計画研究D［湯澤　規子］ 秋学期前半/Fall(1st half) 427
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9819】 国際環境法D［岡松　暁子］ 春学期後半/Spring(2nd half) 428
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9822】 ヒューマン・エコロジーD［高橋　五月］ 秋学期前半/Fall(1st half) 429
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9824】 サステイナビリティ学事例研究DⅡ［杉戸　信彦］ 春学期後半/Spring(2nd half) 430
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9825】 サステイナビリティ学事例研究DⅢ［渡邊　誠］ 秋学期後半/Fall(2nd half) 431
サステイナビリティ学専攻_（博士後期課程）選択必修科目（専門科目）【X9826】 環境ガバナンスDⅠ［藤田　研二郎］ 秋学期前半/Fall(1st half) 433

POL500P1 – 001（政治学 / Politics 500）

政治理論

杉田　敦

備考（履修条件等）：政治学・国際政治学「政治理論研究１」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
本講義は、学部における外書購読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学　増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic litterature in English.

POL500P1 – 002（政治学 / Politics 500）

行政学基礎

林　嶺那

備考（履修条件等）：政治学「行政学研究１」、サステイナビリティ学、連帯社会、博士「行政学特殊研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、定価4290円
曽我謙悟（2022）『行政学［新版］』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P1 – 003（政治学 / Politics 500）

比較行政研究

申　龍徹

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】
この授業では、①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解する、その上、②OECD加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得するとともに、③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「比較行政研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。授業では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内やOECD諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2回目	比較行政の概念と歴史的展開	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期における比較行政研究の変化と特徴
3回目	比較行政と発展行政の理論統合1	比較行政研究の理論的動向に関する理解（前後）
4回目	比較行政と発展行政の理論統合2	比較行政と発展行政の理論統合（2000年代以降）
5回目	行政システムの国際比較A-1	英・米・仏・独の行政システムの歴史と仕組み、特徴などにに関する理解
6回目	行政システムの国際比較A-2	英・米・仏・独の行政システムの歴史と仕組み、特徴などにに関する理解
7回目	行政システムの国際比較B-1	北欧、NICs諸国の行政システムに関する特徴の理解
8回目	行政システムの国際比較B-2	北欧、NICs諸国の行政システムに関する特徴の理解
9回目	比較行政研究事例分析①-1	課題発表A・B・C各自の研究テーマについての発表と討論
10回	比較行政研究事例分析①-2	課題発表A・B・C各自の研究テーマについての発表と討論
11回目	比較行政研究事例分析②-1	課題発表D・E・F各自の研究テーマについての発表と討論
12回目	比較行政研究事例分析②-2	課題発表D・E・F各自の研究テーマについての発表と討論
13回目	比較行政研究の課題と展望1	発表された内容を総括しながら比較行政研究の課題と展望について理解を深める。
14回目	比較行政研究の課題と展望2	発表された内容を総括しながら比較行政研究の課題と展望について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎文献として、近代行政の展開（アーネスト・バーカー著、足立忠夫訳、1974、有信堂）Barker,Sir Ernest、The development of public services in western Europe(1660-1930)を勧める。

【テキスト（教科書）】
1回目の授業の中で、主な参考文献に関して紹介する。

【参考書】
特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。
Eric E. Otenyo &Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】
参加度（25％）、調査力（25％）、構成力（25％）、プレゼンテーション（25％）の4つによる絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
「比較」という研究方法は、弱くなっている考える力を伸ばし、新しい構想を手助けしますので、多くの事例を比較・分析したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政
＜主要研究業績＞
①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2012）
②『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（共著、勉誠出版、2010）
③『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）
④『都市公園政策形成史』（単著、法政大学出版局、2004）

【Outline (in English)】
Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research methods

PHL500P1 – 004（哲学 / Philosophy 500）

公共哲学基礎

宮川　裕二

備考（履修条件等）：政治学「公共哲学研究１」、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】
公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキスト（教科書）を講読する。受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業で報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」
第3,4回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第5,6回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第7,8回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想―― 保守から改革へ」
第9,10回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承――後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第 11,12回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第 13,14回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想――フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベラリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本達哉『社会思想の歴史――マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】
必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50％）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
公共政策の政治社会学
＜研究テーマ＞
新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治
＜主要研究業績＞
『「新しい公共」とは何だったのか―四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）
「『公共』のオルタナティブは可能か―『新しい公共』言説の検証から」（『世界』2023年9月号、 2023年）
「統治性研究・ガバナンス理論と国家・政治の概念に関する一断章」（『インフォーマルな政治の探究―政治学はどのような政治を語りうるか』所収、吉田書店、2025年）

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20％).

POL500P1 － 005（政治学 / Politics 500）

政治制度研究

河野　有理

備考（履修条件等）：政治学「政治制度研究1」、学部「政治体制論Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治制度および日本政治思想史の重要問題について、文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
政治制度および日本政治思想史上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、文献を講読して議論する。
対面で行う予定。
文献は参加者と相談のうえで決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点１００点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】
本講義は、大学院における博士論文指導演習1Aと合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞日本政治思想史
＜主要研究業績＞
『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】
Deepen your knowledge of important issues in the history of Japanese political thought by reading and discussing literature.

POL500P1 – 006（政治学 / Politics 500）

政策学基礎

西谷内　博美

備考（履修条件等）：政治学「公共政策研究１」、サステイナビリティ学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『公共政策学の基礎　第3版』を用い、クリティカル・リーディングの手法で読解を進めます。そうすることで、公共政策学の理解に必要な基礎知識を、体系的に習得、あるいは再確認することを目的とします。

【到達目標】
・公共政策に関する基礎的な理論やキーワードを説明できる。
・政策学の全体像を体系的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキスト内在的に学習を進めます。つまり、テキストに即して体系的に、知識を習得、整理、補足します。
原則として、受講者がレジュメを作成し、その報告に基づいて各授業の内容を検討します。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・発表のデモンストレーション：第１章
第2回	公共政策とは何か？／アジェンダ設定	・テキスト第２章 ・テキスト第３章
第3回	政策問題の構造化／公共政策の手段	・テキスト第４章 ・テキスト第５章
第4回	規範的判断／政策決定と合理性	・テキスト第６章 ・テキスト第７章
第5回	政策決定と利益／政策決定と制度	・テキスト第８章 ・テキスト第９章
第6回	政策決定とアイディア／公共政策の実施	・テキスト第10章 ・テキスト第11章
第7回	公共政策の評価／公共政策管理のシステム	・テキスト第12章 ・テキスト第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020,『公共政策学の基礎　第3版』有斐閣.

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、少人数だったこともあり、時間をかけて十分に議論を深めることができました。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
(Course outline) The goal is to systematically acquire or revisit the foundational knowledge necessary to understand public policy studies.
(Learning Objectives) Be able to explain the basic theories and key terms related to public policy.
(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500P1 – 007（政治学 / Politics 500）

現代政治分析研究

白鳥　浩

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】
同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜指示。

【参考書】
①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

【成績評価の方法と基準】
試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100％）。（講義への貢献度50％、期末50％を目安とする）。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P1 – 008（政治学 / Politics 500）

公共政策とジャーナリズム

白鳥　浩、読売新聞社講師

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】
本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンス　政局とジャーナリズム	同左
第3,4回	五輪・パラリンピックと報道	同左
第5,6回	世論調査の役割	同左
第7,8回	社会保障政策とジャーナリズム	同左
第9,10回	経済政策とジャーナリズム	同左
第 11,12 回	香港情勢と報道	同左
第 13,14 回	憲法とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】
講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】
出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100％）。(講義への貢献度50％、期末50％を目安)。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.
The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P1 – 022（経済学 / Economics 500）

公共政策の経済分析

北浦　康嗣

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年，行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は，「ナッジ」を公共政策にあてはめたとき，どのような効果があるのか，また，どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では，行動経済学を学びつつ，現在，多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に，受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく，受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

【到達目標】
①伝統的経済学と行動経済学と違いが説明できる。
②行動経済学の長所と短所を説明できる。
③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共政策の経済分析」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず，それぞれの経験について記録しておいてください。また，必要に応じてグラフによる図解を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに関して議論します。
第2回	双曲割引（1）	時間割引率に関して議論します。
第3回	双曲割引（2）	現在バイアスに関して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに関して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に関して議論します。
第6回	プロスペクト理論（1）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（2）	参照点に関して議論します。
第8回	ナッジ（1）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（2）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（3）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（4）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（5）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（6）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に関する展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に関係するので必ず時間をとるようにしてください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定します。

【参考書】
Ohtake, Kang, Ikeda (2010)
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index
https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002
Wong (2008)
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence
on self-awareness, size, and effects
https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005
Ariely and Wertenbroch (2002)
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment
https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100％）とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なので，まだありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

ECN500P1 – 010（経済学 / Economics 500）

財政学基礎

其田　茂樹

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】
受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度のもつ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業で行う予定である。
受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融資	財政投融資制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。
第14回	まとめ	報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通すなどして関心を払ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
１．江成穣・倉地真太郎・佐藤一光・藤原遥『Why not?!　財政学』有斐閣、2025年
２．佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文舘出版、2019 年
３．佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019 年
４．高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
口頭報告の内容（70 %）、平常点（30 %）による。
平常点の内訳は、授業内でのコメント（15 %）、相互討論への参画（15 %）で評価する。
口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業とハイフレックスとの受講者の希望は必ずしも固定的なものではなく、勤務の閑繁などの要因にもよることが明らかになってきた。
そのため、対面授業を原則としつつ柔軟にハイフレックスに対応する現行の運営方式を維持したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。
一方で、担当者の都合で授業の順序や方法（オンライン等）が変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、地方財政論、経済政策論
＜研究テーマ＞
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
＜主要研究業績＞
『「転回」する地方自治』（上）（下）（企画・編集）公人の友社、2024年
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021 年
『生活を支える社会のしくみを考える』(共著) 日本経済評論社、2019 年
『地方自治論（第2版）』2018 年、弘文堂　など

【Outline (in English)】
This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in
Japan.
In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P1 – 011（経済学 / Economics 500）

経済学基礎

芦谷　典子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が出会う場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

【到達目標】
①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義１時間、受講者によるディスカッション１時間、振り返り１時間を基礎に、１日（２回分）の授業で１つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、e-ラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1〜2時間以内の宿題を各日出題し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎１	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎２	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎１	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎２	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易１	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易２	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融１	国際貿易と国際金融、経常収支、金融収支
第10回	国際金融２	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済１	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済２	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策１	財政政策
第14回	経済政策２	金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年
『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年
※購入は不要です。ただしｅラーニングの活用希望者は購入が必要です。eラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①平常授業の活動状況：60%
②宿題：40%

【学生の意見等からの気づき】
社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は１日（２回分）に１トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

【その他の重要事項】
対面と非対面（zoomによるリアルタイム・オンライン、オンデマンド等）を組みあせた授業となります。zoom授業のアクセス先は、講義ページに掲載します。現時点では、 4/13（月）5/18（月）を対面とし、上記の内容に加えて 受講生のネットワーキング及び受講生の関心領域の交換交流を行うことを予定しています。経済学を学び直したい方や、初めて学ぶ方を想定したクラスとして、自由な意見交換の広がりを期待しております。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済理論および経済統計
＜研究テーマ＞不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
＜主要研究業績＞"The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," Advances in Economics and Business, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," International Real Estate Review, 18 (1), 2015; "'Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," Journal of International Economic Studies, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," Australian Economic Papers, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.
【Learning Objectives】
This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.
1.First objective - to understand the basic concepts of Economics
2.Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3.Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues
【Learning activities outside of classroom】
As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.
【Grading Criteria /Policy】
This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.
Class participation and in-class contribution: 60%
Reports and assigned tasks: 40%

PHL500P1 – 013（哲学 / Philosophy 500）

環境哲学・倫理学

吉永　明弘

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】
受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017年

【成績評価の方法と基準】
授業内の意見交換での発言（20％）と期末の書評レポート（80％）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P1 – 014（法学 / law 500）

環境法基礎

永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（１）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（２）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（１）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（２）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（３）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（４）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（１）（武田真一郎）	環境行政法の展開 (1)環境基本法を概観する。
8	環境行政法（２）（武田真一郎）	(2) 環境影響評価法（環境アセスメント法）を概観する。
9	環境行政法（３）（武田真一郎）	(3)排出規制法（大気汚染防止法等）、循環管理法（廃棄物処理法等）を概観する。
10	環境行政法（４）（武田真一郎）	(4)自然環境保護法（自然公園法、景観法等）を概観する。
11	国際環境法（１）（岡松暁子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（２）（岡松暁子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（３）（岡松暁子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（４）（岡松暁子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

【参考書】
奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30％、期末レポート70％。
評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
岡松　暁子
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法
＜主要研究業績＞
『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「海洋環境保護における国家の義務－福島第一原子力発電所からのALPS処理水の海洋放出を契機として」（2025年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。
永野秀雄
＜専門領域＞アメリカ法（特に、サイバーセキュリティ法、環境法、防衛法）
＜研究テーマ＞
米国のサイバーセキュリティ法、米国の環境監査と法、米国の国防授権法
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。
武田真一郎
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞国家賠償　行政訴訟　住民参加制度
＜主要研究業績＞
『異説・行政法(第2版)』（東信堂、単著、2024年）『自治と参加の理論』（東信堂、単著、2024年）『条解・国家賠償法』（弘文堂、共著、2019年）、『反則だらけの辺野古裁判』（東信堂、単著、2025年）

【Outline (in English)】
< Course Outline>
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
＜Learning Objectives＞

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom >
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy＞
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P1－015（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地球環境学基礎

佐々木　大輔

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。

【到達目標】
本授業では、地球規模での環境問題を中心に、その実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）気候変動、（2）生物多様性、（3）化学物質汚染、（4）大気環境汚染、（5）水環境汚染、（6）土壌・地下水汚染、（7）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（1）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（2）	エネルギー資源、再生可能エネルギー
第4回	気候変動（3）	緩和策
第5回	気候変動（4）	適応策
第6回	気候変動（5）	気候変動に係る国内外の取り組み
第7回	気候変動（6）	気候変動と防災・減災
第8回	生物多様性	生物多様性の意義、現状と課題、国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第9回	化学物質汚染	化学物質汚染の現状と課題、国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第10回	大気環境汚染	大気環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第11回	水環境汚染	水環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第12回	土壌・地下水汚染	土壌・地下水汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第13回	廃棄物処理	廃棄物処理の歴史と現状、日本における廃棄物の定義・区分、対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業内に実施する期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues primarily on a global scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of the final exam administered during class time (100%).

POL500P1 – 016（政治学 / Politics 500）

国際政治学基礎

青野　利彦

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論１」、国際政治学「国際政治理論」、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際政治学とはどのような学問か。この講義では国際政治学の基礎的な考えを学び、現実の国際政治を理解するための基本的な概念や理論について学ぶことを目的とします。

【到達目標】
1. 国際政治学における重要な概念や基礎的な理論について理解し、現実の国際政治を客観的に分析する道具を身につける。
2. 国際政治の出来事を学問的に理解し、思い込みや固定観念にとらわれない見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本として、講義形式で行います。授業では、定期的にリアクションペーパーを提出してもらう予定です。受講者数によってはディスカッション等を適宜取り入れる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国際政治学とはなにか	国際政治学とはなにを、どのように考える学問か。どのように発展してきたか、概略を学ぶ。
2	主権国家体系とは何か	国際政治の舞台となる主権国家体系の成立過程とその性質について、近代ヨーロッパの国際関係を概観しながら検討する。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論の一つであるリアリズムという見方について、その背後にある人間観や哲学を踏まえたうえで解説する。
4	リベラリズム	国際政治学の理論の一つであるリベラリズムについて、その背後にある人間観や哲学を踏まえて解説する。
5	ネオ・リアリズムとネオ・リベラリズム	「科学的」であろうとした1970年代以降の国際政治理論の二つの系譜について解説する。
6	構成主義論（コンストラクティビズム）	（ネオ）リアリズム、（ネオ）リベラリズムの説明力の限界を踏まえて冷戦後に登場した、新たな理論的潮流について説明する。
7	パワーとはなにか	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムという三つの主要理論に関する講義を踏まえて、改めて国際政治学の中心概念である「パワー」について検討する。
8	勢力均衡と同盟	安全保障問題を考える際に必須の勢力均衡、同盟という二つの事象について、理論と歴史を踏まえながら解説する。
9	抑止と核抑止	安全保障問題を考える際に重要な抑止という概念について、核兵器の登場がもたらした影響を踏まえながら、理論と歴史の両面から検討する。
10	覇権安定論と覇権後	イギリスやアメリカのような突出したパワーを持つ国は、国際秩序の形成にどのような役割を果たしたか、歴史と理論の視角から検討する。
11	グローバル化と国際的相互依存	グローバル化として知られる国境を越えた経済的なつながりの拡大は、国際政治の力学をどう変えたのか解説する。
12	政策決定過程論	一国の対外政策はどのように決定されるのか。アリソンが提起した政策決定に関する三つのモデルと、パットナムが提起した「2レベル・ゲーム」モデルを中心に講義する。
13	ナショナリズム	ナショナリズムとはなにか。それは、どのように対外政策と国際関係に影響を与えるのか。理論と歴史の両面から検討する。
14	まとめ	13回の講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義のレジュメの事前予習1時間、講義終了後の復習や参考文献の読解に2時間、合計3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】
講義全体の参考書として、いくつか紹介する。テーマ毎の参考文献はレジュメに記載する。
○国際政治学の入門書・教科書
・大芝亮『国際政治理論－パズル・概念・解釈』（ミネルヴァ書房、2016年）
・藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）
・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）
・山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学: 地球社会を理解するために』（有信堂高文社、2025年）
○国際政治史・外交史
国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史の教科書を手元に置いておくと、事例研究について調べる際に役立つ。例として以下をあげておく。
・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ（第二版）』（有斐閣 2024年）
・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】
授業中のリアクションペーパー提出（30%）および期末試験（70%）の合計100％で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
What is international politics as a field of study? This course offers an introduction to basic technical terms and theoretical models for analyzing international politics. Students are expected to obtain basic knowledge and skills to better grasp the dynamics of world politics.

ARSl500P1 – 017（地域研究（援助・地域協力）/ Area studies(Regional cooperation)500）

国際協力論

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：政治学「国際開発政策研究１」、国際政治学「国際協力政策研究１」、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。
　報告対象とする文献については、2026年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 11,12 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 13,14 回	民間企業と国際協力	国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
松本勝男著（2023年）『日本型開発協力　ー途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
　過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
　担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P1－021（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

サステイナビリティ研究入門

湯澤　規子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義はサステイナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。
学生は、今後のサステイナビリティ研究の出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステイナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】
学生はサステイナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステイナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。
講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステイナビリティ学における幅広い基礎知識を身に着け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サステイナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	イントロダクション／食と農と風景から考えるサステイナビリティ（湯澤）	サステイナビリティ研究入門のガイダンス、およびサステイナビリティに関するフィールドワークの実践と新しい知見を概説する
第3,4回	環境NGO・NPOとパートナーシップの課題（藤田）	環境NGO・NPOの役割と行政をはじめ多様な主体のパートナーシップにおける課題を考察する。
第5,6回	企業経営の視点からGX（グリーントランスフォーメーション）を学ぶ（長谷川）	ブルーカーボン（海洋生態系によるCO2吸収）とネイチャーポジティブ（自然再興）について学ぶ。
第7,8回	地球システムと人間活動（渡邊）	物質とエネルギーの保存と拡散、物質循環とエントロピーなどについて考察する。（サステイナビリティへの熱力学的アプローチ）
第9,10回	気候変動と防災（佐々木）	サステイナビリティの視点から気候変動と防災について学ぶ。
第11,12回	ビジネスと人権（櫻井）	サステイナビリティ経営における「ビジネスと人権」の重要性や企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第13,14回	科学技術と社会／総括・授業内試験（金光）	サステイナビリティを支える技術と社会の関係に注目し、技術がどのように人間の行為や価値判断を方向づけているかを考察する。および、授業内容を総括し、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業最終回に論述式の授業内試験を実施する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. A written in-class exam will be administered during the final class session (100%).

SES500P1 – 020（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

ＳＤＧｓへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同、SDGs Plus履修証明プログラム申請者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は（一社）SDGs市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

【到達目標】
グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO／NPOが主体的に活動するものと思われがちである。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。
受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。
同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。
最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンスとSDGs総論	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の確認。SDGsの動向に関する解説
第3,4回	セミナー	外部講師による講義
第5,6回	セミナー	外部講師による講義
第7,8回	セミナー	外部講師による講義
第9,10回	セミナー	外部講師による講義
第11,12回	セミナー	外部講師による講義
第13,14回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】
外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）70％、
プレゼンテーション 15%、期末レポート 15％の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】
講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】
SDGsの専門組織である社団法人の理事と途上国援助機関での業務経験のある教員が協働で、コーディネーターを担当する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.
[Learning Objectives]
The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.
[Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a composite evaluation of 70% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 15% presentation, and 15% final report.

POL500P1 – 017（政治学 / Politics 500）

公共政策と持続可能な社会づくり

林　嶺那、加藤　寛之、杉崎　和久、土山　希美枝、多田　和美、中筋　直哉、廣瀬　克哉

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科が運営しているSDGs Plus履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

【到達目標】
SDGsに関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者がSDGsについて体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共政策と持続可能な社会づくり」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的説明、及び「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」（1）	加藤寛之教授担当。この科目に関する簡単な導入の後、①AUGAの典型的な失敗、②ドラマ『あまちゃん』(2013)に描かれるアイドルによる村おこしの成功要因と持続可能性という観点からみた問題点、③実際に生じたマーケティングとファイナンスとコーポレート・ガバナンスの観点から見て興味深い草津温泉再生事例を比較する。合わせて社会人大学院生特有の研究の良さとそれが故に陥りがちな問題点について考える。
第2回	「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」（2）	同上
第3回	「都市型社会の政策主体とその関係性」（1）	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとりくみをとりあげ、論じる。
第4回	「都市型社会の政策主体とその関係性」（2）	同上
第5回	「都市計画」（1）	杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。
第6回	「都市計画」（2）	同上
第7回	「トラムで持続可能なまちづくり？」（1）	中筋直哉教授担当。フランスのストラスブールは20世紀の路面電車と異なる「トラム」の導入を軸にまちづくりを進めてきた。前半はそこでの経験からその長所短所を分析する。
第8回	「トラムで持続可能なまちづくり？」（2）	後半は、前半の内容を踏まえて日本の地方都市へのトラム導入の可能性と課題を検討する。
第9回	「多国籍企業のCSR」（1）	多田和美教授担当。グローバル化の進展にともない、多国籍企業のCSRの重要性はますます高まっています。第9,10回の授業では、多国籍企業の国際経営活動が国際社会に及ぼす影響について解説します。また、社会と企業がともに発展するための新たなCSRのあり方について考察します。
第10回	「多国籍企業のCSR」（2）	同上
第11回	「地方創生とSDGs」（1）	廣瀬克哉教授担当。地方創生の取り組み施策のなかで、SDGsは主軸となる位置づけを付与されている。その必然性と有効性について考えたい。
第12回	「地方創生とSDGs」（2）	同上
第13回	「原子力と持続可能な社会づくり」（1）	林嶺那教授担当。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第14回	「原子力と持続可能な社会づくり」（2）	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の討論への参加状況（50％）とコメント（50％）により成績を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート等を通じて学生から意見を得ることができた回もあった。共有すべき意見については担当者間で確認する。

【Outline (in English)】
This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.
Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDa.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

LAW500P1 – 051（法学 / law 500）

政策法務論

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：政治学、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」という概念が唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。地方と中央のこの意識の差に着目し、「自治体政策法務とは何か」について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。
【授業目的】
現在の自治体法務が直面している問題点を検討する。特に、条例論について深掘りする。

【到達目標】
・自治体政策法務のイメージをつかむ。
・条例案立案のポイントをつかむ。
・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・現代の自治体法務が直面している問題を整理し、自治体法務の向上のためには何が必要かを深掘りする。
・特に、条例立案の際に強調される「立法事実論」について深く学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
②授業は、講義を中心とする。講義は、参加者との対話を重視しながら展開する。
③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。
④立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案との対比 3.チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義
7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
神崎一郎「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％・立法演習40％・報告30％。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Following the Decentralization Reform of 2000, the concept of "Policy Legal Affairs" (Seisaku Houmu) was proposed and has since been championed primarily by legal officers within local governments. In contrast, this concept has not gained general currency among legal practitioners in central government ministries. By focusing on this discrepancy, this course examines the ideal role and future direction of legal affairs within local municipalities.

Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affiairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

LAW500P1 － 052（法学 / law 500）

立法学研究

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：政治学「立法学研究１」、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に、立法プロセスを見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。
【授業目的】
我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をすることにより、立法における「制度設計」の在り方を習得する。

【到達目標】
・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までのプロセスについて、正確な知識を得る。
・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
②授業は、講義を中心とするが、講義は参加者との対話を重視しながら展開する。必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。
③講義の仕上げとして、立法演習を行う。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方　第２版』有斐閣（2021年）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％・立法演習40％・報告30％。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
条文を参照するため、パソコン・タブレットを持参されたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性－議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】
Course outline;

Traditionally, our legal science has been centered on the methodology of legal interpretation. As early as 1946, Professor Izutaro Suehiro pointed out that legislative drafting was conducted through the professional expertise of bureaucrats, and that there had been no scientific inquiry into the capacity and training of legislators. Since then, a significant body of research has been accumulated. Building upon these achievements, this lecture attempts to systematize "Legisprudence."
The objective is to move past simple political commentary on the legislative process and instead examine it using a legal approach that covers everything from fundamental law to Constitutional and Administrative Law.
Course Objectives:
The objective of this course is to provide students with a three-dimensional understanding of the laws that underpin our nation's functions, from their planning and enactment to their implementation. Through critical thinking exercises, students will master the principles of institutional design in the legislative process.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P1 – 053（政治学 / Politics 500）

政策評価論

南島　和久

備考（履修条件等）：政治学「行政理論研究１」、サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】
本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。
これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の３点である。
①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義はオンラインにて行う。授業は２コマ連続で実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第5回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように取り組まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、３つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、３つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。（但し品切れ中。講義は配付レジメに基づいて行う。）

【参考書】
今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第３版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬塲健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。

武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巌、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。
山谷清志『日本の政策評価』晃洋書房、2025年。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

【その他の重要事項】
初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima■policy．ryukoku．ac．jp（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、政策学、評価学
＜研究テーマ＞政策評価の制度運用
＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『科学技術政策とアカウンタビリティ』（編著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第３版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】
Since 1990’s, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P1 – 054（社会学 / Sociology 500）

社会調査法１

中筋　直哉

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査士、専門社会調査士資格8科目の最初の科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。とくに公共政策研究に活用する際の社会調査の多様性と、調査実施に伴う倫理上の問題について詳しく学ぶ。

【到達目標】
1.社会調査の公共政策への有用性と課題を理解し、説明できる。
2.社会調査の多様な方法を知り、概略を説明できる。
3.社会調査に伴う倫理上の課題について的確に判断できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。少人数クラスになる可能性が高いので、各回2時限連続のうち前半は講義、後半は講義の重点についての討論とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の目的と意義1	公共政策への有用性と課題についての講義
第2回	社会調査の目的と意義2	公共政策への有用性と課題についての討論
第3回	社会調査の歴史1	近代化に伴う社会問題と社会調査の発展についての講義
第4回	社会調査の歴史2	日本の近代化・現代化と社会調査の発展についての討論
第5回	調査倫理1	対象との関係と成果の公表の規準についての講義
第6回	調査倫理2	対象との関係と成果の公表の規準についての討論
第7回	社会調査方法の選定1	方法の選択とプロセスの統制についての講義
第8回	社会調査方法の選定2	方法の選択と組合せについての討論
第9回	計量的社会調査の古典研究1	『現代日本人の意識構造』を読む
第10回	計量的社会調査の古典研究2	大規模アンケート調査の課題についての討論
第11回	非計量的社会調査の古典研究1	『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む
第12回	非計量的社会調査の古典研究2	現地でのヒアリング調査の課題についての討論
第13回	総括1	まとめの講義と期末筆記試験
第14回	総括2	期末筆記試験の結果をに基づくまとめの討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義・討論で取り上げる文献を予め指示するので予習してほしい。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的参加度40％、期末筆記試験60％。討論で自分の考えを講義を踏まえて論理的に説明し、また筆記試験の課題に同様に答えることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法2〜8」

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)As the first of eight courses in the social researcher and professional social researcher qualifications,we will learn the basics of social research, particularly the diversity of it and its ethics.
(Learning Objectives)Understand and explain the usefulness of social research for public policy, besed on the ethics for informants and the public.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each classes.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:40%, Final exam:60%.

SOC500P1 – 055（社会学 / Sociology 500）

社会調査法２

見田　朱子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。
まずこの調査法が成立する歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観する。そのプロセスの各段階に生じる実践的課題について詳論し、調査対象の客観項目（属性等）だけでなく主観項目（意識）の調査結果を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】
サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教室での対面形式で実施予定。各回2時限の連続講義。グループ作業を含む実習的な作業をともなう。課題やリポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）＊別途レポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した課題を期日までに用意し、提出すること。授業終了後に参考文献を入手・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加30％、課題提出（レポート）15％×2回、筆記試験40％。

【学生の意見等からの気づき】
・調査実習ではありませんが、量的社会調査の方法を学ぶために必要と考えられるため、実習的作業を予定しています。履修人数によっては、グループ単位で取り組む作業や課題があります。
・社会人履修生の多い講義と認識しており、各年度の履修生の状況を考慮してある程度の対応をします。申し出ていただければと思います。ただし、「（全般的な）仕事との両立が大変」という問題には基本的に、通常の学生の諸事情と同様に個々人での工夫対応が求められます。
・授業当日のパワーポイント資料は、必要があると判断した場合を除き、事前配布はしません。
この授業で提示するパワーポイントの資料は、板書や実習作業の補足としての視覚資料でしかありません。敢えて間違いのある資料を掲示していることもあります。リアルタイムで進める授業内容とあわせて初めて意味をもち、その場で目にしてほしい資料として作成しています。事前に入手して色々と準備する対象ではありません。（パワーポイントの資料を配布することにも、メリットとデメリットを感じています。）
当日に紙に印刷出力したものがほしいという希望には対応します。

【学生が準備すべき機器他】
各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【その他の重要事項】
社会調査士・専門社会調査士資格取得のための認定科目ですが、資格取得以外の目的でも受講に問題はありません。おなじく認定科目の社会調査法Ⅰを事前履修することが推奨されますが、必須ではありません。
なお、量的社会調査の分析方法系列は、社会調査法Ⅱ（本講義）に続き、社会調査法Ⅲ、Ⅳ、Ⅶです。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、社会調査論、近代化論
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA－40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.
(Learning Objectives) The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.
(Learning activities outside of classroom) Writing reports (sometimes with group members) and Reading directed books and papers.
(Grading Criteria /Policy) Positivity to classwork:30%, Reports:15% *2, Final Exam/report:40%

SOC500P1 – 056（社会学 / Sociology 500）

社会調査法３

見田　朱子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学研究における統計データの利用法。
「統計データ」を読み・書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説する。
さらに「非統計（質的）データ」を読み取り・整理する基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excelおよび無料の統計ソフトR等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】
統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
統計データの情報を要約することができる。
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
統計データをグラフや表によって可視化することができる。
上記の内容を適切な形式で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面形式で、講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。またExcelや統計ソフトRの技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、WordやPowerPoint等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。
具体的なテーマに接し、質疑応答の実践練習をするため、授業内発表の機会も設ける予定である。成績評価は、受講人数にもよるが、授業期間内での小課題と前述の発表およびレポートによる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第3,4回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題
第5,6回	5 分布と統計量1 6 分布と統計量2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第7,8回	7 検定の基礎知識 8 クロス表1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DKとNA ・情報の圧縮
第9,10回	9 クロス表2 10 相関1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第3変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第 11,12 回	11 相関2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第 13,14 回	13 非統計データについて 14　総括	・「量的データ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.
（新版あり。データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定なので未購入でも構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
石川淳志他編，1998,『見えないものを見る力――社会調査という認識』八千代出版.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】
課題提出によって評価。
課題は、複数回ある小課題（合計40%）、期末の発表（30％）および期末レポート課題（30％）を指す。
ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を10-20％程度取り入れる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy＆Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。例年、他分野から様々な立場の受講生が参加するため、双方向性の必要を強く感じている。必要な進度は確保しつつ、フロアからも気軽に発言して無理なくフォローができる授業運営にしたい。
・質問等の効果はクラス全体で共有することを基本としたい。
・授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。ただし、本講義におけるパワーポイント資料はあくまで授業中（リアルタイム）の視覚的補足資料であるため、授業時間前の配布は予定していない。紙媒体の配布希望には対応する。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】
社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、社会調査論、近代化論
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA－40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.
Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).
*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P1 – 057（社会学 / Sociology 500）

社会調査法４

藤本　篤二郎

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。基礎的な統計処理とは、記述統計を前提とした推測統計の初歩で、2変数までを扱う。
主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、Rの使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要となる現代社会の諸相についての知識も得る。
大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的ももつ。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の４点である。
①定量的社会調査の基礎知識を得る
②定量的社会調査をともなう学術論文を理解できるようになる
③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。
2コマ連続のクラスだが、1コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。
リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフトRの扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R実習１	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第6回	R実習２	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R実習３	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方
第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、Rを使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 ２群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定とt検定
第12回	R実習	カイ二乗検定とt検定
第13回	相関係数、共分散、回帰分析	相関係数、回帰分析の考え方と手順
第14回	R実習 まとめ	相関係数の精緻化、回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習は無料の統計ソフトRを使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用させてもらう予定である。また、Rの操作方法についてはWeb上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.（新版あり）

【参考書】
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
片瀬一男・阿部晃士・林雄亮・高橋征仁『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房，2019年.
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習的な小課題30％
授業中の理解・貢献状況10％
期末レポート・発表60％
ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy＆Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては必要に応じて相談のうえクラス運営をする予定である。
・社会調査法１～３（特に３）は、必須ではないが既習であることが望ましい。
例年、「３」より先に本講「４」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情にはできる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。さらに、統計ソフトの使用という技術的な慣れの点でも積み重ねの差が出てしまうので、「３」相当の内容を未履修での本科目の履修は非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談は受け付ける。
・授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。ただし、本講義におけるパワーポイント資料はあくまで授業中（リアルタイム）の視覚的補足資料であるため、授業時間前の配布は予定していない。紙媒体の配布希望には対応する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布やお知らせ等には法政大学の学習支援システム（Hoppii）を利用する。
パソコン（Windows）および周辺機器。MacやLinaxでも履修可能だが、授業はWindowsを前提として行う。iPad等のタブレット端末は使用できない。
Excelもしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただしExcel以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。
できれば「R」をインストールしておくこと（講義予定の教室PCにはインストール済み。初回授業で案内予定）。

【その他の重要事項】
・質問等はメール（atsujiro.fujimoto.77@hosei.ac.jp）でも受け付ける。
・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
身体の自己管理論、セクシュアリティ、デジタル・ソーシャルメディア
〈研究テーマ〉
身体管理の社会学
〈主要研究業績〉
・「体験談ブログの分析からみる現代の性的節制への専心過程」『年報社会学論集』2025年，第38号，83-94ページ.
・「監視文化の前史としてのインターネットDIY」『メディア研究』2025年，第107号，113-130ページ.

【Outline (in English)】
This course introduces the skill of quantitative research data. We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P1 – 058（社会学 / Sociology 500）

社会調査法５

中筋　直哉

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
非計量的な社会調査の多様な世界を学び、先行研究を批判的に理解できること、自分で調査を計画できることを目指す。そのために、非計量的な社会調査の多様な方法と得られたデータの質について理解を深める。さらに各自の研究課題への適用についてていねいに検討する。

【到達目標】
1.非計量的な社会調査の多様な方法の概要を理解し、説明できる。
2.非計量的な社会調査のデータの質の特徴を理解し、説明できる。
3.自らの研究課題に適合する非計量的な方法を選択し、社会調査を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。少人数クラスになる可能性が高いので、各回2時限連続のうち前半は講義、後半は講義の重点を自分の研究課題に適用する際の課題についての討論とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	非計量的社会調査の多様な世界1	対象との接近と得られるデータの非定型性についての講義
第2回	非計量的社会調査の多様な世界2	データの質についての討論
第3回	地域社会調査の世界1	日本で固有に発達した地域社会調査についての講義
第4回	地域社会調査の世界2	現代の地域社会を現地調査することについての討論
第5回	生活史法の世界1	日本で固有に発達した生活史法についての講義
第6回	生活史法の世界2	現代人を生活史法で捉えることについての討論
第7回	川喜田二郎とは何者だったのか1	方法の特質と発想法である意味についての講義
第8回	川喜田二郎とは何者だったのか2	現代のデータ分析との異同についての討論
第9回	メディアテクスト分析の発達1	内容分析からAI活用に至る発達史についての講義
第10回	メディアテクスト分析の発達2	現代のメディアテクスト分析についての討論
第11回	当事者研究の可能性1	自分を研究することの可能性と課題についての講義
第12回	当事者研究の可能性2	現代における当事者研究の可能性についての討論
第13回	総括1	まとめの講義と論述式筆記試験
第14回	総括2	論述式筆記試験の結果を踏まえたまとめの討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義・討論で取り上げる文献を予め指示するので予習してほしい。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的参加度40％、期末筆記試験60％。討論で自分の考えを講義を踏まえて論理的に表明し、また筆記試験の課題に同様に答えることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1〜4、6〜8、とくに6と8」

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this course, we will learn about diverse world of non-metric social research.
(Learning Objectives)Understanding of various methods of non-metric social research and quality of the data obtained.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and Review in each classes.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:40%,Final exam:60%.

SOC500P1 – 059（社会学 / Sociology 500）

社会調査法６

見田　朱子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを収集／分析する思考法を実践的に習得する。特に調査企画・設計のプロセスに主軸を置いた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、様々な社会調査手法の利点／欠点、意義／限界の理解を促す。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に応じた調査デザイン（データ収集／分析手法）を構想・発表し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】
1.社会調査の実施に向け、研究計画書を作成するための実践的な思考法を身につけている。
2.量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて調査票の作成を行える。
3.社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4.受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づいた論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1.研究計画書の作成プロセスを通じて調査研究の基礎的な知識について解説し、実習を中心にして研究の方法を検討する。
2.グループワークおよび個別単位での実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な調査票の作成を行う。
3.グループワークによる実習を中心に、方法論的立場の違う仮説を設定して、それに基づいて討論をしながら質的調査の企画・設計を行う。
4.受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。
授業は対面で実施する。授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すため、リアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会学・政策科学と社会調査	・調査の背景、目的、意義と限界
2	総論2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで ・データの収集と分析 ・データとは何か
3	総論3：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論4：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築 ・社会調査に特有の倫理
5	グループワーク1：グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計①	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・データの収集方法①：サンプリングの対象・方法
6	グループワーク2：グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計②	・調査票の作成、ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
7	グループワーク3：調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析①	・調査データの整理：度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	グループワーク4：調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析②	・クロス集計分析、分析結果の発表
9	グループワーク5：事例から構想する質的調査の企画・設計①	・データの収集方法②：聞き取り調査、フィールドワーク ・社会構造主義／構築主義
10	グループワーク6：事例から構想する質的調査の企画・設計②	・分析の方法：ライフヒストリー分析、内容分析、KJ法と質的統合法、 ・分析、企画・設計策定結果の発表
11	ワークショップ1：質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較①	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	ワークショップ2：質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較②	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	調査デザインの発表と相互討論1	・受講者各自の問題関心に基づいた調査デザインを発表し、その妥当性を検討する（前半）
14	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論2	・受講者各自の問題関心に基づいた調査デザインを発表し、その妥当性を検討する（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき3-4時間を標準と想定している。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
授業内で適宜文献を指示する。

【参考書】
授業内で適宜文献を指示する。
分析に用いる資料については授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加と貢献（リアクションペーパーを含む）：60 %、レポート課題：40 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、アンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】
第1回目の講義時に確認するが、パソコンもしくはタブレット等の機器とインターネット接続は自習の際にも学習環境として必要になる。またHoppiiあるいはGoogle Classroomを通じて資料配布や課題提出等をするので、アクセスが必須となる。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1・2・3・5・8」

【専門領域】
社会意識、社会調査論、近・現代化論、社会指標論

【研究テーマ】
「幸福」の社会学

【主要研究業績】
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA－40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend approximately four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(40%), short report(30%) and in class contribution(30%).

SOC500P1 – 061（社会学 / Sociology 500）

社会調査法７

藤本　篤二郎

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。
昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた。反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、分析手法の技術としての習得と、同程度あるいはそれ以上に、各手法技術の基本的な考え方や特徴、それが社会調査のなかでどのように利用されるものか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。
具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。
これらの分析手法は、統計パッケージRによる実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得だけではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解し報告できるようになることに重点を置く。

【到達目標】
本講義の目標は、多群間比較や線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方までを修得することである。同時に、統計パッケージRを用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明や利用ができるようになることがで単位修得の条件である。
また、本講義はあくまでも社会調査法の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。
具体的には、表計算ソフトExcelのほか、統計ソフトとしては無料のRを用いる。Rについては基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的分析については社会調査法３、４などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではないが、未収得の場合は授業内容の理解が実質的に非常に困難になり、課題対応に割く労力と時間も増える）。
履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備1	社会学と多変量解析、R紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。 標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備2	Rの操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量とOLS推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果のt検定・F検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
11	主成分分析の実習	主成分分析表の図示と解釈
12	因子分析の実習	因子分析表の解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきものか。選び方、利用の仕方の補足と確認。 判別分析とクラスター分析の紹介。
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.
（新版あり。データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、購入必須ではありませんが、授業の範囲以上に参考になる文献です。）

【参考書】
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
片瀬一男・阿部晃士・林雄亮・高橋征仁『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房，2019年.
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献と理解度（20％）
課題（80％）
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。出欠席、遅刻早退は成績評価に影響しないが、出席回数が全体の3分の1以上の場合、単位認定が困難になる場合がある。
課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。
これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。受講生の事情にはできるだけ対応したクラス運営をしたい。ただし、「（全般的な）仕事との両立が難しい」といった状況には通常の学生同様に各自での工夫と調整の上での履修を望む。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、ExcelとRのインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。
授業予定の教室には、Rインストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへのRのインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】
本講は、（専門）社会調査士資格のための認定科目に相当する。
シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。
社会調査法１～４あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法４相当）については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
身体の自己管理論、セクシュアリティ、デジタル・ソーシャルメディア
〈研究テーマ〉
身体管理の社会学
〈主要研究業績〉
・「体験談ブログの分析からみる現代の性的節制への専心過程」『年報社会学論集』2025年，第38号，83-94ページ.
・「監視文化の前史としてのインターネットDIY」『メディア研究』2025年，第107号，113-130ページ.

【Outline (in English)】
Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)
We learn:
Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.
It is a practical class using a statistical package soft "R".
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P1 – 062（社会学 / Sociology 500）

社会調査法８

見田　朱子

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、フィールドワーク（現地踏査、街歩き、参与観察など）や聞き取り調査結果の整理とデータ化から、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析と解釈までの能力を、意識と感性の両レベルから習得する。
また、質的データの収集の方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】
1.質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2.KJ法、インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3.質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4.質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すため、リアクションペーパーを提出してもらう。Hoppiiを利用して資料配布や課題提出を設定する。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い、マルチメソッド法・混合研究法の効用
第2回	総論2:質的調査の調査技法（質的データの収集とプロセス）	・フィールドワーク（参与観察、現地観察、街歩きなど）、聞き取り調査、ドキュメント分析など
第3回	総論3:質的調査の分析技法（質的データの分析と知見の抽出）	・インタビューからの内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、KJ法と質的統合法
第4回	総論4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置、コンフリクトな語りの対処
第5回	グループワーク1：先行研究の発掘、整理、利用	質的調査を具体的に企画するにあたって、その前提となる先行研究の扱い方を学ぶ
第6回	グループワーク2：聞き取り調査の実習体験	履修生内相互に聞き取り調査実習。調査する側とされる側の簡易的な疑似体験
第7回	グループワーク3：質的調査結果の整理とデータ化	フィールドノートの作成、書き起こしと逐語録、収集したデータの把握
第8回	グループワーク4：質的調査結果の分析方法	KJ法によるデータの整理と分析、質的統合法の簡易体験、分析結果の発表と討論
第9回	グループワーク5：ドキュメント分析の実践	手紙の分析論文とKHCorderの紹介：テキストデータから見えてくるもの
第10回	グループワーク6：内容分析の実践	テレビドラマと原作の表現相違：映像データから見えてくるもの
第11回	グループワーク7：会話分析の実践	社会構築主義に基づく論文―：会話データから見えてくるもの
第12回	グループワーク8：マルチメソッド分析の実践	混合研究法による研究事例―研究デザインのデータから見えてくるもの
第13回	相互討論①	受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第14回	総合討論②	質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき3～4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
適宜授業中に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表、討論を含む）30 %、リアクションペーパー20 %、レポート課題（発表資料の提出を含む）50 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更につき、アンケートフィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しないが、Hoppiiへのアクセスや発表資料・レポートの作成にはパソコン等の機器類とインターネット接続環境が必要になる。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1・2・3・5・6」

【専門領域】
社会意識論、社会調査論、近・現代化論、社会指標論

【研究テーマ】
「幸福」の社会学

【主要研究業績】
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series―World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA – 40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.
By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

SOS500P1 – 066（その他の社会科学 / Social science 500）

地域コンサルティング論

佐谷　和江

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①この授業では、実際の地域コンサルティング事例を通じて、その背景やプロセス、そして得られた成果や課題を学ぶ。
②また、コンサルティング技術の実践演習を行う。
③地域の人々による自治（地域レベル、市レベルなど）の枠組みの中で、コンサルティングがどのように機能するか、その役割と重要性について理解を深める。

【到達目標】
①ケーススタディの分析能力の向上：この授業を通じて、地域コンサルティングの基本理論と実践方法を学び、様々なケーススタディを分析する能力を養う。
②スキルの体験：基本的なコンサルティングスキルを体験し、将来のキャリア設計の一助とすることができる。
③ローカルガバナンスの理解と見解の形成：また、ディスカッションを通じて、地域コンサルティングの意義と地域の人々による自治（ローカルガバナンス）におけるその役割について自らの見解を形成し、表現する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。 地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、ＮＰＯ、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。
本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。
授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業をケースにコミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ケースのＵＲＬを下記に示すので、事前に概要を把握する。
○第２回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援
http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/
港区まちづくりマスタープラン改定支援
https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html
○第３回：新宿区落合三世代モデル事業
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html
○第４回：横浜市まち普請事業　左近山地区
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html
○第５回：墨田区玉の井地区
https://teratama.tokyo/
○第６回：江戸川総合人生大学
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】
①都市のイメージ／ケヴィン・リンチ／1960、翻訳1968、新版2007／岩波書店
②アメリカ大都市の死と生／ジェイン・ジェイコブス／1961、翻訳2010／鹿島出版会
③人間の街: 公共空間のデザイン／ヤン・ゲール／2014／鹿島出版会
④地方創生大全／木下 斉／2016／東洋経済新報社
⑤都市計画とまちづくりがわかる本／2017／彰国社
⑥新データで読む地域再生 「人が集まる県・市町村」はどこが違うのか／日本経済新聞社地域報道センター／2024

【成績評価の方法と基準】
平常点40％：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。
討論への参加30％：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。
レポート・発表30％：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】
紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
＜研究テーマ＞
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
＜主要研究業績＞

○「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／2021／建築ジャーナル
○都市計画の構造転換　整・開・保からマネジメントまで／2021／鹿島出版会
○BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイン―世界をつなぐ15の原則／2018／ブックエンド

【Outline (in English)】
● Course outline
① Through real-world regional consulting cases, this course will explore their backgrounds, processes, outcomes, and challenges.
② It will also include practical exercises in consulting techniques.
③The course aims to deepen understanding of how consulting functions within the framework of local self-governance (at regional and city levels), focusing on its role and importance.
● Learning Objectives
① Case Study Analysis Skills: Learn basic theories and practical methods of regional consulting, and develop the ability to analyze various case studies.
②Skill Application: Gain experience in basic consulting skills, aiding future career planning.
③ Understanding and Formulating Opinions on Local Governance: Through discussions, enhance the ability to form and express personal views on the significance of regional consulting and its role in local governance.
● Learning activities outside of classroom
You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.
The standard preparation and review time for this class is 2hours each.
● Grading Criteria /Policy
Ordinary points (40%)
Evaluate by actively learning theory and methodology
Participation in discussion（30％）
Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills
Report and presentation (30%)
The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P1 – 067（その他の社会科学 / Social science 500）

ファシリテーション演習

徳田　太郎

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義を行う。
＊各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回(1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）
第3回(2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回(2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回(3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回(3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回(4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回(4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回(5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第 10 回(5-後)	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約の技術を学ぶ	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
第 11 回(6-前)	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
第 12 回(6-後)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第 13 回(7-前)	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第 14 回(7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各120分程度）
・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊 『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約60%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約40%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】
受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
＜研究テーマ＞
熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ
＜主要研究業績＞
・『〈熟議投票〉の政治学：アイルランドの憲法改正にみる民主主義の変革』明石書店、2026年
・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14号、2020年
・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す6つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, in class contribution: 40%.

MAN500P1 – 224（経営学 / Management 500）

ＣＳＲ論

長谷川　直哉

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学「サステイナブル経営論」、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることを目指します。

【到達目標】
SDG に関する基本的な知識を習得したうえで、現代企業のサステナビリティ経営や脱炭素経営の実態を正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻「サステイナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。社会人院生の履修環境に配慮してオンラインを中心とした授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステ ナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥／伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営 の最新動向「ガバナン ス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社／岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営 の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新た な尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機／豊田佐吉 スズキ／鈴木道雄
第7回	ESG 経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済 倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第10回	責任経営ケーススタディ⑤	グンゼ／波多野鶴吉 天竜木材／金原明善
第11回	日本社会における企業 倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命／矢野恒太 東京海上／各務鎌吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023 年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資－長期的な企業価値創出メカニズムを求めて』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
期末レポート：90％
発表・討議：10％

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜最近の主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, We will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.Grading will be based on the final report (90%) and presentation (10%).

POL501P1 – 068（政治学 / Politics 500）

政策研究概論（外国語）※中国語

毛　桂榮

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策に関する基礎文献を中国語などで講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。
文献は、中国語、日本語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を読み、理解するように心がけていきます。
なお、この科目は、公共政策論を中国語を利用しながら勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】
以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献１５本以上を熟読するようにします。公共政策分析・研究の基本・手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、講読、解読・解説、また討論します。ゼミの最終回（この予定は履修者の数により適宜調整）においては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本は、対面授業です。
（１）新型肺炎の流行により、一部オンライン授業はあるが、本授業は、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
（２）もちろん、柔軟に「オンライン」も、必要に応じて調整します。
（３）ゼミの進め方：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
（4）勉強に関する質問は、（本システム、あるいはLINEなどを通じて）常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用をしてください。
「注意」：メールで連絡する場合、maoguirong@gmail.comを使用する。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。配付資料の確認、また、資料の解説	文献「若い大学院生へ」を事前に配布います。当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能です。
第2回	（米国）行政学の研究史、公共政策論の先行研究・研究史について	配布資料（システムにアップ）の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	（米国）行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第４章、日本語と中国語を講読。資料は事前配付。
第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	ガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	（1）日本の行政学研究と教育,（2）日本の公共政策研究の歴史	中国語資料「日本行政学史」（公開論文、毛） 日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文
第8回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第9回	政策決定における制度、利益など	（1）政策決定における制度・多様な制度論、（2）政策決定における利益 の論文各1篇
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念、「影響力」と「支配」の概念	権力論に関する日本語資料、また、英文資料（参考）を講読。
第11回	（1）政策形成における政治家と官僚 （2）官僚制の概念	（1）Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。（2）資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第12回	政策形成モデル（1）過程モデル（2）官僚政治モデル（3）修正ゴミ缶モデルを中心に	モデル紹介の資料を読む。特に修正ゴミ間モデル、政策の窓モデルをじっくり勉強する。資料は、日本語、中国語
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章２つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西尾『行政学』（新版）（中国語訳あり）の政策研究部分、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）の部分、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版、新版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】
日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】
授業での報告４０%、討論６０%を基本に、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。

相談により、講読の資料を適宜調整します。

【学生が準備すべき機器他】
配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。授業時、毎回PCを持参すること。資料の印刷は不要。

【その他の重要事項】
1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、maoguirong @ gmail.com を利用します。必要があれば、ラインも利用します。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。
2、注意：以上の14回分の予定は、履修者の状況に応じて、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっていきます。
3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

【担当教員の専門分野等】
行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

【Outline (in English)】
This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books in Chinese, Japanese, and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.
Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

BSP500P1 － 069（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

公共政策論文技法１

白鳥　浩、宮﨑　一徳、笈米地　真理

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】
初学者にも論文の書き方がわかる。公共政策分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
初めて論文を書く方にはこちらをお勧めする。博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、やさしく先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなろう。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ(白鳥)	政策科学の定義と歴史，政策と学術研究の関係
第3,4回	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析1(宮崎)	問題提起と分析
第5,6回	理論的フレームワークとデータの収集1(宮崎)	フレームワークの提示，データへのアクセス
第7,8回	分析結果と学会内での研究上の位置1(宮崎)	分析の位置，研究の意義
第9,10回	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析2(笈米地)	問題提起と分析
第 11,12回	理論的フレームワークとデータの収集2(笈米地)	フレームワークの提示，データへのアクセス
第 13,14回	分析結果と学会内での研究上の位置2(笈米地)	分析の位置，研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中適宜指示

【参考書】
講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
出席および毎回の講義への取り組み30％，レポート70％。レポートについては，各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まずは入学してこちらを履修されることをおすすめする。初めて論文を書く初学者を対象に、論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】
白鳥　浩
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【担当教員の専門分野】
笈米地真理
＜専門領域＞政策過程。国際政治。
＜研究テーマ＞国際化時代の東アジアの分析。
＜主要研究業績＞
笈米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

【担当教員の専門分野】
宮﨑一徳
＜専門領域＞ 政策過程
＜研究テーマ＞ 議員立法、多元的政策提言、政治主導と国会の役割
＜主要研究業績＞
宮﨑一徳『議員立法の役割』法政大学学術機関リポジトリ、2018年3月。
宮﨑一徳「「変換型」議会の表出」『日本政治法律研究第3号』2021年3月。
宮﨑一徳「附帯決議の分析」『法政論叢58巻1号』2022年。

【Outline (in English)】
This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.
The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P1 – 072（その他の社会科学 / Social science 500）

学術的文章作成演習（基礎）

西谷内　博美

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「研究」の一般的な作法と技術を習得することを目的とします。つまり、今後、各指導教員の下で専門的な研究を進めるための土台となる、社会科学の研究に共通する基本的な作法と技術を学びます。
「基礎」では、「勉強計画」ではなく「研究計画」を作成できるようになることを目指します。つまり、「研究」のモードを獲得し、その上で研究の主要な要素を論理的に組み立てる能力を養うことが最終的な目標です。この段階では、研究内容の卓越性よりも、形式的・論理的な完成度をより重視します。

【到達目標】
・「勉強」ではなく「研究」のモードを獲得する。つまり、学術的に意味のある（と説明しうる）オリジナルな問いを設定し、それに答える有望な（と説明しうる）オリジナルな道筋を構想できる。
・先行研究の蓄積の上に、自分の研究を位置づけることができる。つまり、「科学的貢献」の意味が理解できる。
・研究方法を記述できる。一方では調査法を端的に説明でき、他方では調査の具体的な段取りを構想し説明できる。
・研究のタイトル、主題、主張、論拠や根拠に一貫性を持たせることができる。つまり、キーワードを安定的に揃えることができる。
・以上の要素を踏まえて研究計画を作成できる。つまり、研究のタイトル、主題、主張、論拠や根拠、調査方法、先行研究レビューといった要素を統合的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「学術的文章作成演習（基礎）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この科目は演習です。つまり、講義よりもエクササイズやグループワークが多くなります。とくに、宿題の成果を持ち寄り、授業内でピアインストラクションを実施することが主な進め方です。その際に課題へのフィードバックもなされます。
以下の授業計画は暫定的なもので、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／人類の共同作業	・授業の内容と進め方を共有します。 ・論文の型や意義を理解する（テキスト第2章） ・目標値の確認（テキスト第8章）
第2回	主題と対象	・主題と対象の使い分けを理解する（テキスト第3章） ・主題を絞り、先行研究リストを作成する（テキスト第4章）
第3回	ディシプリン	・ディシプリン（学問体系）の意味を理解する（テキスト第6章） ・「論文全体を貫く理論枠組み」という言い回しを、肌感覚で理解し、実践できるようにする
第4回	方法（メソッドとレシピ）	・社会科学でよく使われる実証的調査の方法を概観する（テキスト第7章） ・調査設計の方法を理解し実践する（テキスト第5章）
第5回	構成と仕上げ	・研究計画とプレゼンテーションの要領を確認（テキスト第8章） ・最後のチェックポイントを確認する（テキスト第11章） ・その他、必要に応じて復習
第6回	プレゼンテーション①	・研究計画（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション
第7回	プレゼンテーション②／ポストテスト	・研究計画（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション ・ポストテストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
毎回の授業に一定量の宿題（予習課題や復習課題）が出されます。授業内では、持ち寄った宿題の回答をもとに進行するため、宿題は必ず実施してください（未実施の場合、授業への参加が難しくなります）。
また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
小熊英二, 2022,『基礎からわかる――論文の書き方』講談社.

【参考書】
シカゴ大学出版局編集部 編, 2018,『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』慶應義塾大学出版会.
佐渡島紗織・吉野亜矢子 , 2021,『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房.
井下千以子, 2019,『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
研究計画書とプレゼンテーション30％、平常点70％。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。
―授業への参加と貢献　30 ％
―宿題　30 ％
―リアクションペーパー10 ％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、理論と実践の接続にやや課題があった可能性があります。今年度は、実践を中心に据えて授業を再構成することで、自分事としての実践的理解の深化を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCをご準備ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総 合文化研究』20 : 55-63.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
（Course outline）The goal is to acquire the general knowledges and techniques of "research". Specifically, this course will teach the fundamental practices and techniques common to science (especially social science), which will serve as the foundation for conducting specialized research under the guidance of future advisors.
In the "Fundamentals" course, the goal is to be able to create a "research plan," not just a "study plan." In other words, the ultimate objective is to acquire the mode of "research" and, based on that, develop the ability to logically structure the key elements of research. At this stage, greater emphasis will be placed on the formal and logical quality of the research plan, rather than the excellence of the research content itself.
（Learning Objectives）
・Acquire the mode of "research," not just "study." In other words, be able to formulate an original question that is academically meaningful, and devise a promising original approach to answer it.
・Position your research within the body of existing literature. In other words, understand the concept of "scientific contribution."
・Be able to describe your research methodology. On one hand, be able to explain the research methods concisely, and on the other hand, be able to devise and explain the specific steps of the research.
・Ensure consistency in your research's title, subject, argument, and evidence. In other words, be able to maintain stable key terms throughout.
・Based on the above elements, be able to create a research plan. In other words, be able to integrate the elements of your research's title, subject, argument, evidence, research methodology, and literature review.
（Learning activities outside of classroom）Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）Rearch plan and Presentation (30%), Class Contribution (30%), Assignments (30%), and Reaction Paper (10%).

SOS500P1 – 073（その他の社会科学 / Social science 500）

学術的文章作成演習（応用）

西谷内　博美

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「研究」の一般的な作法と技術を習得することを目的とします。つまり、今後、各指導教員の下で専門的な研究を進めるための土台となる、社会科学の研究に共通する基本的な作法と技術を学びます。
「応用」では特に、「summary（まとめ）」ではなく「argument（議論）」を書けるようになることを目指します。つまり、「自分の主張」を持ち、それを説得力のある形で展開できること、さらに、その議論を論理的に整理して提示できることを最終目標とします。この段階では、議論の内容そのものの優劣よりも、形式的・論理的な完成度をより重視します。

【到達目標】
・「自分の主張」や「論証責任」の重要性を理解し、実践できるようになる。つまり、問いを設定し、自分の主張（解）を導き出し、それを論証できる。
・パラグラフ・ライティングができるようになる。つまり、自分の考えを整理し、端的かつ論理的に表現できる。
・以上の要素を踏まえて、小論文を執筆できるようになる。つまり、「自分の議論」を構築し、それを理路整然と表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「学術的文章作成演習（応用）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この科目は演習です。つまり、講義よりもエクササイズやグループワークが多くなります。とくに、宿題の成果を持ち寄り、授業内でピアインストラクションを実施することが主な進め方です。その際に課題へのフィードバックもなされます。
なお、「応用」ではマインドマップツールを用います。
以下の授業計画は暫定的なもので、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論文の型	・授業の内容と進め方を共有します。 ・論文の特徴を理解する（テキスト第1章）
第2回	論証の技法／論証の練習①思考の整理	・論証の技法を理解する（テキスト第9章） ・マインドマップを用いた思考の整理
第3回	論証の練習②パラグラフ・エッセイ	パラグラフ・エッセイの分析・添削・作成など
第4回	論証の練習③論文	学術論文の分析・添削・作成など
第5回	スタイルガイド／文献収集	・資料収集の方法を確認する（テキスト第4章） ・引用の方法を理解し練習する
第6回	論証の練習④期末小論文	自分の小論文（期末課題）の検討
第7回	プレゼンテーション／ポストテスト	・自分の小論文（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション ・ポストテストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
毎回の授業に一定量の宿題（予習課題や復習課題）が出されます。授業内では、持ち寄った宿題の回答をもとに進行するため、宿題は必ず実施してください（未実施の場合、授業への参加が難しくなります）。
また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
小熊英二, 2022,『基礎からわかる――論文の書き方』講談社.

【参考書】
シカゴ大学出版局編集部 編, 2018,『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』慶應義塾大学出版会.
佐渡島紗織・吉野亜矢子 , 2021,『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房.
井下千以子, 2019,『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会.
吉岡友治, 2015,『シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術: 世界で通用する20の普遍的メソッド』草思社.

【成績評価の方法と基準】
小論文とプレゼンテーション30％、平常点70％。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。
―授業への参加と貢献　30 ％
―宿題　30 ％
―リアクションペーパー10 ％

【学生の意見等からの気づき】
今年度は、基礎的な練習はほどほどにして、学術論文を題材とした練習により多くの時間を割けるように授業を再構成してみます。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCをご準備ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総 合文化研究』20 : 55-63.
2009「廃棄物管理における慣習の逆機能」『環境社会学研究』15: 89-103.

【Outline (in English)】
（Course outline）The goal is to acquire the general knowledges and techniques of "research". Specifically, this course will teach the fundamental practices and techniques common to science (especially social science), which will serve as the foundation for conducting specialized research under the guidance of future advisors.
In the "Application" course, the aim is not to write a "summary," but to develop the ability to create an "argument." In other words, the final goal is to have your own position, develop it in a persuasive manner, and present the argument logically and coherently. At this stage, greater emphasis will be placed on the formal and logical quality of the argument, rather than the excellence of the content itself.
（Learning Objectives）
・Understand the importance of "your own argument" and "burden of proof," and be able to apply them. In other words, be able to set a question, derive your own argument (solution), and substantiate it logically.
・Be able to write in paragraphs. That is, organize your thoughts and express them concisely and logically.

・Based on the above elements, be able to write an essay. In other words, be able to construct your "own argument" and present it in a clear and logically structured manner.
（Learning activities outside of classroom）Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）Term Essay and Presentation (30%), Class Contribution (30%), Assignments (30%), and Reaction Paper (10%).

POL500P1 – 101（政治学 / Politics 500）

政策学研究

西谷内　博美

備考（履修条件等）：政治学「公共政策研究２」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策学分野の研究論文を対象に、主題・理論・方法といった研究の構成要素に着目して分析を行います。これを通じて、政策学の先行研究に対する理解を深めるとともに、研究の捉え方に関する視野を広げ、実践的な方法論を身に付けることを目的とします。

【到達目標】
・政策学分野の研究論文を対象として、研究の構成要素を整理・分析することができる。
・研究の構成要素に基づいて、政策学分野における研究を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、既存の研究論文を対象に、研究の構成要素の分析を行います。後半では、これまでの分析を踏まえ、研究の構成要素に則して、受講生が自らの政策学研究を構想します。
原則として受講生がレジュメを作成し、その報告に基づいて授業を進めます。報告後には、参加者全員による質疑・議論を行い、担当教員が講評を通じてフィードバックを行います。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを作成し、各自の学びを振り返り、理解の整理を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の目的、内容、進め方の共有 ・研究の構成要素に関する基礎的理解の共有（主題、対象、主張、メソッド、視角、レシピ、オリジナリティ、研究の系譜） ・研究論文分析のデモンストレーション
第2回	先行研究の分析・1	受講生にとっての重要な先行研究を対象に、研究の構成要素の分析を行う（受講者A・B想定）
第3回	先行研究の分析・2	先行研究の分析（受講者C・D想定）
第4回	先行研究の分析・3	先行研究の分析（受講者E・F想定）
第5回	政策学研究の構想・1	研究の構成要素に則して、受講生が自らの政策学研究を構想する。（受講者A・B想定）
第6回	政策学研究の構想・2	受講生の研究構想（受講者C・D想定）
第7回	政策学研究の構想・3	受講生の研究構想（受講者E・F想定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
小熊英二, 2022,『基礎からわかる――論文の書き方』講談社.
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020,『公共政策学の基礎　第3版』有斐閣.

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【その他の重要事項】
本科目は、「学術論文作成演習一基礎」と「政策学基礎」を統合する位置づけにあります。
研究を構成する要素については主に「学術論文作成演習一基礎」で扱い、それらの要素に具体的な内容を与えるテーマや理論については、「政策学基礎」で学ぶ内容と重なる部分が多く含まれます。
これらの科目の履修は必須ではありませんが、本科目における学習効果を高める目的において履修を推奨します

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course analyzes research articles in the field of policy studies by focusing on key components of research such as the research topic, theoretical framework, and methodology. Through this process, the course aims to deepen students' understanding of policy studies, broaden their perspectives on how research is conceptualized, and enable them to acquire practical methodological skills.
（Learning Objectives）
・ Students will be able to analyze and identifyt the core components of research in scholarly articles in the field of policy studies.
・ Students will be able to design and conceptualize research in the field of policy studies.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) . It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500P1 – 128（政治学 / Politics 500）

行政学事例研究の方法

林　嶺那

備考（履修条件等）：政治学「行政学研究２」、博士「行政学事例特殊研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】
行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
King, G., Keohane, R. O., &Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.
Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.
Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500P1 – 104（政治学 / Politics 500）

自治体議会論

鍵屋　一

備考（履修条件等）：政治学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】
研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深堀りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形式：対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第 11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第 13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】
江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】
討議への参加など平常点　70％
振り返りシート　30％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自治体、防災
＜研究テーマ＞自治体議会・議員の災害対策
＜主要研究業績＞紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500P1 – 105（政治学 / Politics 500）

公務員制度研究

森谷　明浩

備考（履修条件等）：政治学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、国家公務員を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化の流れの中における人材確保策、組織や個人のパフォーマンスを最大化するための勤務環境や給与制度の見直し、政官関係の在り方など、様々な課題に対する解決策を同時に考えていくことが求められています。この講義では、国家公務員制度の現状や見直しに向けた動向などについて解説を行うとともに、民間企業における人事管理や主要諸外国との比較なども行いながら、新時代の公務員の人事管理の在り方としてどのような方向性が考えられるかについて探求していきます。

【到達目標】

公務組織における近年の勤務環境の整備や給与制度の見直しなどの様々な取組を考察し、
①人事管理において重要な事柄とは何か
②組織を構成する一人一人のモチベーションを高め、組織のアウトプットを最大化するために必要なポイントは何か
③これからの新時代の人事管理を考えるに当たって大切にすべきことは何か
などについて、公務組織を題材にして考えることで、公共政策を人事面などから考察する際の視座を獲得することを目指して学習することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行います。公務における近年の人材確保策、人事評価の仕組みや昇進管理の現状、給与制度や勤務環境の見直しなどいくつかの主要分野について、民間企業や主要諸外国の状況にも触れながら解説を行います。

各回の授業の前半は、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では受講される方自らのご意見や疑問点などをきっかけとした自由討議を行い、更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	公務人材をいかに確保するか、能力・実績主義実現のための人事評価の仕組みと昇進管理の実態とは	近年の人材確保策、国家公務員の昇進実態、国家公務員の人事評価制度と近年の見直し等について解説し、組織のパフォーマンスを高めるための昇進管理や人事評価の手法としてどのような姿が望ましいかを考えます。
第3回：第4回	給与制度の現状と今後の望ましい制度の在り方とは	近年の給与制度の見直し（人材確保や組織パフォーマンスの向上、働き方やライフスタイルの多様化への対応）等について解説し、組織のパフォーマンスを向上させる観点からの給与制度の見直しとして何が考えられるかを議論します。
第5回・第6回	勤務環境の現状とよりよい勤務環境を目指して	近年の勤務環境の見直しに関する施策（柔軟なフレックスタイム制度の導入やテレワークの現状、その他の働き方改革の推進の状況）を踏まえつつ、職員の多様なワークスタイル・ライフスタイルをどのように人事制度に反映させていくことが必要かを考えます。
第7回・第8回	民間人材をいかに確保し官民共同で課題に対応するか	部内人材の育成のみでは公務組織を維持することはできません。近年の民間人材の活用方策を解説しつつ、複雑・多様化する行政課題を解決するために、官と民の人事の垣根を柔軟化していくためにはどのようなことが求められるのかを考えます。
第9回・第10回	シニア職員の活用をいかに図るか	今後の日本社会において、シニア層の経験やノウハウをいかに活用していくかも重要な課題です。公務におけるシニア職員の活用の現状を解説し、今後の少子高齢化社会でどのようなシニア層の活用施策が考えられるかを検討します。
第11回・第12回	公務員に求められる中立公正性とは何か	身分保障の仕組みや国家公務員として守るべきルール（服務）、それに反した場合の制裁（懲戒処分）、職員が懲戒処分等の不利益な処分を受けた際の人事院への不服申立制度等について解説し、公務に特有の中立・公正な人事管理を実現するためには何が必要かについて考えます。
第13回・第14回	政治と行政の関係性はどうあるべきか（これまでの制度改革の歴史から学ぶ）	1990年代以降の政官関係の変化、内閣人事局の設置（2014年）に至る公務員制度改革の動向等を中心に解説し、政治と行政の適切な関係とはどのようなものかについて考えます。また、講義全体を振り返り、将来の在るべき公務員制度を設計するに当たり、どういった視点が必要かを考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著『公務員人事改革―最新米・英・独・仏の動向を踏まえて―』（2018年学陽書房）
村松岐夫編著『最新公務員制度改革』（2012年学陽書房）
西尾勝著『行政学［新版］』（2001年有斐閣）
西尾隆著『公務員制』（行政学叢書⑪）（2018年東京大学出版会）
吉田耕三・尾西雅博編『逐条国家公務員法〈第２次全訂版〉』（2023年学陽書房）
吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）
嶋田博子著『職業としての官僚』（2022年岩波新書）
人事院HP　https://www.jinji.go.jp/top.html
内閣官房内閣人事局 HP　https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html

内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部 HP　https://www.gyoukaku.go.jp/koumuin/index.html
など

【成績評価の方法と基準】
○　平常点50％（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に参加・貢献しているか）
○　小論文（レポート）50％（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】
学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにします。

【その他の重要事項】
　教員は、人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当しています。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきています。
　これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについて幅広く議論していきたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公務員制度
＜研究テーマ＞我が国の公務員制度の動向
＜主要研究業績＞
森園幸男ほか編『逐条国家公務員法全訂版』（2015年学陽書房）（共著）
吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).
This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.
Your overall grade in this course will be decided based on the following
Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500P1 – 108（政治学 / Politics 500）

都市政策概論

杉崎　和久

備考（履修条件等）：博士「都市政策特殊研究」と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、多様な主体が活動をする都市空間において、秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画の構造、現代的な課題を理解することを目的とする。

【到達目標】
秩序ある土地利用を制御する仕組みである都市計画法等の仕組みを理解した上で現代都市において表出さひているさまざまな課題の構造を把握した上で対応方策を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
都市計画法など現在の都市における空間制御の仕組みを講義する。そして、受講生は身近な自治体における都市計画事例をとりあげ、授業の中で報告し、議論を行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「オンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／講義：都市計画法概要	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、都市計画法の概要を説明する。
第2回	講義：土地利用規制１、２	用途地域を含めた土地利用規制全般と地区計画制度について説明する。
第3回	講義：市街地開発事業／都市施設	都市再開発事業や土地区画整理事業などの市街ch井開発事業、道路や公園などの都市施設について説明する。
第4回	講義：都市計画マスタープラン／人口減少社会における都市計画	都市計画の方針となるマスタープランを説明する。また昨今の都市における課題、それに対する都市計画の対応について説明する。
第5回	課題報告１	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
第6回	フィールドワーク	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。（7/15祝日午後を予定）
第7回	課題報告２	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】
必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、担当課題の発表内容（40％）で行う。
ただし、出席回数が過半数（４回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。
＊なお、オンラインでの実施回については、議論に参加し、発言をすることで平常点に加算する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
リアルzoomによるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】
この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせて行う。
第１回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第１回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL500P1 – 109（政治学 / Politics 500）

都市政策事例研究

杉崎　和久

備考（履修条件等）：博士「都市政策事例特殊研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な主体が活動をする都市空間において、適切な都市施設配置や秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画は、都市における活動などが成長することを前提としたシステムである。しかし、都市の成長とともに生活空間の環境に変化を与えるなど新たな地域課題が生じることがある。市民によるまちづくり活動はこれらを顕在化させ、都市計画を変化させる役割を果たしてきた。本講義では、市民によるまちづくり活動の経緯、事例等を把握し、これらの活動の果たした役割を理解することを目的とする。

【到達目標】
この授業を通じて、都市空間において発生する生活の場の変化に対して、市民が主体となるまちづくり活動を通じて、都市空間に関する新たな課題や価値が提起され、法定都市計画に変化を与える過程を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初は、市民まちづくりの具体的な事例紹介をオンラインで行う。その後、受講生が、分担して身近なまちづくりの事例を調査し、講義の中で報告し、議論を行う。また、必要に応じて教員は講評や話題提供を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（まちづくりの展開過程）	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、市民によるまちづくり活動の展開過程について説明する。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第2回	市民まちづくりの事例紹介１	現代の都市空間に対する受講者の関心を共有する。（オンデマンド形式）
第3回	市民まちづくりの事例紹介２	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（オンデマンド形式）
第4回	フィールドワーク	市民まちづくりの実践事例の現地見学を行う。（11/14祝日午後に実施）
第5回	事例発表１	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第6回	事例発表２	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第7回	総括議論	具体的な施策を踏まえて、今後必要となる対応について議論を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】
必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、担当課題の発表（40％）で行う。
ただし、出席回数が過半数（４回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
zoomによるリアルタイムオンライン形式、動画配信によるオンデマンド形式、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】
この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせて行う。
第１回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第１回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL500P1 – 113（政治学 / Politics 500）

コミュニティ制度論

西谷内　博美

備考（履修条件等）：政治学「コミュニティ論研究２」、博士「コミュニティ政策特殊研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】
・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストの問題意識や理論・分析枠組みに依拠し、基本的にはテキストで扱われている都市を対象として、コミュニティの制度を分析します。あわせて、テキスト刊行後17年間における状況の変化にも目を向けます。
第3～7回は受講生がレジュメを作成し、その報告に基づいて授業を進めます。報告後には、参加者全員による質疑・議論を行い、担当教員が講評を通じてフィードバックを行います。また、時間調整を兼ねて、毎授業回の後半にインドの事例についての考察を進めます。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを作成し、各自の学びを振り返り、理解の整理を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・コミュニティの制度を分析するためのキー概念・視角を共有する（テキスト第1章）
第2回	日本のコミュニティの制度	・自治会・町内会 ・日本型都市内分権（テキスト第2章） ・宮崎市の制度分析
第3回	ドイツの制度	・テキスト第3章　ドイツ・ブレーメン市 ・（残りの時間）インド農村部の制度
第4回	スコットランドの制度	・テキスト第4章　スコットランド・エディンバラ市 ・（残りの時間）インド都市部の制度
第5回	フランスの制度	・テキスト第5章補論　フランスのリヨン大都市圏 ・（残りの時間）インド、廃棄物管理とコミュニティ
第6回	フィリピンの制度	・テキスト第7章　フィリピンのケソン市 ・（残りの時間）インド、デリー州のバギダリ政策
第7回	テキスト外事例	・テキスト外の事例を対象としてコミュニティの制度を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
名和田是彦編, 2009,『コミュニティの自治』日本評論社.
（※もし入手が難しい場合には、法外な価格で購入する前にご相談ください）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加・貢献（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.
2011「デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策」『国際開発研究』20(1):67-80.
2009「廃棄物管理における慣習の逆機能」『環境社会学研究』15: 89-103.

【Outline (in English)】
Viewing communities as local units that have lost their institutional framework as a result of municipal mergers, this course conducts an international comparative analysis of policies and institutions designed to re-institutionalize such communities. Through this analysis, students will acquire a basic understanding of community policy.
・ Students will be able to comparatively analyze institutional arrangements of various real-world communities.
・ Students will be able to examine and explain the characteristics and challenges of community institutions with due consideration of the historical and cultural contexts of each region.
Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500P1 – 114（政治学 / Politics 500）

日本政治史研究

明田川　融

備考（履修条件等）：政治学「日本政治史研究１」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国―といっても主力は米国であったが―による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】
受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようになることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014年）および櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015年）を精読し、議論する。
なお、２回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	対日占領性政策の立案	SWINCC150シリーズ、JCS1380シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第2回	対日占領のはじまり	その究極目的
第3回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第4回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要塞化の相関
第5回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第6回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第7回	対日政策の転換	PPS28シリーズ～NSC13シリーズの形成
第8回	講和論争	日米で二分される国論
第9回	講和準備研究作業	NSC60/1への道、A・B・C・D作業
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	第3条（潜在主権方式）の形成を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第14回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学修が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】
福永文夫『日本占領史 1945-1952　東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014年。
櫻澤 誠『沖縄現代史　米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015年。

【参考書】
思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972年。
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983年。
五百旗頭真『米国の日本占領政策　戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985年。
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987年。
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集　1945-1951』法政大学出版局、2000年。
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム　GHQ情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018年。
前田勇樹・古波藏契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史―沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ボーダーインク、2021年。
平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会　「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。
沖縄県教育庁文化財課史料編集班『沖縄県史　各論編　第七巻　現代』沖縄県教育委員会、2022年。
宮城 修『ドキュメント　〈アメリカ世〉の沖縄』岩波書店、2022年。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（100％）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】
受講生は学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　日米関係史、日本政治外交史
＜研究テーマ＞　日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史
＜主要研究業績および刊行物＞
・『日米行政協定の政治史―日米地位協定研究序説―』法政大学出版局、1999年。
・『沖縄基地問題の歴史―非武の島、戦の島―』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞[社会科学部門]受賞）。
・『日米地位協定―その歴史と現在―』みすず書房、2017年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ　増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和　戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ　「パックス・アメリカーナ」か「パックス・アジア」か』ＮＨＫ出版、2014年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952年　沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する〝国民感情〟と政府の安全保障政策との連関について研究をまとまるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。
また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしえたことと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。
現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集成の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.
【Learning objectives】
The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL500P1 – 119（政治学 / Politics 500）

防災危機管理研究

鍵屋　一

備考（履修条件等）：政治学と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災の発生以後、国土強靭化など防災対策の重要性が叫ばれている。しかし、その後の災害でも十分な成果は上げられていない。また、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。
現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】
①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形式：対面授業
授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。
また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。
授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。
第9回・10回	防災教育、ボランティア	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。
第11回・12回	地域防災計画、防災条例、政策評価	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。
第13回・14回	企業、行政等の事業継続（BC）	企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。
また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】
鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年
鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年
令和4年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】
質疑への参加　70％（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）
リアクションペーパー等　30％

【学生の意見等からの気づき】
実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
地域防災、危機管理
＜研究テーマ＞
防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）
＜主要研究業績＞
・『都市災害を生き残る』「現代用語の基礎知識2009」2008年、自由国民社
・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団
・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】
(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.
(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500P1 – 120（政治学 / Politics 500）

雇用労働政策研究

濱口　桂一郎

備考（履修条件等）：政治学「雇用・労働政策研究」、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公労使三者構成の審議会において労使団体と政府(厚生労働省)の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】
現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第3.4回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第5.6回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第7.8回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第9.10回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構(2018年)
なお、刊行からかなり時間が経っているため、アップデートしたPDFファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】
濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書(2009年)
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫(2011年)
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013年）
濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014年）
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書(2015年)
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書(2020年)
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書(2021年)
濱口桂一郎『賃金とは何か』朝日新書(2024年)
濱口桂一郎『管理職の戦後史』朝日新書(2025年)
濱口桂一郎『外国人労働政策』中央公論新社(2026年)
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。
http://hamachan.on.coocan.jp/

【成績評価の方法と基準】
参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。
レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。
SGB00231@nifty.com

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
労働法政策
< 研究テーマ>
日本とEUの労働法政策、日本の個別労働紛争の分析
< 主要研究業績>
『EUの労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】
It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
：Grading will be decided based on short reports.

POL500P1 – 121（政治学 / Politics 500）

政策過程事例研究

鄭　智允

備考（履修条件等）：政治学「政策学研究２」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、政策過程理論を応用し、個別行政分野における政策形成・展開の実態を分析的に理解することである。まず、主要な文献を用いて政策過程に関する基礎理論を体系的に確認する。次に、具体的な政策事例を対象とした事例研究を通じて、各アクターがどのような役割と責任を担い、相互に作用しているのかを分析する。また、既存制度のもとで、外部・内部の環境要因がアクターの行動や政策選択にいかなる影響を与え、政策が形成・修正・漸進していくのかを検討する。これらの分析を通じて、政策過程に関する理論的理解を深化させるとともに、実証的な政策分析を行うための視座と方法論を修得することを目指す。

【到達目標】
既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第3.4回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第5.6回	政策と官僚、そして規制	官僚ははぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第7.8回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第9.10回	政策事例② 大都市制度	政令指定都市を事例として大都市の現況と課題について考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 広域連携	自治体における広域連携の現状とその課題について考察する。
第 13.14 回	政策事例④ ヤングケアラー	ヤングケアラーに関する対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
最初の授業で指示する。

【参考書】
C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015年）
クリストファー・M・フィブル編『公共政策』（成文堂、2023年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業における積極的議論への参加（60%）、報告またはレポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治、環境政策
＜研究テーマ＞国策と地方自治
＜主要研究業績＞
『廃棄物行政と自治の領域』敬文堂2024年
「 合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識 」『自治総研』2020年（第499号pp.86－122）
「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略―浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に― 」『『年報中部の経済と社会』2019年（pp.69 - 80）
「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019年（第489号pp.45－82）
「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014年（第428号pp.29-46、第429号pp.45-65、第430号pp.35-53）
「災害廃棄物の処理をめぐって」『月刊自治研』2012年（第637号pp.56-65）
「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ2011年(pp.202-216)
「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書2008年版』環境自治体会議編2008年 (pp.40-52)
『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会2005年

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to apply theories of the policy process in order to develop an analytical understanding of how policies are formulated and implemented in specific administrative fields. The course begins with a systematic review of fundamental theories of the policy process based on key academic literature. It then examines concrete policy cases to analyze how various actors assume roles and responsibilities and interact within institutional frameworks. In addition, the course explores how internal and external environmental factors influence actors' behavior and policy choices, and how policies are formulated, modified, and incrementally developed over time. Through these analyses, students are expected to deepen their theoretical understanding of the policy process and acquire perspectives and methodologies for conducting empirical policy analysis.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 40%、in class contribution: 60%.

POL500P1 – 122（政治学 / Politics 500）

政策開発実践論

藤原　大、清水　英弥、肥沼　位昌

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体の政策・制度設計と行政技術の開発手法を研究します。

【到達目標】
人口減少時代への対応に迫られた自治体政策について、先駆自治体の実践例を考察するとともに、市民本位の政策づくりについて研究します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
自治体政策の実践例を基調に、「対面」（ハイフレックス含む）にて講義を実施します。
受講者からの質疑・討論を含め、授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自治基本条例と総合計画（藤原　大）	自治体経営における自治基本条例、総合計画の意義、有効な活用方について考察する。
第2回	新たなまちづくりの潮流（藤原　大）	公民連携の取組など自治体における新たなまちづくりの潮流を考察する。
第3回	市民サービス提供のあり方（藤原　大）	公設民営保健福祉施設の運営から、超高齢社会における市民サービス提供のあり方を考察する。
第4回	脱炭素・GX政策（藤原　大）	地球規模の課題に対し、自治体の向き合い方を考察する。
第5回	変わる自治体経営（藤原　大）	分権からの転回等、自治体を取り巻く様々な環境変化を踏まえて、これからの自治体経営を展望する。
第6回	自治体の都市政策、住宅政策（清水英弥）	自治体の都市政策、住宅政策について、考察する。
第7回	自治体の環境政策（清水英弥）	自治体の環境政策について、考察する。
第8回	自治体の開発政策（清水英弥）	自治体の開発政策について、考察する。
第9回	自治基本条例の実践例（肥沼位昌）	所沢市における自治基本条例制定の過程から市民自治のあり方、自治基本条例の理解を深める。
第10回	自治体財務の可能性（肥沼位昌）	自治体の財務の在り方から,政策のとの関連や目指すべき方向性を探る
第11回	武蔵野の歴史とまちづくり（肥沼位昌）	武蔵野の歴史的な意味をふまえ、まちづくりを考えるきっかけとする。
第12回	環境を起点としたまちづくり（肥沼位昌）	環境とまちづくりの関係性や可能性を考察する。
第13回	市民自治の将来（肥沼位昌）	分権改革の経緯をふまえ、市民が政策にかかわることや自治体政策の将来の目指すべき方向性を考察する。
第14回	意見交換（藤原、清水、肥沼）	政策開発について、3名の講師とディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2 時間を標準とします。
本授業のテーマに関する著書・論文等を可能な限り熟読し、事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業の前に、レジュメを配布します。

【参考書】
肥沼位昌、「自治体財政における市民自治－課税自主権の実際－」『地方税法施行50周年記念論文集』（記念事業実行委員会・総務省）2001年所収
肥沼位昌、「市民が税率を決める自治体財政へのパラダイム転換－政策財務の構想－」『現場直言！ 自治体実行主義』、ぎょうせい、2002年所収
肥沼位昌、『図解よくわかる自治体財政のしくみ』学陽書房、2010年
肥沼位昌、『あのごみ屋敷をどうにかしてと言われたら』、第一法規、2009年
藤原大、「市町村の総合計画づくり～国分寺市総合ビジョンの紹介」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016 年 Vol. 76（冬号）所収
清水英弥、「人口減少時代における都市計画行政－入間市の取組み事例をみる－」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016 年 Vol. 65（春号）所収
所沢市自治基本条例を育てる会、『市民が取り組んだ条例づくり: 市長・職員・市議会とともにつくった所沢市自治基本条例 (地方自治ジャーナルブックレット No. 60)』
松下圭一、『政策型思考と政治』、東京大学出版会、1991年
宮崎駿監修、スタジオジブリ編『トトロの生まれたところ』、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】
授業における積極的議論への参加（７０%）、期末レポート（３０%）を総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
内容を検討のうえ、可能なものは授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
必要な時は授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【肥沼　位昌】
自治体政策（自治体財務、環境、福祉、まちづくり、歴史文化）

【藤原　大】
自治体経営（総合計画，まちづくり）

【清水　英弥】
自治体政策（都市、開発、建築、環境）

【Outline (in English)】
Study policy and institution design of municipalities and development method of administrative technology.
Regarding local government policies that have been forced to respond to the era of depopulation, we will consider practical examples of pioneering local governments and consider citizenoriented
policy planning.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end reports:30%、in class contribution: 70%.

POL500P1 – 125（政治学 / Politics 500）

公共政策実践論1

鳥山　亜由美、吉田　泰、小澤　一貴

サブタイトル：（人材育成・活用政策）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○　本講義では、実務家でもある各講師がオムニバス形式で、人材育成・人材活用政策や取組を対象として講義を行う。
○　具体的には、人材育成機関としての大学を取り巻く現状及び政策、人材育成方法や公共・民間の政策・問題解決プロセス、政策実践の取組、高齢者の活用に関する政策について、解説・分析する。

【到達目標】
○公共政策学の視点からそれぞれの人材育成・人材活用に関する現状を把握したうえで政策を分析することができるようにする。
○実務家である受講者においては、政策立案のためのプロセスを理解し、政策立案につなげることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○　講義は対面で行う。
○　各受講者の知識の蓄積状況や興味・関心に応じ、講義に関連する現実の政策についてグループディスカッション・議論を行うなど、受講者の理解をより深める取り組みも想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（鳥山・吉田・小澤）	本講義の目的、評価等のほか、各講師から授業内容について概要を説明する。
第2回	大学設置の経緯・目的（鳥山）	日本の大学制度や大学設置政策の変遷についての解説を通して、大学における人材育成における役割を理解する。
第3回	大学を取り巻く現状（鳥山）	昨今の大学を取り巻くトピックスを解説するとともに、地域における大学設置を俯瞰し、地域における大学の役割を理解する。
第4回	国の大学政策（鳥山）	法改正など、国による大学政策について理解する。
第5回	地方創生政策と地元定着（鳥山）	地方創生政策における大学に期待される役割、地域での人材育成における大学の立ち位置について理解する。
第6回	人材育成の進め方―1（吉田）	①「働く」「学ぶ」についてOJT（職場での学習）、Off-JT（職場外での研修、学習）、SD（自己啓発＝Self-Development）の視点で学習する。 ②「問い」「書く」を考える機会とする。
第7回	人材育成の進め方―2（吉田）	公共政策プロセスと日本における政策のつくられ方、民間企業における問題解決の手順を比較、学習する。
第8回	人材活用の進め方―1（吉田）	① 日本の地方政治における政策転換パターンを要因から分類して、捉える。 ② 自治体職員や議会議員による公共政策実践事例を学習する。
第9回	人材活用の進め方―2（吉田）	① 外部の業界団体職員による公共政策実践事例を学習する。 ② 第6～9回の内容についてディスカッションを行う。
第10回	定年制及び定年後の高齢者の所得確保策について（小澤）	定年制及び定年後の公助・共助・自助の仕組みによる所得確保策を考える。
第11回	一例として「シルバー人材センター」とは（小澤）	シルバー人材センターの組織構造や仕事内容等について理解する。
第12回	シルバー人材センター設立経緯、成長と停滞（小澤）	シルバー人材センターが設立された背景や設立理念その後の経緯を理解する。
第13回	シルバー人材センターの課題と展望（小澤）	具体的な事業展開を見ながら、センターへの期待、課題、展望を考える。
第14回	まとめ（鳥山・吉田・小澤）	試験・まとめ（講義全体の振り返り）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を事前に読むほか、講義資料に関連する案件につき、調査・検索し、まとめる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講師が適宜資料配付を行う。

【参考書】
鳥山、小澤
○秋吉貴雄『入門　公共政策学』中公新書、2017年。
○秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊夫『公共政策学の基礎』有斐閣、2020年。
○石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
○斉藤俊幸編著『地域活性化未来戦略』ぎょうせい、2024年。
吉田
○曽我謙悟・待鳥聡史『日本の地方政治－二元代表政府の政策選択－』名古屋大学出版会、2007年。
○高田貴久・岩澤智之『問題解決－あらゆる課題を突破するビジネスパーソン必須の仕事術－』英知出版、2014年。
○西川貴清『現場から社会を動かす政策入門－どのように政策はつくられるのか、どうすれば変わるのか－』英知出版、2024年。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度である「平常点」70%（各回においてコメントシートを提出）、期末試験30%。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、参加学生との双方向で行われることから、学生から寄せられる気付きや所感等から、逐次講義のブラッシュアップを行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
○　鳥山は、大学団体職員として高等教育政策の変遷に身近に触れてきたほか、新設公立大学や私立大学の職員として、各々の経験を踏まえた実務的観点からの内容を交えて講義を行う。
○　吉田は、民間企業社員や国会議員政策担当秘書、政党職員（政務調査会）、業界団体職員（政策担当）などの多様な経験を持つなかで、公共政策策定などの実務を担ってきたことに基づいて、講義を行う。
○　小澤は、企業年金団体職員として、企業による老後所得保障政策に長年触れてきた経験を下地とし、定年後の高齢者の所得確保と高齢者の人材活用を絡めた施策の一例として、シルバー人材センターに着目して講義を行う。

【鳥山亜由美】
＜専門領域＞公共政策学（特に高等教育政策、自治体政策）
＜研究テーマ＞地域における大学の役割
＜主要研究業績＞

①「地域で、地域と、人材を育てる公立大学―直近の設置事例を参照して」斉藤俊幸編著『地域活性化未来戦略』ぎょうせい、2024年。
②『「公立大学化」の政策過程―公私協力大学を事例―』博士学位論文、2023年。
③「私立大学の公立大学化に関する意思決定要因についての一考察：一般市を事例として」『自治体学』36巻1号、自治体学会、2022年12月、pp.55-60。

【吉田泰】
＜専門領域＞公共政策学、行政学、政治学
＜研究テーマ＞自治体政策におけるイノベーション事例
＜主要研究業績＞
①「自治体政策にイノベーションが起こる条件に関する考察－政治任用者・ブレーンが関わった政策転換事例の研究－」博士学位論文、2025年（2026年公刊予定）。
②「東京都政における利益団体の政策関与－就労支援・ソーシャルファーム促進条例の政策形成過程の検証－」法政大学大学院連帯社会インスティテュート『連帯社会』第6号、pp.170-208、2022年。
③「労働団体の政策実現活動－政治や行政、団体との関係と都条例の成立－」
一般社団法人都市調査会ホームページ
https://urban-institute.info/?page_id=1032、2019年。

【小澤一貴】
＜専門領域＞公共政策学（社会保障、年金、雇用）
＜研究テーマ＞シルバー人材センターの役割と社会的意義の考察
＜主要研究業績＞
①「シルバー人材センターの現状」社会政策学会第130回大会発表、2015年。
②「シルバー人材センターの最近の停滞と新たな成長への模索」社会政策学会第134回大会発表、2017年。
③「シルバー人材センターの社会的意義と役割」博士学位論文、2024年。

【Outline (in English)】
○ This course features lectures by instructors who are also practitioners, delivered in an omnibus format, focusing on human resource development and utilization policies and initiatives.
○ Specifically, it will explain and analyze the current situation and policies surrounding universities as institutions for human resource development methods, human resource development, public and private policy and problem-solving processes, and policy implementation initiatives, and considerations on elderly employment.

POL500P1 – 126（政治学 / Politics 500）

公共政策実践論2

荒木　進太郎、竹野　克己、関口　栄子

サブタイトル：（政策形成事例研究：教育・情報・地域）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、実務家でもある講師が、それぞれの専門分野を生かして政策形成事例をオムニバス形式で講義する。
「政策形成事例研究（1）：教育」では、主に初等中等教育における昨今の教育政策を中心に、政策形成過程におけるエビデンスの影響についての事例分析を行う。これにより学位論文執筆に至る政策事例分析手法を探るとともに、実務者においては政策立案に必要な構造の理解につなげる。
「政策形成事例研究（2）：情報」では、「個人情報」の視点から、民間企業に対する政府政策の立法過程を中心に、国内におけるその周縁の検討過程、個人情報保護法成立前後から現在に至る先行研究、また国内の検討に影響を与えたEU、アメリカの議論についての情報提供を行い、文献調査をベースとした学位論文執筆に至る方法を探っていく。
「政策形成事例研究（3）：地域」では、「地域政策」の観点から、その基底に「政策思想」が存在するということに着目し、この「政策思想」の具体化がどのように図られたか、内外の事例を用いて整理する。特に昨今の日本の地域政策の展開上、キーワードともなっている「田園都市思想」の概要について情報提供し、その潮流と実際を探ることで、「地域政策」における主体及び構造についての理解を図る。
本各講座は、研究対象が多種多様となる各参加者に対し、幅広く有益なものになると考える。そこで、本講義は、修士課程の院生だけでなく、広く博士課程の院生や学部の学生の参加も可能としている。

【到達目標】
公共政策学の視点から多様な政策分野について、それぞれの歴史的背景と基本的構造を理解、考察し、実際の政策を分析することができるようになる。
実務家である受講者においては、政策立案のためのプロセスを理解し、政策立案につなげることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式は、対面方式を原則とするが、状況によりオンライン併用によるハイフレックス方式もあり得る。
各受講者の知識の蓄積状況や興味関心に応じ、講義に関連する現実の政策についてグループディスカッション・議論を行い、受講者の理解をより深める取り組みも想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師から 講義の全体構想と担当概要を説明　等（荒木・関口・竹野）
第2回	政策過程の基本概念と分析枠組み	事例研究を行うにあたっての政策過程の主要理論（政策サイクル、アジェンダ設定など）を理解する。（荒木）
第3回	教員採用政策	教員採用・働き方改革にかかる政策を事例として、特にエビデンスの多義性について考察する。（荒木）
第4回	指導が不適切である教員の排除に関する政策	教員免許更新制を事例として、特に政策課題の構築過程について考察する。(荒木)
第5回	少人数学級に関する政策	35人学級の導入を事例として、政策立案・決定段階（予算調整）において財務省、文部科学省双方がどのようなエビデンスを用いたのかを考察する。（荒木）
第6回	日本の個人情報政策	個人情報保護法導入に至る歴史的背景について考える。（関口）
第7回	EU/アメリカの個人情報政策	世界に影響力を持つEU/アメリカの個人情報政策。（関口）
第8回	国内各省庁の検討・企業の動き	個人情報をめぐる各省庁及び企業の動きについて考える。（関口）
第9回	個人情報政策　課題と展望	現代的課題について事例を基に個人情報の利活用についてその利点とリスクを考える。（関口）
第10回	日本の地域政策概論（政策決定過程に着目して）	日本における地域政策、特に戦後の地域政策（国土開発政策）の概要について。（竹野）
第11回	大平正芳の「田園都市国家構想」と田中角栄の「日本列島改造論」	1970年代における方向性の異なる国土構想の成立過程とその遺産について。（竹野）
第12回	ルイス・マンフォードの思想（「地域主義」と政策主体）	「地域政策」の理論化と具体化を目指した1920年代のアメリカの都市思想家ルイス・マンフォードについて。（竹野）
第13回	現代の地域政策形成とその主体	近年の地域政策の政策立案過程に着目しつつ、その評価を行い、「地域政策」の主体について考察する。（竹野）
第14回	まとめ	試験・まとめ（講義全体の振り返り、各参加者の問題意識の変化）（荒木・関口・竹野）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を事前に読むほか、講義資料に関連する案件につき、調査・検索し、まとめる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜講師が資料配付を行う。

【参考書】
秋吉貴雄『入門　公共政策学』中公新書、2017年。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊夫『公共政策学の基礎』有斐閣、2020年。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度である「平常点」70%（各回においてコメントシートを提出）、期末試験30%。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、参加学生との双方向で行われることから、学生から寄せられる気付きや所感等から、逐次講義のブラッシュアップを行う。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメやインターネット情報を閲覧するため、PDFを読めるパソコンあるいはタブレットの持参が望ましい。

【その他の重要事項】
「政策形成事例研究（1）：教育」を担当する教員は、東京都教育委員会の現役管理職であり、様々な教育政策に関与してきた他、予算編成（政策決定）に精通していることから、本講義では、教育政策の実務を理論的に整理する。なお、本授業における全ての内容は、講師個人の一研究者としての見解であり、所属する組織の見解ではないことを予めお断りしておく。

「政策形成事例研究（2）：情報」を担当する教員は、民間企業におけるマーケティング等の経験を経て、ビッグデータ黎明期から自らデータハンドリングをした経験をもとに個人情報保護法成立過程に関する研究により学位を取得。査読論文、学位論文執筆の経験を踏まえ、論文完成・学位取得に向けての研究方法等についての参考事例を提示する。
「政策形成事例研究（3）：地域」を担当する教員は、大学卒業後国家公務員（経済産業省）に勤務、その後、空き家、中心市街地活性化等の「まちづくり」に関する業務に従事した。現在は地方自治体向けコンサルタント企業に勤務している。以上の経験を踏まえ、特に関心を有している政府の国土開発及び地域政策の概要、とりわけこれらの政策形成過程について整理する。

【荒木進太郎】
＜専門領域＞
公共政策学、教育行政学、教育財政学
＜研究テーマ＞
政策決定過程、エビデンス、教員人事政策
＜主要研究業績＞
「政策決定過程における『エビデンス』の多義性：初等中等教育行政にみるEBPMの陥穽」博士学位論文（2024.3）。
「教育のサービス」南島和久・堀内匠・武藤博己編『自治体政策学』法律文化社(2024.3)。
「少人数学級の政策決定におけるエビデンス:エビデンスは決定に影響したのか」　日本評価研究24(1)(2024.3)。
「小学校教員の需給不均衡に関する分析:選考倍率と教員未配置についての考察」季刊行政管理研究 (184) (2023.12)。

【関口栄子】
＜専門領域＞
公共政策学、個人情報政策
＜研究テーマ＞
個人情報、AI、デジタル・プラットフォーム政策
＜主要研究業績＞
「匿名加工情報」の登場及び概念化と外的要因～EUとアメリカとの関係が与えた影響についての考察～」『公共政策志林』第9号2021年
「個人情報保護法における『活用』の登場についての一考察」『日本政治法律研究』第5号2023年

【竹野克己】
＜専門領域＞
公共政策学、まちづくり・地域政策学
＜研究テーマ＞
エベネザー・ハワードに始まる「田園都市思想」、大平正芳内閣時の「田園都市国家構想」等まちづくり・地域に関する政策思想
＜主要研究業績＞
「国土利用と地域コミュニティ-自治機能の「伝来」・「制度保障」と「固有」の狭間における運用をめぐる考察」名和田是彦・宮﨑伸光編著『地方自治基礎理論の探求』法政大学出版局（2025.3）
「ルイス・マンフォードの「地域主義」にみる「田園都市思想」の「都市」から「地域」への展開-新たな「地域計画」像確立のための視点－」博士学位論文（2025.3）
「「デジタル田園都市国家」への期待と課題－新しい「共同体」像構築への視座」
（2021.7）『現代総有』（第3号）現代総有研究所
「大平正芳内閣における「田園都市国家構想」と戦後国土計画」（2014.3）『公共政策志林』第3号

【Outline (in English)】
（Course outline）
Course Description: In this course, instructors who are also active practitioners will leverage their respective fields of expertise to deliver a series of lectures on policy formation cases in an omnibus format.
Case Studies in Policy Formation (1): Education This section focuses primarily on contemporary educational policies in primary and secondary education. It performs a case analysis on the influence of Evidence-Based Policy Making (EBPM) within the policy formation process. The objective is to explore methodology for policy case analysis suitable for thesis writing, while enabling practitioners to understand the structural frameworks essential for policy formulation.
Case Studies in Policy Formation (2): Information From the perspective of "personal information," this section centers on the legislative process of government policies toward private enterprises. It provides insights into the peripheral deliberative processes within Japan, previous research from the enactment of the Act on the Protection of Personal Information to the present, and the discussions in the EU and the U.S. that have influenced domestic deliberations. Through this, students will explore literature-based research methods geared toward completing a degree thesis. For further details, please refer to the course information on the Learning Management System (LMS).
Case Studies in Policy Formation (3): Regional Policy Focusing on "regional policy," this section highlights the existence of underlying "policy philosophies" and examines how these philosophies are operationalized through both domestic and international cases. In particular, it provides an overview of the "Garden City" concept — a keyword in the recent development of Japan's regional policy — and explores its trends and practical applications. The goal is to facilitate an understanding of the actors and structures involved in regional policy.
General Information: We believe each of these sessions will be broadly beneficial to participants with diverse research interests. Therefore, this course is open not only to Master's students but also to Doctoral students and undergraduate students.
（Learning Objectives）
Students will be able to understand and examine the historical backgrounds and fundamental structures of diverse policy areas from the perspective of Public Policy Studies, thereby developing the capacity to analyze actual policies.
For participants who are practitioners, this course aims to provide a comprehensive understanding of the policy-making process, enabling them to apply these insights directly to the formulation of effective policies in professional settings.
（Learning activities outside of classroom）
About 2 hours each of preparation and review are required to understand this lesson.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end exam : 30%、in class contribution: 70%.

POL500P1 – 127（政治学 / Politics 500）

公共政策実践論3

小西　真樹、坪田　祥宜、伊藤　哲也

サブタイトル：（人口減少社会の地方自治を考える）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人口減少社会の地方自治を共通テーマに、地方自治体での実務経験のある３名の講師が、それぞれのテーマからオムニバス形式で授業を行う。
・３名のテーマを通じて、人口減少社会の地方自治のあり方を考えるとともに、公共政策としての地方自治を研究・分析する視点を学び、研究課題の設定につなげる。３名の各テーマ概要は以下の通り。
・地方財政制度：日本全国の様々な状況下におかれている自治体が、住民に行政サービスを提供するために必要な財源をどのような制度で確保をしているのか講義を行う。そして人口減少社会における地方財政の課題を把握し、今後の自治体運営について考える。
・地方自治体のまちづくり行政：地方自治体が法令や行政制度を活用しながら行うまちづくりについて、地方自治体のまちづくり行政と称し、講義を行う。特に人口減少社会において求められているまちづくり行政の詳細や実例について学ぶことを目的とする。
・地方自治体の情報政策：市区町村が担う情報政策に着目する。特に、2000年代から取り組まれてきた電子申請（市区町村に対する申請・届出等手続をインターネットで行える仕組み）を題材として、人口減少やデジタル化が進む中での行政デジタル化のあり方について考える。

【到達目標】
・地方財政制度について基礎的な仕組みを理解する。併せて人口減少社会における地方財政の課題を理解し、今後の自治体運営について考える力を身に付ける。
・地方自治体の都市政策、公共政策の実践としてのまちづくり行政の視点から、人口減少社会の自治体運営に必要な手法を学ぶことができる。
・市区町村の情報政策及び電子申請の概略や歴史的経過を把握し、人口減少社会における行政デジタル化の取組みに対する課題認識を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・原則として対面で授業を実施する。
・３名の講師によるオムニバス形式での講義を行う。毎回、講師がパワーポイントなどの資料を準備して講義を行い、原則としてディスカッションにより授業を進める。授業の主体は受講者であり、積極的な発言を求める。また、テーマにより、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地方財政制度①（伊藤）	地方財政計画及び地方交付税制度を説明し、財源保障制度について理解をする。
第2回	地方財政制度②（伊藤）	地方債制度、地方公営企業及び地方財政健全化法について説明し、それぞれの制度について理解をする。
第3回	地方財政制度③（伊藤）	個別地方公共団体の財政分析手法について説明し、それぞれの手法について理解をする。
第4回	地方財政制度④（伊藤）	第１回から第３回までのまとめを通じて、人口減少社会と地方財政制度について考える。
第5回	人口減少社会のまちづくり行政（小西）	人口増加社会であった都市化時代の自治体のまちづくり行政と対比しながら、人口減少社会の自治体のまちづくり行政に求められていることについて考える。
第6回	自治体のまちづくり行政：コンパクトなまちづくり①（小西）	人口減少社会のまちづくりとして取り組まれているコンパクトなまちづくりについて、その経緯や目的、法制度等について解説する。
第7回	自治体のまちづくり行政：コンパクトなまちづくり②（小西）	コンパクトなまちづくりについて、自治体による具体的な取組や成果、課題について解説する。
第8回	自治体のまちづくり行政：公共施設マネジメント①（小西）	人口減少社会のまちづくりとして取り組まれている公共施設マネジメントについて、その経緯や目的、法制度等について解説する。
第9回	自治体のまちづくり行政：公共施設マネジメント②（小西）	公共施設マネジメントについて、自治体による具体的な取組や成果、課題について解説する。
第10回	自治体の情報政策：市区町村における情報政策（坪田）	市区町村が担う情報政策について、近年進められる自治体DXを含めながらその内容や経緯を解説する。
第11回	自治体の情報政策：市区町村における電子申請（坪田）	電子申請の定義や対象手続等について説明し、市区町村の電子申請推進政策の枠組みを理解する。
第12回	自治体の情報政策：国による市区町村の電子申請推進政策の経緯①（坪田）	国による政策推進の観点から、市区町村の電子申請推進政策の歴史的経過や課題について説明する。
第13回	自治体の情報政策：国による市区町村の電子申請推進政策の経緯②（坪田）	第12回に引き続き、国による市区町村の電子申請推進政策の歴史的経過や課題について説明する。
第14回	自治体の情報政策：市区町村の電子申請の展望と課題（坪田）	人口減少やデジタル化が進む中での今後の市区町村における電子申請の展望等を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業では、積極的に質問や意見を提出し、ディスカッションに主体的に参加することを求める。これに向けた準備学習として、各回の講義内容に関連する事例や論点について、参考書等を用いて調査・整理しておくこと。また、講義終了後は復習として、ディスカッションを含む授業内容をまとめ、理解の深化を図る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・各回のテーマに関連する情報を事前に収集し、自らの問題意識を高めておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。各回、レジュメや資料を配布する。

【参考書】
（伊藤）
・石原信雄・嶋津昭【監修】/地方財務研究会【編】（2011）『地方財政小辞典 （６訂）』ぎょうせい
・石原信雄・二橋正弘（2000）『地方財政法逐条解説』ぎょうせい
・岡本全勝（1995）『地方交付税・仕組と機能』大蔵省印刷局
・地方交付税制度研究会編（2025）『令和7年度地方交付税のあらまし』地方財務協会
・地方債制度研究会編（2025）『令和7年度地方債のあらまし』地方財務協会
・地方財政調査研究会（2025）『令和7年度地方公共団体財政健全化制度のあらまし』地方財務協会
（小西）

・都市計画法制研究会編（2014）『コンパクトシティ実現のための都市計画制度 - 平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説』ぎょうせい
・竹村登（2020）『コンパクトシティはどうつくる？　- 暮らしてみたいまちづくり』工作舎
・山口幹幸（2019）『「コンパクトシティ」を問う』プログレス
・浅見泰司・中川雅之編著（2018）『コンパクトシティを考える』プログレス
・小島卓弥編著（2014）『ここまでできる　実践公共施設マネジメント　- 公共施設白書の活用から施設の統廃合、庁舎新設、廃校・遊休施設の活用まで』学陽書房
・小松幸夫ほか著（2019）『実践！　公共施設マネジメント　- 個別施設計画などの必須のポイントがわかる』学陽書房
・上森貞行（2020）『自治体の規模別公共施設マネジメント　- 地域特性に対応した、実効力のある個別施設計画の戦略と実務』学陽書房
・南学（2016）『先進事例から学ぶ　成功する公共施設マネジメント』学陽書房
・内藤伸浩（2015）『人口減少時代の公共施設改革　- まちづくりがキーワード』時事通信社
（坪田）
・上村進・高橋邦明・土肥亮一（2012）『e-ガバメント論-従来型電子政府・電子自治体はなぜ進まないのか-』三恵社
・田畑暁生（2022）『「平成の大合併」と地域情報化政策』北樹出版
・坪田祥宜（2025）『市区町村の電子申請　－ e-Japanから自治体DXまでの表層的な政策推進－』公人の友社
・西尾勝（1989）『自治体の情報政策』学陽書房

【成績評価の方法と基準】
授業中の意見発表や議論の積極性（８０%）、レポート提出・発表（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
多様な講師による講義であることを活かし、可能な限り、受講者の学位論文の核となるリサーチクエスチョン等についての問いにも応えていく。

【伊藤　哲也】
＜専門領域＞
地方自治、地方財政、地方議会
＜研究テーマ＞
地方議会の計量分析、地方財政
＜資格等＞
専門社会調査士
＜主要研究業績＞
①「議会費の状況と自治体運営－決算統計等から分析する平成の市区町村議会－」法政大学博士学位論文（2022.3）
②「財政及び人口の観点からみた市区町村の議員定数の決定要因」自治体学vol.33-1（2019.11）
③「普通交付税措置と議会費の関係可能性」自治体学 vol.37-1（2023.12）

【小西　真樹】
＜略歴＞
現職自治体職員（建築技術職）として、まちづくり行政関連の業務を長く経験
＜専門領域＞
都市計画、都市計画行政、まちづくり、行政制度、地方自治
＜資格等＞
一級建築士、建築基準適合判定資格
＜研究テーマ＞
自治体の都市計画・まちづくり行政、都市計画・まちづくり分野の地方分権
＜主要研究業績＞
①「日本の都市計画法の分権改革に関する研究」法政大学博士学位論文（2022.3）
②「都市計画決定に対する国の関与の範囲の縮減化に関する研究：新都市計画法以降の分権改革の経過について」『都市計画論文集』Vol.47No.2（2012.10）
③「国と自治体の建築・まちづくり行政における役割分担に関する考察ー建築基準法の指定道路図及び指定道路調書制度を題材として一」『公共政策研究』第11号（2011.12）

【坪田　祥宜】
＜専門領域＞
公共政策学、行政学、情報政策
＜研究テーマ＞
電子自治体政策、地域情報化政策
＜主要研究業績＞
①『市区町村の電子申請　－ e-Japanから自治体DXまでの表層的な政策推進－』、公人の友社（2025.7）
②「特別定額給付金事業から浮き彫りになる制度設計と電子申請の仕組みの齟齬　～公的個人認証サービスと住基ネットにおける世帯情報の取扱いの観点から～」『自治体学』vol.38-2（2025.3）
③「特別定額給付金の電子申請に対する国と市区町村の認識に関する考察　～国と市区町村の発言における観点の整理をもとに～」『自治体学』vol.35-2（2022.3）

【Outline (in English)】
（Course outline）
With the common theme of local government in a society with a declining population, three lecturers with practical experience in local government will give lectures in an omnibus format on their respective themes. The themes of each lecturer are "Local Financial Systems," "Town planning, Development and its Administration of Local Governments," and "Information Policy of Local Governments."
（Learning Objectives）
Students will consider the nature of local government in a society with a declining population, and learn perspectives for researching and analyzing local government as a public policy, which will lead to the establishment of research topics.
（Learning activities outside of classroom）
No specific preparation or review is required, but presentations and discussions may require 2-4 hours of research and preparation. Gathering relevant information on each session's topic is encouraged to increase awareness.
（Grading Criteria /Policy）
Active participation in class discussions and presentations (80%),
Submission and presentation of a short report (20%).

POL500P1 – 201（政治学 / Politics 500）

ガバナンス研究

芦立　秀朗

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読し、最終的にはそれらの理論枠組みを用いて学生が実際の政策形成過程を分析し、授業内で発表する。

【到達目標】
近年の行政改革で散見される参加型（住民参加・国民参加）とも関係の深い、「ネットワークによるガバナンス」の議論を自分なりに説明できるようになること。それらの議論を実際の政策形成過程に当てはめて説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面で実施される。この授業では「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読する。受講生は要点を日本語のレジュメにまとめて、発表することが求められよう。補足の解説や著作の内容に関する議論も行う。最終的にはそれらの理論枠組みを用いて実際の政策形成過程を分析し、発表してもらう。課題については、次回の授業あるいはメールにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「ガバナンス論」とは何か（1）	この授業の目的と進め方について解説し、到達目標を確認する。
第2回	「ガバナンス論」とは何か（2）	「ガバナンス論」について説明した短い文献を講読し、レジュメの作り方について学ぶ。
第3回	「政府の道具箱」の議論	「ガバナンス論」の前提としてサラモンらによる「政府の道具箱」の議論について学ぶ。
第4回	行政改革に関する議論	「ガバナンス論」の前提としてガイ・ピーターズの行政改革に関する議論について学ぶ。
第5回	第一世代の「ガバナンス論」（1）	ローズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第6回	第一世代の「ガバナンス論」（2）	ガイ・ピーターズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第7回	第ニ世代の「ガバナンス論」（1）	トルフィングの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第8回	第ニ世代の「ガバナンス論」（2）	ソレンセンの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第9回	期末レポートについての構想の中間報告とそれに基づく議論	各自が関心のある問題を一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。
第10回	「ガバナンス論」の最前線	「ガバナンス論」をはじめとする政治・法律・公共政策のキーコンセプトを理解する。各自が関心のある問題を一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。
第11回	具体的な社会問題の検証（1）	これまで学んだ「ガバナンス論」を実際の分析に用いるとどうなるか、担当者が執筆した論文を講読しながら、考える。
第12回	具体的な社会問題の検証（2）	現在問題となっている社会問題を取り上げ、各自がその見解を討議する。
第13回	ローカル・ガバナンスの最前線（1）	日本の都市部を事例に、地方政治と国政の関係、地方行政について理解する。
第14回	ローカル・ガバナンスの最前線（2）	日本の都市部以外を事例に、地方政治と国政の関係、地方行政について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（合計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
様々な著作の一部を扱うのでテキストは特に指定しない。初回に文献リストを配布するので、図書館で借りる等すること。

【参考書】
岩崎正洋［編著］(2011)『ガバナンス論の現在』東京：勁草書房
村上弘・佐藤満［編著］(2016)『よくわかる行政学　第2版』京都：ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート40％と平常点60%で評価する。平常点は文献の理解の程度、授業への貢献、報告内容で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2019年度より授業を担当しているが、過年度の受講生からは英語で文献を読む習慣付けになったとコメントを得ている。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後に実施するが、メールでの相談も行う。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉行政学
〈研究テーマ〉ガバナンス、援助行政
〈主要研究業績〉
・「援助行政への参加と政策への支持の関係-JGSS-2006データから-」『産大法学』第48巻、第1・2号，2015年。
・「幹部人事と政治介入制度」大谷基道・河合晃一編『現代日本の公務員人事』第一法規，2019年。
・「なぜ前職は全勝し、比例復活は過去最少となったか」白鳥浩編著『二〇二四年衆院選：「政治とカネ」の影響と与党過半数割れの現場』法律文化社，2025年。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this class, students will first learn theories of “governance,” and be asked to apply them to the current policies in Japan.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goals of this course are to be familiar with theories of “governance, ”and to understand Japanese politics by using those frameworks.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end report : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 – 202（政治学 / Politics 500）

リージョナリズムと非政府組織

上原　史子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　当授業ではEU/NATOやASEANなどの地域統合やNGOの誕生から現在までの変遷を学習します。その際、こうした非政府組織の活動の現状と課題について、関連するニュース報道や論文などの資料を用いながら、受講生のみなさんと議論していきます。

【到達目標】
　国際関係における非政府組織（国際組織やNGO）の活動・課題を理解することをめざします。また、非政府組織の活動の意味・意義について、リージョナリズム、グローバリズムおよびトランスナショナリズムという概念に照らして自分なりの考えをもつことをめざします。
　こうして国際関係の変容を理解することで、激動の21世紀世界の諸問題について、現実的な解決策を考察することができるようになれば、この講義の目的は達成できたことになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　毎回の授業テーマについて授業担当者が概説し、受講生の皆さんとの予備知識をすり合わせます。その後、関連する資料（映像・論文等）を活用しながら、皆で議論することを想定しており、一方的な講義形式ではなく、対話式ですすめていきます。
　履修するみなさんには、議論に積極的に参加してもらうべく、授業の主題に関するニュースや資料を要約し、論点提示を求めます。履修者による要約と論点提示の回数などは、集中講義であることを配慮して、皆で協議して決めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的等の説明・アイスブレイク
第2回	withコロナ＆戦争時代の世界	2026年の世界を俯瞰し、世界共通益であるはずの平和・安定を築くことが難しい実態を理解する。
第3回	リージョナリズムとは	世界に存在する多様な形態のリージョナリズムについて考える。
第4回	非政府組織とは	21世紀の世界で活動するNGOの様々な形態を学ぶ。
第5回	リージョナリズムの諸形態①ヨーロッパ	ヨーロッパにおけるリージョナリズムをEUの史的展開から学ぶ。
第6回	リージョナリズムの諸形態②アジア	アジアにおけるリージョナリズムをASEANの史的展開から学ぶ。
第7回	リージョナリズムの諸形態③大西洋を越えて	安全保障政策としてのリージョナリズムの動向をNATOの史的展開から学ぶ。
第8回	小括	映像資料を活用しながら、授業前半の学びを全員で振り返り、議論する。
第9回	ヨーロッパの統合と分裂	EUの現状と課題を整理しながら、ヨーロッパにおける地域主義の将来を検討する。
第10回	アジアの統合可能性	ASEANを中心とするアジアの地域統合の現状と課題を整理する。
第11回	国境を越えた主体による活動の多様性	国際的に活動する様々な主体があり、それらが扱う問題領域も多様であることを理解する。
第12回	核をめぐる世論とNGOの活動	核をめぐる非政府組織の動きをHibakushaとICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の活動から検討する。
第13回	地球環境問題へのNGO・多国籍企業の取り組み	地球環境問題の史的展開を追いながら、市民社会の役割を理解する。
第14回	総括	当授業での議論を整理しながら、ウクライナ危機後の世界はどうなっていくのか、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回とりあげるトピックについて、事前に調べてみることをおすすめします。なお、本授業の準備学習・復習時間は各45分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業で取り上げる資料については、事前に配布、または入手するためのURL等をお伝えしたいと思います。

【参考書】
　国際政治学や国際関係論を既習済みであれば当該講義のテキストや参考文献を活用してください。未修の方も多いと思うので、初日は自己紹介を兼ねて国際関係論の全体像を概説する予定です。
（参考）有信堂高文社「新版国際関係学」（2025年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の議論と授業への積極性に基づいて評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
　これまでの経験から、国際関係の実態をより理解しやすくするため、ニュース・映画・ドキュメンタリーなどの映像資料も積極的に活用します。
　毎週とりあげるテーマに関連するニュースや資料を自主的に調べ、授業の際に、簡単に報告なさる意欲のある方を歓迎します。事前学習でインプットを増やし、授業中のおしゃべり（ディスカッション）でアウトプットするようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
　授業時にニュース等のチェックを各自してもらうこともあるかと思うので、オンライン接続できるPCやタブレットをお持ちください。

【その他の重要事項】
　対面授業を希望していますが、担当教員の本拠地が北東北であることから、コロナ感染状況や自然災害の影響によっては移動がかなわず、オンライン授業となる日もあるかもしれません。
　集中講義の具体的日程については、大学で指定する講義期間等の数日を想定しており、履修登録が始まり次第、受講希望の皆さんとメールで日程調整を行い、皆さんが参加可能な日程を決定したいと思います。
　担当教員も勤労学生もどきを経験しておりますので、社会人学生さんたちが参加しやすいよう、柔軟に対応したいと思います。履修しようかな、という方々は連絡が取れるよう、4月中に仮登録をしておいてください。
　なお、当授業は「世界のいま」を扱う性質上、世界情勢のハプニングに応じて、授業内容や順序が変更となる可能性が高いことを承知しておいてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞EU小国の外交・安全保障、ヨーロッパ地域研究、国際安全保障（気候変動・資源エネルギー問題等も含む）、観光・文化・平和の観点からの国際関係研究

＜授業に関連する研究業績＞「EU」「ASEAN」（山田・和田・倉科編著『新版国際関係学』有信堂高文社、2025年)、『ロシア・ウクライナ危機にみる中立オーストリアの「不戦の手紙」外交』(拓殖大学海外事情、2023年)、「オーストリアの中立――NATOとロシアの狭間で揺らぐ小国のサバイバル外交」（広瀬佳一編著『NATOを知るための71章』明石書店、2024年）など。

【Outline (in English)】

The goal of the course is to understand the basic structure of international relations focusing on regionalism(e.g.EU, NATO and ASEAN) and NGOs.Participants are also expected to examine the roles of these non-state actors in global politics. We discuss the non-state actors' activities and the usefulness of globalism, regionalism and transnationalism through the discussion on articles/documentaries.

MAN500P1 – 203（経営学 / Management 500）

企業論

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究の技法を学び、研究の戦略を練り、企業を視る視点を学び、産業を視る視点を学び、戦略を視る視点を学ぶ。

【到達目標】
研究論文を自分でかけるようになること。
現代の問題に対し具体的かつ現実的な解決代替案ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
事前課題を元にディスカッション中心

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リサーチ・メソッド	研究とは、論文を書くとは
第2回	研究戦略	研究戦略
第3回	世界標準の経営理論１部	経済学ディシプリンの経営理論
第4回	世界標準の経営理論２部	マクロ心理学ディシプリンの経営理論
第5回	世界標準の経営理論３部	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論
第6回	世界標準の経営理論４部	社会学ディシプリの経営理論
第7回	世界標準の経営理論５部	ビジネス現象と理論のマトリクス
第8回	世界標準の経営理論第６部	経営理論の組み立て方・実証の仕方
第9回	工場見学法	生産現場をどうみるか
第10回	会計と財務	財務分析
第11回	ファイナンス	株価の決まり方
第12回	研究戦略２	論文を書くための戦略
第13回	各自の論文発表１	各自発表してもらう
第14回	各自の論文発表２	各自発表してもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低２時間の自宅学習
毎回の事前課題

【テキスト（教科書）】
リサーチ・メソッド
世界標準の経営理論
リサーチ・マインド経営学研究法

【参考書】
適時指摘

【成績評価の方法と基準】
事前課題４０、当日のディスカッションへの参加６０

【学生の意見等からの気づき】
課題が多いとの感想があります
ディスカッションを重視するのは好評のようです

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
適宜、ケース・メソッドを導入します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
Research techniques, research strategies, looking at companies, looking at strategies.

MAN500P1 – 204（経営学 / Management 500）

グローバル企業戦略論

岩田　智

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，グローバル企業の経営戦略に関する基本理論を学びます。今日，市場や経済のグローバル化はたしかに進展する一方で，各国・各地域の相違も根強く存在します。このような経営環境において，グローバル企業にはいかなる戦略が必要なのか。この問題に関して，理論的・実践的に分析するための基本概念を学ぶことを目的とします。

【到達目標】
授業では，下記の2点に到達することを目標とします。
1)グローバル企業の戦略に関する基本理論を理解し，活用できる。
2)授業で学んだ知識をもとに，グローバル企業の戦略を論理的かつ実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Understanding of basic theories of International Business,
2)Empirical analysis of strategies of MNCs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は，教科書を使用し演習形式をメインに実施します。授業では，受講生全員で教科書を輪読していただく予定です。授業に関するお知らせはメールもしくは学習支援システム上で行い、授業はオンライン形式で実施する予定です。また，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	オリエンテーション
第2回	イントロダクション②	グローバル企業による戦略の概要
第3回	国際経営環境の分析	CAGEフレーム・ワーク
第4回	グローバル企業の変遷	優位性の命題，内部化理論，OLIパラダイム
第5回	グローバル企業の国際競争の歴史	グローバル企業の変遷
第6回	グローバル企業の組織デザイン	グローバル企業の発展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営	グローバル統合とローカル適応
第8回	海外子会社の経営	海外子会社特有の優位性と経営課題
第9回	国際マーケティング	国際的なSTP
第10回	ものづくりの国際拠点展開	海外生産ネットワーク
第11回	研究開発の国際化	HBE型とHBA型
第12回	国際的な人的資源管理	EPRGプロファイル
第13回	国際パートナーシップ	メリットと留意点
第14回	日本企業のさらなる国際化のために	企業の社会的責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に，プレゼンテーションを担当する回は入念な準備が必要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】
浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。
大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献：50%，期末レポート:50%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contribution: 50% and Term paper: 50%.

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果をはじめ，学生からの意見や要望は，随時，授業改善に活かすように努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
Cheah, S., Y-P. Ho, S. Iwata and A. O'Tierney, "Innovation management:Science-Industry Knowledge Transfer," Accepted for presentation at European Academy of Management 2024, Fostering Innovation to Address Grand Challenges at University of Bath, UK, 25-28 June 2024, pp.1-36(査読有).
岩田智『グローバル・イノベーションのマネジメント-日本企業の海外研究開発活動を中心として-』中央経済社、2007 年、1-297 頁(2008 年日本経営学会賞受賞)。ほか

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand the basic of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:
1)Basic theory of international business,
2)Basic framework of international business,
3)Advantages/disadvantages of international business.

SOC500P1 – 205（社会学 / Sociology 500）

市民社会ガバナンス論

池本　修悟

備考（履修条件等）：政治学「ＮＰＯ論２」、連帯社会「ＮＰＯ論Ⅱ（連帯社会におけるＤＥＩ実践）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、連帯社会の実現に向けて、NPOをはじめとする市民セクターにおける多様性（Diversity）・公正性（Equity）・包摂性（Inclusion）から成るDEIの実践を理論と現場の双方から学ぶ。
具体的には、先進的なDEIの取り組みを行うNPOの事例を取り上げるとともに、本学が全学的に推進しているDEIの取り組みを重要な学習資源として位置づけ、キャンパスそのものを「DEI実践のフィールド」として捉え、検討・評価する。
また、評価研究の専門家をゲストとして招き、DEIをどのように可視化・評価しうるのかについて議論するとともに、履修生自身がDEIの評価指標づくりに取り組む。
履修生は、企業、労働組合、労働金庫、共済、生協、NPOなど、それぞれの所属組織・実践領域と本学におけるDEI施策を比較検討し、自組織におけるDEIの現状と課題を評価・検討することを通じて、連帯社会に資するDEI実践のあり方を探究する。

【到達目標】
１．DEIの基本概念を、連帯社会およびNPOの文脈から説明できる
２．大学や市民セクターに内在する排除や不平等の構造を分析できる
３．組織運営・事業設計におけるDEI実践の課題を具体的に把握できる
４．自身の所属組織において応用可能なDEI実践の視点や手法を整理し、言語化できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や災害や感染症等によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等については、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の進め方とフィールド設定。
第2回	ケーススタディ	DEIとは何か（理念と実装の違い）について法政大学におけるDEI実践から学ぶ。
第3回	DEIを「どう評価するのか」①	社会課題解決に向けた評価方法の基礎を学ぶ。
第4回	DEIを「どう評価するのか」②	DEI評価づくりのワークショップを行う。
第5回	DEIを「どう評価するのか」③	前の週に行ったワークショップの結果できた評価指標をどのように活用するかを検討する。
第6回	DEIを「どう評価するのか」④	具体的な調査手法を検討する。
第7回	組織にDEIを実装する①	DEI推進・評価に取り組むNPOからゲスト講師を招く。
第8回	組織にDEIを実装する②	労働組合、協同組合等へのDEI推進・評価の取り組みを導入するにはどうしたらよいかをグループワークを行う。
第9回	大学DEIをフィールドとして評価する①	第3回から6回までに作成したDEI評価指標を用いて評価を行う。
第10回	大学DEIをフィールドとして評価する②	第3回から6回までに作成したDEI評価指標を用いて評価を行う。
第11回	自組織のDEIを評価する①	受講生が所属する各自の組織を題材に評価設計を行う。
第12回	自組織のDEIを評価する②	「評価できること／できないこと」など、実装に向けた課題整理を行う。
第13回	最終発表	・大学DEI評価 or 自組織DEI評価の発表。
第14回	振り返り・総括	連帯社会におけるDEIと評価の意義を確認する。 全体振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大島巌『プログラム評価ハンドブック―社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』2020、晃洋書房

【参考書】
法政大学DEIセンター
https://www.hosei.ac.jp/diversity/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54
一般財団法人PBEE研究・研修センター
https://pbee-rc.org/

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」と最終発表50 %。
最終発表の評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、論旨、プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク等への評価は高いが、その反面インプット量が少なくなるため、意識的に参考文献などを紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援視システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
ボランティア
NPO
コミュニティ・オーガナイジング

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course explores the practice of Diversity, Equity, and Inclusion (DEI) within nonprofit organizations (NPOs) and the broader civic sector, with a focus on building a solidarity-based society.
Students examine DEI not only as a set of normative principles but as a practical framework embedded in organizational governance, program design, and evaluation.
The course introduces case studies of NPOs with advanced DEI practices and positions Hosei University's institution-wide DEI initiatives as a key learning resource. The campus itself is treated as a "field" for DEI practice and evaluation.
Students compare DEI initiatives at Hosei University with those in their own organizations—such as companies, labor unions, labor banks, mutual aid cooperatives, consumer cooperatives, and NPOs — and critically assess DEI practices in their respective contexts.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students will be able to:
1.Explain the core concepts of DEI within the context of a solidarity-based society and nonprofit organizations
2.Analyze structures of exclusion and inequality embedded in universities and civic-sector organizations
3.Identify practical challenges in implementing DEI in organizational management and program design
4.Organize and articulate DEI perspectives and methods that can be applied to their own organizations
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to engage in the following activities outside of class:
・Reading assigned materials and case studies provided in advance via the learning management system
・Preparing questions, comments, and reflections prior to each class session
・Reviewing materials and insights from guest lectures
・Conducting independent research related to DEI evaluation and practice
・Developing outlines and drafts for presentations and final assignments
（Grading Criteria /Policy）

・Class participation and engagement in discussions: 50%
(Includes contributions to discussions, reflection sessions, and feedback exchanges)
・Final presentation: 50%
(Assessed based on relevance to course content, academic rigor, originality, clarity of argument, and quality of presentation)
Active participation is essential, as the course emphasizes dialogue, practical reflection, and collaborative learning.

SOC500P1 – 207（社会学 / Sociology 500）

ＮＰＯ論

池本　修悟

備考（履修条件等）：政治学「ＮＰＯ論１」、連帯社会「ＮＰＯ論Ⅰ（セクター間協働の現状と課題）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、NPO（民間非営利組織）が現代の地域・社会課題の解決および社会システムの変革において、いかなる役割を担ってきたのかを明らかにする。具体的には、NPOの理論と歴史、ネットワーク論、セクター間協働、社会的企業などを取り上げ、NPOの発展を支えてきた社会的関係や制度的背景について学ぶ。
そのうえで、労働組合や協同組合といった他のセクターがNPOとどのような協働関係を構築しうるのかを、具体的な事例をもとに検討し、連帯社会における協働の可能性と課題を考察する。

【到達目標】
本講座の修了後、受講生は以下の点を達成することを目標とする。
１．NPO（民間非営利組織）の理論的枠組みおよび歴史的展開を説明できる
２．現代社会におけるNPOの役割を、地域課題解決および社会システム変革の観点から分析できる
３．セクター間協働（行政・企業・労働組合・協同組合等）の構造と特徴を理解し、その利点と課題を整理できる
４．具体的な事例をもとに、NPOと他セクターとの協働関係を批判的に検討できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。
・学生の発表
講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・授業の形式
授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や災害や新型コロナウイルス等の感染症の拡大によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等を学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOマネジメントの知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	関係構築・チーム構築	労働組合、協同組合、NPOが連帯して取り組むべき社会課題について検討し最終発表するためのチーム分けを行う。
第3回	NPOの概要説明①	NPOの定義・歴史について古典を学ぶことでベースの考え方について知る。 ・NPOの要件 ・特定非営利活動法人のあらまし
第4回	NPOの概要説明②	NPOの現状について最新のデータを紐解くことで理解を深める。 ・データでみるNPO ・ＮＰＯ関連施策
第5回	ケーススタディ①労働組合とNPOの協働	労働組合と協働したNPOの事例紹介。
第6回	ディスカッション①	労働組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第7回	ケーススタディ②労働金庫とNPOの協働	労働金庫と協働したNPOの事例紹介。
第8回	ディスカッション②	労働金庫との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第9回	協力のテクノロジー①	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。理論編。
第10回	協力のテクノロジー②	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。実践編。
第11回	ケーススタディ④生活協同組合とNPOの協働	生活協同組合と協働したNPOの事例紹介。
第12回	ディスカッション④	生活協同組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第13回	提案発表会①	オリエンテーションで提示した課題についてチームごとに発表してもらう。
第14回	提案発表会②	オリエンテーションで提示した課題についてチームごとに発表してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】
松原明『協力のテクノロジー関係者の相利をはかるマネジメント』(2022)
宮垣 元『NPOとは何か-災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』(2024)
内閣府『特定非営利活動法人のあらまし』(2023)
金子郁容『ボランティア』岩波新書（1992）
金子郁容『新版コミュニティ・ソリューション: ボランタリーな問題解決にむけて』岩波書店(2002)
レスリー・R・クラッチフィールド他『世界を変える偉大なNPOの条件――圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』ダイヤモンド社(2012)
室田信一他『コミュニティ・オーガナイジングの理論と実践: 領域横断的に読み解く』有斐閣（2023）

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50 %、「ふりかえり」と最終発表50 %。
最終発表の評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、論旨、プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク等への評価は高いが、その反面インプット量が少なくなるため、意識的に参考文献などを紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援視システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
ボランティア
NPO
コミュニティ・オーガナイジング

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course examines the roles that Nonprofit Organizations (NPOs) have played in addressing contemporary local and social issues and in transforming social systems.
The course introduces key concepts and perspectives related to NPOs, including their theories and history, network theory, cross-sector collaboration, and social enterprises. Through these lenses, students explore the social relationships and institutional contexts that have supported the development of NPOs.
Based on concrete case studies, the course further investigates how other sectors — such as labor unions and cooperative organizations — can build collaborative relationships with NPOs. By analyzing both opportunities and tensions in such collaborations, students critically examine the possibilities and challenges of collaboration in a solidarity-based society.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to:
1.Explain the theoretical foundations and historical development of NPOs

2.Analyze the roles of NPOs in addressing social issues and contributing to social system change
3.Understand the structures, benefits, and challenges of cross-sector collaboration involving NPOs
4.Critically examine collaborative relationships between NPOs, labor unions, and cooperative organizations
5.Propose collaboration models relevant to their own research or professional practice
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to engage in the following activities outside of class:
・Reading assigned academic articles, reports, and case-study materials
・Preparing discussion questions and short reflection notes for class sessions
・Reviewing materials provided by guest speakers
・Conducting independent research related to the final presentation or paper
・Reflecting on how course content relates to their own research interests or professional experience
（Grading Criteria /Policy）
・Class participation and contribution to discussions: 30%
(Includes active engagement in lectures, discussions, and guest sessions)
・Short assignments / reflection papers: 30%
(Written responses to readings, lectures, or guest presentations)
・Final presentation and/or final paper: 40%
(Analysis or proposal related to cross-sector collaboration involving NPOs)
Active participation is essential in this course, as it emphasizes dialogue, case analysis, and practical reflection.

SOC500P1 – 211（社会学 / Sociology 500）

都市ガバナンス論

植木　豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、公共性と「都市ガバナンス」をテーマに講義を行う。今日、公共的な問題を解決するためには、中央政府といった単独主体だけでは不十分になりつつある。都市の問題を、地方政府・企業・非営利組織・自治会等の連繋よって解決する様式が求められつつある。このように、公共的な問題を、地元地域の複数主体連繋（ガバナンス）によって解決していく様式の成立如何を議論していく。

【到達目標】
　複数主体間連携による問題解決（ガバナンス型問題解決）の成否要因を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　対面講義形式。配布資料に基づいて講義を進めていき、合わせて、扱った問題について、議論していく。その際、講義内容に基づいた論文作成／アウトライン作成演習等の課題を課し、返却時に議論を含めたフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	I　ガバナンスとは何か―総論― （1）ガバナンスをめぐる様々な議論	ガバナンス論をめぐる概観
第2回	（2）公共性とガバナンスの実際―思考実験による例解―	具体的な事例を基にして、ガバナンス論の分析枠組みの概略を知る。
第3回	II　ガバナンス論登場の社会的背景 （1）「制度の失敗」総論	ガバナンス論が登場した背景を「制度の失敗」という観点から捉え返す。
第4回	（2）「市場の失敗」	「市場の失敗」を社会学の観点から考察する。
第5回	（3）「市場の失敗」に対する国家の介入	福祉国家論と「土建国家」論の具体的事例を理解する。
第6回	（4）「国家の失敗」	福祉国家の失敗と「土建国家」の失敗の要因を把握する。
第7回	（5）「国家の失敗」に対する新自由主義的処方箋の失敗	欧米、日本における新自由主義の登場とその帰結を考察する。
第8回	III　中間考察―公共性とガバナンス	ガバナンス論登場の背景を把握した上で、ガバナンス論の課題・分析枠組みを理解する。
第9回	（1）ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の交差- その1	ガバナンス型問題解決は、デューイ的公共性とハーバーマス的公共圏との交差場面で主題化されることを把握する。
第10回	（2）ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の交差- その2	デューイ的公共性とハーバーマス的公共圏の分析枠組みを理解する。
第11回	IV　ガバナンスの実際 規範理論と経験理論	ガバナンス論の現状を、規範理論と経験理論の観点から考察する。
第12回	（1）ガバナンスの分析枠組み	具体的な事例を念頭に、何をどう分析すべきかを考察する。
第13回	（2）複数主体間連携による問題解決の実際	具体的事例をガバナンス論の分析枠組みを用いて考察する。
第14回	まとめ	ガバナンス型問題解決の行方と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料（専門書・論文・新聞記事等のコピー）を予習・復習に用いること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回、論文・新聞記事等のコピーを配布。

【参考書】
Mark Bevir ed. (2011) *The Sage Handbook of Governance*, Sage.
マーク・ベヴィア『ガバナンスとは何か』NTT出版。

【成績評価の方法と基準】
ガバナンスに関する小論文を学期末に提出してもらい、この小論文（2,000字以上）で成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の問題関心は、理論志向、事例志向など様々であると思われるので、
受講生の要望に適宜応じていく予定。
たとえば、２０１９年度は事例分析を多くし、２０２０年度２０２１年度２０２２年度は理論分析を多くした。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞社会理論、都市論
＜主要研究業績＞
著書
植木豊『プラグマティズムとデモクラシー- - デューイ的公衆と「知性の社会的使用」』ハーベスト社
「社会的プラグマティズムと『探究者たちのコミュニティ』」（吉原直樹ほか編『コミュニティ思想と社会理論』東信堂所収）
訳書
ジョン・デューイ『公衆とその諸問題』ハーベスト社
『プラグマティズム古典集成- - パース、ジェイムズ、デューイ』作品社
『G・H・ミード著作集成- - プラグマティズム、社会、歴史』作品社

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to provide an analytical framework for urban governance. Given that a single governmental body is not sufficient to solve public problems under today's complicated urban conditions, it is worth noting that co-operations of different kinds of urban associations are emerging as means for solving urban problems. The lecture discusses in what way urban governance can solve them.
The evaluation of learning results will be based on a term-end paper with more than 2,000 characters (100%).
The paper requires research on governance studies and technical writing expertise.

SOC500P1 – 213（社会学 / Sociology 500）

文化政策研究

松本　茂章

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自治体の文化政策についての理解を深め、論議することをテーマとする。「狭義」の自治体文化政策は文化施設の設置と運営、文化事業の実施等が中心になるだろうが、本授業では、「広義」の自治体文化政策に話を広げる。具体的には、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業振興など、文化芸術を通じた地域創生政策に言及する。

【到達目標】
中央政府の文化政策を総括したうえで、近年に展開されてきた自治体文化行政、あるいは文化政策の現状を修得する。その後、全国各地で試みられている自治体文化政策の実例を学ぶ。さらに都内の文化施設等を踏査することで、現状の把握に努める。視察をもとに、受講生は自らの出身地、あるいは現在の居住地のありようについて調べることを通じて、討議し、21世紀の地域創生の将来像を考えることができる。
観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業振興など幅広い取り組みを紹介し、受講生の視野を広げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書を読みながら進める。積極的に広義の文化政策を取り上げていく。文化芸術を活かした観光、まちづくり、社会包摂、福祉、教育、産業振興などである。地域にある文化資源を活かす試みを通じて、まちの空気が変わっていく……。このような全国の先駆的事例を紹介しつつ、都内を歩いて文化の現場を体験したいと想定している。できるだけ、身近で具体的な事例を紹介し、受講生が意見を述べる機会を増やすことで、受講生は、21世紀の文化芸術を活かした地域創生のありようを考えていくことができる。
しかし、政策は「生きもの」なので、適宜、新しいニュースが入れば、授業計画を変更して、新たなことに言及する可能性があることを了承願いたい。
まち歩き（フィールドワーク、視察）を行う予定にしているが、シラバス作成時で具体的な場所を明記できない。（これまでは杉並区・高円寺の文化施設などを訪ねてきた）市ヶ谷という都心に立地する法政大学の地理的利点を生かしたいと考えている。
受講生は自らの関心のある都市、たとえば出身地や居住地の取り組みについて調査を行い、適宜、発表することで、討議の材料を提供する。
現時点ではオンライン授業を考えている。（まち歩きを行う場合は、対面授業を想定する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	◆文化芸術基本法の制定	・2017年に制定された文化芸術基本法の意義や特色について説明する。
第2回	◆身近な地域の資源で交流を生み出す	・地元の食文化から生まれた小田原かまぼこ通り、回遊型まち歩きルートをつくろうとする奈良市写真美術館、など。
第3回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。（シラバス作成時では未定）（交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する）
第4回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。（シラバス作成時では未定）（交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する）
第5回	◆文化芸術と市街地活性化をつなげる	・音楽文化を育む姫路駅前芝生広場、ビルの公開空地を活用した横浜市の芸術創造の場づくり、など。
第6回	◆既に地域にあるものが創造人材を呼ぶ	・清流や湧き水を活かした福井県若狭町の移住促進策、空き家を活用した千葉県松戸市におけるーティスト滞在制作と芸術家移住、など。
第7回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。（シラバス作成時は未定）（交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第8回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。（シラバス作成時では未定）（交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第9回	◆まちの個性を市民の誇りに育てる	・都市の記憶をつなぎ、まちの個性を伝える鎌倉市の映画記念館、被災建物の保存で地域の記憶をつなぐ仙台市の震災遺構（元小学校校舎）、など。
第10回	◆文化と学びでまちの未来をつくる	・子どもたちと共に歩む演劇教育を進めてきた福岡県筑後市の公立文化施設、運営ボランティアが地域環境活動の担い手に育つ京エコロジーセンター、など。
第11回	◆都内での現地調査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。（シラバス作成時では未定）（交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第12回	◆都内での現地調査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。（シラバス作成時では未定）（交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する）
第13回	◆文化芸術の分野から誰もが参画できる社会をつくる	・視覚障害者の映画鑑賞支援や交流事業に取り組む横浜市の映画館、俳優による視覚障害者への鑑賞サポート事業を展開する兵庫県立尼崎青少年創造劇場、など。
第14回	◆地域に開く新しい文化施設のかたち	・廃校になった小学校校舎を芸能文化拠点にした新宿区の芸能花伝舎、大阪府八尾市で展開される自治体ホールで「コモンズ」を創出する試み、など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松本茂章著『地域創生は文化の現場から始まる　全国35事例に学ぶ官民のパートナーシップ』（学芸出版社、2024年2月発行）
同書を教科書に用い、受講生と教員が一緒に読みながら授業を進める。

【参考書】
・松本茂章著『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（水曜社、2015年）

・松本茂章編著『岐路に立つ指定管理者制度　変容するパートナーシップ』（水曜社、2019年）
・松本茂章編著『文化で地域をデザインする　社会の課題解決と文化をつなぐ現場から』（学芸出版社、2020年）
・松本茂章編著『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021年）
・松本茂章編著『ヘリテージマネジメント　地域を変える文化遺産の活かし方』（学芸出版社、2022年）
・新川達郎、松本茂章編『文化×地域×デザインが社会を元気にする』（文眞堂、2025年）
など。
必要があれば、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
単位取得には、授業の3分の2以上に参加することが前提となる。
不足する場合、学期末レポートの提出資格を得られない。
配布するコメントペーパーへの記入状況　50％
授業中の発言など授業参加の姿勢　20％
期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
公立文化施設等を訪ねるまち歩き（フィールドワーク）は、毎年好評なので継続したいが、現時点では未定。
法政大学公共政策研究科は都心にあり、地理的に恵まれている。この好条件を生かして都内各地に足を運びたいと考えている。（未定）
（これまでは杉並区・高円寺の文化施設等を訪れてきた）
受講生を顔ぶれを見ながら、授業中に改めて指示を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
文化政策研究は、「市民社会ガバナンスコース」の専門科目に含まれているものの、自治体文化政策を主に取り上げるので、「公共マネジメントコース」の院生にも、ぜひ受講していただきたい。
自治体職員、自治体文化財団職員、NPO職員、あるいはこれらを目指す院生にも参考になる、と考えている。
政策は日々動いているので、新たな取り組みが展開したり話題になったりした場合、ニュースとして直近の動きを取り上げる場合がある。まち歩きに代えて、政策を学ぶ場合がある。
視察に関しても、ゲストの都合や天候などを考慮して変更される場合がある。このため、上記の授業計画の内容や順番は変更される可能性があることを事前に了承願いたい。
かりに視察を行う場合、交通費、入館料は自己負担になることを、あらかじめ了承して受講すること。
社会人受講生の場合、仕事に追われるため、日々の通学は大変だと思われるが、頑張って出席していただければ……と願う。やる気のある院生の受講を期待する。
授業中に教員の連絡先を伝えることで、積極的にフィードバックや意思疎通を図る。
講義のなかで、おりをみて、修士論文作成に臨む姿勢や図書館の利用等についても助言できれば、と考えている。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政策科学、自治体文化政策、文化施設の管理と運営、アートマネジメント
＜研究テーマ＞
自治体文化政策の現状と課題、文化芸術を活かした地域デザイン、文化施設研究、指定管理者制度、ヘリテージマネジメント
（日本アートマネジメント学会や日本文化政策学会などに所属）
（全国紙記者・デスク・支局長を経て大学教員に転じた）
＜主要研究業績＞
◆単著
・松本茂章『芸術創造拠点と自治体文化政策　京都芸術センターの試み』）（水曜社、2006年）
・松本茂章『官民協働の文化政策　人材・資金・場』（水曜社、2011年）
・松本茂章『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（水曜社、2015年）
・松本茂章『地域創生は文化の現場から始まる』（学芸出版社、2024年）
◆単独編著
・松本茂章編『岐路に立つ指定管理者制度』（水曜社、2019年）
・松本茂章編『文化で地域をデザインする』（学芸出版社、2020年）
・松本茂章編『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021年）
・松本茂章編『ヘリテージマネジメント』（学芸出版社、2022年）
◆共編著
・中川幾郎、松本茂章編『指定管理者は今どうなっているのか』（水曜社、2007年）
・新川達郎、松本茂章編『文化×地域×デザインが社会を元気にする』（文眞堂、2025年）
◆共著
『入門　文化政策』（ミネルヴァ書房、2008年）
『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』（学文社、2011年）
『都市自治体の文化芸術ガバナンスと公民連携』(公益財団法人日本都市センター、2018年）
など

【Outline (in English)】
This course is designed for students who want to learn the actual situation and problems of community development with cultural activities in Japan. We are going to focus especially on municipal cultural policies, including tourism promotion, landscape conservation, and revitalization of central urban area. At the same time, however, it is possible to deepen your understanding of governmental cultural policies, with which municipalities have to build a mutually complementary relationship in order to realize these policies. Each of the cities or towns familiar to students is an important subject for our study. The main objective of this course is to extend the whole knowledge of cultural policies through concrete examples enough to discuss with each other and consider together the community development with arts and culture in the 21th century. Sometimes field research in Tokyo will be conducted.
Grading criteria
・Class attendance (50%)
・Attitude in class (20%)
・Term-end examination (30%)

SOC500P1 – 214（社会学 / Sociology 500）

シンクタンク論

蒔田　純

備考（履修条件等）：政治学、連帯社会と合同。
8月1日（土）1-5限、
8月2日（日）1-5限、
8月3日（月）1-4限
に実施予定

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】
・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。
　特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話しいただく。
　授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（8月1日）	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは（8月1日）	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会（8月1日）	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク（8月1日）	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材（8月1日）	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金（8月2日）	フィランソロピー、501(C)3など
第7回	シンクタンクの分類（8月2日）	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①（8月2日）	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②（8月2日）	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク（8月2日）	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク（8月3日）	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク（8月3日）	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク（8月3日）	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ（8月3日）	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
Alex Abella, 2009. Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire, Mariner Books.
飯尾潤．2007.『日本の統治構造』中央公論新社.
小池洋次（編著）．2010.『政策形成』ミネルヴァ書房.
Shimizu, Mika.　2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.
Smith, James A. 1991. The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite, Free Press.
鈴木崇弘．2007.『日本に民主主義を起業する－自伝的シンクタンク論』第一書林.
鈴木崇弘．2011.「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.
鈴木崇弘・上野真城子．1993.『世界のシンク・タンク－「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.
鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005.『シチズン・リテラシー－社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版
Smith, James, 1993. The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite, Free Press.
Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., Policy Analysis in Japan, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.
建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史，2008『比較政治制度論』有斐閣.
横江公美，2008.『アメリカのシンクタンク　第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.
横江公美，2004.『第五の権力　アメリカのシンクタンク』文藝春秋.
宮田智之，2017.『アメリカ政治とシンクタンク－政治運動としての政策研究機関－』東京大学出版会.
Weaver, R., 2002. Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
出席・質疑・討論参加45％、レポート35％、プレゼンテーション20％
＜評価基準＞
質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等
レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】
基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】
レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。
やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策
＜研究テーマ＞政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割　など
＜主要研究業績＞
"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"
Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475).
"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," Parliaments, Estates and Representation, 42(3), 2022, pp.324-340.
"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 7(1), 2022, pp.146-161.
『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年.

【Outline (in English)】
Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%
< Evaluation standards>
Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability
Reports and presentation: analytical capability, logicality, novelty, simplicity

LAW500P1 - 215（法学 / law 500）

行政法研究

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、大学院における研究活動に役立つ法的規律の基本的な法理論を学習します。

【到達目標】
・行政法の基本的な法理論を理解する。
・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は少人数での対面形式での実施を予定しています。受講生は指定された学習テーマや判例等について報告をし、それを基に全員で議論をしてもらいます。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の概念を学習します。
第2回	行政法の法源 法律による行政の原理	行政法の法源とその種類を学習します。法律による行政の原理を学習します。
第3回	行政組織 行政立法	行政主体、行政組織を学習します。行政立法を学習します。
第4回	行政行為①	行政行為を学習します。
第5回	行政行為②	行政行為の行政裁量と附款、瑕疵を学習します。
第6回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査を学習します。
第7回	行政上の制裁	行政罰その他の制裁を学習します。
第8回	行政指導	行政指導を学習します。
第9回	行政計画 行政契約	行政計画、行政契約を学習します。
第10回	行政手続法	行政手続法を学習します。
第11回	行政不服審査法	行政不服審査法を学習します。
第12回	行政事件訴訟法	行政事件訴訟法を学習します。
第13回	国家賠償法	国家賠償法を学習します。
第14回	損失補償	損失補償を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)
宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2018・2019）
斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』(有斐閣、第8版、2023)
芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）
中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）
その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
(Course outline)
There are various administrative activities, such as regulation and guidance. Students will learn the basic legal theory of legal discipline that is useful for research activities in graduate school.
(Learning Objectives)
・Students understand the basic legal theory of administrative law.
・Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
・Students can consider social issues using the theory of administrative law.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

GDR500P1 – 221（ジェンダー / Gender 500）

ジェンダー政策研究

浅野　幸子

備考（履修条件等）：政治学「ジェンダー政治研究２」と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2024年7月に発表されたランキングは146ヶ国中118位である。政府が出している骨太方針でも女性の経済的自立や男女の賃金格差の是正、男女共同参画の視点に立った防災・復興等が挙げられている。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】
・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
・今年の前半に閣議決定が予定されている「第6次男女共同参画基本計画」の内容について掘り下げ、計画策定の社会背景と政策の意義についてディスカッションしたい。
・授業では、男女間の不平等、女性の生きづらさ・困難を考える上でも重要な、男性性をめぐる議論（集団としての男性のあり様、男性内格差など）も紹介する。
・第4回世界女性会議から約30年が経過したが、国際的なジェンダー平等の取り組みの進捗や、日本とも関係する国境を越えたジェンダー課題についても視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定である。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方、基本的な概念や用語について説明する。
第2回	国内外の男女共同参画に関する動向を理解する	○第2次世界大戦以降の国際社会の動き：国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）　国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議　持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表するGGGIなどから国際社会の変遷を捉える。 ○国内の動向：1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、「国内行動計画」、「雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」「DV防止法」「女性の職業生活における活躍推進に関する法律」「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」などから国内の変遷を捉える。
第3回	男女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、「男女共同参画基本計画」の複数の分野のうち一つを選んで報告し議論する。
第4回	男女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、「男女共同参画基本計画」の複数の分野のうち一つを選んで報告し議論する。
第5回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革①	勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。 また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。
第6回	ワーク・ライフ・バランス　働き方改革②	女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。2021年育児・介護休業法が改正され男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。

第7回	女性の活躍推進	2003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する（202030）」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クオータ制やポジティブアクションについて議論する。自治体、議会、審議会、地域社会における女性の参画状況についても共有する。
第8回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイプドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。 2022年に成立した困難な問題を抱える女性への支援に関する法律についても説明する。
第9回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。 その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来るためのはどうすべきかを考える。 改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第10回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。 その背景にあるアンコンシャスバイアスについても説明する。
第11回	教育・メディア②	意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。
第12回	新たな課題①－自然災害やパンデミックなどのリスクに対応するジェンダー政策	能登半島地震、東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。
第13回	新たな課題②－多様性に対応するジェンダー政策	選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。 2023年に成立したLGBT理解増進法について説明する。夫婦別氏や同性婚に関する裁判結果にも言及する。
第14回	ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新だが、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと）
https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・国立女性教育会館　学校教育における男女共同参画推進
https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・NWEC実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html
・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
・内閣府男女共同参画局　災害対応のページ
https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html

【成績評価の方法と基準】
授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）
レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
今年度、担当者が変更となったためフィードバックはない。

【Outline (in English)】
Course outline
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.
Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports: 30%、in class contribution: 20%

POL500P1 – 222（政治学 / Politics 500）

公共哲学研究

西谷内　博美

備考（履修条件等）：政治学「公共哲学研究２」と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、環境主義の言説は広く受け入れられつつあります。本科目では、現代環境思想への理解を深めることを目的に、環境主義の古典（重要文献）を講読します。

【到達目標】
・環境保全に関する言説の展開や背景、論理について説明できる。
・「持続可能な開発」の含意について、批判的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講読対象となる文献は「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」です。この文献は、現在進行中のSDGsが目指す「持続可能な開発」という概念を定義した国連の報告書であり、オンラインで入手可能です。
序章・第1章・第2章は必須で、その他の章は時間が許す限り扱います（つまり、以下の授業計画は暫定的なものです）。
原則として授業では、受講者がレジュメを作成し、その報告に基づいて文献の検討を行います。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。とりわけ、講読の方法・方針を共有する。 ・SDGsの二本柱となっている環境主義と南北問題の大きな流れを確認する
第2回	「ブルントラント委員長の緒言」と「序章」のはじめ	・「ブルントラント委員長の緒言」から当報告書の主題・背景・意義・成り立ちなどを確認する ・デモンストレーションとして、講師が「序章」の序文から第１節までの精読のプロセスをファシリテートする
第3回	序章　『地球は一つ』から『世界は一つ』へ	2.　政策の方向性 3.　国際協力と制度改革 4.　行動の呼びかけ"
第4回	第１章　脅かされる未来	1.　症状と原因 2.　環境と開発への新たなアプローチ
第5回	第２章　持続可能な開発に向けて	1.　持続可能な開発の概念 2.　公平性と共通の利益 3.　戦略的要請
第6回	第３章　国際経済の役割	1.　国際経済、環境、そして開発 2.　1980年代の減少 3.　持続可能な開発の実現
第7回	第12章　共同の行動に向けて	1.　制度的・法的改革への挑戦 2.　制度的・法的改革の提案 3.　行動の呼びかけ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」（https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/5987our-common-future.pdf）

【参考書】
the World Commission on Environment and Development, 1987, "Our Common Future" Oxford University Press (=1987, 大来佐武郎監訳『地球の未来を守るために』福武書店.)

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、事前にクリティカル・リーディングの方法を共有することに時間を割いた結果、より質の高い精読が実現されました。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
(Course outline) In contemporary society, the discourse of environmentalism is becoming widely accepted. This course aims to deepen the understanding of modern environmental thought by reading a classical work (important text) of environmentalism .
(Learning Objectives) At the end of the course, students should be able to :
・explain the recent environmental policies in terms of their historical background, achievements, limitations, and so on.
・take a critical look at the meaning of "sustainable development".
(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

MAN500P1 – 223（経営学 / Management 500）

イノベーション政策論

海上　泰生

備考（履修条件等）：SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、１）企業におけるイノベーションの実現と、２）イノベーションに関連する各種の政策について学びます。イノベーションとは新結合による創造的破壊を意味し、経済発展の原動力となります。このイノベーションの担い手となるのは、大企業はもちろん、意外にも中小企業（いわゆるベンチャー企業や起業者を含む）が大きな役割を果たしており、政策の対象も中小企業が多くなっています。こうした点を踏まえたうえで、本授業では、イノベーションを実現すること、及び、その主体となる企業を支援することの両面に対して考察します。これらの体系的な考察を通して、その本質について理解を深める力、学究的能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
○ 企業におけるイノベーションの実現について理解できる
○ イノベーションに関連する各種の政策について理解できる
○ 基本的な産業政策と企業行動に関して理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による講義を主体としますが、全１４回のうち概ね３回程度を専らグループディスカッションによって課題を考察する回に当てます。講義は、幅広い受講者レベルに対応するため、折々で基礎的な内容にまで立ち返って進めます。また、平常の講義中の受け答え、講義後に指定する入力フォームへの記入を通して、双方向型教育の質を補強します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションとは何か & ガイダンス	イノベーションの定義・形態・働きと我が国の経済成長について理解する
第2回	イノベーションの主体 〜 産業と企業の基本	日本の産業構造、業種別構成について理解する
第3回	イノベーションのタイプとその担い手	イノベーションの２つのタイプの特徴とその担い手について理解する
第4回	イノベーションの担い手となる企業の実像	我が国企業の規模別構成と中小企業のプレゼンスについて理解する
第5回	イノベーションの発生と影響(1)	我が国最大の産業を取り上げて、具体的なイノベーションの発生について理解する
第6回	イノベーションの発生と影響(2)	我が国最大の産業を取り上げて、具体的なイノベーションの影響について理解する
第7回	イノベーション政策の実施主体と内容(1)	国のイノベーション政策の主管と現行施策について理解する
第8回	イノベーション政策の実施主体と内容(2)	民間企業・大学によるイノベーション活動について理解する
第9回	創業活動とイノベーション	イノベーションを生み出す創業活動の重要性について理解する
第10回	新製品開発とイノベーション	新製品開発・新市場開拓によるイノベーションの社会実装について理解する
第11回	イノベーションと創業活動を推進する各種政策(1)	産業政策の本質と必要性について理解する
第12回	イノベーションと創業活動を推進する各種政策(2)	創業活動を推進する具体的な金融政策について理解する
第13回	商業におけるイノベーション	新業態開発にみられる商業のイノベーション例について理解する
第14回	今期のまとめと成果測定	今期の講義内容のまとめと受講成果の測定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、約２時間を標準とします。受講後の復習には、受講した分と同等以上の時間を掛けること、日常の出来事を題材に、企業と社会の関わり方について授業内で簡単に発表できる程度の考察をしておくことを勧めます。

【テキスト（教科書）】
各回、授業内容に備えて教員が作成した教材を配布します。

【参考書】
必要に応じて参考図書（無料刊行物など）を指定または配布することもあります。

【成績評価の方法と基準】
受講姿勢 ： 50％（授業・ディスカッションへの前向きな参加姿勢、聴講態度、リアクション・フォームの記載内容など）
期末筆記試験 ： 50％

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くの企業実例を取り上げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学生によるプレゼンテーションを行うときには、パソコン等を利用します。その必要があるときは、予め指定します。

【その他の重要事項】
教員は、中央官庁（経産省）、政策金融機関（日本公庫）、国際機関（ＯＥＣＤ）の実務経験を有しています。
https://researchmap.jp/una

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業政策論・中小企業論・金融論・経営戦略論・流通経済論
＜研究テーマ＞
人的資源の確保・育成、就業者の入職・離職行動
中小企業の経営戦略
航空機産業・機械産業・飲食料品産業・スポーツ用品産業・医療機器産業の事業展開
＜主要研究業績＞（近年の業績のみ抜粋）
海上（2024）「「人生100年時代」の罠 〜 高齢者が働く理由の虚実」『労働の科学』2024年12月号
掘・海上ほか（2024）「中小企業の外国人雇用〜雇用者に対するアンケートからわかる外国人活躍・定着への取り組み〜」『商工金融』2024年6月号
許・海上ほか（2024）『中小企業の経営』八千代出版
板垣・周佐・銭・海上ほか（2023）『トピックスで読み解く国際経営』文眞堂
海上（2020）『医療機器分野への参入による中小製造業の経営多角化』日本政策金融公庫
海上（2019）『スポーツ用品製造業の経営戦略』日本政策金融公庫
海上（2018）「就業者の離職意向を決定する要因一入職時の労働需給と就業者の個人属性に関する分析一」『日本政策金融公庫論集』第40号

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this class, students will learn about 1) how to achieve innovation in companies and 2) various policies related to innovation. Innovation means creative destruction through new combinations, and is the driving force behind economic development. Innovators are not only large enterprises, but also surprisingly small and medium-sized enterprises (including so-called venture companies and entrepreneurs) play a major role. Many of the targets of innovation policies are small and medium-sized enterprises. With these points in mind, in this class, students will consider both achieving innovation and supporting companies that achieve innovation. The purpose of this class is for students to acquire the ability to deepen their understanding of the essence of innovation through systematic consideration and to acquire academic ability.

【Learning Objectives】

○ Students will be able to understand how innovation is achieved in companies.

○ Students will be able to understand various policies related to innovation.

○ Students will be able to understand industrial policy and corporate behavior.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is two hours each. We recommend that you spend at least the same amount of time reviewing the material after taking the course, and that you write a simple presentation about the relationship between business and society using everyday events as a topic.

【Grading Criteria /Policy】

Attitude to take the course: 50% (positive participation in classes and discussions, listening attitude, and reaction form)
Final written exam: 50%

POL500P1 – 225（政治学 / Politics 500）

外交政策論

宮本　悟

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】
外交政策について、（１）日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明をでき、（２）日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、（３）実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2024 年度は対面で実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。
対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史（1）	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史（2）	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史（3）	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史（4）	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第5回	戦後日本外交史（5）	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第6回	戦後日本外交史（6）	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史（7）	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土（1）	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土（2）	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択(1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択(2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択(3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択(4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択(5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円
『日本の領土』芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』中西寛, 石田淳, 田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】
『新訂第5版　安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質―キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン (著)、宮里 政玄 (訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

【成績評価の方法と基準】
７０％：平常点と、授業における発言内容の充実度
３０％： 発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】
過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。
勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

【その他の重要事項】
大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。
対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
＜研究テーマ＞東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
＜主要研究業績＞
「北朝鮮の世界観から見た世界の対立」川島真、鈴木絢女、小泉悠編著、池内恵監『ユーラシアの自画像 「米中対立／新冷戦」論の死角』2023年、PHP研究所。
「日朝和解の困難」波多野澄雄編『国家間和解の揺らぎと深化：講和体制から深い和解へ』2022年、明石書店。
"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019,Sage Publishing.
「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。
「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。
『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】
The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

SOC500P1 – 226（社会学 / Sociology 500）

国際環境政策の社会学

島田　昭仁

備考（履修条件等）：サステイナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　世界のエネルギーシフト政策はどうなっているのか？ それを実現するにあたって、政府は市民とどのように合意形成を図ってきて、今後どうしていくのか？ またトランプ政権によってどう変化していくのか。本講義では、脱炭素政策に対するクリティカルな視点も含め、EUと米国およびアジアと日本のエネルギーシフトに関わる政策（世界戦略）と市民の合意形成との関係について社会学的に理解することを目的とする。

【到達目標】
　世界のエネルギー政策を通して、以下の事項を習得すること。
①気候変動に対する諸学説（環境倫理学、生態学、都市工学、社会学）と「脱炭素」との関係を総合的に理解
②脱炭素の背景にある80年代・90年代の日本の技術力に対抗して始まったEUの世界戦略
③ドイツのメルケル首相が脱原発に踏み切った背景（緑の党の躍進の根源・背景にあるもの）
④西欧社会の合意形成の歴史としくみ（宗教的、哲学的な「実践」の理解とともに）
⑤米国と中国とインドの立場
　以上をもって環境政策に対して科学的で多角的な説明が可能となること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回、テキストと参考書と資料（時には新聞記事やネット記事も使う）に沿って解説し、ディスカッションを行う。資料は豊富にそろえるが、学生との対話を中心とした（思ったことを自由に言い合える）授業を行う。なお体験学習としては、群馬大学と協働して行っている群馬県桐生市（小水力・バイオマス発電、DX活用）をフィールドとして夏合宿を行うが参加が必須ではない。（希望者のみ。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	批判的思考～気候変動の原因は本当にCO2か？	授業の進め方や、参加する学生の個々の興味の確認
第2回	脱炭素イデオロギーとは何か	トランプ大統領が揶揄するように「温暖化詐欺」なのか？
第3回	EUとアメリカの世界戦略の激突	EU,米国それぞれの経済復興イニシアチブについて
第4回	なぜドイツを軸に考えるのか	神聖ローマ帝国～ドイツに至る「ゲルマン的考え方」について
第5回	メルケルはなぜ脱原発に舵を切ったのか	緑の党が躍進した理由と、活発な原発反対運動について解説
第6回	英独仏米の三権分立の比較論	市民運動や大衆蜂起を国が保障する憲法とはどういうことなのか
第7回	独仏哲学・社会思想の比較論	キリスト教的共同体・労働に対する（実践）哲学
第8回	日独エネルギー政策・産業構造比較論	日本の第二次産業は今どうなっているのか
第9回	中間ふりかえり	ドイツと日本の思想と産業構造の違いについて
第10回	Jクレジットとは	日本版カーボン取引のしくみと現状
第11回	日本の自然エネルギー政策の行方	ソーラー、小水力、岩盤発電、風力の行方
第12回	法政大学のエネルギーシフト構想	職場でエネルギーシフトを行うとしたら実際に何がネックになるのか
第13回	アジア諸国のエネルギーシフトについて	台湾成功大学、インド工科大学のとりくみについて紹介し議論
第14回	総括：「地政学」をどう捉えるのか	EU、米国、中国、日本の立ち位置を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　学習支援システムに毎回のスライドを授業前にアップするので、各自ダウンロードして予習と復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は特に設けないが発表担当の学生は2時間を標準とする。また希望者のみを対象に時間外に自主ゼミも行う。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストは授業内で配布する（購入の必要はありません。）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』,壽福眞美
・『ゼック・プロジェクト調査・研究報告書』谷口信雄,島田昭仁

【参考書】
以下の参考書も授業内で配布する（購入の必要はありません。）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』,壽福眞美編

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間に提出するレポートと毎回授業でのディスカッションへの積極的参加度合いによって評価する。
②期末試験＝レポート（A4×3枚程度の小論文）。課題は第14回の授業内で示す。
※講義で扱った主題から任意にテーマを絞って小論文を提出する。講義内容からの理解度（３０%）、自分の意見とその論拠が記述できていること（５０%）、授業内でのディスカッションへの積極性（２０%）の３点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
　国や地方自治体の政策に約30年以上携わっている教員が、関連法規や施策の解説を行うのみならず、省庁の現場での言説や調査で分かった日本の現在の地政学的立ち位置や産業構造の実態を包括的に理解していただけるような講義を行う。また西欧の政策を理解するためにキリスト教に対する理解を深める。日本の政治や産業構造を国際的に俯瞰したい学生にはぜひ受講していただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画
＜研究テーマ＞
住民の合意形成
＜主要研究業績＞
『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019
『知の史的探究』八千代出版,2017
『規範理論の探究と公共圏の可能性』法政大学出版局,2012

【Outline (in English)】
What is the global energy shift policy? How have governments worked with citizens and communities to build consensus in making this happen? This lecture aims to provide a sociological understanding of the relationship between energy shift policies (global strategies) and citizen consensus building in the EU and the US as well as in Japan and Asia, including critical perspectives on decarbonization policies.

SES500P1 – 227（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地球環境生態学

鞠子　茂

備考（履修条件等）：以下の日程で実施予定
7月30日（木）6・7限
7月31日（金）6・7限
8月1日（土）6・7限
8月3日（月）6・7限
8月4日（火）6・7限
8月5日（土）6・7限
8月6日（木）6・7限

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学の基礎と応用を教授し，地球環境問題に対する本質的な理解を深める。

【到達目標】
環境問題の適切な解決に向けて行動できる環境力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業をオンデマンド配信し，予習復習の課題を課してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンスと地球環境生態学への招待	授業の進め方，成績評価，地球環境生態学とは何かを説明する
第2回	なぜ「環境」という言葉が誕生したのか	われわれは環境をどのように理解すべきかを考える
第3回	地球生命系におけるヒエラルキー	遺伝子から生物圏まで，地球の生命世界における階層性について解説する
第4回	地球システムの成り立ち	地球システムのサブシステムと駆動エネルギーについて解説する
第5回	生物多様性の保全に関する是非論	生物多様性の基本的知識と保全の是非について考える
第6回	自然からの恩恵としっぺ返し	生態系サービスについて概説し，環境破壊がもたらすブーメラン現象を考える
第7回	公害から学ぶ環境被害の本質	水俣病を例にして，環境被害が起こるメカニズムを考察する
第8回	地球温暖化のウソホント	地球温暖化がもたらす環境変化についての是非を問う
第9回	地球温暖化が生態系に与える有意な影響	温暖化が生態系の分布などに与える確かな影響について解説する
第10回	人類の発展をもたらしたエネルギー革命と環境問題	環境問題の根本原因をエネルギー革命の歴史から探る
第11回	環境問題の解決に向けたエネルギー戦略	環境への負荷のないエネルギー供給戦略について考える
第12回	地球環境問題の最新トピックス	忍び寄る新たな地球環境問題について概説する
第13回	人類の存続のために必要なこと	人間活動の問題を生態学的に考察する
第14回	試験・まとめの授業	授業全体のまとめをした後，試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが，説明を補助するための資料を授業で配布する。

【参考書】
「面白くてよくわかる！ エコロジー」満田久義，アスペクト（2013）

【成績評価の方法と基準】
オンラインによるレポート課題の提出と試験を行い，レポート課題40％，試験60％の配分で成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を専門としない学生にもわかりやすい授業を行う。

【その他の重要事項】
生態学に関する参考図書を事前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】
The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

POL500P1 – 229（政治学 / Politics 500）

比較公共政策論

桐谷　仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、欧米を中心とする主要OECD諸国という一見類似した国々を対象にして、比較の観点から、広義の政治体制の相違が、政策結果や経済実績の各国間の差異にどのように影響を与えているのかという問題を学びます。これによって、これまでの先行研究等の理解が深まり、公共政策への視野が広がります。

【到達目標】
前述の概要と目的に従って、本授業では、比較分析モデルの理論的な側面と経験的側面の両面での認識を深めることが到達目標です。
　ひとつは、政治体制(political regime)の概念をめぐる種々の先行研究についての認識が深まります。もうひとつは、そうした政治体制と政策結果や経済実績との関係をめぐる先行研究について比較の観点からの理解が広がること、この二つが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　・毎回、受講者による報告と、教員による説明・解説と、その後の質疑応答や討論という進め方をします。とくに授業内での報告に基づいた討論を方法として重視します。。
　・期末までに、１回大きな課題でのレポートを作成してもらい、それについてコメントをするというフィードバックの方法を実施する予定です。
　・原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論（導入）	政治体制と政策結果・経済実績との関係についての比較政治分析に向けての本授業の概要
第2回	比較政治体制論（１）	比較分析のための準拠枠組としての政治体制概念とその展開についての概要
第3回	比較政治体制論（２）	政治体制の諸類型：多元主義論/コーポラティズム論/「資本主義の多様性論」などについての解説
第4回	政策レジーム（１）	政策の立案と執行・実施をめぐる種々の議論の展開（政策フィードバック論等）についてについての概説
第5回	政策レジーム（２）	政府能力：政府の抽出能力・転換能力・執行能力についての考察
第6回	政治制度（１）	ウェストミンスターモデルとコンセンサスモデルの比較と考察
第7回	政治制度（２）	議会－執行府関係/政権形態/政権構成、および選挙制度についての概要
第8回	政策・経済実績（１）	所得政策とインフレ・賃金問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第9回	政策・経済実績（２）	所得格差と所得再分配の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第10回	政策・経済実績（３）	雇用規制と失業・就労問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第11回	政策・経済実績（４）	労働市場政策と技能形成の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第12回	政策・経済実績（５）	福祉国家ならびに比較福祉レジーム論についての先行研究の整理と課題についての考察
第13回	政策・経済実績（６）	財政・金融政策と経済成長（中央銀行の独立性の問題を含む）政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第14回	総括（まとめと解説）	主要OECD諸国の政治体制および政策結果・経済実績の多様性をめぐる議論の課題と展望を議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、①新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）、②田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）③建林正彦・曽我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）の三冊は事前に読了しておくことが望ましいと考えています。また、できれば④田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）にも事前に目を通していただきければ幸いです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書としては、前述の
・新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）
・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）の二冊を挙げておきます。この二冊は、毎回の授業で該当箇所を提示します。
また、随時、文献・資料等は提示します。

【参考書】
特定の参考書としては、前述の
・建林正彦・曽我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）
・田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）の二冊を挙げておきます。
・また随時、文献・資料等は提示します。

【成績評価の方法と基準】
出席30％、授業中の討論等への参加と小テスト20％、レポート50％

【学生の意見等からの気づき】
開講時に、受講生の要望等を考慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治学、比較政治学、比較政治経済学
＜研究テーマ＞
比較政治体制論/比較コーポラティズム体制論/国家論。
政治体制と政策・経済実績との関係についての比較政治学的研究
＜主要研究業績＞
＜論文＞桐谷仁「政策協調から社会協定へ：コーポラティズムの新たな展開？（１）（２）（３）（４）（５）」『法政研究』（静岡大学）第22・23・24巻2018・19・20年.
＜論文＞桐谷仁「社会コーポラティズムから政策協調へ」『法政研究』（静岡大学）第19巻2014年.
桐谷仁「コーポラティズム論から『資本主義の多様性論』へ？」『慶應義塾大学-
150周年記念法学部論文集』(慶應義塾大学出版会)2008年.
桐谷仁「ＯＥＣＤ諸国の所得格差と政治－制度編成との関係についての比較分析」『法政研究』(静岡大学)第10巻、2005年.

桐谷仁「先進諸国における制度の補完性と調整行為」『法政研究』(静岡大学)第９巻2004年.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to study the causal relationships between political institutional factors and public policy outcomes or economic performance from comparative political perspectives. The class will begin with reviewing the relevant literature and then argue about the theoretical accounts.

First, we shed light on the elements of political institutional arrangements such as interest organizational configurations, electoral systems, party systems, and parliament government linkages.

Second, we pick up some of public policy areas (ex., industrial policies, financial policies, welfare policies and so on) and compare the differences of economic performance among the main OECD countries, 1960-2015.

Third, the impacts of the above political institutional variable on these policy outcomes and economic performance are examined and assessed by using various quantitative and qualitative methodologies.

Finally, the class will discuss about the comparative methods for explaining political dimensions of the economic-policy results.

The aim of this course is to help students acquire A. After each class meeting, students will be expected to understand the relevant chapters from the texts.

Final grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (50%), Short report(20%), and in-class contribution(30%).

ECN500P1 – 232（経済学 / Economics 500）

社会保障政策

原田　悠希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、日本の社会保障制度を体系的に学修するとともに、現代社会における社会保障政策の意義・役割を理解することを目的としています。授業に当たっては、社会保障制度の歴史的展開、社会保障制度の国際比較、社会保障を支える行財政の仕組みなどについて力点を置いて解説をします。なぜなら、社会状況の変化により日本の社会保障制度は常に変化しますが、その根底にある理念や考え方は、長期にわたって貫かれ、歴史を経て蓄積されていくものだからです。
本講義は、「社会保障論」という視点（＝物事をみるものさし）を身につけることを目標とします。最終的には、各種の社会保障制度について、社会保障論の視点を用いて論理的に考察することができるようになることを到達目標とします。
※　社会保障制度には、常に新しいトピックスが存在します。本授業では、直近のニュースの中から授業に関連するものについて、社会保障論の視点から適宜解説を加えることも行います。

【到達目標】
・現代社会における社会保障政策の意義・役割について理解する
・歴史的文脈、国際比較、行財政の仕組みなどから多角的に日本の社会保障制度を理解する
・社会保障制度について、社会保障論の視点を用いて論理的に考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、受講生による報告（テキストの輪読）、教員による講義、参加者全員によるディスカッションの組み合わせにより進められます。各回のディスカッションでは、受講生からの主体的な発言が求められます。受講生による報告内容等については、毎回の講義の中で教員からのフィードバックを行います。なお、講義は原則対面で実施する予定です。また、受講者数に応じ、授業内容や取り扱うテーマの順序に変更があり得ますので、その際は改めて変更スケジュールを案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方を説明した上で、人口減少・少子高齢化時代の社会保障政策について概観する。
第2回	社会保障の意義・役割、社会保障制度の歴史的展開	社会保障を支える理念・哲学について理解するとともに、エリザベス救貧法以降、現在の福祉国家再編に至るまでの社会保障制度の潮流について概観する。
第3回	年金保険制度（１）	日本の年金保険制度の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第4回	年金保険制度（２）	日本の年金保険制度が抱える課題について検討するとともに、今後の改革の展望について討議する。
第5回	医療保険制度（１）	日本の医療保険制度の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第6回	医療保険制度（２）	日本の医療保険制度が抱える課題について検討するとともに、今後の改革の展望について討議する。
第7回	介護保険制度	日本の介護保険制度の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第8回	公的扶助制度	日本の生活保護制度の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第9回	社会福祉サービス	日本の児童福祉・障害者福祉の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第10回	労働保険制度等	日本の労災保険・雇用保険制度等の仕組みを理解するとともに、現在の制度に至るまでの歴史的展開について概観する。
第11回	社会保障を支える行政の仕組み	日本の社会保障制度を支える行政の仕組みを概観するとともに、行政面で抱える課題について討議する。
第12回	社会保障を支える財政の仕組み	日本の社会保障制度を支える財政の仕組みを概観するとともに、財政面で抱える課題について討議する。
第13回	社会保障制度の国際比較	社会保障レジーム論について理解するとともに、ＯＥＣＤ統計等を参照しながら、各国の社会保障制度を比較分析する。
第14回	日本の社会保障政策を考える	こども子育て政策を題材に、今後の日本の社会保障制度について討議する。また、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義受講前に、事前配布する授業レジュメを確認し、教科書の該当頁に目を通しておくことが求められます。
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村淳 編（2022）『入門テキスト 社会保障の基礎(第2版)』東洋経済新報社

【参考書】
各回の講義内容に応じて、授業内で適宜参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業後のコメントカード：20％、授業内報告：40％、最終レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの質疑を踏まえ、後日授業で補足説明や追加資料の提供を行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して資料配布を行うことを予定しています。

【その他の重要事項】
国家公務員として厚生労働省に2011年から計12年間勤務し、厚生労働行政の分野で政策の企画立案業務を担当した経験も踏まえて講義を行います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
行政学、公共政策学、社会保障政策、財政学・地方財政論

＜研究テーマ＞
社会保障制度に関する政府間関係の構築と変容、社会保障制度の成立・展開過程
＜主要研究業績＞
原田悠希（2024）『社会保障制度における社会手当の成立・展開過程 中央地方関係の視点から』日本評論社
原田悠希（2024）「第一次地方分権改革における社会保険関係事務の「逆移譲」―地方分権推進委員会による国の直接執行事務化の勧告プロセスの分析―」『自治体学』38-1,pp.63-67
原田悠希（2025）「新型コロナウイルス感染症流行下における現金給付施策：中央地方関係の変容に着目して」『コロナ後の地方自治』清文社,pp.1-15
原田悠希（2025）「社会保障制度に関する政府間財政関係の改革―三位一体改革期の国庫補助負担金改革の政策決定過程分析―」『日本地方財政学会研究叢書』32,pp.131-153
原田悠希（2025）「国民年金法制定時の政府間関係の構築過程―地方事務官制度の採用に着目して―」『地方自治研究』40(1),pp.1-13

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire systematically learn about the Japanese social security system. The course will focus on the historical development of the social security system, international comparisons of social security systems, and the administrative and fiscal mechanisms that support social security.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、（1）それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、（2）その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、（3）論文というものの構成の仕方を理解すること、（4）必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第3.4回	関心のある研究テーマ案の検討	関心のあるテーマを発表する。
第5.6回	図書館を利用した資料探索	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第7.8回	論文構成の技法　その1　基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第9.10回	論文構成の技法　その2　発展編	し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。
第 11.12 回	既往研究リストの作成	関心のあるテーマに関する既往研究リストを作成する。
第 13.14 回	研究計画の確認	研究の進捗状況を発表し、夏季休暇期間の研究計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】
各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程1年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。
課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	研究進捗状況の報告	夏季休暇期間中の研究活動の進捗状況を発表する。
第3.4回	研究スケジュールの検討	１年半後の論文提出に向けたスケジュールを確認する。
第5.6回	研究テーマの精査	研究テーマ・論点の絞込みを行う、
第7.8回	目次案の作成	論文全体の構成を検討する。
第9.10回	調査企画の検討	調査等の作業内容を検討する。
第 11.12 回	研究スケジュールの確認	論文執筆までのスケジュール（特に春季休暇期間の研究活動予定）を検討する
第 13.14 回	中間発表に向けた準備	中間発表の発表内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した4つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士過程１年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てていくかというリテラシーも学ぶ。

【到達目標】
この講義の到達目標は以下である。
・修士論文のテーマを明確にする
・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
・修士論文の章節構成を検討する
・秋学期以降の研究計画をたてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第2回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第3回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第4回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第5回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論するテーマを仮定する
第6回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第7回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐって収集した情報を整理し、報告する
第8回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐって、経緯や状況などを整理し、報告する
第9回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第10回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐって、論の展開などの方向性を議論する
第11回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第12回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方を習得する
第13回	修士論文の構成を検討する	修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する
第14回	修士論文の作成に向けて	夏季休暇中の目標を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
当日報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】
　This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.
Learning Objectives;
- Clarify the topic of the master's thesis.
- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
- Review the chapter and section structure of the master's thesis
- Research plans for the autumn term and beyond
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文研究指導１Aから続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実（fact）の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

【到達目標】
この講義の獲得目標は以下である。
・明確になったテーマを章節構成に反映させていく
・論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
・先行研究の収集と整理
・テーマについてのより深い考察
・春季休暇と次年度の研究計画の策定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第2回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第3回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第4回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第5回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第6回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第7回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第8回	研究テーマをめぐる事実（fact）の整理	研究テーマの現状を示す事実（face）を検討する
第9回	研究テーマをめぐる事実（fact）の分析	研究テーマの経緯を示す事実（fact）を検討する
第10回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第11回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第12回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第13回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第14回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
当日の報告、説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】
　This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.
Learning Objectives;
- Clarify the topic of the master's thesis.
- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
- Review the chapter and section structure of the master's thesis
- Research plans for the autumn term and beyond
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS600P1 － 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について理解を深め、指導の下で研究計画を立案し、修士論文作成に向けた研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について理解を深め、指導の下で研究計画を立案し、修士論文作成に向けた研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の意識を共有しながら、修士論文とは何か、それに何が期待されているのかを確認する。
第2回	修士論文とは何か	修士論文のイメージを具体化するため、修了生による実際の修士論文を参照しながら目指すべき論文の完成形のイメージを持つ。
第3回	研究関心の報告	履修者各自の研究関心についてその概要を報告し、論文のテーマとするための論点の明確化について議論する。
第4回	資料の探索と調査の基礎	図書館やオンラインデータベースの基本的な利用方法に加え、フィールド調査を行う場合の基礎について学ぶ。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について理解する。
第6回	先行研究の選定	先行研究の調査とその整理の仕方について学ぶ。
第7回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその概要を報告し、議論する。
第8回	研究テーマの設定	研究テーマを設定するにあたり、問題関心をどのように研究テーマとして具体化していくべきかを学ぶ。
第9回	分析枠組と方法の習得	適切な先行研究を選定し、その輪読により、基本的な分析枠組と方法について学ぶ。
第10回	分析枠組と方法の選定	各自の研究テーマに即して、分析枠組と方法を選定する。
第11回	論文の基本的構成の理解	学術論文の構成について、その基礎を学ぶ。
第12回	論文執筆上の基本的ルールの確認	論文の執筆に際して、引用註や脚注、参考文献リストの作成について理解する。
第13回	研究テーマの報告	受講者各自の研究テーマを報告し、議論する。
第14回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。
オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程１年目の院生を対象に、修士論文のリサーチ・デザインを適切に行うための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、論文研究指導1Aで体得した（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、に基づき、各自の研究関心に従った研究テーマを確定させるとともに、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確に設定することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・初期状態の確認	これまでの進捗を報告するとともに、現時点での研究テーマを設定する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその内容を報告し、議論する。
第4回	先行研究の分析	各自の研究において主要な先行研究が、各研究領域でどのように位置付けられているのかを検討する。
第5回	リサーチ・クエスチョン（問い）の設定	よいリサーチ・クエスチョンとは何かを学ぶ。
第6回	仮説の検討	リサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答えをいかに導くかを指導する。
第7回	リサーチ・クエスチョン（問い）と仮説の報告	各自の設定したリサーチ・クエスチョンと仮説について相互に批判的な検討を加える。
第8回	目次の作成	暫定的な論文の目次作成を試みる。
第9回	リサーチ・プロポーザルの作成	用意されたフォーマットに沿って、リサーチ・プロポーザルを作成する。
第10回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自のリサーチ・プロポーザルについて議論する。
第11回	論文の部分的な試作	暫定的に作成した目次に従い、そのうちのいずれかの章について執筆を試みる。
第12回	文章の推敲	執筆した章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第13回	リサーチ・プロポーザルの再検討	前回の報告に基づき各自リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第14回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。
オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	学術論文の作法①	学術論文について解説をします。
第3回	学術論文の作法②	学術論文についてディスカッションをします。
第4回	研究の方法①	研究課題の方法を解説します。
第5回	研究の方法②	研究の方法についてディスカッションをします。
第6回	研究課題の発見①	研究課題の発見の方法等を解説します。
第7回	研究課題の発見②	研究課題についてディスカッションをします。
第8回	研究課題の発見③	研究課題についてディスカッションをします。
第9回	研究課題の発見④	研究課題の内容を報告してもらいます。
第10回	研究計画①	研究計画の作成方法等を解説します。
第11回	研究計画②	研究計画の内容を報告してもらいます。
第12回	先行研究の検討①	先行研究の検索方法等を解説します。
第13回	先行研究の検討②	先行研究の内容を報告してもらいます。
第14回	研究成果の報告	当時点における研究成果を報告してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、修士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による発表とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による発表とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による発表とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による発表とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による発表とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による発表とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による発表とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による発表とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による発表とディスカッション
第14回	研究報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程の学生を対象とし、修士論文または政策研究論文の作成に必要な研究指導を行うことを目的とする。特に、「イノベーション政策」に関する研究を中心に据え、学生が体系的かつ実証的なアプローチを用いて独自の研究を遂行できるよう支援する。本授業を通じて、学生は研究の設計、データ収集・分析、論理的な議論の構築、および学術的な文章作成のスキルを涵養することを目指す。

【到達目標】
本授業の修了時に、学生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・研究能力の向上：修士論文または政策研究論文を独自に作成する能力を涵養する。
・批判的思考の深化：理論的枠組みや先行研究を批判的に分析し、自らの研究課題との関連性を明確にする能力を習得する。
・学術的コミュニケーション能力の向上：論理的かつ説得力のある研究発表およびディスカッションを行う能力を身につける。
・学術的執筆能力の強化：明快かつ一貫性のある学術論文を執筆し、適切な引用や参考文献の活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、研究指導の方針の確認
第2回	演習	受講生の研究報告と討論
第3回	演習	受講生の研究報告と討論
第4回	演習	受講生の研究報告と討論
第5回	演習	受講生の研究報告と討論
第6回	演習	受講生の研究報告と討論
第7回	演習	受講生の研究報告と討論
第8回	演習	受講生の研究報告と討論
第9回	演習	受講生の研究報告と討論
第10回	演習	受講生の研究報告と討論
第11回	演習	受講生の研究報告と討論
第12回	演習	受講生の研究報告と討論
第13回	演習	受講生の研究報告と討論
第14回	演習	受講生の研究報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けた予習および復習時間は2時間を標準とする。これには、関連文献の精読、研究データの整理、プレゼンテーション資料の作成などが含まれる。

【テキスト（教科書）】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学生の成績は以下の基準で評価する。
・平常点（50%）：授業への参加態度、議論への貢献度、フィードバックの質
・研究報告（50%）：発表の質、論理的構成、研究の進展度

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
This course provides research guidance for students writing a master's thesis or policy research paper, with a focus on innovation policy, and aims to develop their skills in designing research, collecting and analyzing data, constructing logical arguments, and writing academic papers. By the end of the course, students will enhance their research skills to independently conduct their master's thesis or policy research, develop critical thinking by analyzing theoretical frameworks and prior research, improve academic communication through logical presentations and discussions, and strengthen writing abilities to produce well-structured and properly referenced academic papers. Students are expected to spend at least two hours per session on preparation and review, which includes reading relevant literature, organizing research data, and preparing presentations. Students will be evaluated based on class participation, which accounts for 50% of the final grade and includes engagement in discussions, constructive feedback, and active contributions, and on research presentations, which constitute the remaining 50% and assess the logical structure, depth of analysis, and clarity of delivery.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程の学生を対象とし、修士論文または政策研究論文の作成に必要な研究指導を行うことを目的とする。特に、「イノベーション政策」に関する研究を中心に据え、学生が体系的かつ実証的なアプローチを用いて独自の研究を遂行できるよう支援する。本授業を通じて、学生は研究の設計、データ収集・分析、論理的な議論の構築、および学術的な文章作成のスキルを涵養することを目指す。

【到達目標】
本授業の修了時に、学生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・研究能力の向上：修士論文または政策研究論文を独自に作成する能力を涵養する。
・批判的思考の深化：理論的枠組みや先行研究を批判的に分析し、自らの研究課題との関連性を明確にする能力を習得する。
・学術的コミュニケーション能力の向上：論理的かつ説得力のある研究発表およびディスカッションを行う能力を身につける。
・学術的執筆能力の強化：明快かつ一貫性のある学術論文を執筆し、適切な引用や参考文献の活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、研究指導の方針の確認
第2回	演習	受講生の研究報告と討論
第3回	演習	受講生の研究報告と討論
第4回	演習	受講生の研究報告と討論
第5回	演習	受講生の研究報告と討論
第6回	演習	受講生の研究報告と討論
第7回	演習	受講生の研究報告と討論
第8回	演習	受講生の研究報告と討論
第9回	演習	受講生の研究報告と討論
第10回	演習	受講生の研究報告と討論
第11回	演習	受講生の研究報告と討論
第12回	演習	受講生の研究報告と討論
第13回	演習	受講生の研究報告と討論
第14回	演習	受講生の研究報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けた予習および復習時間は2時間を標準とする。これには、関連文献の精読、研究データの整理、プレゼンテーション資料の作成などが含まれる。

【テキスト（教科書）】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学生の成績は以下の基準で評価する。
・平常点（50%）：授業への参加態度、議論への貢献度、フィードバックの質
・研究報告（50%）：発表の質、論理的構成、研究の進展度

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
This course provides research guidance for students writing a master's thesis or policy research paper, with a focus on innovation policy, and aims to develop their skills in designing research, collecting and analyzing data, constructing logical arguments, and writing academic papers. By the end of the course, students will enhance their research skills to independently conduct their master's thesis or policy research, develop critical thinking by analyzing theoretical frameworks and prior research, improve academic communication through logical presentations and discussions, and strengthen writing abilities to produce well-structured and properly referenced academic papers. Students are expected to spend at least two hours per session on preparation and review, which includes reading relevant literature, organizing research data, and preparing presentations. Students will be evaluated based on class participation, which accounts for 50% of the final grade and includes engagement in discussions, constructive feedback, and active contributions, and on research presentations, which constitute the remaining 50% and assess the logical structure, depth of analysis, and clarity of delivery.

SOS600P1 － 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として２年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。
原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出５０と講義での参加意欲５０

【学生の意見等からの気づき】
社会人学生が多く、自社の状況を反映した意見交換が活発です。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
The courses [Thesis Research Guidance 1A and 1B] and [Thesis Research Guidance 2A and 2B] are designed to teach master's students how to write academic papers. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.
Course Outline:The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)
　Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. Students will be advised on how to search for necessary materials in relation to their problem interest, narrow down their research theme, and conduct research.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は１年次、２は２年次に対応する。）
各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。
原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席５０%、調査研究活動および報告５０%

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)Content of the final submission (30%)

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

北浦　康嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共経済学および経済成長理論を理解した上で，現実の社会課題に対して，どのように取り組みことが望ましいかについて，経済理論的に検討することを目的とする。

【到達目標】
（１）経済成長理論が説明できる。
（２）現実の社会課題を経済理論的に説明できる。
（３）先行研究と自身の社会課題の違いが説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程では，関心のある社会課題に対して， 公共経済学および経済成長理論では，どのようなアプローチがとられるかについて，先行研究となる論文報告を行う。その上で，先行研究について，分析・考察を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後，読むべき先行研究を報告してもらいます。
第2回	先行研究の報告（１）	1本目の先行研究を報告してもらいます。
第3回	先行研究の分析（１）	1本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第4回	先行研究の課題（１）	1本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第5回	先行研究の評価（１）	1本目の先行研究における評価を行います。
第6回	先行研究の報告（２）	2本目の先行研究を報告してもらいます。
第7回	先行研究の分析（２）	2本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第8回	先行研究の課題（２）	2本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第9回	先行研究の評価（２）	2本目の先行研究における評価を行います。
第10回	先行研究の報告（３）	3本目の先行研究を報告します。
第11回	先行研究の分析（３）	3本目の先行研究における分析方法を報告してもらいます。
第12回	先行研究の課題（３）	3本目の先行研究における課題を報告してもらいます。
第13回	先行研究の評価（３）	3本目の先行研究における評価を行います。
第14回	先行研究における論点整理	これまで読んだ先行研究との違いについて報告してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，先行研究（英文）を読み込んでください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
先行研究と関心がある社会課題との違いを分析した論文10,000字で評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めてです。

【その他の重要事項】
経済成長理論の基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand public economics and economic growth theory, and then consider from an economic theoretical point of view how it is desirable to address actual social issues.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

北浦　康嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共経済学および経済成長理論を理解した上で，現実の社会課題に対して，どのように取り組みことが望ましいかについて，経済理論的に検討することを目的とする。

【到達目標】
（１）先行研究と修士論文案との違いが説明できる。
（２）執筆した修士論文に基づいて社会課題の議論ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程では，関心のある社会課題に対して， 公共経済学および経済成長理論に基づいて，先行研究と自身の考えを比較しつつ報告を行う。その上で，修士論文としてまとめあげる能力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	先行研究の論点整理について説明します。
第2回	先行研究における論点整理の報告（１）	先行研究の論点整理について，修士論文との共通点について報告してもらいます。
第3回	先行研究における論点整理の報告（２）	先行研究の論点整理について，修士論文と異なる点について報告してもらいます。
第4回	先行研究における論点整理の報告（３）	先行研究の論点整理について，残された課題について報告してもらいます。
第5回	先行研究における論点整理の報告（４）	先行研究の論点整理について，修士論文における位置づけについて報告してもらいます。
第6回	修士論文の報告（１）	修士論文のアイデアについて報告してもらいます。
第7回	修士論文の報告（２）	修士論文の分析方法について報告してもらいます。
第8回	修士論文の報告（３）	修士論文の考察について報告してもらいます。
第9回	修士論文の報告（４）	修士論文の残された課題について報告してもらいます。
第10回	修士論文の改善報告（１）	修士論文のアイデアについて改善報告してもらいます。
第11回	修士論文の改善報告（２）	修士論文の分析方法について改善報告してもらいます。
第12回	修士論文の改善報告（３）	修士論文の考察について改善報告してもらいます。
第13回	修士論文の改善報告（４）	修士論文の残された課題について改善報告してもらいます。
第14回	修士論文の最終報告	修士論文について最終報告してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，先行研究（英文）を読み込んでください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の執筆で評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めてです。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
経済成長理論に基づいた経済理論的な分析を行います。それ以外は一切認めません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to understand public economics and economic growth theory, and to think about how it is desirable to deal with actual social issues from the perspective of economic theory.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)修士論文を完成できる。
2)厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3)設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	研究の方法論①	院生による発表とディスカッション
第3回	研究の方法論②	院生による発表とディスカッション
第4回	研究の方法論③	院生による発表とディスカッション
第5回	研究の方法論④	院生による発表とディスカッション
第6回	研究の方法論⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	研究の小括	院生による発表とディスカッション
第8回	分析方法	院生による発表とディスカッション
第9回	考察①	院生による発表とディスカッション
第10回	考察②	院生による発表とディスカッション
第11回	考察③	院生による発表とディスカッション
第12回	考察④	院生による発表とディスカッション
第13回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第14回	中間報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master’s thesis.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)修士論文を完成できる。
2)厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3)設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第2回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第3回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第4回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第5回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第6回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第7回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第8回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第9回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第10回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第11回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第12回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第13回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第14回	最終報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master’s thesis.

SOS600P1 – 501（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ａ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の2年間の執筆過程の1年次として，十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
第2回	1人目の個別指導1	テーマ設定に関する指導
第3回	1人目の個別指導2	文献調査に関する指導
第4回	1人目の個別指導3	データ収集に関する指導
第5回	2人目の個別指導1	テーマ設定に関する指導
第6回	2人目の個別指導2	文献調査に関する指導
第7回	2人目の個別指導3	データ収集に関する指導
第8回	3人目の個別指導1	テーマ設定に関する指導
第9回	3人目の個別指導2	文献調査に関する指導
第10回	3人目の個別指導3	データ収集に関する指導
第11回	4人目の個別指導1	テーマ設定に関する指導
第12回	4人目の個別指導2	文献調査に関する指導
第13回	4人目の個別指導3	データ収集に関する指導
第14回	全員演習	各自の論文テーマに関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
各回指導中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現100％。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005, 新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023, ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will prepare our master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the first step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review for each class.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:100%.

SOS600P1 – 502（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導１Ｂ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の2年間の執筆過程の1年次として，十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1人目の個別指導1	理論に関する指導
第2回	1人目の個別指導2	研究方法に関する指導
第3回	1人目の個別指導3	政策提言に関する指導
第4回	2人目の個別指導1	理論に関する指導
第5回	2人目の個別指導2	研究方法に関する指導
第6回	2人目の個別指導3	政策提言に関する指導
第7回	3人目の個別指導1	理論に関する指導
第8回	3人目の個別指導2	研究方法に関する指導
第9回	3人目の個別指導3	政策提言に関する指導
第10回	4人目の個別指導1	理論に関する指導
第11回	4人目の個別指導2	研究方法に関する指導
第12回	4人目の個別指導3	政策提言に関する指導
第13回	全員演習	各自の論文構想をめぐる討論
第14回	中間報告会での報告	中間報告会での報告に関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。さらに年度末に研究計画リポートを提出する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
指導中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現30％，中間報告会での報告の完成度30％，年度末リポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar,we prepare our master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the first step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing and reviw for each class.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:30%,Presentation in the midst open seminar I:30%,Final report:40%.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について理解を深め、指導の下で研究計画を立案し、修士論文作成に向けた研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について理解を深め、指導の下で研究計画を立案し、修士論文作成に向けた研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第6回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの１章について執筆を試みる。
第7回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第8回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第9回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第10回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第11回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第12回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。
第13回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。
第14回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。
オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程2年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

【到達目標】
院生は、1年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（１）先行研究の調査、（２）基本的な分析枠組や方法の習得、（２）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第2回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第3回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第4回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第5回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第6回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第7回	第１稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第8回	第１稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第9回	第2稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第10回	第2稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第11回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第12回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第13回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第14回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。
オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】
（Course outline）This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.
（Learning Objectives）To be ready to complete master's thesis.
（Learning activities outside of classroom）Several hours a week at least.
（Grading Criteria /Policy）The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程の学生を対象とし、修士論文または政策研究論文の作成に必要な研究指導を行うことを目的とする。特に、「イノベーション政策」に関する研究を中心に据え、学生が体系的かつ実証的なアプローチを用いて独自の研究を遂行できるよう支援する。本授業を通じて、学生は研究の設計、データ収集・分析、論理的な議論の構築、および学術的な文章作成のスキルを涵養することを目指す。

【到達目標】
本授業の修了時に、学生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・研究能力の向上：修士論文または政策研究論文を独自に作成する能力を涵養する。
・批判的思考の深化：理論的枠組みや先行研究を批判的に分析し、自らの研究課題との関連性を明確にする能力を習得する。
・学術的コミュニケーション能力の向上：論理的かつ説得力のある研究発表およびディスカッションを行う能力を身につける。
・学術的執筆能力の強化：明快かつ一貫性のある学術論文を執筆し、適切な引用や参考文献の活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、研究指導の方針の確認
第2回	演習	受講生の研究報告と討論
第3回	演習	受講生の研究報告と討論
第4回	演習	受講生の研究報告と討論
第5回	演習	受講生の研究報告と討論
第6回	演習	受講生の研究報告と討論
第7回	演習	受講生の研究報告と討論
第8回	演習	受講生の研究報告と討論
第9回	演習	受講生の研究報告と討論
第10回	演習	受講生の研究報告と討論
第11回	演習	受講生の研究報告と討論
第12回	演習	受講生の研究報告と討論
第13回	演習	受講生の研究報告と討論
第14回	演習	受講生の研究報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けた予習および復習時間は2時間を標準とする。これには、関連文献の精読、研究データの整理、プレゼンテーション資料の作成などが含まれる。

【テキスト（教科書）】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学生の成績は以下の基準で評価する。
・平常点（50%）：授業への参加態度、議論への貢献度、フィードバックの質
・研究報告（50%）：発表の質、論理的構成、研究の進展度

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
This course provides research guidance for students writing a master's thesis or policy research paper, with a focus on innovation policy, and aims to develop their skills in designing research, collecting and analyzing data, constructing logical arguments, and writing academic papers. By the end of the course, students will enhance their research skills to independently conduct their master's thesis or policy research, develop critical thinking by analyzing theoretical frameworks and prior research, improve academic communication through logical presentations and discussions, and strengthen writing abilities to produce well-structured and properly referenced academic papers. Students are expected to spend at least two hours per session on preparation and review, which includes reading relevant literature, organizing research data, and preparing presentations. Students will be evaluated based on class participation, which accounts for 50% of the final grade and includes engagement in discussions, constructive feedback, and active contributions, and on research presentations, which constitute the remaining 50% and assess the logical structure, depth of analysis, and clarity of delivery.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程の学生を対象とし、修士論文または政策研究論文の作成に必要な研究指導を行うことを目的とする。特に、「イノベーション政策」に関する研究を中心に据え、学生が体系的かつ実証的なアプローチを用いて独自の研究を遂行できるよう支援する。本授業を通じて、学生は研究の設計、データ収集・分析、論理的な議論の構築、および学術的な文章作成のスキルを涵養することを目指す。

【到達目標】
本授業の修了時に、学生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・研究能力の向上：修士論文または政策研究論文を独自に作成する能力を涵養する。
・批判的思考の深化：理論的枠組みや先行研究を批判的に分析し、自らの研究課題との関連性を明確にする能力を習得する。
・学術的コミュニケーション能力の向上：論理的かつ説得力のある研究発表およびディスカッションを行う能力を身につける。
・学術的執筆能力の強化：明快かつ一貫性のある学術論文を執筆し、適切な引用や参考文献の活用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、研究指導の方針の確認
第2回	演習	受講生の研究報告と討論
第3回	演習	受講生の研究報告と討論
第4回	演習	受講生の研究報告と討論
第5回	演習	受講生の研究報告と討論
第6回	演習	受講生の研究報告と討論
第7回	演習	受講生の研究報告と討論
第8回	演習	受講生の研究報告と討論
第9回	演習	受講生の研究報告と討論
第10回	演習	受講生の研究報告と討論
第11回	演習	受講生の研究報告と討論
第12回	演習	受講生の研究報告と討論
第13回	演習	受講生の研究報告と討論
第14回	演習	受講生の研究報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けた予習および復習時間は2時間を標準とする。これには、関連文献の精読、研究データの整理、プレゼンテーション資料の作成などが含まれる。

【テキスト（教科書）】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
本授業では、学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学生の成績は以下の基準で評価する。
・平常点（50%）：授業への参加態度、議論への貢献度、フィードバックの質
・研究報告（50%）：発表の質、論理的構成、研究の進展度

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
This course provides research guidance for students writing a master's thesis or policy research paper, with a focus on innovation policy, and aims to develop their skills in designing research, collecting and analyzing data, constructing logical arguments, and writing academic papers. By the end of the course, students will enhance their research skills to independently conduct their master's thesis or policy research, develop critical thinking by analyzing theoretical frameworks and prior research, improve academic communication through logical presentations and discussions, and strengthen writing abilities to produce well-structured and properly referenced academic papers. Students are expected to spend at least two hours per session on preparation and review, which includes reading relevant literature, organizing research data, and preparing presentations. Students will be evaluated based on class participation, which accounts for 50% of the final grade and includes engagement in discussions, constructive feedback, and active contributions, and on research presentations, which constitute the remaining 50% and assess the logical structure, depth of analysis, and clarity of delivery.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として［論文研究指導1A・1B］と［論文研究指導2A・2B］は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、１は1年次、２は２年次に対応する。）
　各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】
アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】
各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】
出席20％、調査研究活動および報告80％

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)修士論文を完成できる。
2)厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3)設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	実証分析①	院生による発表とディスカッション
第3回	実証分析②	院生による発表とディスカッション
第4回	実証分析③	院生による発表とディスカッション
第5回	実証分析④	院生による発表とディスカッション
第6回	実証分析⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	実証分析⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	実証分析⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	考察①	院生による発表とディスカッション
第10回	考察②	院生による発表とディスカッション
第11回	考察③	院生による発表とディスカッション
第12回	考察④	院生による発表とディスカッション
第13回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第14回	中間報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master’s thesis.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程の院生を対象に，修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)修士論文を完成できる。
2)厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
3)設定された課題について実証的に分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第2回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第3回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第4回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第5回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第6回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第7回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第8回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第9回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第10回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第11回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第12回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第13回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第14回	最終報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 – 503（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ａ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の2年間の執筆過程の2年次として，十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教室で対面で実施(予定)。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
第2回	1人目の個別指導1	論文の構成に関する指導
第3回	1人目の個別指導2	論文の展開に関する指導
第4回	1人目の個別指導3	論文の結論に関する指導
第5回	2人目の個別指導1	論文の構成に関する指導
第6回	2人目の個別指導2	論文の展開に関する指導
第7回	2人目の個別指導3	論文の結論に関する指導
第8回	3人目の個別指導1	論文の構成に関する指導
第9回	3人目の個別指導2	論文の展開に関する指導
第10回	3人目の個別指導3	論文の結論に関する指導
第11回	4人目の個別指導1	論文の構成に関する指導
第12回	4人目の個別指導2	論文の展開に関する指導
第13回	4人目の個別指導3	論文の結論に関する指導
第14回	中間報告会	各自の中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
指導中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
個別指導や演習での研究の進展度とその表現60％、中間報告会での報告の完成度40％。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will prepare our master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the second step of writing the master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each class.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:60%, Presentation in the midst open seminar II:40%.

SOS600P1 – 504（その他の社会科学 / Social science 600）

論文研究指導２Ｂ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆の個別指導

【到達目標】
修士論文の2年間の執筆過程の2年次として，十分な知識と研究能力を習得し、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって，地域社会学，都市社会学，農村社会学の立場からみた，公共政策と市民活動，コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1人目の個別指導1	文献調査に関する確認
第2回	1人目の個別指導2	データ分析に関する確認
第3回	1人目の個別指導3	政策提言に関する確認
第4回	2人目の個別指導1	文献調査に関する確認
第5回	2人目の個別指導2	データ分析に関する確認
第6回	2人目の個別指導3	政策提言に関する確認
第7回	3人目の個別指導1	文献調査に関する確認
第8回	3人目の個別指導2	データ分析に関する確認
第9回	3人目の個別指導3	政策提言に関する確認
第10回	4人目の個別指導1	文献調査に関する確認
第11回	4人目の個別指導2	データ分析に関する確認
第12回	4人目の個別指導3	政策提言に関する確認
第13回	全員演習1	修士論文の最終調整
第14回	全員演習2	修士論文の最終調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し，教員にメール等で提出する。事後，指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
指導中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の出来100％。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will complete our master thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Complete our master thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing and review in each class.
(Grading Criteria /Policy)Master thesis:100%.

SOS700P1 － 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に３年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第3.4回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第5.6回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第7.8回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第9.10回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については, 授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS700P1 － 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第3.4回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第5.6回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。
第7.8回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第9.10回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 11.12 回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第 13.14 回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については, 授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の１年めにあたり、博士論文作成のためのテーマを念頭において、研究計画をたて、そのテーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査をすすめ、テーマについての知見を醸成し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・博士論文のテーマを念頭に置いて、３年間の研究計画を立てる
・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進めかた、博士論文の指導の方法の確認
第2回	博士論文のテーマの検討	博士論文テーマとして検討しているものについて報告する
第3回	博士論文のテーマの構想	博士論文テーマについて、検討をふまえた構想を報告する
第4回	意見交換	意見交換と今後の作業の確認
第5回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第6回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第7回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえて議論し、考察を深める
第8回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第9回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第10回	研究計画を更新する	これまでの講義をふまえて、博士論文の研究計画を更新する
第11回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第12回	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実（fact）、先行研究について収集し、状況を報告する
第13回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実（fact）、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第14回	研究計画を更新する	夏季休暇中の研究計画を検討し、研究計画を更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】
This lectures would be taken by first-year doctor-course students.
Students will make a research plan with a theme for their doctoral thesis in mind. Students collect information, materials, papers and studies on the theme, develop their knowledge of the theme and search for their own originality.
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の１年めの後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。博士論文作成のためのテーマをめぐる知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめ、ひきつづき情報、資料、文献の収集と調査し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】
この講義は以下を到達目標とする。
・博士論文のテーマを念頭に置いて、研究計画を進める
・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇までの研究活動の到達点を報告する
第2回	後期の研究計画を立てる	これまでの研究の進捗をふまえ、研究計画を更新する
第3回	テーマについて報告	テーマについて報告する
第4回	テーマについて議論	テーマについての報告を踏まえ、議論し、次回の目標を設定する
第5回	テーマをめぐる論点の検討	テーマをめぐる論点を検討する
第6回	テーマをめぐる論点の整理	テーマをめぐる論点を整理し、それら論点の検討スケジュールをたてる
第7回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第8回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について議論する
第9回	研究計画の更新	これまでの講義をふまえ、研究計画を見直す
第10回	論文テーマとその独創性	論文のテーマを前提に、研究の独創性について議論する
第11回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第12回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第13回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐる論点について報告する
第14回	春季休暇中、来年度の研究計画を更新する	研究計画を見直し、更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
事前準備　50%、
報告と説明　50%

【学生の意見等からの気づき】
講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】
Course outline;
In this lecture, students will make the necessary research progress in the second semester of the first year of the doctor-course.
Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.
The students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.
Learning Objectives;
- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.
- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.
- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

SOS700P1 － 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程1年目の大学院生を対象に、博士論文研究の開始に必要な準備を整えるための総合的な指導を行う。

【到達目標】
各自の研究関心を磨き上げて博士論文に相応しいテーマに確定していくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・研究倫理	博士課程１年春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。研究倫理についての基本原則を確認し、必要な手続きを周知する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	先行研究報告1	研究テーマに関する先行研究を整理する。
第5回	先行研究報告2	研究テーマに関する先行研究を整理する。
第6回	先行研究報告3	研究テーマに関する先行研究を整理する。
第7回	研究資料報告1	研究テーマに関する資料の状況について報告し、資料収集計画を検討する。
第8回	研究資料報告2	研究テーマに関する資料の状況について報告し、資料収集計画を検討する。
第9回	研究資料報告3	研究テーマに関する資料の状況について報告し、資料収集計画を検討する。
第10回	研究方法の検討1	研究テーマに適した研究方法の検討を行う。
第11回	研究方法の検討2	研究テーマに適した研究方法の検討を行う。
第12回	研究方法の検討3	研究テーマに適した研究方法の検討を行う。
第13回	博士論文提出要件の充足計画	博士論文提出要件を充足するために博士課程各学年における取り組み計画を確認する。
第14回	春学期の総括	博士課程１年春学期の研究状況の振り返りと夏期休暇中の研究課題の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など。平均して 1 日数時間以上が必要である。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
対面を基本とするが、Zoom を併用したハイブリッドでの参加も許容する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞ 二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞ 編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.
(Learning Objective)
The goal is for each student to refine their research interests and identify a suitable topic for their doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）In order to refine your doctoral dissertation research topic, you will independently explore previous research and begin collecting research materials.
（Grading Criteria /Policy）The content of the report on your own research topic (60%), and your contribution to class discussions (40%)

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として，博士後期課程1年目の大学院生を対象に，博士論文研究の初期における研究指導を行う。

【到達目標】
公共政策のさまざまな領域や、研究課題の設定に応じた分析枠組、手法について広く概観することによって、博士論文執筆のテーマを具体化していくために必要な知識を得たうえで、自身の博士論文のための研究活動をスタートさせるための準備を完了させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における博士論文の作成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で，研究課題の設定，方法論の選定，資料の収集・検討・分析について，参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し，その報告を相互に検討することによって，博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて，論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	博士論文研究への準備状況の共有と一年次秋学期の課題の確認。研究倫理面での課題の有無の確認。
第2回	研究方法の検討1	研究テーマに相応しい研究方法について検討する。
第3回	研究方法の検討2	研究テーマに相応しい研究方法について検討する。
第4回	研究方法の検討3	研究テーマに相応しい研究方法について検討する。
第5回	研究方法の検討4	研究テーマに相応しい研究方法について検討する。
第6回	研究方法の検討5	研究テーマに相応しい研究方法について検討する。
第7回	研究資料の調査状況報告1	現時点での研究資料の調査状況を検討し、研究方法の選択を検討する。
第8回	研究資料の調査状況報告2	現時点での研究資料の調査状況を検討し、研究方法の選択を検討する。
第9回	研究資料の調査状況報告3	現時点での研究資料の調査状況を検討し、研究方法の選択を検討する。
第10回	研究資料の調査状況報告4	現時点での研究資料の調査状況を検討し、研究方法の選択を検討する。
第11回	査読論文執筆準備1	初年度の研究の進捗を踏まえて、査読論文の執筆について検討する。
第12回	査読論文執筆準備2	初年度の研究の進捗を踏まえて、査読論文の執筆について検討する。
第13	査読論文執筆準備3	初年度の研究の進捗を踏まえて、査読論文の執筆について検討する。
第14回	秋学期の総括	博士課程1年を通じての研究状況の振り返りと、春期休暇中の研究課題の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など。平均して1日数時間以上が必要である。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroomを利用できる環境。
オンラインで参加する場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
対面を基本とするが、Zoomを併用したハイブリッドでの参加も許容する。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞　二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018年）
編著『議会改革白書　各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the fi eld of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to fi nd students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.
(Learning Objective) By gaining a broad overview of various areas of public policy and analytical frameworks and methods suited to the research topic, students will gain the knowledge necessary to concretize the topic of their doctoral dissertation and complete their preparations to begin research activities for their own doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom) In order to re fi ne your doctoral dissertation research topic, you will independently explore previous research and begin collecting research materials.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report on your own research topic (60%), and your contribution to class discussions (40%)

SOS700P1 － 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読むべき文献が指示されることがある。また、文献の内容をまとめる等の宿題が出されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による発表とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による発表とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による発表とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による発表とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による発表とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による発表とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による発表とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による発表とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による発表とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による発表とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による発表とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による発表とディスカッション
第14回	研究報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出します。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士論文の執筆を目的とする博士課程の学生を対象とし、学術論文の作成に必要なアカデミックな作法、研究手法、論文構成、および論理的議論の深化を図ることを目的とする。博士論文は、通常、査読付き学術誌に掲載可能な3本の論文から構成されるが、本授業では、論文の執筆プロセスを体系的に学び、研究成果の発信力を高めることを重視する。加えて、研究の質を向上させるための批判的思考、理論的枠組みの適用、実証研究の設計と分析、学術的な議論の展開方法について指導を行う。授業では、受講生の研究進捗に基づいたディスカッションを行い、個別指導とフィードバックを通じて、博士論文の完成を支援する。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・学術論文執筆能力の向上：査読付き学術誌に掲載可能な論文を作成するための執筆スキルを修得する。
・学会発表能力の強化：国際学会・国内学会において自身の研究成果を発表し、学術コミュニティに貢献できる能力を養う。
・博士論文の完成：一貫性のある研究成果を積み重ね、博士論文を体系的に構築する。
・研究者としての自立：独自の研究テーマを確立し、理論的・実証的に発展させることで、学術界における自立した研究者としての基盤を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文とは何か	博士論文の構成と学術的意義を検討
第2回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第3回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第4回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第5回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第6回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第7回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第8回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第9回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第10回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第11回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第12回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第13回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第14回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、各回の授業に向けた予習および復習時間を最低2時間確保することを推奨する。特に、関連文献の精読、研究データの整理、論文執筆の進捗管理、発表資料の作成が求められる。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【参考書】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は以下の基準に基づいて行う。
・平常点（50%）：授業への参加態度、ディスカッションへの貢献度、ピアレビューの質。
・研究報告（50%）：発表内容の論理的構成、分析の深度、学術的貢献度。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
The course is designed for doctoral students aiming to complete their dissertation, which typically consists of three academic papers publishable in peer-reviewed journals. It provides comprehensive guidance on academic writing, research methodology, theoretical framework development, and empirical analysis. Through structured discussions and individualized feedback, students will refine their research, enhance their scholarly communication skills, and produce high-quality academic work. The course adopts a hybrid format, combining in-person and online sessions to maximize learning outcomes.
By the end of the course, students are expected to develop the ability to write academic papers suitable for publication in peer-reviewed journals, effectively present their research at academic conferences, systematically structure and complete their doctoral dissertation, and establish themselves as independent researchers capable of contributing to their respective fields.
Students are required to dedicate at least two hours per session to preparation and review, which includes reading relevant literature, refining research design, conducting data analysis, and preparing presentations. Consistent engagement with academic sources and iterative improvement of their dissertation drafts are essential for successful course completion.
Grading is based on class participation (50%) and research presentations (50%). Class participation includes contributions to discussions, peer feedback, and engagement in academic debates, while research presentations are evaluated based on logical structure, depth of analysis, and clarity of argumentation.

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士論文の執筆を目的とする博士課程の学生を対象とし、学術論文の作成に必要なアカデミックな作法、研究手法、論文構成、および論理的議論の深化を図ることを目的とする。博士論文は、通常、査読付き学術誌に掲載可能な3本の論文から構成されるが、本授業では、論文の執筆プロセスを体系的に学び、研究成果の発信力を高めることを重視する。加えて、研究の質を向上させるための批判的思考、理論的枠組みの適用、実証研究の設計と分析、学術的な議論の展開方法について指導を行う。授業では、受講生の研究進捗に基づいたディスカッションを行い、個別指導とフィードバックを通じて、博士論文の完成を支援する。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・学術論文執筆能力の向上：査読付き学術誌に掲載可能な論文を作成するための執筆スキルを修得する。
・学会発表能力の強化：国際学会・国内学会において自身の研究成果を発表し、学術コミュニティに貢献できる能力を養う。
・博士論文の完成：一貫性のある研究成果を積み重ね、博士論文を体系的に構築する。
・研究者としての自立：独自の研究テーマを確立し、理論的・実証的に発展させることで、学術界における自立した研究者としての基盤を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第2回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第3回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第4回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第5回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第6回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第7回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第8回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第9回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第10回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第11回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第12回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第13回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第14回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、各回の授業に向けた予習および復習時間を最低2時間確保することを推奨する。特に、関連文献の精読、研究データの整理、論文執筆の進捗管理、発表資料の作成が求められる。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【参考書】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は以下の基準に基づいて行う。
・平常点（50%）：授業への参加態度、ディスカッションへの貢献度、ピアレビューの質。
・研究報告（50%）：発表内容の論理的構成、分析の深度、学術的貢献度。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
The course is designed for doctoral students aiming to complete their dissertation, which typically consists of three academic papers publishable in peer-reviewed journals. It provides comprehensive guidance on academic writing, research methodology, theoretical framework development, and empirical analysis. Through structured discussions and individualized feedback, students will refine their research, enhance their scholarly communication skills, and produce high-quality academic work. The course adopts a hybrid format, combining in-person and online sessions to maximize learning outcomes.
By the end of the course, students are expected to develop the ability to write academic papers suitable for publication in peer-reviewed journals, effectively present their research at academic conferences, systematically structure and complete their doctoral dissertation, and establish themselves as independent researchers capable of contributing to their respective fields.
Students are required to dedicate at least two hours per session to preparation and review, which includes reading relevant literature, refining research design, conducting data analysis, and preparing presentations. Consistent engagement with academic sources and iterative improvement of their dissertation drafts are essential for successful course completion.
Grading is based on class participation (50%) and research presentations (50%). Class participation includes contributions to discussions, peer feedback, and engagement in academic debates, while research presentations are evaluated based on logical structure, depth of analysis, and clarity of argumentation.

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業を視る視点を習得し、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００%。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
地域産業論、戦略論、生産管理、ファイナンス

【Outline (in English)】
Students will acquire the perspective of looking at industry and will be guided in the preparation of a research paper for a doctoral degree, according to the problems and interests of the students.

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を執筆するためのストラテジーを重視する

【到達目標】
産業を視る視点を学び、それぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博論を書き進めてもらう。進捗管理

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００%。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
地域産業論、戦略論、生産管理、ファイナンス

【Outline (in English)】
Focus on strategies for writing a doctoral dissertation

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

北浦　康嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年，行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は，「ナッジ」を公共政策にあてはめたとき，どのような効果があるのか，また，どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では，行動経済学を学びつつ，現在，多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に，受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく，受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

【到達目標】
①伝統的経済学と行動経済学と違いが説明できる。
②行動経済学の長所と短所を説明できる。
③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず，それぞれの経験について記録しておいてください。また，必要に応じてグラフによる図解を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに関して議論します。
第2回	双曲割引（１）	時間割引率に関して議論します。
第3回	双曲割引（２）	現在バイアスに関して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに関して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に関して議論します。
第6回	プロスペクト理論（１）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（２）	参照点に関して議論します。
第8回	ナッジ（１）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（２）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（３）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（４）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（５）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（６）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に関する展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に関係するので必ず時間をとるようにしてください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定します。

【参考書】
Ohtake, Kang, Ikeda (2010)
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index
https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002
Wong (2008)
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence
on self-awareness, size, and effects
https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005
Ariely and Wertenbroch (2002)
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment
https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100％）とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なので，まだありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

北浦　康嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年，行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は，「ナッジ」を公共政策にあてはめたとき，どのような効果があるのか，また，どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では，行動経済学を学びつつ，現在，多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に，受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく，受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

【到達目標】
①伝統的経済学と行動経済学と違いが説明できる。
②行動経済学の長所と短所を説明できる。
③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず，それぞれの経験について記録しておいてください。また，必要に応じてグラフによる図解を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに関して議論します。
第2回	双曲割引（１）	時間割引率に関して議論します。
第3回	双曲割引（２）	現在バイアスに関して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに関して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に関して議論します。
第6回	プロスペクト理論（１）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（２）	参照点に関して議論します。
第8回	ナッジ（１）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（２）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（３）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（４）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（５）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（６）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に関する展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に関係するので必ず時間をとるようにしてください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定します。

【参考書】
Ohtake, Kang, Ikeda (2010)
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index
https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002
Wong (2008)
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence
on self-awareness, size, and effects
https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005
Ariely and Wertenbroch (2002)
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment
https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100％）とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なので，まだありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

SOS700P1 － 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００%。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 – 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。・

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 – 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 － 001（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ａ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の研究計画発表と自己紹介
2	1人目の個別指導1	研究計画の検討1
3	2人目の個別指導1	研究計画の検討1
4	3人目の個別指導1	研究計画の検討1
5	文献講読演習1	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導2	文献調査の検討1
7	2人目の個別指導2	文献調査の検討1
8	3人目の個別指導2	文献調査の検討1
9	文献講読演習2	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導3	データ収集の検討1
11	2人目の個別指導3	データ収集の検討1
12	3人目の個別指導3	データ収集の検討1
13	文献講読演習3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献講読演習の際指示する

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められればC、文献講読演習等において貢献すればB、学会査読論文など成果を挙げればA、その内容が学術的に顕著なものであればA+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房)

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will prepare our doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the first step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review for each class.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:100%.

SOS700P1 － 002（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究１Ｂ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習4	専門文献の講読と討論
2	1人目の個別指導4	研究計画の検討2
3	2人目の個別指導4	研究計画の検討2
4	3人目の個別指導4	研究計画の検討2
5	文献講読演習5	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導5	文献調査の検討2
7	2人目の個別指導5	文献調査の検討2
8	3人目の個別指導5	文献調査の検討2
9	文献講読演習6	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導6	データ収集の検討2
11	2人目の個別指導6	データ収集の検討2
12	3人目の個別指導6	データ収集の検討2
13	文献講読演習7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講読演習の際指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められればC、文献講読演習等において貢献すればB、学会査読論文など成果を挙げればA、その内容が学術的に顕著なものであればA+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房)

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will prepare our doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the first step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each class.
(Grading Criteria /Policy)Active partcipation:100%.

SOS700P1 － 003（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ａ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 – 004（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ｂ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 003（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ａ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読むべき文献が指示されることがある。また、文献の内容をまとめる等の宿題が出されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 004（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ｂ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読むべき文献が指示されることがある。また、文献の内容をまとめる等の宿題が出されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 003（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ａ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士論文の執筆を目的とする博士課程の学生を対象とし、学術論文の作成に必要なアカデミックな作法、研究手法、論文構成、および論理的議論の深化を図ることを目的とする。博士論文は、通常、査読付き学術誌に掲載可能な3本の論文から構成されるが、本授業では、論文の執筆プロセスを体系的に学び、研究成果の発信力を高めることを重視する。加えて、研究の質を向上させるための批判的思考、理論的枠組みの適用、実証研究の設計と分析、学術的な議論の展開方法について指導を行う。授業では、受講生の研究進捗に基づいたディスカッションを行い、個別指導とフィードバックを通じて、博士論文の完成を支援する。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・学術論文執筆能力の向上：査読付き学術誌に掲載可能な論文を作成するための執筆スキルを修得する。
・学会発表能力の強化：国際学会・国内学会において自身の研究成果を発表し、学術コミュニティに貢献できる能力を養う。
・博士論文の完成：一貫性のある研究成果を積み重ね、博士論文を体系的に構築する。
・研究者としての自立：独自の研究テーマを確立し、理論的・実証的に発展させることで、学術界における自立した研究者としての基盤を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文とは何か	博士論文の構成と学術的意義を検討
第2回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第3回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第4回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第5回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第6回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第7回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第8回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第9回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第10回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第11回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第12回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第13回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第14回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、各回の授業に向けた予習および復習時間を最低2時間確保することを推奨する。特に、関連文献の精読、研究データの整理、論文執筆の進捗管理、発表資料の作成が求められる。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【参考書】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は以下の基準に基づいて行う。
・平常点（50%）：授業への参加態度、ディスカッションへの貢献度、ピアレビューの質。
・研究報告（50%）：発表内容の論理的構成、分析の深度、学術的貢献度。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
The course is designed for doctoral students aiming to complete their dissertation, which typically consists of three academic papers publishable in peer-reviewed journals. It provides comprehensive guidance on academic writing, research methodology, theoretical framework development, and empirical analysis. Through structured discussions and individualized feedback, students will refine their research, enhance their scholarly communication skills, and produce high-quality academic work. The course adopts a hybrid format, combining in-person and online sessions to maximize learning outcomes.
By the end of the course, students are expected to develop the ability to write academic papers suitable for publication in peer-reviewed journals, effectively present their research at academic conferences, systematically structure and complete their doctoral dissertation, and establish themselves as independent researchers capable of contributing to their respective fields.
Students are required to dedicate at least two hours per session to preparation and review, which includes reading relevant literature, refining research design, conducting data analysis, and preparing presentations. Consistent engagement with academic sources and iterative improvement of their dissertation drafts are essential for successful course completion.
Grading is based on class participation (50%) and research presentations (50%). Class participation includes contributions to discussions, peer feedback, and engagement in academic debates, while research presentations are evaluated based on logical structure, depth of analysis, and clarity of argumentation.

SOS700P1 – 004（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ｂ

糸久　正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士論文の執筆を目的とする博士課程の学生を対象とし、学術論文の作成に必要なアカデミックな作法、研究手法、論文構成、および論理的議論の深化を図ることを目的とする。博士論文は、通常、査読付き学術誌に掲載可能な3本の論文から構成されるが、本授業では、論文の執筆プロセスを体系的に学び、研究成果の発信力を高めることを重視する。加えて、研究の質を向上させるための批判的思考、理論的枠組みの適用、実証研究の設計と分析、学術的な議論の展開方法について指導を行う。授業では、受講生の研究進捗に基づいたディスカッションを行い、個別指導とフィードバックを通じて、博士論文の完成を支援する。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は以下の能力を獲得することを目標とする。
・学術論文執筆能力の向上：査読付き学術誌に掲載可能な論文を作成するための執筆スキルを修得する。
・学会発表能力の強化：国際学会・国内学会において自身の研究成果を発表し、学術コミュニティに貢献できる能力を養う。
・博士論文の完成：一貫性のある研究成果を積み重ね、博士論文を体系的に構築する。
・研究者としての自立：独自の研究テーマを確立し、理論的・実証的に発展させることで、学術界における自立した研究者としての基盤を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で行い、各回の授業では受講生が自身の研究進捗を報告し、発表内容に基づいたディスカッションを行う。議論を通じて、研究の理論的枠組み、仮説設定、データ収集・分析手法の適用、論文構成の精緻化を図る。授業の最後には、講師が各受講生に対して個別のフィードバックを提供し、研究の方向性を明確化する。授業は対面形式とオンライン形式を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第2回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第3回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第4回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第5回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第6回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第7回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第8回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第9回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第10回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第11回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第12回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第13回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査
第14回	研究の進捗状況の報告	各受講生の研究進捗を報告し、議論を通じて論点を精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、各回の授業に向けた予習および復習時間を最低2時間確保することを推奨する。特に、関連文献の精読、研究データの整理、論文執筆の進捗管理、発表資料の作成が求められる。

【テキスト（教科書）】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【参考書】
本授業では特定の教科書は指定せず、各受講生の研究テーマに応じた文献を適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は以下の基準に基づいて行う。
・平常点（50%）：授業への参加態度、ディスカッションへの貢献度、ピアレビューの質。
・研究報告（50%）：発表内容の論理的構成、分析の深度、学術的貢献度。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特になし。

【Outline (in English)】
The course is designed for doctoral students aiming to complete their dissertation, which typically consists of three academic papers publishable in peer-reviewed journals. It provides comprehensive guidance on academic writing, research methodology, theoretical framework development, and empirical analysis. Through structured discussions and individualized feedback, students will refine their research, enhance their scholarly communication skills, and produce high-quality academic work. The course adopts a hybrid format, combining in-person and online sessions to maximize learning outcomes.
By the end of the course, students are expected to develop the ability to write academic papers suitable for publication in peer-reviewed journals, effectively present their research at academic conferences, systematically structure and complete their doctoral dissertation, and establish themselves as independent researchers capable of contributing to their respective fields.
Students are required to dedicate at least two hours per session to preparation and review, which includes reading relevant literature, refining research design, conducting data analysis, and preparing presentations. Consistent engagement with academic sources and iterative improvement of their dissertation drafts are essential for successful course completion.
Grading is based on class participation (50%) and research presentations (50%). Class participation includes contributions to discussions, peer feedback, and engagement in academic debates, while research presentations are evaluated based on logical structure, depth of analysis, and clarity of argumentation.

SOS700P1 － 003（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ａ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００%。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

SOS700P1 – 004（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ｂ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００%。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

SOS700P1 – 003（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ａ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。・

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 – 004（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究２Ｂ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが，1年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また，必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に３年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第3.4回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第5.6回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第7.8回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第9.10回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については, 授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS700P1 － 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

杉崎　和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として，博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
都市政策に関する専門知識や高度な研究方法，論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「リアルタイムオンライン」で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第3.4回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第5.6回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。。
第7.8回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第9.10回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 11.12 回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第 13.14 回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
論文研究指導科目については, 授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.
【到達目標（Learning Objectives）】
At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class（60％）,and reports（40％）.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第12回	研究報告4	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告5	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告6	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
行政学、公共政策学

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 – 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

土山　希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	章立てに沿った執筆1	執筆を進める。
第3回	章立てに沿った執筆2	執筆した原稿の推敲を進める。
第4回	文献報告1	3年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第5回	文献報告2	2年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第6回	文献報告3	1年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第8回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第9回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第10回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第11回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第12回	研究報告1	3年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第13回	研究報告2	2年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第14回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
行政学、公共政策学

【Outline (in English)】
This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/fer own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student comp;etes his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

林　嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等についての高度な理解に基づき、独自の研究課題を設定した上で自立的に研究を遂行し、学術的貢献を有する博士論文の作成につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第3回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第4回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第5回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第6回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第7回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第8回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第9回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。Public Service Motivationに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第14回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
博士論文の初稿を仕上げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。必要に応じて研究倫理上の課題の有無を確認し、必要な場合は適切な手続きをとる。
第2回	博士論文課題の報告	各自の博士論文のテーマについてその概要を報告し、議論する。
第3回	論文執筆課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	博士論文提出要件の確認	各参加者の博士論文提出要件の充足状況について確認し、未充足の場合はその充足の計画について検討、確認する。
第5回	研究報告1	担当の院生から博士論文執筆前最終段階の研究状況を報告し、批評・検討する。
第6回	研究報告2	担当の院生から博士論文執筆前最終段階の研究状況を報告し、批評・検討する。
第7回	研究報告3	担当の院生から博士論文執筆前最終段階の研究状況を報告し、批評・検討する。
第8回	補足的な資料収集、分析等の必要の確認	各自の進捗状況を踏まえて、なお必要な調査や資料収集内容について検討する。
第9回	博士論文の構成と体裁に関する確認	草稿の執筆に当たって、博士論文全体の構成と、提出時に求められる体裁について確認する。
第10回	研究倫理に関する確認	執筆着手段階において研究倫理上の課題、必要な手続きについて確認する。
第11回	執筆状況報告	担当の院生から博士論文の草稿の執筆状況を報告し、批評・検討する。
第12回	執筆状況報告	担当の院生から博士論文の草稿の執筆状況を報告し、批評・検討する。
第13回	執筆状況報告	担当の院生から博士論文の草稿の執筆状況を報告し、批評・検討する。
第14回	春学期の総括	博士課程最終学年春学期の研究状況の振り返りと夏期休暇中の研究課題の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備ができた部分から博士論文の草稿の執筆を進めるとともに、なお必要な調査や資料収集内容について検討し、各自で進めること。平均して１日数時間以上が必要である。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。 オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信 手段。

【その他の重要事項】
対面を基本とすることを予定しているが、Zoom を併用したハイブリッドでの参加も許容する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞ 二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞ 編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it.
(Learning Objectives) The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in class.

SOS700P1 – 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

廣瀬　克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程3年目以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。
授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第2回	博士論文提出要件と研究倫理の確認	博士論文提出要件の充足状況の確認と、完成した草稿にもとづく研究倫理上の問題点の確認。
第3回	完成した草稿についての報告1	担当の院生が完成させた草稿について報告し、批評・検討する。
第4回	完成した草稿についての報告2	担当の院生が完成させた草稿について報告し、批評・検討する。
第5回	完成した草稿についての報告3	担当の院生が完成させた草稿について報告し、批評・検討する。
第6回	完成した草稿についての報告4	担当の院生が完成させた草稿について報告し、批評・検討する。
第7回	完成に向けた課題の確認1	担当の院生の論文を最終的に完成させるための残課題を検討する。
第8回	完成に向けた課題の確認2	担当の院生の論文を最終的に完成させるための残課題を検討する。
第9回	完成に向けた課題の確認3	担当の院生の論文を最終的に完成させるための残課題を検討する。
第10回	完成に向けた課題の確認4	担当の院生の論文を最終的に完成させるための残課題を検討する。
第11回	論文要旨	完成した博士論文の内容について過不足なく伝達できる要旨の執筆について検討する。
第12回	公開審査会準備	公開審査会に向け、博士論文について初見の聴衆に効果的に伝えるための方法について検討する。
第13回	英文サマリー	完成した博士論文の概要を英文で執筆する際の注意点を確認しながら、各院生の執筆した概要について検討する。
第14回	総括	博士課程３年秋学期の総括と、博士論文提出に向けての最終仕上げ課題の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 行政学、地方自治、公共政策学
＜研究テーマ＞ 二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞ 編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）
編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester. which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursuit his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it.
(Learning Objectives) The goal is that each student complete his/her doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.
(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読むべき文献が指示されることがある。また、文献の内容をまとめる等の宿題が出されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

天本　哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】
・学習や研究に資する知識を修得する。
・情報の検索、文献の読解、報告の作成、発表をできる。
・現実の社会的問題に対する新しい解決策を提言できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で実施します。院生による研究報告と教員とのディスカッションをします。授業中に提示した課題等に対するフィードバックは、随時あるいは次の回で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション
第2回	研究指導①	院生による報告とディスカッション
第3回	研究指導②	院生による報告とディスカッション
第4回	研究指導③	院生による報告とディスカッション
第5回	研究指導④	院生による報告とディスカッション
第6回	研究指導⑤	院生による報告とディスカッション
第7回	研究指導⑥	院生による報告とディスカッション
第8回	研究指導⑦	院生による報告とディスカッション
第9回	研究指導⑧	院生による報告とディスカッション
第10回	研究指導⑨	院生による報告とディスカッション
第11回	研究指導⑩	院生による報告とディスカッション
第12回	研究指導⑪	院生による報告とディスカッション
第13回	研究指導⑫	院生による報告とディスカッション
第14回	研究報告	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読むべき文献が指示されることがある。また、文献の内容をまとめる等の宿題が出されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50％）、平常点（50％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞　①行政指導、②行政上の情報過程(収集、管理、提供・公表等)
＜主要研究業績＞天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』(日本評論社、2019)

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.
【到達目標（Learning Objectives）】
・Students will acquire knowledge that contributes to research.
・Students can search for information, read literature, write reports, and make presentations.
・Students can propose new solutions to social problems.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report : 50%, Usual performance score : 50%

SOS700P1 – 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を作成することが受講生の課題である。博士論文の中間報告について討論しながら作成する。

【到達目標】
到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を着実に行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 %と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 %で 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
To publish your papers, you must understand research methods and you must make time for writing.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)
Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

加藤　寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文の作成を指導するのがこの講義の目的です。

【到達目標】
到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を着実に行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストはなし。

【参考書】
討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 %と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 %で 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域産業論・戦略論・企業論
＜研究テーマ＞造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
＜主要研究業績＞
「船舶開発と造船産業――ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析―国際競争力構図の変化と新たな取り組み―」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
「日韓競争力転換のメカニズム―造船産業の事例―」（『組織科学』）
「資源蓄積の機能不全―成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】
To hand in your doctoral paper,you must make time for writing.We brush up your paper many times.
Learning Objectives:To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom:Need 2Hours.
Grading Criteria/Policy:Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises.Degree of commitment to the assignment you set (30%)
Content of the final submission (30%)

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 － 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

白鳥　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】
公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマの設定	同左
2回	研究テーマの基礎的理解	同左
3回	研究テーマの標準的理解	同左
4回	研究テーマの高度な理解	同左
5回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6回	論文作成の基礎的技法	同左
7回	論文作成の標準的技法	同左
8回	論文報告のレジュメの作成	同左
9回	先行研究の基礎的検討	同左
10回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11回	先行研究の整理	同左
12回	研究テーマの意義の確認	同左
13回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ，入手可能な研究資料の探索，テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】
適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程１年目においては，研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として，その研究の進展を勘案して評価する。つづく２年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる３年目においては，博士学位論文の完成を到達目標とし，その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点１００％。

【学生の意見等からの気づき】
双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 – 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集し分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。・

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 – 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

多田　和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程の院生を対象に，博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導します。

【到達目標】
本授業では，次の3点に到達することを目標とします。
1)博士課程修了までに博士論文を完成できる。
2)博士論文の完成に向けて，適格な研究計画を立案できる。
3)研究計画にもとづいて調査を実施し，研究データを収集し分析できる。
The goals of this course are the followings.
1)Writing of your thesis,
2)Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習形式を中心に実施し，各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより，研究を深化させていきます。なお，授業中に提示した課題や論点は，随時，解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第2回	演習	院生による報告とディスカッション
第3回	演習	院生による報告とディスカッション
第4回	演習	院生による報告とディスカッション
第5回	演習	院生による報告とディスカッション
第6回	演習	院生による報告とディスカッション
第7回	演習	院生による報告とディスカッション
第8回	演習	院生による報告とディスカッション
第9回	演習	院生による報告とディスカッション
第10回	演習	院生による報告とディスカッション
第11回	演習	院生による報告とディスカッション
第12回	演習	院生による報告とディスカッション
第13回	演習	院生による報告とディスカッション
第14回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。
この他，適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
your thesis: 80％ and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
随時，院生と意見交換し，授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
博士論文の完成に向けて，入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営論
＜研究テーマ＞
国際研究開発，新興国市場戦略
＜主要研究業績＞
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。
http://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 － 005（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ａ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の博士論文構想の発表
2	1人目の個別指導1	論文テーマの検討
3	2人目の個別指導1	論文テーマの検討
4	3人目の個別指導1	論文テーマの検討
5	文献講読演習1	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導2	論文構成の検討
7	2人目の個別指導2	論文構成の検討
8	3人目の個別指導2	論文構成の検討
9	文献講読演習2	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導3	文献調査の検討
11	2人目の個別指導3	文献調査の検討
12	3人目の個別指導3	文献調査の検討
13	文献講読演習3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	博論中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献講読演習の際指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められればC、文献講読演習等において貢献すればB、学会査読論文など成果を挙げればA、その内容が学術的に顕著なものであればA+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar, we will complete our doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Stand the final step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each class.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:100%.

SOS700P1 － 006（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策学特殊研究３Ｂ

中筋　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】
博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で実施。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習4	専門文献の講読と討論
2	1人目の個別指導4	データ分析の検討
3	2人目の個別指導4	データ分析の検討
4	3人目の個別指導4	データ分析の検討
5	文献講読演習5	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導5	結論の検討
7	2人目の個別指導5	結論の検討
8	3人目の個別指導5	結論の検討
9	文献講読演習6	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導6	政策提言の検討
11	2人目の個別指導6	政策提言の検討
12	3人目の個別指導6	政策提言の検討
13	文献講読演習7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の博士論文の合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献講読演習の際指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進めて博士論文完成までの目処がつけばC、博士論文を完成できればB、論文の内容が学術的に優れていればA、とくに優れていればA+、とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当再開初年度のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005, 新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023, ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this seminar,we will complete our doctoral thesis by face to face direction and group discussion.
(Learning Objectives)Complete the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each class.
(Grading Criteria /Policy)Doctoral thesis:100%.

POL700P1 – 109（政治学 / Politics 700）

行政学特殊研究

林　嶺那

備考（履修条件等）：修士・公共政策学、サステイナビリティ学、連帯社会「行政学基礎」、修士・政治学「行政学研究1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、定価4290円
曽我謙悟（2022）『行政学［新版］』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL700P1 – 110（政治学 / Politics 700）

行政学事例特殊研究

林　嶺那

備考（履修条件等）：修士・公共政策学「行政学事例研究の方法」、修士・政治学「行政学研究2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】
行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
King, G., Keohane, R. O., &Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.
Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.
Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（７０%）
研究報告（３０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL700P1 – 111（政治学 / Politics 700）

都市政策特殊研究

杉崎　和久

備考（履修条件等）：修士「都市政策概論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程科目として、現在、多様な主体が活動をする都市空間において、秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画の構造、現代的な課題を理解することを目的とする。

【到達目標】
秩序ある土地利用を制御する仕組みである都市計画法等の仕組みを理解した上で現代都市において表出さひているさまざまな課題の構造を把握した上で対応方策を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
都市計画法など現在の都市における空間制御の仕組みを講義する。そして、受講生は身近な自治体における都市計画事例をとりあげ、授業の中で報告し、議論を行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「オンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／講義：都市計画法概要	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、都市計画法の概要を説明する。
第2回	講義：土地利用規制１、２	用途地域を含めた土地利用規制全般と地区計画制度について説明する。
第3回	講義：市街地開発事業／都市施設	都市再開発事業や土地区画整理事業などの市街ch井開発事業、道路や公園などの都市施設について説明する。
第4回	講義：都市計画マスタープラン／人口減少社会における都市計画	都市計画の方針となるマスタープランを説明する。また昨今の都市における課題、それに対する都市計画の対応について説明する。
第5回	課題報告１	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
第6回	フィールドワーク	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。（7/15祝日午後を予定）
第7回	課題報告２	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】
必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、担当課題の発表内容（40％）で行う。
ただし、出席回数が過半数（４回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。
＊なお、オンラインでの実施回については、議論に参加し、発言をすることで平常点に加算する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
リアルzoomによるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】
この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせて行う。
第１回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第１回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL700P1 – 112（政治学 / Politics 700）

都市政策事例特殊研究

杉崎　和久

備考（履修条件等）：修士「都市政策事例研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は博士課程科目である。多様な主体が活動をする都市空間において、適切な都市施設配置や秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画は、都市における活動などが成長することを前提としたシステムである。しかし、都市の成長とともに生活空間の環境に変化を与えるなど新たな地域課題が生じることがある。市民によるまちづくり活動はこれらを顕在化させ、都市計画を変化させる役割を果たしてきた。本講義では、市民によるまちづくり活動の経緯、事例等を把握し、これらの活動の果たした役割を理解することを目的とする。

【到達目標】
この授業を通じて、都市空間において発生する生活の場の変化に対して、市民が主体となるまちづくり活動を通じて、都市空間に関する新たな課題や価値が提起され、法定都市計画に変化を与える過程を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初は、市民まちづくりの具体的な事例紹介をオンラインで行う。その後、受講生が、分担して身近なまちづくりの事例を調査し、講義の中で報告し、議論を行う。また、必要に応じて教員は講評や話題提供を行う。
授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（まちづくりの展開過程）	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、市民によるまちづくり活動の展開過程について説明する。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第2回	市民まちづくりの事例紹介１	現代の都市空間に対する受講者の関心を共有する。（オンデマンド形式）
第3回	市民まちづくりの事例紹介２	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（オンデマンド形式）
第4回	フィールドワーク	市民まちづくりの実践事例の現地見学を行う。（11/14祝日午後に実施）
第5回	事例発表１	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第6回	事例発表２	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）
第7回	総括議論	具体的な施策を踏まえて、今後必要となる対応について議論を行う。（zoomを併用したハイブリッド形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】
必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、担当課題の発表（40％）で行う。
ただし、出席回数が過半数（４回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
zoomによるリアルタイムオンライン形式、動画配信によるオンデマンド形式、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】
この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせて行う。
第１回講義はzoomによるオンラインで行います。履修を希望される方は、第１回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要なID等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL700P1 – 113（政治学 / Politics 700）

コミュニティ政策特殊研究

西谷内　博美

備考（履修条件等）：修士・公共政策学「コミュニティ制度論」、修士・政治学「コミュニティ論研究2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】
・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストの問題意識や理論・分析枠組みに依拠し、基本的にはテキストで扱われている都市を対象として、コミュニティの制度を分析します。あわせて、テキスト刊行後17年間における状況の変化にも目を向けます。
第3〜7回は受講生がレジュメを作成し、その報告に基づいて授業を進めます。報告後には、参加者全員による質疑・議論を行い、担当教員が講評を通じてフィードバックを行います。また、時間調整を兼ねて、毎授業回の後半にインドの事例についての考察を進めます。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを作成し、各自の学びを振り返り、理解の整理を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・コミュニティの制度を分析するためのキー概念・視角を共有する（テキスト第1章）
第2回	日本のコミュニティの制度	・自治会・町内会 ・日本型都市内分権（テキスト第2章） ・宮崎市の制度分析
第3回	ドイツの制度	・テキスト第3章　ドイツ・ブレーメン市 ・（残りの時間）インド農村部の制度
第4回	スコットランドの制度	・テキスト第4章　スコットランド・エディンバラ市 ・（残りの時間）インド都市部の制度
第5回	フランスの制度	・テキスト第5章補論　フランスのリヨン大都市圏 ・（残りの時間）インド、廃棄物管理とコミュニティ
第6回	フィリピンの制度	・テキスト第7章　フィリピンのケソン市 ・（残りの時間）インド、デリー州のバギダリ政策
第7回	テキスト外事例	・テキスト外の事例を対象としてコミュニティの制度を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
名和田是彦編, 2009,『コミュニティの自治』日本評論社.
（※もし入手が難しい場合には、法外な価格で購入する前にご相談ください）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加・貢献（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.
2011「デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策」『国際開発研究』20(1):67-80.
2009「廃棄物管理における慣習の逆機能」『環境社会学研究』15: 89-103.

【Outline (in English)】
Viewing communities as local units that have lost their institutional framework as a result of municipal mergers, this course conducts an international comparative analysis of policies and institutions designed to re-institutionalize such communities. Through this analysis, students will acquire a basic understanding of community policy.
・ Students will be able to comparatively analyze institutional arrangements of various real-world communities.
・ Students will be able to examine and explain the characteristics and challenges of community institutions with due consideration of the historical and cultural contexts of each region.
Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

SOS700P1 – 201（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）１Ａ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第１年度では、博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オンライン形式で実施(予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 – 202（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）１Ｂ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】
１．博士後期課程第１年度では、博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
２．学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities.

SOS700P1 – 203（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）２Ａ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第２年度では、前年度の進捗状況を踏まえて、博士論文の完成に向けて、理論研究および実証研究を行う。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オンライン形式で実施(予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 – 204（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）２Ｂ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第２年度では、前年度の進捗状況を踏まえて、博士論文の完成に向けて、理論研究および実証研究を行う。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オンライン形式で実施(予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 – 205（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）３Ａ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第３年度では、これまでの理論研究と実証研究の成果を踏まえて、博士論文を完成させる。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オンライン形式で実施(予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOS700P1 – 206（その他の社会科学 / Social science 700）

公共政策ワークショップ（政策研究）３Ｂ

多田　和美、加藤　寛之

備考（履修条件等）：隔週開講

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】
１．博士後期課程第３年度では、これまでの理論研究と実証研究の成果を踏まえて、博士論文を完成させる。
２．学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オンライン形式で実施(予定)。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期１回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル(proposal)、(2)博士論文プロポーザル(proposal)に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容 (70 %) を中心に、討論への参加 (30 %)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】
This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

POL500P2 – 001（政治学 / Politics 500）

行政学基礎

林　嶺那

備考（履修条件等）：政治学「行政学研究１」、公共政策学、連帯社会、博士・公共政策学「行政学特殊研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】
行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解60分、論文報告資料準備120分で、合計180分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
真渕勝（2020）『行政学［新版］』有斐閣、定価4290円
曽我謙悟（2022）『行政学［新版］』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーの提出（５０%）
論文の報告（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学
＜研究テーマ＞人事行政
＜主要研究業績＞林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】
The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P2 – 002（政治学 / Politics 500）

比較行政研究

申　龍徹

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】
この授業では、①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解する、その上、②OECD加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得するとともに、③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「比較行政研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。授業では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内やOECD諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2回目	比較行政の概念と歴史的展開	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期における比較行政研究の変化と特徴
3回目	比較行政と発展行政の理論統合1	比較行政研究の理論的動向に関する理解（前後）
4回目	比較行政と発展行政の理論統合2	比較行政と発展行政の理論統合（2000年代以降）
5回目	行政システムの国際比較A-1	英・米・仏・独の行政システムの歴史と仕組み、特徴などにに関する理解
6回目	行政システムの国際比較A-2	英・米・仏・独の行政システムの歴史と仕組み、特徴などにに関する理解
7回目	行政システムの国際比較B-1	北欧、NICs諸国の行政システムに関する特徴の理解
8回目	行政システムの国際比較B-2	北欧、NICs諸国の行政システムに関する特徴の理解
9回目	比較行政研究事例分析①-1	課題発表A・B・C各自の研究テーマについての発表と討論
10回	比較行政研究事例分析①-2	課題発表A・B・C各自の研究テーマについての発表と討論
11回目	比較行政研究事例分析②-1	課題発表D・E・F各自の研究テーマについての発表と討論
12回目	比較行政研究事例分析②-2	課題発表D・E・F各自の研究テーマについての発表と討論
13回目	比較行政研究の課題と展望1	発表された内容を総括しながら比較行政研究の課題と展望について理解を深める。
14回目	比較行政研究の課題と展望2	発表された内容を総括しながら比較行政研究の課題と展望について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎文献として、近代行政の展開（アーネスト・バーカー著、足立忠夫訳、1974、有信堂）Barker,Sir Ernest、The development of public services in western Europe(1660-1930)を勧める。

【テキスト（教科書）】
1回目の授業の中で、主な参考文献に関して紹介する。

【参考書】
特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。
Eric E. Otenyo &Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】
参加度（25％）、調査力（25％）、構成力（25％）、プレゼンテーション（25％）の4つによる絶対評価

【学生の意見等からの気づき】
「比較」という研究方法は、弱くなっている考える力を伸ばし、新しい構想を手助けしますので、多くの事例を比較・分析したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、比較行政
＜研究テーマ＞比較自治行政
＜主要研究業績＞
①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2012）
②『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（共著、勉誠出版、2010）
③『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）
④『都市公園政策形成史』（単著、法政大学出版局、2004）

【Outline (in English)】
Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research methods

PHL500P2 – 003（哲学 / Philosophy 500）

公共哲学基礎

宮川　裕二

備考（履修条件等）：政治学「公共哲学研究１」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】
公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキスト（教科書）を講読する。受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業で報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」
第3,4回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第5,6回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第7,8回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想―― 保守から改革へ」
第9,10回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承――後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第 11,12回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第 13,14回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想――フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベラリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本達哉『社会思想の歴史――マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】
必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50％）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
公共政策の政治社会学
＜研究テーマ＞
新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治
＜主要研究業績＞
『「新しい公共」とは何だったのか―四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）
「『公共』のオルタナティブは可能か―『新しい公共』言説の検証から」（『世界』2023年9月号、 2023年）
「統治性研究・ガバナンス理論と国家・政治の概念に関する一断章」（『インフォーマルな政治の探究―政治学はどのような政治を語りうるか』所収、吉田書店、2025年）

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20％).

POL500P2 – 004（政治学 / Politics 500）

政策学基礎

西谷内　博美

備考（履修条件等）：政治学「公共政策研究１」、公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『公共政策学の基礎　第3版』を用い、クリティカル・リーディングの手法で読解を進めます。そうすることで、公共政策学の理解に必要な基礎知識を、体系的に習得、あるいは再確認することを目的とします。

【到達目標】
・公共政策に関する基礎的な理論やキーワードを説明できる。
・政策学の全体像を体系的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキスト内在的に学習を進めます。つまり、テキストに即して体系的に、知識を習得、整理、補足します。
原則として、受講者がレジュメを作成し、その報告に基づいて各授業の内容を検討します。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・発表のデモンストレーション：第１章
第2回	公共政策とは何か？／アジェンダ設定	・テキスト第２章 ・テキスト第３章
第3回	政策問題の構造化／公共政策の手段	・テキスト第４章 ・テキスト第５章
第4回	規範的判断／政策決定と合理性	・テキスト第６章 ・テキスト第７章
第5回	政策決定と利益／政策決定と制度	・テキスト第８章 ・テキスト第９章
第6回	政策決定とアイディア／公共政策の実施	・テキスト第10章 ・テキスト第11章
第7回	公共政策の評価／公共政策管理のシステム	・テキスト第12章 ・テキスト第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020,『公共政策学の基礎　第3版』有斐閣.

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30％）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、少人数だったこともあり、時間をかけて十分に議論を深めることができました。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
(Course outline) The goal is to systematically acquire or revisit the foundational knowledge necessary to understand public policy studies.
(Learning Objectives) Be able to explain the basic theories and key terms related to public policy.
(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500P2 － 005（政治学 / Politics 500）

現代政治分析研究

白鳥　浩

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】
同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に適宜指示。

【参考書】
①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

【成績評価の方法と基準】
試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100％）。（講義への貢献度50％、期末50％を目安とする）。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.
The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P2 – 006（政治学 / Politics 500）

公共政策とジャーナリズム

白鳥　浩、読売新聞社講師

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】
本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンス　政局とジャーナリズム	同左
第3,4回	五輪・パラリンピックと報道	同左
第5,6回	世論調査の役割	同左
第7,8回	社会保障政策とジャーナリズム	同左
第9,10回	経済政策とジャーナリズム	同左
第 11,12 回	香港情勢と報道	同左
第 13,14 回	憲法とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】
講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】
出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100％）。(講義への貢献度50％、期末50％を目安)。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】
This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.
The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P2 – 022（経済学 / Economics 500）

公共政策の経済分析

北浦　康嗣

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年，行動経済学の知見をいかして行動変容を促す「ナッジ」への関心が高まりつつあります。この授業の目的は，「ナッジ」を公共政策にあてはめたとき，どのような効果があるのか，また，どのような問題点が生じるのかについて検討することです。この授業では，行動経済学を学びつつ，現在，多くの自治体で取り入れられている「ナッジ」について議論します。その際に，受講者の経験が必要となります。単に講義を聞くだけではなく，受講者の生きた知識をもとに問題点を指摘します。

【到達目標】
①伝統的経済学と行動経済学と違いが説明できる。
②行動経済学の長所と短所を説明できる。
③「ナッジ」に関する問題点を指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共政策の経済分析」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義を前提に進めます。しかしながら「ナッジ」に関しては受講生の経験に基づいて議論します。必ず，それぞれの経験について記録しておいてください。また，必要に応じてグラフによる図解を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	伝統的経済学と行動経済学	合理的と非合理的のちがいに関して議論します。
第2回	双曲割引（1）	時間割引率に関して議論します。
第3回	双曲割引（2）	現在バイアスに関して議論します。
第4回	コミットメントデバイス	コミットメントデバイスに関して議論します。
第5回	選択のオーバーロード現象	選択のオーバーロード現象に関して議論します。
第6回	プロスペクト理論（1）	損失回避性について議論します。
第7回	プロスペクト理論（2）	参照点に関して議論します。
第8回	ナッジ（1）	ナッジの定義について解説します。
第9回	ナッジ（2）	世界におけるナッジの事例について議論します。
第10回	ナッジ（3）	公共経済分野におけるナッジの事例について議論します。
第11回	ナッジ（4）	健康保健分野におけるナッジの事例について議論します。
第12回	ナッジ（5）	労働分野におけるナッジの事例について議論します。
第13回	ナッジ（6）	環境分野におけるナッジの事例について議論します。
第14回	行動経済学の将来	行動経済学と政策に関する展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として，ナッジの事例を実務や文献から調査する時間を設けます。とくに成績評価に関係するので必ず時間をとるようにしてください。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定します。

【参考書】
Ohtake, Kang, Ikeda (2010)
Hyperbolic discounting, the sign effect, and the body mass index
https://doi.org/10.1016/j.jhealeco.2010.01.002
Wong (2008)
How much time-inconsistency is there and does it matter? Evidence
on self-awareness, size, and effects
https://doi.org/10.1016/j.jebo.2008.09.005
Ariely and Wertenbroch (2002)
PROCRASTINATION, DEADLINES, AND PERFORMANCE: Self-Control by Precommitment
https://doi.org/10.1111/1467-9280.00441

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100％）とします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業なので，まだありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学，公共経済学
＜研究テーマ＞
開発途上国における教育の役割
＜主要研究業績＞
Kitaura, Koji &Miyazawa, Kazutoshi, 2021. "Inequality and conditionality in cash transfers: Demographic transition and economic development," Economic Modelling, Elsevier, vol. 94(C), pages 276-287.

【Outline (in English)】
Recently, there has been a growing concern with "nudges," which use knowledge from behavioral economics to promote behavior change. The purpose of this class is to examine the effects of "nudges" when applied to public policy and what problems they may cause. In this class, we will study behavioral economics and discuss the "nudges" that are currently being adopted by many local governments. In this case, the experience of the students will be necessary. Students will not simply listen to a lecture, but will point out problems based on their own experiences.

ECN500P2 – 008（経済学 / Economics 500）

財政学基礎

其田　茂樹

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】
受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度のもつ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面授業で行う予定である。
受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融資	財政投融資制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として使途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。
第14回	まとめ	報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通すなどして関心を払ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
１．江成穣・倉地真太郎・佐藤一光・藤原遥『Why not?!　財政学』有斐閣、2025年
２．佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文舘出版、2019 年
３．佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019 年
４．高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
口頭報告の内容（70 %）、平常点（30 %）による。
平常点の内訳は、授業内でのコメント（15 %）、相互討論への参画（15 %）で評価する。
口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業とハイフレックスとの受講者の希望は必ずしも固定的なものではなく、勤務の閑繁などの要因にもよることが明らかになってきた。
そのため、対面授業を原則としつつ柔軟にハイフレックスに対応する現行の運営方式を維持したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。
一方で、担当者の都合で授業の順序や方法（オンライン等）が変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、地方財政論、経済政策論
＜研究テーマ＞
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
＜主要研究業績＞
『「転回」する地方自治』（上）（下）（企画・編集）公人の友社、2024年
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021 年
『生活を支える社会のしくみを考える』(共著) 日本経済評論社、2019 年
『地方自治論（第2版）』2018 年、弘文堂　など

【Outline (in English)】
This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in
Japan.
In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P2 － 009（経済学 / Economics 500）

経済学基礎

芦谷　典子

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が出会う場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

【到達目標】
①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義１時間、受講者によるディスカッション１時間、振り返り１時間を基礎に、１日（２回分）の授業で１つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、e-ラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1〜2時間以内の宿題を各日出題し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎１	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎２	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎１	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎２	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易１	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易２	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融１	国際貿易と国際金融、経常収支、金融収支
第10回	国際金融２	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済１	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済２	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策１	財政政策
第14回	経済政策２	金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年
『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年
※購入は不要です。ただしｅラーニングの活用希望者は購入が必要です。eラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①平常授業の活動状況：60%
②宿題：40%

【学生の意見等からの気づき】
社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は１日（２回分）に１トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

【その他の重要事項】
対面と非対面（zoomによるリアルタイム・オンライン、オンデマンド等）を組みあせた授業となります。zoom授業のアクセス先は、講義ページに掲載します。現時点では、 4/13（月）5/18（月）を対面とし、上記の内容に加えて 受講生のネットワーキング及び受講生の関心領域の交換交流を行うことを予定しています。経済学を学び直したい方や、初めて学ぶ方を想定したクラスとして、自由な意見交換の広がりを期待しております。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済理論および経済統計
＜研究テーマ＞不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
＜主要研究業績＞"The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," Advances in Economics and Business, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," International Real Estate Review, 18 (1), 2015; "'Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," Journal of International Economic Studies, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," Australian Economic Papers, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.
【Learning Objectives】
This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.
1.First objective - to understand the basic concepts of Economics
2.Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3.Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues
【Learning activities outside of classroom】
As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.
【Grading Criteria /Policy】
This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.
Class participation and in-class contribution: 60%
Reports and assigned tasks: 40%

PHL500P2 – 011（哲学 / Philosophy 500）

環境哲学・倫理学

吉永　明弘

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】
受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017年

【成績評価の方法と基準】
授業内の意見交換での発言（20％）と期末の書評レポート（80％）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P2 – 012（法学 / law 500）

環境法基礎

永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎

備考（履修条件等）：公共政策学と合同
SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（１）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（２）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（１）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（２）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（３）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（４）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（１）（武田真一郎）	環境行政法の展開 (1)環境基本法を概観する。
8	環境行政法（２）（武田真一郎）	(2)環境影響評価法（環境アセスメント法）を概観する。
9	環境行政法（３）（武田真一郎）	(3)排出規制法（大気汚染防止法等）、循環管理法（廃棄物処理法等）を概観する。
10	環境行政法（４）（武田真一郎）	(4)自然環境保護法（自然公園法、景観法等）を概観する。
11	国際環境法（１）（岡松暁子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（２）（岡松暁子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（３）（岡松暁子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（４）（岡松暁子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

【参考書】
奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30％、期末レポート70％。
評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
岡松　暁子
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法
＜主要研究業績＞
『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「海洋環境保護における国家の義務－福島第一原子力発電所からのALPS処理水の海洋放出を契機として」（2025年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。
永野秀雄
＜専門領域＞アメリカ法（特に、サイバーセキュリティ法、環境法、防衛法）
＜研究テーマ＞
米国のサイバーセキュリティ法、米国の環境監査と法、米国の国防授権法
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。
武田真一郎
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞国家賠償　行政訴訟　住民参加制度
＜主要研究業績＞
『異説・行政法(第2版)』（東信堂、単著、2024年）『自治と参加の理論』（東信堂、単著、2024年）『条解・国家賠償法』（弘文堂、共著、2019年）、『反則だらけの辺野古裁判』（東信堂、単著、2025年）

【Outline (in English)】
< Course Outline>

Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
＜Learning Objectives＞
The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom>
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2－013（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地球環境学基礎

佐々木　大輔

備考（履修条件等）：公共政策学と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。

【到達目標】
本授業では、地球規模での環境問題を中心に、その実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（1）気候変動、（2）生物多様性、（3）化学物質汚染、（4）大気環境汚染、（5）水環境汚染、（6）土壌・地下水汚染、（7）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（1）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（2）	エネルギー資源、再生可能エネルギー
第4回	気候変動（3）	緩和策
第5回	気候変動（4）	適応策
第6回	気候変動（5）	気候変動に係る国内外の取り組み
第7回	気候変動（6）	気候変動と防災・減災
第8回	生物多様性	生物多様性の意義、現状と課題、国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第9回	化学物質汚染	化学物質汚染の現状と課題、国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第10回	大気環境汚染	大気環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第11回	水環境汚染	水環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第12回	土壌・地下水汚染	土壌・地下水汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第13回	廃棄物処理	廃棄物処理の歴史と現状、日本における廃棄物の定義・区分、対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業内に実施する期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues primarily on a global scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of the final exam administered during class time (100%).

POL500P2 – 014（政治学 / Politics 500）

国際政治学基礎

青野　利彦

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論１」、国際政治学「国際政治理論」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際政治学とはどのような学問か。この講義では国際政治学の基礎的な考えを学び、現実の国際政治を理解するための基本的な概念や理論について学ぶことを目的とします。

【到達目標】
1. 国際政治学における重要な概念や基礎的な理論について理解し、現実の国際政治を客観的に分析する道具を身につける。
2. 国際政治の出来事を学問的に理解し、思い込みや固定観念にとらわれない見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本として、講義形式で行います。授業では、定期的にリアクションペーパーを提出してもらう予定です。受講者数によってはディスカッション等を適宜取り入れる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国際政治学とはなにか	国際政治学とはなにを、どのように考える学問か。どのように発展してきたか、概略を学ぶ。
2	主権国家体系とは何か	国際政治の舞台となる主権国家体系の成立過程とその性質について、近代ヨーロッパの国際関係を概観しながら検討する。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論の一つであるリアリズムという見方について、その背後にある人間観や哲学を踏まえたうえで解説する。
4	リベラリズム	国際政治学の理論の一つであるリベラリズムについて、その背後にある人間観や哲学を踏まえて解説する。
5	ネオ・リアリズムとネオ・リベラリズム	「科学的」であろうとした1970年代以降の国際政治理論の二つの系譜について解説する。
6	構成主義論（コンストラクティビズム）	（ネオ）リアリズム、（ネオ）リベラリズムの説明力の限界を踏まえて冷戦後に登場した、新たな理論的潮流について説明する。
7	パワーとはなにか	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムという三つの主要理論に関する講義を踏まえて、改めて国際政治学の中心概念である「パワー」について検討する。
8	勢力均衡と同盟	安全保障問題を考える際に必須の勢力均衡、同盟という二つの事象について、理論と歴史を踏まえながら解説する。
9	抑止と核抑止	安全保障問題を考える際に重要な抑止という概念について、核兵器の登場がもたらした影響を踏まえながら、理論と歴史の両面から検討する。
10	覇権安定論と覇権後	イギリスやアメリカのような突出したパワーを持つ国は、国際秩序の形成にどのような役割を果たしたか、歴史と理論の視角から検討する。
11	グローバル化と国際的相互依存	グローバル化として知られる国境を越えた経済的なつながりの拡大は、国際政治の力学をどう変えたのか解説する。
12	政策決定過程論	一国の対外政策はどのように決定されるのか。アリソンが提起した政策決定に関する三つのモデルと、パットナムが提起した「2レベル・ゲーム」モデルを中心に講義する。
13	ナショナリズム	ナショナリズムとはなにか。それは、どのように対外政策と国際関係に影響を与えるのか。理論と歴史の両面から検討する。
14	まとめ	13回の講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義のレジュメの事前予習1時間、講義終了後の復習や参考文献の読解に2時間、合計3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】
講義全体の参考書として、いくつか紹介する。テーマ毎の参考文献はレジュメに記載する。
○国際政治学の入門書・教科書
・大芝亮『国際政治理論－パズル・概念・解釈』（ミネルヴァ書房、2016年）
・藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）
・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）
・山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学: 地球社会を理解するために』（有信堂高文社、2025年）
○国際政治史・外交史
国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史の教科書を手元に置いておくと、事例研究について調べる際に役立つ。例として以下をあげておく。
・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ（第二版）』（有斐閣 2024年）
・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】
授業中のリアクションペーパー提出（30%）および期末試験（70%）の合計100％で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
What is international politics as a field of study? This course offers an introduction to basic technical terms and theoretical models for analyzing international politics. Students are expected to obtain basic knowledge and skills to better grasp the dynamics of world politics.

ARSl500P2 – 015（地域研究（援助・地域協力）/ Area studies(Regional cooperation)500）

国際協力論

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：政治学「国際開発政策研究１」、国際政治学「国際協力政策研究１」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。
　報告対象とする文献については、2026年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第 11,12 回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第 13,14 回	民間企業と国際協力	国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
松本勝男著（2023年）『日本型開発協力　ー途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
　過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
　担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

SES500P2－020（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

サステイナビリティ研究入門

湯澤　規子、金光　秀和、藤田　研二郎、長谷川　直哉、渡邊　誠、佐々木　大輔、櫻井　洋介

備考（履修条件等）：公共政策学と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義はサステイナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。
学生は、今後のサステイナビリティ研究の出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステイナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】
学生はサステイナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステイナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステイナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。
講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステイナビリティ学における幅広い基礎知識を身に着け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サステイナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	イントロダクション／食と農と風景から考えるサステイナビリティ（湯澤）	サステイナビリティ研究入門のガイダンス、およびサステイナビリティに関するフィールドワークの実践と新しい知見を概説する
第3,4回	環境NGO・NPOとパートナーシップの課題（藤田）	環境NGO・NPOの役割と行政をはじめ多様な主体のパートナーシップにおける課題を考察する。
第5,6回	企業経営の視点からGX（グリーントランスフォーメーション）を学ぶ（長谷川）	ブルーカーボン（海洋生態系によるCO2吸収）とネイチャーポジティブ（自然再興）について学ぶ。
第7,8回	地球システムと人間活動（渡邊）	物質とエネルギーの保存と拡散、物質循環とエントロピーなどについて考察する。（サステイナビリティへの熱力学的アプローチ）
第9,10回	気候変動と防災（佐々木）	サステイナビリティの視点から気候変動と防災について学ぶ。
第11,12回	ビジネスと人権（櫻井）	サステイナビリティ経営における「ビジネスと人権」の重要性や企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第13,14回	科学技術と社会／総括・授業内試験（金光）	サステイナビリティを支える技術と社会の関係に注目し、技術がどのように人間の行為や価値判断を方向づけているかを考察する。および、授業内容を総括し、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業最終回に論述式の授業内試験を実施する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. A written in-class exam will be administered during the final class session (100%).

SES500P2－021（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

ＳＤＧｓへの招待【SDGsPlus履修証明プログラム専用科目】

武貞　稔彦、（一社）SDGs市民社会ネットワーク（新田英理子、長島美紀、星野智子）

備考（履修条件等）：公共政策学と合同、SDGs Plus履修証明プログラム申請者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は（一社）SDGs市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

【到達目標】
グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO／NPOが主体的に活動するものと思われがちである。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。
受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。
同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。
最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンスとSDGs総論	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の確認。SDGsの動向に関する解説
第3,4回	セミナー	外部講師による講義
第5,6回	セミナー	外部講師による講義
第7,8回	セミナー	外部講師による講義
第9,10回	セミナー	外部講師による講義
第11,12回	セミナー	外部講師による講義
第13,14回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】
外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）70％、
プレゼンテーション 15%、期末レポート 15％の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】
講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】
SDGsの専門組織である社団法人の理事と途上国援助機関での業務経験のある教員が協働で、コーディネーターを担当する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.
[Learning Objectives]
The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.
[Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a composite evaluation of 70% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 15% presentation, and 15% final report.

POL500P2 – 015（政治学 / Politics 500）

公共政策と持続可能な社会づくり

土山　希美枝

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科が運営しているSDGs Plus履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

【到達目標】
SDGsに関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者がSDGsについて体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「公共政策と持続可能な社会づくり」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的説明、及び「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」（1）	加藤寛之教授担当。この科目に関する簡単な導入の後、①AUGAの典型的な失敗、②ドラマ『あまちゃん』(2013)に描かれるアイドルによる村おこしの成功要因と持続可能性という観点からみた問題点、③実際に生じたマーケティングとファイナンスとコーポレート・ガバナンスの観点から見て興味深い草津温泉再生事例を比較する。合わせて社会人大学院生特有の研究の良さとそれが故に陥りがちな問題点について考える。
第2回	「地域における持続可能なまちづくり(まちおこし)について、マーケティング戦略の視点から考える」（2）	同上
第3回	「都市型社会の政策主体とその関係性」（1）	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとりくみをとりあげ、論じる。
第4回	「都市型社会の政策主体とその関係性」（2）	同上
第5回	「都市計画」（1）	杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。
第6回	「都市計画」（2）	同上
第7回	「トラムで持続可能なまちづくり？」（1）	中筋直哉教授担当。フランスのストラスブールは20世紀の路面電車と異なる「トラム」の導入を軸にまちづくりを進めてきた。前半はそこでの経験からその長所短所を分析する。
第8回	「トラムで持続可能なまちづくり？」（2）	後半は、前半の内容を踏まえて日本の地方都市へのトラム導入の可能性と課題を検討する。
第9回	「多国籍企業のCSR」（1）	多田和美教授担当。グローバル化の進展にともない、多国籍企業のCSRの重要性はますます高まっています。第9,10回の授業では、多国籍企業の国際経営活動が国際社会に及ぼす影響について解説します。また、社会と企業がともに発展するための新たなCSRのあり方について考察します。
第10回	「多国籍企業のCSR」（2）	同上
第11回	「地方創生とSDGs」（1）	廣瀬克哉教授担当。地方創生の取り組み施策のなかで、SDGsは主軸となる位置づけを付与されている。その必然性と有効性について考えたい。
第12回	「地方創生とSDGs」（2）	同上
第13回	「原子力と持続可能な社会づくり」（1）	林嶺那教授担当。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第14回	「原子力と持続可能な社会づくり」（2）	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の討論への参加状況（50％）とコメント（50％）により成績を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート等を通じて学生から意見を得ることができた回もあった。共有すべき意見については担当者間で確認する。

【Outline (in English)】
This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.
Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDa.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

LAW500P2 – 051（法学 / law 500）

政策法務論

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：政治学、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」という概念が唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。地方と中央のこの意識の差に着目し、「自治体政策法務とは何か」について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。
【授業目的】
現在の自治体法務が直面している問題点を検討する。特に、条例論について深掘りする。

【到達目標】
・自治体政策法務のイメージをつかむ。
・条例案立案のポイントをつかむ。
・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・現代の自治体法務が直面している問題を整理し、自治体法務の向上のためには何が必要かを深掘りする。
・特に、条例立案の際に強調される「立法事実論」について深く学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
②授業は、講義を中心とする。講義は、参加者との対話を重視しながら展開する。
③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。
④立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案との対比 3.チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義
7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
神崎一郎「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％・立法演習40％・報告30％。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】
Course outline;
Following the Decentralization Reform of 2000, the concept of "Policy Legal Affairs" (Seisaku Houmu) was proposed and has since been championed primarily by legal officers within local governments. In contrast, this concept has not gained general currency among legal practitioners in central government ministries. By focusing on this discrepancy, this course examines the ideal role and future direction of legal affairs within local municipalities.

Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affiairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P2 － 052（政治学 / Politics 500）

立法学研究

神﨑　一郎

備考（履修条件等）：政治学「立法学研究１」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巌太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に、立法プロセスを見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。
【授業目的】
我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をすることにより、立法における「制度設計」の在り方を習得する。

【到達目標】
・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までのプロセスについて、正確な知識を得る。
・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
②授業は、講義を中心とするが、講義は参加者との対話を重視しながら展開する。必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。
③講義の仕上げとして、立法演習を行う。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
講義録を配付する予定である。

【参考書】
大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方　第２版』有斐閣（2021年）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％・立法演習40％・報告30％。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
条文を参照するため、パソコン・タブレットを持参されたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞立法学
＜研究テーマ＞立法過程論・自治体政策法務論・条例論
＜主要研究業績＞
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)」（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性－議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】
Course outline;

Traditionally, our legal science has been centered on the methodology of legal interpretation. As early as 1946, Professor Izutaro Suehiro pointed out that legislative drafting was conducted through the professional expertise of bureaucrats, and that there had been no scientific inquiry into the capacity and training of legislators. Since then, a significant body of research has been accumulated. Building upon these achievements, this lecture attempts to systematize "Legisprudence."
The objective is to move past simple political commentary on the legislative process and instead examine it using a legal approach that covers everything from fundamental law to Constitutional and Administrative Law.
Course Objectives:
The objective of this course is to provide students with a three-dimensional understanding of the laws that underpin our nation's functions, from their planning and enactment to their implementation. Through critical thinking exercises, students will master the principles of institutional design in the legislative process.
Granding Criteria/Policy;
The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.
Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.
From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P2 – 053（政治学 / Politics 500）

政策評価論

南島　和久

備考（履修条件等）：政治学「行政理論研究１」、公共政策学と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】
本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。
これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の３点である。
①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義はオンラインにて行う。授業は２コマ連続で実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価
第5回	業績測定と自治体①：自治体評価がどのように取り組まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体②：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、３つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、３つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。（但し品切れ中。講義は配付レジメに基づいて行う。）

【参考書】
今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第３版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。

武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巌、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。
山谷清志『日本の政策評価』晃洋書房、2025年。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

【その他の重要事項】
初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima■policy．ryukoku．ac．jp（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、政策学、評価学
＜研究テーマ＞政策評価の制度運用
＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『科学技術政策とアカウンタビリティ』（編著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第３版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】
Since 1990’s, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P2 – 054（社会学 / Sociology 500）

社会調査法１

中筋　直哉

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査士、専門社会調査士資格8科目の最初の科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。とくに公共政策研究に活用する際の社会調査の多様性と、調査実施に伴う倫理上の問題について詳しく学ぶ。

【到達目標】
1.社会調査の公共政策への有用性と課題を理解し、説明できる。
2.社会調査の多様な方法を知り、概略を説明できる。
3.社会調査に伴う倫理上の課題について的確に判断できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。少人数クラスになる可能性が高いので、各回2時限連続のうち前半は講義、後半は講義の重点についての討論とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の目的と意義1	公共政策への有用性と課題についての講義
第2回	社会調査の目的と意義2	公共政策への有用性と課題についての討論
第3回	社会調査の歴史1	近代化に伴う社会問題と社会調査の発展についての講義
第4回	社会調査の歴史2	日本の近代化・現代化と社会調査の発展についての討論
第5回	調査倫理1	対象との関係と成果の公表の規準についての講義
第6回	調査倫理2	対象との関係と成果の公表の規準についての討論
第7回	社会調査方法の選定1	方法の選択とプロセスの統制についての講義
第8回	社会調査方法の選定2	方法の選択と組合せについての討論
第9回	計量的社会調査の古典研究1	『現代日本人の意識構造』を読む
第10回	計量的社会調査の古典研究2	大規模アンケート調査の課題についての討論
第11回	非計量的社会調査の古典研究1	『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む
第12回	非計量的社会調査の古典研究2	現地でのヒアリング調査の課題についての討論
第13回	総括1	まとめの講義と期末筆記試験
第14回	総括2	期末筆記試験の結果をに基づくまとめの討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義・討論で取り上げる文献を予め指示するので予習してほしい。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的参加度40％、期末筆記試験60％。討論で自分の考えを講義を踏まえて論理的に説明し、また筆記試験の課題に同様に答えることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法2〜8」

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)As the first of eight courses in the social researcher and professional social researcher qualifications,we will learn the basics of social research, particularly the diversity of it and its ethics.
(Learning Objectives)Understand and explain the usefulness of social research for public policy, besed on the ethics for informants and the public.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and review in each classes.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:40%, Final exam:60%.

SOC500P2 － 055（社会学 / Sociology 500）

社会調査法２

見田　朱子

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。
まずこの調査法が成立する歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観する。そのプロセスの各段階に生じる実践的課題について詳論し、調査対象の客観項目（属性等）だけでなく主観項目（意識）の調査結果を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】
サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教室での対面形式で実施予定。各回2時限の連続講義。グループ作業を含む実習的な作業をともなう。課題やリポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）＊別途レポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した課題を期日までに用意し、提出すること。授業終了後に参考文献を入手・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加30％、課題提出（レポート）15％×2回、筆記試験40％。

【学生の意見等からの気づき】
・調査実習ではありませんが、量的社会調査の方法を学ぶために必要と考えられるため、実習的作業を予定しています。履修人数によっては、グループ単位で取り組む作業や課題があります。
・社会人履修生の多い講義と認識しており、各年度の履修生の状況を考慮してある程度の対応をします。申し出ていただければと思います。ただし、「（全般的な）仕事との両立が大変」という問題には基本的に、通常の学生の諸事情と同様に個々人での工夫対応が求められます。
・授業当日のパワーポイント資料は、必要があると判断した場合を除き、事前配布はしません。
この授業で提示するパワーポイントの資料は、板書や実習作業の補足としての視覚資料でしかありません。敢えて間違いのある資料を掲示していることもあります。リアルタイムで進める授業内容とあわせて初めて意味をもち、その場で目にしてほしい資料として作成しています。事前に入手して色々と準備する対象ではありません。（パワーポイントの資料を配布することにも、メリットとデメリットを感じています。）
当日に紙に印刷出力したものがほしいという希望には対応します。

【学生が準備すべき機器他】
各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【その他の重要事項】
社会調査士・専門社会調査士資格取得のための認定科目ですが、資格取得以外の目的でも受講に問題はありません。おなじく認定科目の社会調査法Ⅰを事前履修することが推奨されますが、必須ではありません。
なお、量的社会調査の分析方法系列は、社会調査法Ⅱ（本講義）に続き、社会調査法Ⅲ、Ⅳ、Ⅶです。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、社会調査論、近代化論
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA － 40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires.
(Learning Objectives) The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires.
(Learning activities outside of classroom) Writing reports (sometimes with group members) and Reading directed books and papers.
(Grading Criteria /Policy) Positivity to classwork:30%, Reports:15% *2, Final Exam/report:40%

SOC500P2 – 056（社会学 / Sociology 500）

社会調査法３

見田　朱子

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学研究における統計データの利用法。
「統計データ」を読み・書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説する。
さらに「非統計（質的）データ」を読み取り・整理する基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excelおよび無料の統計ソフトR等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】
統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
統計データの情報を要約することができる。
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
統計データをグラフや表によって可視化することができる。
上記の内容を適切な形式で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面形式で、講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。またExcelや統計ソフトRの技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、WordやPowerPoint等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。
具体的なテーマに接し、質疑応答の実践練習をするため、授業内発表の機会も設ける予定である。成績評価は、受講人数にもよるが、授業期間内での小課題と前述の発表およびレポートによる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第3,4回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題
第5,6回	5 分布と統計量1 6 分布と統計量2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第7,8回	7 検定の基礎知識 8 クロス表1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DKとNA ・情報の圧縮
第9,10回	9 クロス表2 10 相関1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第3変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第 11,12 回	11 相関2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第 13,14 回	13 非統計データについて 14　総括	・「量的データ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.
（新版あり。データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定なので未購入でも構いません。）

【参考書】
G.W. ボーンシュテット／D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳, 1992,『社会統計学―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
石川淳志他編，1998,『見えないものを見る力――社会調査という認識』八千代出版.
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】
課題提出によって評価。
課題は、複数回ある小課題（合計40%）、期末の発表（30％）および期末レポート課題（30％）を指す。
ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を10-20％程度取り入れる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy＆Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。例年、他分野から様々な立場の受講生が参加するため、双方向性の必要を強く感じている。必要な進度は確保しつつ、フロアからも気軽に発言して無理なくフォローができる授業運営にしたい。
・質問等の効果はクラス全体で共有することを基本としたい。
・授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。ただし、本講義におけるパワーポイント資料はあくまで授業中（リアルタイム）の視覚的補足資料であるため、授業時間前の配布は予定していない。紙媒体の配布希望には対応する。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】
社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　社会意識、社会調査論、近代化論
＜研究テーマ＞　「幸福」の社会学
＜主要研究業績＞
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA－40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.
Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).
*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P2 – 057（社会学 / Sociology 500）

社会調査法４

藤本　篤二郎

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。基礎的な統計処理とは、記述統計を前提とした推測統計の初歩で、2変数までを扱う。
主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、Rの使用法などである。あわせて、数値データの解釈に必要となる現代社会の諸相についての知識も得る。
大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的ももつ。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の４点である。
①定量的社会調査の基礎知識を得る
②定量的社会調査をともなう学術論文を理解できるようになる
③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC操作の可能な学習室を利用予定。
2コマ連続のクラスだが、1コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。
リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフトRの扱い方	Rの紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R実習１	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクリーニングについて
第6回	R実習２	データ操作の基本・データ取得～データクリーニング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R実習３	表の作成と解読 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方
第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、Rを使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 ２群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定とt検定
第12回	R実習	カイ二乗検定とt検定
第13回	相関係数、共分散、回帰分析	相関係数、回帰分析の考え方と手順
第14回	R実習 まとめ	相関係数の精緻化、回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習は無料の統計ソフトRを使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用させてもらう予定である。また、Rの操作方法についてはWeb上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.（新版あり）

【参考書】
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
片瀬一男・阿部晃士・林雄亮・高橋征仁『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房，2019年.
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習的な小課題30％
授業中の理解・貢献状況10％
期末レポート・発表60％
ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

【学生の意見等からの気づき】
・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。例えば、Excelにおけるドラッグによるナンバリング（Autofill機能）などが一応使える程度、Copy＆Pasteやファイルのダウンロードと保存、テキストデータの扱いなども滞りなくできる程度、を念頭においている。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては必要に応じて相談のうえクラス運営をする予定である。
・社会調査法１～３（特に３）は、必須ではないが既習であることが望ましい。
例年、「３」より先に本講「４」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情にはできる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。さらに、統計ソフトの使用という技術的な慣れの点でも積み重ねの差が出てしまうので、「３」相当の内容を未履修での本科目の履修は非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談は受け付ける。
・授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用に対応できるよう準備したい。ただし、本講義におけるパワーポイント資料はあくまで授業中（リアルタイム）の視覚的補足資料であるため、授業時間前の配布は予定していない。紙媒体の配布希望には対応する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布やお知らせ等には法政大学の学習支援システム（Hoppii）を利用する。
パソコン（Windows）および周辺機器。MacやLinaxでも履修可能だが、授業はWindowsを前提として行う。iPad等のタブレット端末は使用できない。
Excelもしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただしExcel以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。
できれば「R」をインストールしておくこと（講義予定の教室PCにはインストール済み。初回授業で案内予定）。

【その他の重要事項】
・質問等はメール（atsujiro.fujimoto.77@hosei.ac.jp）でも受け付ける。
・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
身体の自己管理論、セクシュアリティ、デジタル・ソーシャルメディア
〈研究テーマ〉
身体管理の社会学
〈主要研究業績〉
・「体験談ブログの分析からみる現代の性的節制への専心過程」『年報社会学論集』2025年，第38号，83-94ページ.
・「監視文化の前史としてのインターネットDIY」『メディア研究』2025年，第107号，113-130ページ.

【Outline (in English)】
This course introduces the skill of quantitative research data. We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P2 – 058（社会学 / Sociology 500）

社会調査法５

中筋　直哉

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
非計量的な社会調査の多様な世界を学び、先行研究を批判的に理解できること、自分で調査を計画できることを目指す。そのために、非計量的な社会調査の多様な方法と得られたデータの質について理解を深める。さらに各自の研究課題への適用についてていねいに検討する。

【到達目標】
1.非計量的な社会調査の多様な方法の概要を理解し、説明できる。
2.非計量的な社会調査のデータの質の特徴を理解し、説明できる。
3.自らの研究課題に適合する非計量的な方法を選択し、社会調査を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で実施。少人数クラスになる可能性が高いので、各回2時限連続のうち前半は講義、後半は講義の重点を自分の研究課題に適用する際の課題についての討論とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	非計量的社会調査の多様な世界1	対象との接近と得られるデータの非定型性についての講義
第2回	非計量的社会調査の多様な世界2	データの質についての討論
第3回	地域社会調査の世界1	日本で固有に発達した地域社会調査についての講義
第4回	地域社会調査の世界2	現代の地域社会を現地調査することについての討論
第5回	生活史法の世界1	日本で固有に発達した生活史法についての講義
第6回	生活史法の世界2	現代人を生活史法で捉えることについての討論
第7回	川喜田二郎とは何者だったのか1	方法の特質と発想法である意味についての講義
第8回	川喜田二郎とは何者だったのか2	現代のデータ分析との異同についての討論
第9回	メディアテクスト分析の発達1	内容分析からAI活用に至る発達史についての講義
第10回	メディアテクスト分析の発達2	現代のメディアテクスト分析についての討論
第11回	当事者研究の可能性1	自分を研究することの可能性と課題についての講義
第12回	当事者研究の可能性2	現代における当事者研究の可能性についての討論
第13回	総括1	まとめの講義と論述式筆記試験
第14回	総括2	論述式筆記試験の結果を踏まえたまとめの討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義・討論で取り上げる文献を予め指示するので予習してほしい。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的参加度40％、期末筆記試験60％。討論で自分の考えを講義を踏まえて論理的に表明し、また筆記試験の課題に同様に答えることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1〜4、6〜8、とくに6と8」

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析
〈主要研究業績〉『群衆の居場所』(2005,新曜社).「都市社会学のコミュニティ論」吉原直樹編『都市とモビリティーズ』(2023,ミネルヴァ書房).

【Outline (in English)】
(Course outline)In this course, we will learn about diverse world of non-metric social research.
(Learning Objectives)Understanding of various methods of non-metric social research and quality of the data obtained.
(Learning activities outside of classroom)Prepare and Review in each classes.
(Grading Criteria /Policy)Active participation:40%,Final exam:60%.

SOC500P2 – 059（社会学 / Sociology 500）

社会調査法６

見田　朱子

備考（履修条件等）：社会学「調査研究法」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを収集／分析する思考法を実践的に習得する。特に調査企画・設計のプロセスに主軸を置いた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、様々な社会調査手法の利点／欠点、意義／限界の理解を促す。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に応じた調査デザイン（データ収集／分析手法）を構想・発表し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】
1.社会調査の実施に向け、研究計画書を作成するための実践的な思考法を身につけている。
2.量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて調査票の作成を行える。
3.社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4.受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づいた論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1.研究計画書の作成プロセスを通じて調査研究の基礎的な知識について解説し、実習を中心にして研究の方法を検討する。
2.グループワークおよび個別単位での実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な調査票の作成を行う。
3.グループワークによる実習を中心に、方法論的立場の違う仮説を設定して、それに基づいて討論をしながら質的調査の企画・設計を行う。
4.受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。
授業は対面で実施する。授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すため、リアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論1：社会学・政策科学と社会調査	・調査の背景、目的、意義と限界
2	総論2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで ・データの収集と分析 ・データとは何か
3	総論3：社会調査の諸類型	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
4	総論4：社会調査の倫理と真正性	・ラポールの構築 ・社会調査に特有の倫理
5	グループワーク1：グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計①	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・データの収集方法①：サンプリングの対象・方法
6	グループワーク2：グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計②	・調査票の作成、ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表
7	グループワーク3：調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析①	・調査データの整理：度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	グループワーク4：調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析②	・クロス集計分析、分析結果の発表
9	グループワーク5：事例から構想する質的調査の企画・設計①	・データの収集方法②：聞き取り調査、フィールドワーク ・社会構造主義／構築主義
10	グループワーク6：事例から構想する質的調査の企画・設計②	・分析の方法：ライフヒストリー分析、内容分析、KJ法と質的統合法、 ・分析、企画・設計策定結果の発表
11	ワークショップ1：質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較①	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	ワークショップ2：質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較②	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	調査デザインの発表と相互討論1	・受講者各自の問題関心に基づいた調査デザインを発表し、その妥当性を検討する（前半）
14	受講者各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論2	・受講者各自の問題関心に基づいた調査デザインを発表し、その妥当性を検討する（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき3-4時間を標準と想定している。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
授業内で適宜文献を指示する。

【参考書】
授業内で適宜文献を指示する。
分析に用いる資料については授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加と貢献（リアクションペーパーを含む）：60 %、レポート課題：40 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、アンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】
第1回目の講義時に確認するが、パソコンもしくはタブレット等の機器とインターネット接続は自習の際にも学習環境として必要になる。またHoppiiあるいはGoogle Classroomを通じて資料配布や課題提出等をするので、アクセスが必須となる。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1・2・3・5・8」

【専門領域】
社会意識、社会調査論、近・現代化論、社会指標論

【研究テーマ】
「幸福」の社会学

【主要研究業績】
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series－World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA－40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend approximately four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(40%), short report(30%) and in class contribution(30%).

SOC500P2 – 050（社会学 / Sociology 500）

社会調査法７

藤本　篤二郎

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。
昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた。反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、分析手法の技術としての習得と、同程度あるいはそれ以上に、各手法技術の基本的な考え方や特徴、それが社会調査のなかでどのように利用されるものか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。
具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。
これらの分析手法は、統計パッケージRによる実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得だけではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解し報告できるようになることに重点を置く。

【到達目標】
本講義の目標は、多群間比較や線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方までを修得することである。同時に、統計パッケージRを用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明や利用ができるようになることがで単位修得の条件である。
また、本講義はあくまでも社会調査法の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。
具体的には、表計算ソフトExcelのほか、統計ソフトとしては無料のRを用いる。Rについては基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的分析については社会調査法３、４などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではないが、未収得の場合は授業内容の理解が実質的に非常に困難になり、課題対応に割く労力と時間も増える）。
履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備1	社会学と多変量解析、R紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。 標準化、共分散と相関係数について。
2	多変量解析に向けた準備2	Rの操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量とOLS推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果のt検定・F検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
11	主成分分析の実習	主成分分析表の図示と解釈
12	因子分析の実習	因子分析表の解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきものか。選び方、利用の仕方の補足と確認。 判別分析とクラスター分析の紹介。
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業各回の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉野勇『入門・社会統計学: 2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社，2017年.
（新版あり。データ資料を利用します。web上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、購入必須ではありませんが、授業の範囲以上に参考になる文献です。）

【参考書】
『入門・社会統計学』サポートウェブ（http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html）
片瀬一男・阿部晃士・林雄亮・高橋征仁『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房，2019年.
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献と理解度（20％）
課題（80％）
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。出欠席、遅刻早退は成績評価に影響しないが、出席回数が全体の3分の1以上の場合、単位認定が困難になる場合がある。
課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。
これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。受講生の事情にはできるだけ対応したクラス運営をしたい。ただし、「（全般的な）仕事との両立が難しい」といった状況には通常の学生同様に各自での工夫と調整の上での履修を望む。

【学生が準備すべき機器他】
実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、ExcelとRのインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。
授業予定の教室には、Rインストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへのRのインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】
本講は、（専門）社会調査士資格のための認定科目に相当する。
シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。
社会調査法１～４あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法４相当）については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。
オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
身体の自己管理論、セクシュアリティ、デジタル・ソーシャルメディア
〈研究テーマ〉
身体管理の社会学
〈主要研究業績〉
・「体験談ブログの分析からみる現代の性的節制への専心過程」『年報社会学論集』2025年，第38号，83-94ページ.
・「監視文化の前史としてのインターネットDIY」『メディア研究』2025年，第107号，113-130ページ.

【Outline (in English)】
Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)
We learn:
Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.
It is a practical class using a statistical package soft "R".
Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P2 – 051（社会学 / Sociology 500）

社会調査法８

見田　朱子

備考（履修条件等）：社会学「質的資料分析法」、公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、フィールドワーク（現地踏査、街歩き、参与観察など）や聞き取り調査結果の整理とデータ化から、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析と解釈までの能力を、意識と感性の両レベルから習得する。
また、質的データの収集の方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】
1.質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2.KJ法、インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3.質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4.質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すため、リアクションペーパーを提出してもらう。Hoppiiを利用して資料配布や課題提出を設定する。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い、マルチメソッド法・混合研究法の効用
第2回	総論2:質的調査の調査技法（質的データの収集とプロセス）	・フィールドワーク（参与観察、現地観察、街歩きなど）、聞き取り調査、ドキュメント分析など
第3回	総論3:質的調査の分析技法（質的データの分析と知見の抽出）	・インタビューからの内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、KJ法と質的統合法
第4回	総論4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置、コンフリクトな語りの対処
第5回	グループワーク1：先行研究の発掘、整理、利用	質的調査を具体的に企画するにあたって、その前提となる先行研究の扱い方を学ぶ
第6回	グループワーク2：聞き取り調査の実習体験	履修生内相互に聞き取り調査実習。調査する側とされる側の簡易的な疑似体験
第7回	グループワーク3：質的調査結果の整理とデータ化	フィールドノートの作成、書き起こしと逐語録、収集したデータの把握
第8回	グループワーク4：質的調査結果の分析方法	KJ法によるデータの整理と分析、質的統合法の簡易体験、分析結果の発表と討論
第9回	グループワーク5：ドキュメント分析の実践	手紙の分析論文とKHCorderの紹介：テキストデータから見えてくるもの
第10回	グループワーク6：内容分析の実践	テレビドラマと原作の表現相違：映像データから見えてくるもの
第11回	グループワーク7：会話分析の実践	社会構築主義に基づく論文―：会話データから見えてくるもの
第12回	グループワーク8：マルチメソッド分析の実践	混合研究法による研究事例―研究デザインのデータから見えてくるもの
第13回	相互討論①	受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第14回	総合討論②	質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業1回につき3～4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。
なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】
適宜授業中に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表、討論を含む）30 %、リアクションペーパー20 %、レポート課題（発表資料の提出を含む）50 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更につき、アンケートフィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しないが、Hoppiiへのアクセスや発表資料・レポートの作成にはパソコン等の機器類とインターネット接続環境が必要になる。

【その他の重要事項】
関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法1・2・3・5・6」

【専門領域】
社会意識論、社会調査論、近・現代化論、社会指標論

【研究テーマ】
「幸福」の社会学

【主要研究業績】
「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series―World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA – 40，東京大学社会科学研究所，pp.96-117，2009年.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.
By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

SOS500P2 – 055（その他の社会科学 / Social science 500）

地域コンサルティング論

佐谷　和江

備考（履修条件等）：公共政策学と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①この授業では、実際の地域コンサルティング事例を通じて、その背景やプロセス、そして得られた成果や課題を学ぶ。
②また、コンサルティング技術の実践演習を行う。
③地域の人々による自治（地域レベル、市レベルなど）の枠組みの中で、コンサルティングがどのように機能するか、その役割と重要性について理解を深める。

【到達目標】
①ケーススタディの分析能力の向上：この授業を通じて、地域コンサルティングの基本理論と実践方法を学び、様々なケーススタディを分析する能力を養う。
②スキルの体験：基本的なコンサルティングスキルを体験し、将来のキャリア設計の一助とすることができる。
③ローカルガバナンスの理解と見解の形成：また、ディスカッションを通じて、地域コンサルティングの意義と地域の人々による自治（ローカルガバナンス）におけるその役割について自らの見解を形成し、表現する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。 地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、ＮＰＯ、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。
本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。
授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業をケースにコミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。
5	地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング	墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
6	社会貢献する人材育成のコンサルティング	江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
7	講義の総括とレポート発表	これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ケースのＵＲＬを下記に示すので、事前に概要を把握する。
○第２回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援
http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/
港区まちづくりマスタープラン改定支援
https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html
○第３回：新宿区落合三世代モデル事業
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html
○第４回：横浜市まち普請事業　左近山地区
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html
○第５回：墨田区玉の井地区
https://teratama.tokyo/
○第６回：江戸川総合人生大学
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】
①都市のイメージ／ケヴィン・リンチ／1960、翻訳1968、新版2007／岩波書店
②アメリカ大都市の死と生／ジェイン・ジェイコブス／1961、翻訳2010／鹿島出版会
③人間の街: 公共空間のデザイン／ヤン・ゲール／2014／鹿島出版会
④地方創生大全／木下 斉／2016／東洋経済新報社
⑤都市計画とまちづくりがわかる本／2017／彰国社
⑥新データで読む地域再生 「人が集まる県・市町村」はどこが違うのか／日本経済新聞社地域報道センター／2024

【成績評価の方法と基準】
平常点40％：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。
討論への参加30％：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。
レポート・発表30％：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】
紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
＜研究テーマ＞
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
＜主要研究業績＞
○「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと／2021／建築ジャーナル
○都市計画の構造転換　整・開・保からマネジメントまで／2021／鹿島出版会
○BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザイン―世界をつなぐ15の原則／2018／ブックエンド

【Outline (in English)】
● Course outline
① Through real-world regional consulting cases, this course will explore their backgrounds, processes, outcomes, and challenges.
② It will also include practical exercises in consulting techniques.
③The course aims to deepen understanding of how consulting functions within the framework of local self-governance (at regional and city levels), focusing on its role and importance.
● Learning Objectives
① Case Study Analysis Skills: Learn basic theories and practical methods of regional consulting, and develop the ability to analyze various case studies.
②Skill Application: Gain experience in basic consulting skills, aiding future career planning.
③ Understanding and Formulating Opinions on Local Governance: Through discussions, enhance the ability to form and express personal views on the significance of regional consulting and its role in local governance.
● Learning activities outside of classroom
You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.
The standard preparation and review time for this class is 2hours each.
● Grading Criteria /Policy
Ordinary points (40%)
Evaluate by actively learning theory and methodology
Participation in discussion（30％）
Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills
Report and presentation (30%)
The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P2 – 056（その他の社会科学 / Social science 500）

ファシリテーション演習

徳田　太郎

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義を行う。
＊各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回(1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）
第3回(2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回(2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回(3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回(3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回(4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回(4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回(5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第 10 回(5-後)	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約の技術を学ぶ	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
第 11 回(6-前)	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
第 12 回(6-後)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第 13 回(7-前)	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第 14 回(7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各120分程度）
・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊 『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約60%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約40%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】
受講者同士の話しあいを中心にした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
＜研究テーマ＞
熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ
＜主要研究業績＞
・『〈熟議投票〉の政治学：アイルランドの憲法改正にみる民主主義の変革』明石書店、2026年
・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14号、2020年
・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す6つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, in class contribution: 40%.

POL502P2 – 057（政治学 / Politics 500）

政策研究概論（外国語）※中国語

毛　桂榮

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策に関する基礎文献を中国語などで講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。
文献は、中国語、日本語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を読み、理解するように心がけていきます。
なお、この科目は、公共政策論を中国語を利用しながら勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】
以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献１５本以上を熟読するようにします。公共政策分析・研究の基本・手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用しながら、講読、解読・解説、また討論します。ゼミの最終回（この予定は履修者の数により適宜調整）においては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本は、対面授業です。
（１）新型肺炎の流行により、一部オンライン授業はあるが、本授業は、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
（２）もちろん、柔軟に「オンライン」も、必要に応じて調整します。
（３）ゼミの進め方：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
（4）勉強に関する質問は、（本システム、あるいはLINEなどを通じて）常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用をしてください。
「注意」：メールで連絡する場合、maoguirong@gmail.comを使用する。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。配付資料の確認、また、資料の解説	文献「若い大学院生へ」を事前に配布います。当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能です。
第2回	（米国）行政学の研究史、公共政策論の先行研究・研究史について	配布資料（システムにアップ）の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	（米国）行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第４章、日本語と中国語を講読。資料は事前配付。
第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	ガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	（1）日本の行政学研究と教育,（2）日本の公共政策研究の歴史	中国語資料「日本行政学史」（公開論文、毛） 日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文
第8回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第9回	政策決定における制度、利益など	（1）政策決定における制度・多様な制度論、（2）政策決定における利益 の論文各1篇
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念、「影響力」と「支配」の概念	権力論に関する日本語資料、また、英文資料（参考）を講読。
第11回	（1）政策形成における政治家と官僚 （2）官僚制の概念	（1）Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。（2）資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第12回	政策形成モデル（1）過程モデル（2）官僚政治モデル（3）修正ゴミ缶モデルを中心に	モデル紹介の資料を読む。特に修正ゴミ間モデル、政策の窓モデルをじっくり勉強する。資料は、日本語、中国語
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章２つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西尾『行政学』（新版）（中国語訳あり）の政策研究部分、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）の部分、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版、新版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】
日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】
授業での報告４０%、討論６０%を基本に、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。

相談により、講読の資料を適宜調整します。

【学生が準備すべき機器他】
配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。授業時、毎回PCを持参すること。資料の印刷は不要。

【その他の重要事項】
1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、maoguirong @ gmail.com を利用します。必要があれば、ラインも利用します。法政大学から付与されたメールアドレスを使用していない。
2、注意：以上の14回分の予定は、履修者の状況に応じて、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっていきます。
3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

【担当教員の専門分野等】
行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

【Outline (in English)】
This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books in Chinese, Japanese, and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.
Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

SOS500P2 – 058（その他の社会科学 / Social science 500）

公共政策論文技法1

白鳥　浩

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】
初学者にも論文の書き方がわかる。公共政策分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
初めて論文を書く方にはこちらをお勧めする。博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、やさしく先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなろう。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。
変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ(白鳥)	政策科学の定義と歴史，政策と学術研究の関係
第3,4回	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析1(宮崎)	問題提起と分析
第5,6回	理論的フレームワークとデータの収集1(宮崎)	フレームワークの提示，データへのアクセス
第7,8回	分析結果と学会内での研究上の位置1(宮崎)	分析の位置，研究の意義
第9,10回	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析2(笹米地)	問題提起と分析
第 11,12回	理論的フレームワークとデータの収集2(笹米地)	フレームワークの提示，データへのアクセス
第 13,14回	分析結果と学会内での研究上の位置2(笹米地)	分析の位置，研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中適宜指示

【参考書】
講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
出席および毎回の講義への取り組み30％，レポート70％。レポートについては，各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まずは入学してこちらを履修されることをおすすめする。初めて論文を書く初学者を対象に、論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】
白鳥　浩
＜専門領域＞
現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論
＜研究テーマ＞
1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー
＜主要研究業績＞白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家―シュタイン・ロッカンの政治理論―』東海大学出版会、2002年
Hirosi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon aprés la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【担当教員の専門分野】
笹米地真理
＜専門領域＞政策過程。国際政治。
＜研究テーマ＞国際化時代の東アジアの分析。
＜主要研究業績＞
笹米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

【担当教員の専門分野】
宮崎一徳
＜専門領域＞ 政策過程
＜研究テーマ＞ 議員立法、多元的政策提言、政治主導と国会の役割
＜主要研究業績＞
宮崎一徳『議員立法の役割』法政大学学術機関リポジトリ、2018年3月。
宮崎一徳「「変換型」議会の表出」『日本政治法律研究第3号』2021年3月。
宮崎一徳「附帯決議の分析」『法政論叢58巻1号』2022年。

【Outline (in English)】
This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.
The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P2 – 061（その他の社会科学 / Social science 500）

学術的文章作成演習（基礎）

西谷内　博美

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「研究」の一般的な作法と技術を習得することを目的とします。つまり、今後、各指導教員の下で専門的な研究を進めるための土台となる、社会科学の研究に共通する基本的な作法と技術を学びます。
「基礎」では、「勉強計画」ではなく「研究計画」を作成できるようになることを目指します。つまり、「研究」のモードを獲得し、その上で研究の主要な要素を論理的に組み立てる能力を養うことが最終的な目標です。この段階では、研究内容の卓越性よりも、形式的・論理的な完成度をより重視します。

【到達目標】
・「勉強」ではなく「研究」のモードを獲得する。つまり、学術的に意味のある（と説明しうる）オリジナルな問いを設定し、それに答える有望な（と説明しうる）オリジナルな道筋を構想できる。
・先行研究の蓄積の上に、自分の研究を位置づけることができる。つまり、「科学的貢献」の意味が理解できる。
・研究方法を記述できる。一方では調査法を端的に説明でき、他方では調査の具体的な段取りを構想し説明できる。
・研究のタイトル、主題、主張、論拠や根拠に一貫性を持たせることができる。つまり、キーワードを安定的に揃えることができる。
・以上の要素を踏まえて研究計画を作成できる。つまり、研究のタイトル、主題、主張、論拠や根拠、調査方法、先行研究レビューといった要素を統合的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「学術的文章作成演習（基礎）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この科目は演習です。つまり、講義よりもエクササイズやグループワークが多くなります。とくに、宿題の成果を持ち寄り、授業内でピアインストラクションを実施することが主な進め方です。その際に課題へのフィードバックもなされます。
以下の授業計画は暫定的なもので、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／人類の共同作業	・授業の内容と進め方を共有します。 ・論文の型や意義を理解する（テキスト第2章） ・目標値の確認（テキスト第8章）
第2回	主題と対象	・主題と対象の使い分けを理解する（テキスト第3章） ・主題を絞り、先行研究リストを作成する（テキスト第4章）
第3回	ディシプリン	・ディシプリン（学問体系）の意味を理解する（テキスト第6章） ・「論文全体を貫く理論枠組み」という言い回しを、肌感覚で理解し、実践できるようにする
第4回	方法（メソッドとレシピ）	・社会科学でよく使われる実証的調査の方法を概観する（テキスト第7章） ・調査設計の方法を理解し実践する（テキスト第5章）
第5回	構成と仕上げ	・研究計画とプレゼンテーションの要領を確認（テキスト第8章） ・最後のチェックポイントを確認する（テキスト第11章） ・その他、必要に応じて復習
第6回	プレゼンテーション①	・研究計画（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション
第7回	プレゼンテーション②／ポストテスト	・研究計画（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション ・ポストテストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
毎回の授業に一定量の宿題（予習課題や復習課題）が出されます。授業内では、持ち寄った宿題の回答をもとに進行するため、宿題は必ず実施してください（未実施の場合、授業への参加が難しくなります）。
また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
小熊英二, 2022,『基礎からわかる――論文の書き方』講談社.

【参考書】
シカゴ大学出版局編集部 編, 2018,『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』慶應義塾大学出版会.
佐渡島紗織・吉野亜矢子 , 2021,『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房.
井下千以子, 2019,『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会.

【成績評価の方法と基準】
研究計画書とプレゼンテーション30％、平常点70％。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。
―授業への参加と貢献　30 ％
―宿題　30 ％
―リアクションペーパー10 ％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、理論と実践の接続にやや課題があった可能性があります。今年度は、実践を中心に据えて授業を再構成することで、自分事としての実践的理解の深化を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCをご準備ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総 合文化研究』20 : 55-63.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.
2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】
（Course outline）The goal is to acquire the general knowledges and techniques of "research". Specifically, this course will teach the fundamental practices and techniques common to science (especially social science), which will serve as the foundation for conducting specialized research under the guidance of future advisors.
In the "Fundamentals" course, the goal is to be able to create a "research plan," not just a "study plan." In other words, the ultimate objective is to acquire the mode of "research" and, based on that, develop the ability to logically structure the key elements of research. At this stage, greater emphasis will be placed on the formal and logical quality of the research plan, rather than the excellence of the research content itself.
（Learning Objectives）
・Acquire the mode of "research," not just "study." In other words, be able to formulate an original question that is academically meaningful, and devise a promising original approach to answer it.
・Position your research within the body of existing literature. In other words, understand the concept of "scientific contribution."
・Be able to describe your research methodology. On one hand, be able to explain the research methods concisely, and on the other hand, be able to devise and explain the specific steps of the research.
・Ensure consistency in your research's title, subject, argument, and evidence. In other words, be able to maintain stable key terms throughout.
・Based on the above elements, be able to create a research plan. In other words, be able to integrate the elements of your research's title, subject, argument, evidence, research methodology, and literature review.
（Learning activities outside of classroom）Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）Rearch plan and Presentation (30%), Class Contribution (30%), Assignments (30%), and Reaction Paper (10%).

SOS500P2 – 062（その他の社会科学 / Social science 500）

学術的文章作成演習（応用）

西谷内　博美

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「研究」の一般的な作法と技術を習得することを目的とします。つまり、今後、各指導教員の下で専門的な研究を進めるための土台となる、社会科学の研究に共通する基本的な作法と技術を学びます。
「応用」では特に、「summary（まとめ）」ではなく「argument（議論）」を書けるようになることを目指します。つまり、「自分の主張」を持ち、それを説得力のある形で展開できること、さらに、その議論を論理的に整理して提示できることを最終目標とします。この段階では、議論の内容そのものの優劣よりも、形式的・論理的な完成度をより重視します。

【到達目標】
・「自分の主張」や「論証責任」の重要性を理解し、実践できるようになる。つまり、問いを設定し、自分の主張（解）を導き出し、それを論証できる。
・パラグラフ・ライティングができるようになる。つまり、自分の考えを整理し、端的かつ論理的に表現できる。
・以上の要素を踏まえて、小論文を執筆できるようになる。つまり、「自分の議論」を構築し、それを理路整然と表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サスティナビリティ学専攻「学術的文章作成演習（応用）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この科目は演習です。つまり、講義よりもエクササイズやグループワークが多くなります。とくに、宿題の成果を持ち寄り、授業内でピアインストラクションを実施することが主な進め方です。その際に課題へのフィードバックもなされます。
なお、「応用」ではマインドマップツールを用います。
以下の授業計画は暫定的なもので、受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整します。
また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論文の型	・授業の内容と進め方を共有します。 ・論文の特徴を理解する（テキスト第1章）
第2回	論証の技法／論証の練習①思考の整理	・論証の技法を理解する（テキスト第9章） ・マインドマップを用いた思考の整理
第3回	論証の練習②パラグラフ・エッセイ	パラグラフ・エッセイの分析・添削・作成など
第4回	論証の練習③論文	学術論文の分析・添削・作成など
第5回	スタイルガイド／文献収集	・資料収集の方法を確認する（テキスト第4章） ・引用の方法を理解し練習する
第6回	論証の練習④期末小論文	自分の小論文（期末課題）の検討
第7回	プレゼンテーション／ポストテスト	・自分の小論文（期末課題）のプレゼンテーションとピアインストラクション ・ポストテストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
毎回の授業に一定量の宿題（予習課題や復習課題）が出されます。授業内では、持ち寄った宿題の回答をもとに進行するため、宿題は必ず実施してください（未実施の場合、授業への参加が難しくなります）。
また、予習および復習としてテキストの該当箇所を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
小熊英二, 2022,『基礎からわかる――論文の書き方』講談社.

【参考書】
シカゴ大学出版局編集部 編, 2018,『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』慶應義塾大学出版会.
佐渡島紗織・吉野亜矢子 , 2021,『これから研究を書くひとのためのガイドブック第2版』ひつじ書房.
井下千以子, 2019,『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会.
吉岡友治, 2015,『シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術: 世界で通用する20の普遍的メソッド』草思社.

【成績評価の方法と基準】
小論文とプレゼンテーション30％、平常点70％。平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。
―授業への参加と貢献　30 ％
―宿題　30 ％
―リアクションペーパー10 ％

【学生の意見等からの気づき】
今年度は、基礎的な練習はほどほどにして、学術論文を題材とした練習により多くの時間を割けるように授業を再構成してみます。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続可能なPCをご準備ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
＜研究テーマ＞廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
＜主要研究業績＞
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林 』12: 1-18.
2022「日本における大学ライティング教育の変遷」『東京電機大学総 合文化研究』20 : 55-63.
2009「廃棄物管理における慣習の逆機能」『環境社会学研究』15: 89-103.

【Outline (in English)】
（Course outline）The goal is to acquire the general knowledges and techniques of "research". Specifically, this course will teach the fundamental practices and techniques common to science (especially social science), which will serve as the foundation for conducting specialized research under the guidance of future advisors.
In the "Application" course, the aim is not to write a "summary," but to develop the ability to create an "argument." In other words, the final goal is to have your own position, develop it in a persuasive manner, and present the argument logically and coherently. At this stage, greater emphasis will be placed on the formal and logical quality of the argument, rather than the excellence of the content itself.
（Learning Objectives）
・Understand the importance of "your own argument" and "burden of proof," and be able to apply them. In other words, be able to set a question, derive your own argument (solution), and substantiate it logically.
・Be able to write in paragraphs. That is, organize your thoughts and express them concisely and logically.

・Based on the above elements, be able to write an essay. In other words, be able to construct your "own argument" and present it in a clear and logically structured manner.
（Learning activities outside of classroom）Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s) and read the relevant chapter(s) from the text. It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）Term Essay and Presentation (30%), Class Contribution (30%), Assignments (30%), and Reaction Paper (10%).

LAW500P2 – 104（法学 / law 500）

環境私法

永野　秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、学生は民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】
　この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。修士の方は、この視点で受講して頂きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　まず、環境私法で最も基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。
　これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。
最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。
また、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（１）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（２）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（３）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（４）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（１）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（２）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物をHoppiから配布します。

【参考書】
大塚直『環境法（第４版）』（有斐閣、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
　授業内での発表、議論への参加・貢献度30%、期末レポート70％。期末レポートは、環境私法のテーマの中から1つを取り上げ、法律論文等を3つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4で10頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.
＜Learning Objectives＞
The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.
< Learning Activities outside of Classroom>
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy＞
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

LAW500P2 － 110（法学 / law 500）

環境政策法務と条例

朝賀　広伸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　環境政策法務における条例の果たすべき役割は大きく、市民の身近な生活の実態に基づいた施策によって、環境行政はよりよく発展することができます。本講義では、環境政策法務における条例の果たすべき役割を現実の条例制度を通して、環境政策と条例に係る基本的知識を学びます。
　受講される学生の皆様が、環境政策法務における条例の果たす役割を理解し、条例の現状を分析し、条例制度の課題を発見し、施策の検討を行い、改善のための新たな対策の提案などができるようになることを目的とします。

【到達目標】
　本講義では、環境政策と条例に関する基本的知識を修得し、条例と法律との関係、条例規制の実効性、条例における計画の役割などについて説明できる力を身につけていただきます。
　上記の目標を達成するために、各学生の皆様は、関心のある環境政策に係るテーマについて調べて、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案を授業内で簡単に報告し、双方向の議論を通して、到達度を測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・環境政策と条例に関する基礎的知識を修得するために、テキストを中心に演習形式で進めます。各自のテーマを設定し、簡単なレジュメを作成し、授業内で報告をしていただきます。
・授業内での双方向の議論を通して、理解を深めていきます。
・授業形式：対面授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 都道府県と条例	都道府県の位置づけと権限 地方自治体が定める条例
第2回	地球温暖化対策条例の制度と運用	温暖化防止に関する法律と条例 温暖化対策条例の全国的な動向と特徴
第3回	廃棄物条例の制度と運用（１）	廃棄物処理法と条例との関係
第4回	廃棄物条例の制度と運用（２）	都道府県の廃棄物条例の動向と全体的な特徴
第5回	自然環境保全条例の制度と運用	自然環境保全等の法制度
第6回	環境影響評価条例の制度と運用（１）	環境影響評価法の手続および条例との関係
第7回	環境影響評価条例の制度と運用（２）	都道府県等における環境影響評価条例の概要
第8回	公害防止条例の制度と運用（１）	公害防止に関する条例制度 大気汚染防止に係る規制対策
第9回	公害防止条例の制度と運用（２）	水質汚濁防止に係る規制対策
第10回	公害防止条例の制度と運用（３）	条例による水質規制の事例
第11回	公害防止条例の制度と運用（４）	土壌汚染対策に係る規制・対策
第12回	公害防止条例の制度と運用（５）	騒音防止に係る規制対策
第13回	公害防止条例の制度と運用（６）	振動防止、地盤沈下防止、悪臭防止に係る規制対策
第14回	再生可能エネルギーの導入促進と規制対策	再生可能エネルギーの普及と法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『環境条例の制度と運用』,田中充編,信山社2015年,2600円

【参考書】
環境法政策を理解するための書として、
『コンパクト環境法政策』,柳憲一郎著,清文社2015年

【成績評価の方法と基準】
授業貢献度（80%）：授業時のディスカッション
レポート（20%）：関心のある環境政策に係るテーマを選び、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案について調べて、授業内で報告する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者でも安心して受講できるように、受講生の関心テーマに近づけた授業運営に心掛けたいと考えております。
また、最新の情報も適宜お伝えさせていただきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
行政法および環境法に関連が深い授業となりますが、初学者にも理解できるように進めていきたいと考えております。気軽に質問できる雰囲気づくりに努めてまいります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境法
＜研究テーマ＞
環境法政策に係る総合研究
＜主要研究業績＞
・『環境法研究第20号』大塚直編,信山社2024年
・『気候変動を巡る法政策』大塚直編,信山社2023年
・『環境法研究第13号』大塚直編,信山社2021年
・「イギリスにおける気候変動への適応法制」環境管理第57巻第5号,産業環境管理協会2021年
・『司法試験の問題と解説』「環境法」（日本評論社2020年・2019年・2018年・2017年
・『環境法判例百選 第3版』有斐閣2018年
・「最新の環境アセスメント法の動向と課題」人間環境問題研究会編,有斐閣2015年
・『新司法試験論文式問題と解説』中央大学真法会編,法学書院2018年・2012年
・『演習ノート環境法』浅野直人・柳憲一郎編,法学書院2010年
・「英国における土壌汚染法の概要」商事法務研究会2009年
・「Legislation related to groundwater in the EU: background and current status
」UNESCO2009年
・「英国のリスク管理と予防原則」季刊環境研究No.154,2009年
・「EU及び英国の地下水管理制度」明治大学法科大学院論集 第3号,2008年
・『多元的環境問題論』柳憲一郎編,ぎょうせい2006年
・『オランダ環境法』国際比較環境法センター2004年
・『環境法辞典』有斐閣2002年
・『京都議定書』シュプリンガーフェアラーク2001年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this lecture, students will learn about environmental policy legislation and ordinance. For example, students will acquire basic knowledge on the role of ordinance in environmental policies, the actual ordinance system, environmental policies and ordinance.
（Learning Objectives）

Students will acquire basic knowledge about environmental policy and ordinances and be able to explain the relationship between ordinances and laws, the effectiveness of regulations by ordinances, and the role of planning in ordinances.
（Method）
In order to acquire basic knowledge of environmental policies and regulations, the class will be conducted in an exercise format with a focus on the textbook. Students will be assigned a topic, prepare a simple resume, and report it in class.
We will deepen our understanding through interactive discussions in the class.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
・Class contribution (80%): Class discussions and resumes.
・Brief report assignment (20%): Select a theme related to local environmental policy, and conduct research on (1) problem setting, (2) analysis of the current situation, and (3) proposals for countermeasure methods, and make a brief report in class.

LAW500P2 – 127（法学 / law 500）

国際環境法

岡松　暁子

備考（履修条件等）：SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成・発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際社会における環境問題の本質を国際法的側面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。判例については、受講者による発表と全体討論も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の形成と展開	国際環境法へのアプローチの仕方、国際環境問題の特徴の変遷とそれに対応した国際環境法の生成について概観する。
第3,4回	国際環境法の性質、国際環境法の制度化	国際環境法の性質とそれに対応した定立形式、制度化について検討する。
第5,6回	国際環境法の手続的義務、国際環境法上の義務の履行確保	国際環境法に特徴的に見られる手続的義務と、国際環境法上の義務の履行確保制度について考察する。
第7,8回	受講者による発表と討論①	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第9,10回	受講者による発表と討論②	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第 11,12回	受講者による発表と討論③	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第 13,14回	日本と国際環境問題	日本に大きな影響のある国際環境問題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
その他、適宜講読文献を指示する。

【参考書】
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50％）、発表（30％）、討論（20％）

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
受講者の人数により、授業の方法を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法
＜主要研究業績＞
『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before and after the class.
The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

POL500P2 – 138（政治学 / Politics 500）

外交政策論

宮本　悟

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】
外交政策について、（１）日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明をでき、（２）日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、（３）実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2024 年度は対面で実施する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。
対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史（1）	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史（2）	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史（3）	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史（4）	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第5回	戦後日本外交史（5）	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第6回	戦後日本外交史（6）	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史（7）	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土（1）	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土（2）	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択(1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択(2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択(3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択(4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択(5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係ついて学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円
『日本の領土』芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』中西寛, 石田淳, 田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】
『新訂第5版　安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質―キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン (著)、宮里 政玄 (訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

【成績評価の方法と基準】
７０％：平常点と、授業における発言内容の充実度
３０％： 発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】
過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。
勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

【その他の重要事項】
大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。
対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
＜研究テーマ＞東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
＜主要研究業績＞
「北朝鮮の世界観から見た世界の対立」川島真、鈴木絢女、小泉悠編著、池内恵監『ユーラシアの自画像 「米中対立／新冷戦」論の死角』2023年、PHP研究所。
「日朝和解の困難」波多野澄雄編『国家間和解の揺らぎと深化：講和体制から深い和解へ』2022年、明石書店。
"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019,Sage Publishing.
「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。
「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。
『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】
The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

EVN500P2 － 111（その他の環境学 / Others 500）

地域環境文化研究

梶　裕史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化的景観」の可能性の考察
地域の生活文化資産の価値をサスティナビリティーの観点から掘りおこすものさしである「文化的景観」という概念をテーマとし、その特色と、環境共生型の人間形成・地域形成に活かし得る可能性について、様々な具体的事例の紹介を通じて考察します。

【到達目標】
「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教室対面の授業を基本とします。講義ではPPTを多用しますが「景観」は視覚的なものに限らないので、写真や絵を見ることが授業の中心だと思わないで下さい。また少人数を活かして、「最終回」の受講生発表以外にも、気軽に双方向の対話ができる授業としたいと思います。各回の計画は標準的な例で、受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：「文化的景観」とは何か	世界遺産事業に「文化的景観」という新登録基準が導入された経緯、定義、類型／日本の対応
第2回	「文化的景観」保全の多面的効用（１）	自然環境、生物多様性保全につながる事例を通じて
第3回	「文化的景観」保全の多面的効用（２）	持続可能な地域形成に資する「日本型エコツーリズム」の素材として
第4回	事例紹介（１）	「重要文化的景観」第1号・近江八幡の「風景」づくり
第5回	事例紹介（２）；文化的景観Ⅱ類保全の具体例	宗教・信仰の聖地、古典文芸の名所として守られてきた場所。「無形」の価値
第6回	生きて変化する文化財として	「五感」で体感される周期変化／「有機的に進化する景観」（「伝統」の非固定性、新たな創造）
第7回	「有機的に進化する景観」の意味／受講者の研究小発表	四万十川、竹富島の事例を通じて／各自で「文化的景観」の具体例を探し、考察の結果を小発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
不要。学習支援システムに掲載するスライド教材をもって替えます。

【参考書】
梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第６章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の感想等50％、研究小発表50％

【学生の意見等からの気づき】
例年、少人数のために、受講生の興味関心に応じて適宜授業の材料を選ぶことも可能です。今後もそうした柔軟な対応が有効な場合もあるだろうと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 上代日本文学、民俗学、景観論
< 研究テーマ> 地域固有の文化資産を活かした日本型エコツーリズム、観光文化の可能性
< 主要研究業績>
・「庭園宴遊と『自然』詠と一大伴家持『布勢水海遊覧』歌群の一考察一」（『万葉古代学研究所年報』第５号、2007）
・「竹富島の『文化的景観』を支えるもの一その無形要素の特色についての考察」『人間環境論集』第15巻２号（2015年３月）　法政大学人間環境学会
・「『文化的景観』の特質と可能性」『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第６章、ミネルヴァ書房、2021）

【Outline (in English)】
Consideration of the Possibility of “Cultural Landscape”
With the theme of the concept of "cultural landscape", which is a yardstick for unearthing the value of local lifestyle and cultural assets from the perspective of sustainability, we will discuss its characteristics and the possibility of utilizing it for the formation of human beings and communities that coexist with the environment. We will discuss this through the introduction of various concrete examples.
The goal of the course is for participants to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment," which is distinct from the conventional concept of cultural properties.
Work to be done outside of class：Be sure to prepare and review using materials introduced in each lecture.
We also encourage students to visit nearby fields to stimulate their learning. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading criteria ： 50% impressions, etc., 50% small research presentations

SES500P2 – 123（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地域環境計画研究

湯澤　規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」と「農」と「風景」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】
食と農と風景の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第2回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（１）	地域環境に関わる文献講読
第4回	文献講読（２）	地域環境に関わる文献講読
第5回	文献講読（３）	地域環境に関わる文献講読
第6回	地域・環境・計画についての討論	様々なアクターについて考える
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
下記の文献を輪読し、討論します。
・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはん―食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年、1760円（税込）

【参考書】
講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告（50％）と最終レポート（50％）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『焼き芋とドーナツ―日米シスターフッド交流秘史』（単著、KADOKAWA、2023年）
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "landscape" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.
◆Learning Objectives
Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.
◆Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

SOC500P2 – 144（社会学 / Sociology 500）

環境ガバナンスⅠ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】
現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。
2026年度は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。Zoomの接続情報は学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
坂本治也編，2017,『市民社会論』法律文化社.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋期末レポート（70%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
博士課程「環境ガバナンスDⅢ」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations, and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Final Report (70%).

MAN500P2 – 107（経営学 / Management 500）

サステイナビリティ・レポーティング

八木　裕之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業のサステナビリティ情報は、有価証券報告書、サステナビリティ報告、統合報告、ガバナンス報告、HPなどのさまざまな方法によって開示されています。履修者は、世界および日本で展開されているサステナビリティ・レポーティングに関する、さまざまな動向（制度、政策、標準化など）や企業の先進実践について理論と実践を学び、サステナビリティ・レポーティングのあり方や利用方法についてディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】
履修者は、サステナビリティ・レポーティングの国際的な動向および企業の実践についてを学び、開示されたサステナビリティ情報を、経営戦略、顧客、サプライヤー、投資家、従業員、地域住民などのステイクホルダーといった多様な視点から分析する能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サステナビリティ社会における企業経営のためには、企業のサステナビリティ戦略を経営戦略に組み込むことはもちろんのこと、その状況を投資家、顧客、従業員などのステークホルダーに開示し、ステークホルダーエンゲージメントを行っていくことが必要不可欠です。本講義では、世界的に大きな変動期にある企業のサステナビリティ・レポーティングの制度化やその企業実践について学ぶと同時に、今後のサステナビリティレポーティング、サステナビリティ・マネジメント、サステナブル投資などのあり方などについて議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サステナビリティ・レポーティングの系譜	講義の進め方とサステナビリティ・レポーティングの歴史的発展の経緯を解説する。
2	サステナビリティ・レポーティングの発展	サステナビリティ社会におけるレポーティングの役割について考える。
3	環境マネジメントとレポーティング	環境マネジメントの仕組みとレポーティングについて、国内外の動向について考える。
4	サステナビリティ・マネジメントとレポーティング	サステナビリティ・マネジメントの仕組みとレポーティングについて、制度、標準などに基づいて考える。
5	サステイナビリティ・レポーティングとサステナブル投資	サステナブル投資におけるサステナビリ評価やサステナビリティ情報の利用について考える。
6	企業のサステナビリティ戦略の分析	企業のサステイナビリティ戦略とビジネスの関係について考える。
7	サステナビリティ・レポーティングと財務報告	サステナビリティ・レポーティングと財務報告との関係を国際的な制度化の動向を踏まえて考える。
8	サステナビリティ・レポーティングと統合報告	統合報告とサステナビリティ・レポ－ティングの関係性について考える。
9	サステナビリティ・レポーティングと気候変動	気候変動に関する経営戦略と情報開示の状況をTCFD提言などを中心に考える。
10	サステナビリティ・レポーティングと自然資本	サステナビリティ・レポーティングにおける自然資本情報について考える。
11	サステナビリティ・レポーティングの国際的動向（標準化と制度化）	サステナビリティ・レポーティングに関する標準化と制度化の動向を国際会計基準とEUの制度を中心に考える。
12	サステナビリティ・レポーティングの日本における制度化と企業実践	日本におけるサステナビリティ・レポーティングの制度化と企業実践について考える。
13	企業におけるサステナビリティ・レポーティング戦略	企業におけるサステナビリティ・レポーティング戦略について考える。
14	企業のサステナビリティ・レポーティングの分析	履修者が行ったサステナビリティ・レポーティングの分析結果を発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業のサステナビリティ情報に関する、サステナビリティ・レポート、環境レポート、統合報告、有価証券報告書、各種調査資料などを読んで分析します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
主に配布プリントを教材として使用します。テキストは特に使用しませんが、読む必要がある文献や資料は講義時に適宜指示します。

【参考書】
環境省『環境報告ガイドライン2018年版』環境省、2018年
SSBJ『サステナビリティ開示基準』2025年
International Sustainability Standards Board,Sustainability Disclosure Standards(S1,S2),2023
TCFD, Inplementing the Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures ,TCFD,2021
TNFD,Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (TNFD) Recommendations,2023
EU,Corporate Sustainability Reporting Directive,2023
IIRC,International《IR》Framework,IIRC,2021
GRI,GRI Standard 2021,GRI,2021

【成績評価の方法と基準】
プレゼン（30％）・ディスカッション（40％）・レポート（30％）に基づいて評価します。プレゼン、ディスカッションを重視するため、講義回数の3分の2以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】
講義の教材、ケーススタディの対象企業などについては、できるだけ履修者の要望に対応して選択しますので、積極的にディスカッションに参加してください。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
サステナビリティ会計、サステナビリティ・レポーティング、サステナビリティマネジメント、ソーシャルビジネス、環境会計、カーボン会計、自然資本会計、バイオマス環境会計

【サステナビリティ会計】
八木裕之「サステナビリティ関連財務情報に関する考察－マテリアリティの視点から－」『会計』202巻第1号、森山書店、2022年
八木裕之「非財務情報と統合報告」『會計』199巻第1号、森山書店、2021年
八木裕之「環境戦略と自然資本会計」『會計』196巻4号、森山書店、2019年

八木裕之「気候変動情報開示とカーボン会計」『會計』194巻4号,森山書店、2018年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students study basic theory and practices of sustainability reporting and utilization of sustainability information.
【Learning Objectives】
The goals of this course are acquisition of sustainability analytical capabilities.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read sustainability reports related to each lecture at least two hours.
【Grading Criteria /Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: presentation (30%), term-end report (30%), and in-class contribution(40%).

ECN500P2 – 119（経済学 / Economics 500）

環境経済論

杉野　誠

備考（履修条件等）：SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の２つを最終目的とする。① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようになる。②日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】
経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。
なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。
また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第2回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第3回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどの様な問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第4回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。
第5回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第6回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第7回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	どの様な環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第8回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第9回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第10回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第1約束期間までの状況を解説する。
第11回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第12回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第13回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第14回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。
また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】
『入門　環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】
Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】
小テストおよび最終課題を総合的に評価します。
具体的には、小テスト45%、最終課題55%の合計100%点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。
また、オンライン対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】
特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください（makoto.sug@gmail.com）。
質問などがあった場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学

＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues from the theoretical perspective.
【Learning Objectives】
Students will be able to 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues and 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following:
Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

MAN500P2 – 122（経営学 / Management 500）

サステイナブル経営論

長谷川　直哉

備考（履修条件等）：公共政策学・連帯社会「ＣＳＲ論」と合同、SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることを目指します。

【到達目標】
SDG に関する基本的な知識を習得したうえで、現代企業のサステナビリティ経営や脱炭素経営の実態を正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻「CSR論」においては公共マネジメントコースの「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻「サステイナブル経営論」においては「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。社会人院生の履修環境に配慮してオンラインを中心とした授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステ ナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥／伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営 の最新動向「ガバナン ス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社／岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営 の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新た な尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機／豊田佐吉 スズキ／鈴木道雄
第7回	ESG 経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済 倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第10回	責任経営ケーススタディ⑤	グンゼ／波多野鶴吉 天竜木材／金原明善
第11回	日本社会における企業 倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命／矢野恒太 東京海上／各務鎌吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023 年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資－長期的な企業価値創出メカニズムを求めて』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
期末レポート：90％
発表・討議：10％

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜最近の主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, We will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.Grading will be based on the final report (90%) and presentation (10%).

MAN500P2 – 133（経営学 / Management 500）

グローバル環境経営論

鶴田　佳史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年では、SDGs（持続可能な開発目標）、ESG投資・インパクトファイナンスといったサステナブルファイナンス、パリ協定・カーボンプライシングといった気候変動対策、非財務情報開示のフレームワークの構築等、国際的な環境保全への取り組みが進んできている。この「環境保全」という新しい時代における企業活動について理解していきます。さらに、それらが生みだされてきた背景である、地球環境問題、持続可能性（サステナビリティ）、SDGs、環境コミュニケーション、さらにWell-beingについても触れる。
そのため、本授業は、受講者が、企業の環境経営について知識を習得し、日本および海外企業の環境経営の現状と今後の課題についてその本質を捉えた検討ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
①企業の先進的な環境経営の事例をもとに企業の環境経営のあり方を提示することができる。
②企業の環境経営について環境保全と経済活動との関係性の視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式、オンラインのリアルタイム型（Zoom を利用した双方向型）で行います。
授業ごとに設定したテーマについて、必要な知識や情報を共有したのち、先進的な企業の環境経営の事例を検討し、受講者の報告や意見交換、ミニットペーパーとフィーバック等により理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	環境経営の射程	オリエンテーション 環境経営の概観と射程
第3,4回	気候変動とエネルギー政策	企業の気候変動対策 エネルギー政策への対応
第5,6回	資源循環・サーキュラーエコノミー	資源循環政策 サーキュラーエコノミー シェアリングエコノミー
第7,8回	サステナビリティ政策	サステナビリティへの企業対応 SDGs、グローバルコンパクト
第9,10回	非財務情報開示	統合報告、TCFD、サステナブルコミュニケーション
第 11,12 回	環境経営の展開	サステナビリティコミュニケーション Well-being
第 13,14 回	まとめ	全授業を通してのまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地球環境問題、企業の環境経営に関連する情報収集と学習に努めることを期待しています。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。
必要に応じて適宜資料配付します。

【参考書】
授業テーマに応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：60％
平常点（授業への参加度、ミニットペーパー、発表）：40％

【学生の意見等からの気づき】
今年度から本授業を担当するためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要なパソコンおよび通信環境を準備してください。

【その他の重要事項】
受講者の関心事・理解度等により講義内容や取り上げる事例を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
環境経営、経営組織論
< 研究テーマ>
持続可能な社会における企業活動
< 主要研究業績>
鶴田佳史（2021）「第1章　環境経営－環境経営の歴史，リスクからオポチュニティへ」野村佐智代・山田雅俊・佐久間信夫編『現代環境経営要論』創成社,pp.2-20.
鶴田佳史（2019）「第17章 企業と環境ビジネス」田中信弘・佐久間信夫編『[改訂版] CSR経営要論』創成社,2019,pp.333-346.
鶴田佳史（2011）「第7章　企業における気候変動情報の開示行動」村井秀樹・川村雅彦・鶴田佳史編『カーボン・ディスクロージャー　―企業の気候変動情報の開示動向―』税務経理協会,pp.157-172.

【Outline (in English)】
Course outline:
The aim of this course is to help students acquire to acquire knowledge of corporate environmental management and to be able to examine the current status and future challenges of environmental management in Japanese and overseas companies by grasping its essence
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① present the ideal form of environmental management of companies based on examples of advanced environmental management of companies.
② cultivate the ability to think independently about a perspective on the relationship between environmental conservation and economic activities in corporate environmental management.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
Grading criteria :
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 60%、in class contribution (discussion, Minute Papers, presentation) : 40%

ECN500P2 – 126（経済学 / Economics 500）

開発経済論

山田　英嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学は、開発途上国での貧困や不平等に着目し、どうすればそれらの問題を解決できるかを考察する実践的な分野である。本講義の目的は、現代の開発途上国が直面する主要な課題を把握し、開発経済学が経済学のツールを活用してどのように課題に取り組んできたのかを理解することである。特に、理論的なアプローチだけでなく、データによる実証分析も活用して開発途上国の諸課題について議論する力を習得することを目指す。

【到達目標】
本講義の到達目標は以下の3 点である。
（1）開発経済学がどのように貧困や不平等をとらえてきたのか、主要な指標の考え方や計測方法について、基本的な知識を習得し、開発途上諸国の実態を把握すること。
（2）貧困や低開発の原因やその解決方法について、開発経済学が提示してきた理論や実証分析の概要を理解すること。
（3）政策の効果を統計的に評価するために定量分析の手法（特にインパクト評価）の概念を理解し、現実の実証例を通じて、開発政策実務への活用方法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義はすべて基本的にハイブリッド形式で行う。各回の講義は、①教員による講義、②参考文献に関する学生の報告、③基礎的なデータ分析課題、④ディスカッションで構成する。講義内容は、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学等、経済学の基礎的な知識は前提としない。理論的な説明では数式はなるべく使用せず、グラフなどを使った直観的な理解を優先する。実証分析を理解するための統計学の基礎知識については、講義内で補足説明を行う。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション /開発経済学の変遷 /経済成長論	第二次世界大戦以降、開発経済学がどのように変遷してきたのか、開発途上国の発展の歴史を踏まえつつ概観する。併せて、経済成長論の概要を理解する。
第3,4回	貧困・不平等	開発経済学が解決の対象とする中心的課題が貧困と不平等である。貧困と不平等に関する諸概念を整理し、主要な指標の計測方法を習得する。開発経済学および開発の実務でよく使われるデータ（オープンデータ）の使い方についても紹介する。
第5,6回	開発政策を実証分析する手法（インパクト評価）	近年の開発経済学において、現実の政策の効果をデータを使って実証的に分析し知見を得る「インパクト評価」が大切なツールとなっている。効果の測定に必要なデータや主要な手法について、基礎的な知識を得る。
第7,8回	農村開発	途上国の貧困層の多く農村に居住しており、労働者・起業家・消費者としての顔を持つ経済主体である。途上国の農民がどのように生産や技術活用の意思決定を行うとともに、気候や収穫のリスクをコントロールしようとしているのか、実証研究に基づく知見を紹介する。また、農村において特に重要な共有資源の管理についても理解する。
第9,10回	教育・保健医療・ジェンダー（人的資本）	開発途上国における教育や保健医療の実情を主要な統計から把握する。教育や医療へのアクセスを改善するための様々な施策に関して、インパクト評価による主要な研究を概説し、どのような施策が有効なのか議論する。また、途上国における女性の経済的自立について、最近の実証研究による知見を紹介する。
第 11,12 回	途上国の産業発展（労働移動・産業政策と生産性向上・貿易と直接投資）	農業から非農業へのシフトは経済成長と貧困脱却の重要な推進力である。農村から都市への労働移動、都市の労働市場の状況、工業化を推進する政策とその効果、途上国の企業の特徴や生産性について概説する。また、貿易や直接投資と途上国の産業発展・生産性向上の関係についても理解を深める。さらに、現代の開発途上国に幅広くみられる国際的な出稼ぎ移民についても扱う。出稼ぎの動機や故郷への送金がもたらす影響などについて考察する。
第 13,14 回	開発と制度・ガバナンス	制度（法律や規則、あるいは慣習や社会通念）は、資源や労働力、技術などと並んで、経済成長や貧困の決定要因として重要であることが明らかになってきている。また、開発途上国の中には、公的機関や企業などの制度に基づいた統制（ガバナンス）について、汚職などをはじめとして重大な問題を抱えている国が多くある。制度やガバナンスの側面から途上国の開発を分析した実証事例を紹介するとともに、途上国で頻発する武力紛争の原因、解決と復興のあり方についても概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）各回で講読する参考文献について、発表担当の学生は発表準備を、その他の学生は予習をする。学期中、各学生が1 – 2 回発表できるようにする。参考文献は、テキスト「現代アジア経済論」の章を選択することを基本とするが、参加者の希望があれば別の文献も可能。
（2）全体で2 回程度、講義内容に関連する簡単なデータ分析課題を課す。課題は、エクセル等の表計算ソフトで実施可能な基礎的なもので、統計分析ソフトウェア等は必要としない。
（3）期末レポートの詳細については、初回講義時にガイダンスする。

【テキスト（教科書）】
（テキストは各自購入等ご用意ください。）
「実証から学ぶ開発経済学」高橋和志・樋口裕城・牧野百恵（編）、有斐閣、2025 年
「現代アジア経済論」遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編）、有斐閣、2018 年

【参考書】
「開発経済学ー貧困削減へのアプローチ」黒崎卓・山形辰史、日本評論社、2017 年
「テキストブック開発経済学（第3 版）」ジェトロ・アジア経済研究所・黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史、有斐閣、2016 年
「貧困の経済学（上・下）」マーティン・ラヴァリオン（柳原透　監訳）、日本評論社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末レポート(20%)、参考文献の発表(25%)、データ分析課題(20%)、授業やディスカッションへの貢献(35%) を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞開発経済学空間経済学・都市経済学・ミクロ計量経済学
＜研究テーマ＞①海外出稼ぎ移民の要因・海外送金の開発効果②インフラ事業のイ
ンパクト分析③空間経済学による都市開発・環境問題等の分析
＜主要研究業績＞
Satoshi Shimizutani, Tomoyoshi Suzuki, and Eiji Yamada (2025), “The Impact of Urban Transportation Investment on Property Values: Evidence from the Jakarta’s Mass Rapid Transit (MRT),” Asian Development Review, forthcoming (https://doi.org/10.1142/S0116110525500234).
Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada, and Yasuharu Shimamura (2025), “The impact of rural road improvement on migration and remittances: Evidence from Morocco,” GSID Discussion Paper No. 225.
Eiji Yamada and Yi Jiang (2025), “The Impact of Dhaka Mass Rapid Transit on Road Congestion,” JICA Ogata Research Institute Discussion Paper 35.
Satoshi Shimizutani and Eiji Yamada (2024), “Long-term Consequences of Civil War in Tajikistan: The Gendered Impact on Education and Labor Market Outcomes,” Defence and Peace Economics 35 (1), 72-85 , DOI: 10.1080/10242694.2022.2141946
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada, Hiroyuki Yamada (2023), “On the Inclusiveness of Rural Road Improvement: Evidence from Morocco”, Review of Development Economics, Vol 27, No3, 1721-1745.
Yasuharu Shimamura, Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada & Hiroyuki Yamada (2023). “The Gendered Impact of Rural Road Improvement on Schooling Decisions and Youth Employment in Morocco,” The Journal of Development Studies, 59:3, 413-429, DOI: 10.1080/00220388.2022.2139608
W. Seitz, E. Yamada, S. Shimizutani (2023), “Can Vaccination Incentives Backfire? Experimental Evidence That Offering Cash Incentives Can Reduce Vaccination Intentions in Some Contexts” The World Bank Policy Research Working Paper, 10349.
Satoshi Shimizutani and Eiji Yamada (2022), "Transformation of International Migrants in Head Wind: Evidence from Tajikistan in the 2010s," Review of Development Economics, Vol 27, No1, 525-549..
Eiji Yamada and Satoshi Shimizutani (2022), "The COVID 19 pandemic, daily mobility and household welfare: Evidence from Tajikistan," Transportation Research Interdisciplinary Perspectives,Volume 15, 100641.
Yamada, Eiji, Shimizutani, Satoshi and Enerelt Murakami (2022). “Remittances, Household Welfare and the COVID-19 Pandemic in Tajikistan,” Asian Development Review, 39 (2), 147-174.
Satoshi Shimizutani, Shimpei Taguchi, Eiji Yamada, and Hiroyuki Yamada (2021), “The Impact of “Grow to Sell” Agricultural Extension on Smallholder Horticulture Farmers: Evidence from a Market-Oriented Approach in Kenya,” Keio-IES Discussion Paper Series DP2021-020.
Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada (2021), "Resilience against the pandemic: The impact of COVID-19 on migration and household welfare in Tajikistan," PLoS ONE 16(9): e0257469.
Enerelt Murakami, Eiji Yamada, Erica Paula Sioson, “The impact of migration and remittances on labor supply in Tajikistan,” Journal of Asian Economics, Volume 73, 2021, 101268.
Satoshi Shimizutani and Eiji Yamada, “Resilience against the Pandemic: the Impact of COVID-19 on Migration and Household Welfare in Tajikistan,” JICA Ogata Research Institute Working Paper 218, 2021.
Eiji Yamada, Satoshi Shimizutani, Enerelt Murakami, "The COVID-19 pandemic, remittances, and financial inclusion in the Philippines," Philippines Review of Economics, Vol 57, No. 1 (2020)
Murakami, E., Shimizutani, S. &Yamada, E. "Projection of the Effects of the COVID-19 Pandemic on the Welfare of Remittance-Dependent Households in the Philippines" . Economics of Disasters and Climate Change (2020).
Murakami, Enerelt, Satoshi Shimizutani, and Eiji Yamada. “The Potential Impact of the COVID-19 Pandemic on the Welfare of Remittance-Dependent Households in the Philippines”. COVID Economics 24, 1 June 2020: 183-204. Centre for Economic Policy Research.
Eiji Yamada, "A Spatial Equilibrium Analysis of Air Pollution in China", JICA Research Institute Working Paper 211, 2020.
Mai Seki and Eiji Yamada, "Heterogeneous Effects of Urban Public Transportation on Employment by Gender: Evidence from the Delhi Metro", JICA Research Intitute Working paper 207, 2020.
Yamada, Eiji, Erica Sioson, Enerelt Murakami, and Akira Murata, “No Woman Left Excluded from Financial Services ”, in Leave No One Behind: Time for Specifics on the Sustainable Development Goals (eds. Homi Kharas, John W. MacArthur, and Izumi Ohno), Brookings Institution Press, 2019, pp149-168.
Mahmud, Minhaj, Yasuyuki Sawada, and Eiji Yamada, “Willingness to Pay for Mortality Risk Reduction from Air Quality Improvement: Evidence from Urban Bangladesh” , JICA Research Institute Working Paper 190, 2019.
Murakami, Enerelt, Eiji YAMADA, and Erica Sioson, “The Impact of Migration and Remittances on Labor Supply in Tajikistan” , JICA Research Institute Working Paper 181, 2019.
Mahmud, Minhaj, Keijiro Otsuka, Yasuyuki Sawada, and Eiji Yamada, "Development Transformation in Bangladesh: An Overview" in Economic and Social Development of Bangladesh: Miracle and Challenges (eds. Yasuyuki Sawada, Minhaj Mahmud, Naohiro Kitano), Palgrave Macmillan, 2017, pp. 3-26.

【Outline (in English)】
[Course Outline]This course aims at providing basic knowledge on the Development Economics, in terms of its major topics and key methodological approaches. The lecture covers the concept and measurements of poverty/inequality, microeconomic models of poor households, the basics of quantitative impact evaluation, and economic interpretation of specific development issues such as agriculture, education, healthcare, gender, industrial development and migration, and institution/governance.
[Learning Objectives] We have major three objectives. First is to overview the key concepts and measurement for poverty and inequality. Second is to understand basic theories in Development Economics that have proposed explanations on the cause and solutions for poverty and underdevelopment. Third is to learn about impact evaluation, the set of methodology to statistically quantify the impact of policy interventions, as well as its applications to real world situations.

[Preparation and homework outside of the class] Every week, after the lecture, one or two student(s) present a reference article followed by an open class discussion. In addition, students are required to submit short works of data analysis (graphing, tabulation, etc.) related to the contents of the lecture. One final writing assignment will also be required.
[Grading criteria and policy] The following items will be evaluated with the weight given in the prentheses. Presentation of reference materials(25%)、Data analysis homework(20%)、Contribution to the discussion during the lecture(35%)、term paper(20%)

ARSl500P2 – 131（地域研究（援助・地域協力）/ Area studies(Regional cooperation)500）

国際ＮＧＯ・ＮＰＯ論

小野　行雄

備考（履修条件等）：連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜政府＞＜経済界＞と並ぶアクター＜市民社会＞として社会を構成することこそが、ＮＧＯ・ＮＰＯの本質である。
本科目では、講師が専門とする国際協力分野での活動を中心として、世界が直面する問題を理解し、ＮＧＯが活動する場と方法を学んだ上で、市民社会としてのＮＧＯの活動にも目を向ける。受講者は、組織としてのＮＧＯについて学ぶのと同時に、自らの市民としての役割についても考えることになる。

【到達目標】
1　現代社会におけるＮＧＯ・ＮＰＯと市民社会の役割、政府および経済界との関係を理解する
2 ＮＧＯ・ＮＰＯの歴史と現状、その方法論を理解する
3 自ら世界に関わる市民性を涵養し、その方法論を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ディスカッションによるグループワークを中心に進める。授業内プレゼンテーションも毎回行う。ネットを利用してケーススタディを行うのでパソコンまたはスマートフォンが必携。映像資料も多用する。毎回レポートを作成し、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ＮＧＯ・ＮＰＯの基礎	受講者のこれまでの経験と知識を整理しながらＮＧＯ・ＮＰＯの基礎を概観する
第2回	市民社会	市民社会論を概観し、市民社会そのもの、あるいはエージェントとしてのＮＧＯ・ＮＰＯの活動を学ぶ
第3回	ＮＧＯの方法	ケーススタディとしていくつかのＮＧＯを取り上げながら、ＮＧＯの国際開発における方法論について学ぶ
第4回	開発の問題	近代化とグローバリゼーションについて検討し、開発をめぐる考え方を整理しながらＮＧＯ・ＮＰＯの役割を検討する
第5回	ＮＧＯの歴史・日本のＮＧＯ	世界と日本のＮＧＯの歴史を学び、いくつかの日本のＮＧＯを取り上げて活動を検証する
第6回	世界のＮＧＯ	「先進国」および「途上国」のＮＧＯ、それに国際ＮＧＯの事例を取り上げて活動を検証する
第7回	ＮＧＯ・ＮＰＯの社会における役割	ＮＧＯ・ＮＰＯが社会に影響を与えた事例を検証し、社会における役割を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読んでくることが必須となる。文献は毎回電子ファイルで配布する。毎授業後のふりかえりレポートも重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
「激動するグローバル市民社会」重田康博 明石書店
「国際開発ハンドブック」友松篤信編著 明石書店
「脱「開発」の時代」イヴァンイリッチ他 晶文社

【成績評価の方法と基準】
平常点（討論への参加・各回のレポート）70％
期末レポート 30％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続できるパソコンまたはスマートホン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 国際社会開発・開発教育
＜研究テーマ＞ＮＧＯによるコミュニティ開発・参加型学習
＜主要研究業績＞「ＮＧＯ主義で行こう」藤原書店 「21世紀の人権（共著）」日本評論社　「ＳＤＧｓ時代の学びづくり（編著）」明石書店

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】Civil Society (NGO) is an actor which constitutes society along with Politics (Government) and Economy(Enterprises). Students will understand the social issues and the role of civil society, as well as contemplate their own role in the society.
【到達目標（Learning Objectives）】
1 Understanding the role of NGO/NPO or Civil Society, as well as those of Government and Market.
2 Understanding the history and the present situation of the Civil Society.
3 Acquiring the citizenship methodology and cultivating own indivisual citizenship.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a relfection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation to the class and thoughtful refection is important.
Reflection report after every class 70% Term-end report 30%

CUA500P2 – 132（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

ヒューマン・エコロジー

高橋　五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒューマン・エコロジーでは、サステイナビリティに関する文化的、社会的側面について学びます。授業では、主に文化人類学や関連分野の文献購読をもとに、サステイナビリティに関連する課題だけでなく、関連する主要な概念や理論について意見交換し、検討します。また課題の取り組みをとおして、学生が自らリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するためのリサーチスキルおよびライティングスキルを高めることを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は演習授業として、文献講読とディスカッションをもとに進めます。具体的には、学生は事前に必須講読文献をもとにコメントや質問を準備し、Zoom 授業ではファシリテーター担当の学生が進行役を務めながら文献で扱われる概念、理論、事例研究について意見交換を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンス	授業の目的および進め方の説明。
第3,4回	文献講読（１）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第5,6回	文献講読（２）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第7,8回	文献講読（３）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第9,10回	文献講読（４）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第 11,12 回	文献講読（５）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第 13,14 回	リサーチペーパー発表	リサーチペーパーについて発表し、フィードバックを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、コメントペーパーを書く、ファシリテーターとして進行計画を立てる、リサーチペーパーに取り組むことを含みます。

【テキスト（教科書）】
講読する文献については、第1回授業で相談のうえ決定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと議論への参加（40%）、発表（20％）、期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、他

【Outline (in English)】
"Human Ecology" is a graduate seminar to learn the cultural and social dimensions of sustainability. We will examine key concepts and theoretical debates relating to sustainability. The main goal of this seminar is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations.
Students will be expected to actively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries and class participation (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

MAN500P2 – 134（経営学 / Management 500）

社会起業家論

松本　勝男

備考（履修条件等）：SDGsPlus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界各国でSDGsの達成に向けた様々な施策や取組みが行われていますが、公共部門や民間部門の従来型の対応では対象になりにくい課題やその影響を受ける人々が多く存在します。このような課題・人々に向き合い、ビジネス手法を含めた斬新な方法で解決を図る社会起業家について、その特性、行動内容、具体的な手法等について学びます。様々な工夫を用いて大小の課題解決に従事している社会起業家の具体的な活動を学ぶことで、そもそも社会課題とは何か、何が原因で発生するのか、どのような解決手法があるのか、を理解し、持続可能な社会発展の在り方に関する知見を深めます。

【到達目標】
講義を通して、(1)社会課題の種類、(2)課題の発生原因、(3）従来型の取組の問題点、(4)社会起業家の特性、(5)社会起業家の具体的な行動、(6)課題解決に必要な工夫、(7)社会起業家が直面する問題、を理解します。その上で、持続可能な社会を実現するために社会課題を解決する主体となるにはどうしたらよいのか、また、私達個人が社会起業家のようにふるまえるのか、について自ら考え、判断する素養を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に対話を重視した講義形式で行います。事例研究を取入れ、グループディスカッションや発表等を通じて講義内容の理解を深めます。毎回、講義の最後に学んだ内容の振り返りを行い、参加者の理解度を確認しながら講義を進めていきます。国内の社会起業家やNPOの訪問を通じて、実際の活動を把握し、その実態を直接学ぶことも行います。最終講義の時間に、それまで学んだ内容について学生から発表することを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義オリエンテーション	授業の目的、内容、学生の到達目標などについてオリエンテーションを行います。
第2回	社会起業家とは何か	社会起業家の定義、特性、現状などについて学びます。
第3回	社会課題の把握	社会課題とはそもそもどのようなものなのかを学びます。
第4回	社会起業家の行動(1)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第5回	社会起業家の行動(2)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第6回	社会起業家の行動(3)	社会課題の解決にどのように取り組むかを事例に基づき学びます。
第7回	社会的企業とは何か	組織として社会課題の解決を目指す社会的企業の特性や現状を学びます。
第8回	社会的企業の活動(1)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第9回	社会的企業の活動(2)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第10回	社会的企業の活動(3)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第11回	社会的企業の活動(4)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第12回	社会的企業の活動(5)	社会的企業の具体的な活動について、途上国の事例を含め学びます。
第13回	社会起業家、社会的企業訪問結果のまとめ	実際に訪問した個人や組織の活動や課題等についてまとめます。
第14回	最終発表	講義で学んだ内容や自分が行ってみたい活動について発表をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で触れられる教科書の該当箇所を事前に読み、自ら質問事項を準備します。講師が配布する資料に目を通し、講義に備えます。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「チェンジメーカー」渡邊奈々、日経BP、2005年、定価1,760円
「社会起業家という仕事」渡邊奈々、日経BP、2007年、定価1,760円
「インドビジネス　ラストワンマイル戦略」松本勝男、日本経済新聞社、2021年、定価2,700円

【参考書】
「社会起業家-社会責任ビジネスの新しい潮流-」斎藤槙、岩波書店、2004年、定価880円

【成績評価の方法と基準】
授業中のディスカッション50％、小レポート20％、最終発表30％を評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
社会課題について、学生の関心分野を確認しながら、様々な分野を対象に取り上げます。先進国の課題に限らず、途上国の事例も含めることで、環境問題、教育、保健、貧困、災害など、幅広い観点から社会起業家の役割や特性を議論します。また、ビジネスの手法を取入れた社会的企業等への訪問を通じ、その実態に触れることで、組織運営上の問題などの把握に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
本授業の教員は、国際協力機構（JICA）にて長年途上国支援の仕事に従事した経験を有します。このため、特に途上国で活動する社会起業家や社会的企業と実際の付き合いがあり、日本企業との連携強化などに携わっています。講義では、これらの社会起業家や社会的企業にも多く触れます。

【None】
＜専門領域＞国際協力論、社会的企業論
＜研究テーマ＞日本型開発協力の特徴、社会的企業の斬新的な取組手法、障害者雇用の推進
＜主要研究業績＞
“Critical factors for success among social enterprises in India”（査読付き）2018年
12月、緒方貞子平和開発研究所
“Impact Sourcing for Employment
of Persons with Disabilities”（査読付き）2020年12月、Social Enterprise Journal
「途上国の障害者雇用とインフォーマル経済」（査読付き）2020年3月、日本職業リハビリテーション学会
「インドのインフラ開発と日本の協力」2022年5月、国際貿易投資研究所
「日印経済協力（政府開発援助分野）の現状と今後の見通し」（査読付き）2020年1月、日印協会

「インドビジネス　ラストワンマイル戦略」2021年9月、日本経済新聞社
「日本型開発協力　途上国支援はなぜ必要なのか」2023年6月、筑摩書房

【Outline (in English)】
We will learn about the characteristics, actions, and specific approaches of social entrepreneurs who are solving social issues in innovative ways, including business methods. While a variety of measures and initiatives are currently being implemented on a global scale to achieve the SDGs, there are issues and people who are not easily targeted by conventional responses in the public and private sectors. By focusing on such issues and learning about the specific activities of social entrepreneurs who are engaged in solving them using various innovations, we will understand what social issues are, what causes them, and what methods are available to solve them, and deepen our knowledge about the nature of social development.As for learning activities outside of class room, read in advance the relevant sections of the textbook that will be mentioned in each lecture and prepare your own questions. Students are also expected to prepare for the lecture by reading through the materials distributed by the lecturer. The standard preparation and review time for this class is one hour each.The evaluation criteria will be 50% for in-class discussion, 20% for a short report, and 30% for a final presentation.

SOC500P2 – 139（社会学 / Sociology 500）

国際環境政策の社会学

島田　昭仁

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界のエネルギーシフト政策はどうなっているのか？ それを実現するにあたって、政府は市民とどのように合意形成を図ってきて、今後どうしていくのか？ またトランプ政権によってどう変化していくのか。本講義では、脱炭素政策に対するクリティカルな視点も含め、EUと米国およびアジアと日本のエネルギーシフトに関わる政策（世界戦略）と市民の合意形成との関係について社会学的に理解することを目的とする。

【到達目標】
世界のエネルギー政策を通して、以下の事項を習得すること。
①気候変動に対する諸学説（環境倫理学、生態学、都市工学、社会学）と「脱炭素」との関係を総合的に理解
②脱炭素の背景にある80年代・90年代の日本の技術力に対抗して始まったEUの世界戦略
③ドイツのメルケル首相が脱原発に踏み切った背景（緑の党の躍進の根源・背景にあるもの）
④西欧社会の合意形成の歴史としくみ（宗教的、哲学的な「実践」の理解とともに）
⑤米国と中国とインドの立場
以上をもって環境政策に対して科学的で多角的な説明が可能となること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、テキストと参考書と資料（時には新聞記事やネット記事も使う）に沿って解説し、ディスカッションを行う。資料は豊富にそろえるが、学生との対話を中心とした（思ったことを自由に言い合える）授業を行う。なお体験学習としては、群馬大学と協働して行っている群馬県桐生市（小水力・バイオマス発電、DX活用）をフィールドとして夏合宿を行うが参加が必須ではない。（希望者のみ。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	批判的思考～気候変動の原因は本当にCO2か？	授業の進め方や、参加する学生の個々の興味の確認
第2回	脱炭素イデオロギーとは何か	トランプ大統領が揶揄するように「温暖化詐欺」なのか？
第3回	EUとアメリカの世界戦略の激突	EU,米国それぞれの経済復興イニシアチブについて
第4回	なぜドイツを軸に考えるのか	神聖ローマ帝国～ドイツに至る「ゲルマン的考え方」について
第5回	メルケルはなぜ脱原発に舵を切ったのか	緑の党が躍進した理由と、活発な原発反対運動について解説
第6回	英独仏米の三権分立の比較論	市民運動や大衆蜂起を国が保障する憲法とはどういうことなのか
第7回	独仏哲学・社会思想の比較論	キリスト教的共同体・労働に対する（実践）哲学
第8回	日独エネルギー政策・産業構造比較論	日本の第二次産業は今どうなっているのか
第9回	中間ふりかえり	ドイツと日本の思想と産業構造の違いについて
第10回	Jクレジットとは	日本版カーボン取引のしくみと現状
第11回	日本の自然エネルギー政策の行方	ソーラー、小水力、岩盤発電、風力の行方
第12回	法政大学のエネルギーシフト構想	職場でエネルギーシフトを行うとしたら実際に何がネックになるのか
第13回	アジア諸国のエネルギーシフトについて	台湾成功大学、インド工科大学のとりくみについて紹介し議論
第14回	総括：「地政学」をどう捉えるのか	EU、米国、中国、日本の立ち位置を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムに毎回のスライドを授業前にアップするので、各自ダウンロードして予習と復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は特に設けないが発表担当の学生は2時間を標準とする。また希望者のみを対象に時間外に自主ゼミも行う。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストは授業内で配布する（購入の必要はありません。）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』,壽福眞美
・『ゼック・プロジェクト調査・研究報告書』谷口信雄,島田昭仁

【参考書】
以下の参考書も授業内で配布する（購入の必要はありません。）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』,壽福眞美編

【成績評価の方法と基準】
①期末試験期間に提出するレポートと毎回授業でのディスカッションへの積極的参加度合いによって評価する。
②期末試験＝レポート（A4×3枚程度の小論文）。課題は第14回の授業内で示す。
※講義で扱った主題から任意にテーマを絞って小論文を提出する。講義内容からの理解度（３０%）、自分の意見とその論拠が記述できていること（５０%）、授業内でのディスカッションへの積極性（２０%）の３点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
国や地方自治体の政策に約30年以上携わっている教員が、関連法規や施策の解説を行うのみならず、省庁の現場での言説や調査で分かった日本の現在の地政学的立ち位置や産業構造の実態を包括的に理解していただけるような講義を行う。また西欧の政策を理解するためにキリスト教に対する理解を深める。日本の政治や産業構造を国際的に俯瞰したい学生にはぜひ受講していただきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
都市計画
＜研究テーマ＞
住民の合意形成
＜主要研究業績＞
『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019
『知の史的探究』八千代出版,2017
『規範理論の探究と公共圏の可能性』法政大学出版局,2012

【Outline (in English)】
What is the global energy shift policy? How have governments worked with citizens and communities to build consensus in making this happen? This lecture aims to provide a sociological understanding of the relationship between energy shift policies (global strategies) and citizen consensus building in the EU and the US as well as in Japan and Asia, including critical perspectives on decarbonization policies.

POL500P2 – 117（政治学 / Politics 500）

環境資源・エネルギー政策論

土井　菜保子

備考（履修条件等）：SDGs Plus履修証明プログラム対象科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内外の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。環境およびエネルギー問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球温暖化問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】
各種統計資料等に基づいた国内外の状況や国際比較への理解を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
第1回の授業で、環境・エネルギー問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第2回以降の授業で取り扱うテーマや解説に反映させます。前半は環境政策、後半はエネルギーセキュリティについて学び、前半・後半それぞれ1回ずつ（合計2回）受講生によるプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体説明と受講生の関心事項の議論。
第2回	環境政策（1） 地球温暖化とエネルギー	・地球温暖化とエネルギーの関係 ・主要国の削減目標と政策動向
第3回	環境政策（2） ビジネス界の取り組み	・AIとエネルギー、データセンターの動向 ・RE100 ・ESG投資動向 ・グリーンビルディングの推進
第4回	環境政策（3） 省エネルギー	・日本の省エネルギー取り組み ・省エネ取り組みの国際比較 ・省エネ・再エネの連携
第5回	環境政策（4） 現実に直面する脱炭素政策	・脱炭素化として主要国で実施されている取り組み ・コロナ禍を受けた脱炭素化政策 ・エネルギー価格高騰を受け課題に直面する脱炭素政策 ・プレゼンテーションに関する議論
第6回	環境政策（5） エネルギー・環境政策と市場	・経済的手法と市場 ・規制的手法と市場 ・今後の市場の役割
第7回	環境政策（6） ①前半のレヴュー	・プレゼンテーション
第8回	環境政策（7） ②前半のレヴュー	・プレゼンテーション
第9回	エネルギーセキュリティ(1) エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯）	・エネルギーの基礎 ・エネルギー安全保障とは ・日本のエネルギー安全保障
第10回	エネルギーセキュリティ(2) 今日のエネルギー安全保障（至近の情勢、注目点）	・増え続けるエネルギー需要 ・資源の制約？ ・輸送のセキュリティ、等
第11回	エネルギーセキュリティ(3) 途上国のエネルギー安全保障（途上国固有の課題）	・所得水準と補助金 ・都市化と交通の問題 ・社会の受容性、等
第12回	エネルギーセキュリティ(4) 安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス （政策の選択肢、国際協力）	・有効な対策の例 ・国際エネルギー秩序 ・国際協力
第13回	エネルギーセキュリティ（5） ①後半のレヴュー	・プレゼンテーション
第14回	エネルギーセキュリティ（6） ②後半のレヴュー	・プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を事前に共有します。

【参考書】
特になし。講師は日本エネルギー経済研究所の研究員であり、世界的なエネルギー・環境政策に関する動向を踏まえた講義を行います。

【成績評価の方法と基準】
毎回講義後に実施する議論への参加、ならびに前半、後半に実施するプレゼンテーションに関する評価を行います。評価点は、基礎点(60%)、独創性(10%)、積極性(10%)、調査力(10%)、示唆の導出(10%)の配分とします。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生の関心領域を議論し、次回の講義内容に新たな項目を反映させます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞エネルギープロジェクト分析、計量経済モデル分析、運輸・家庭・業務部門における省エネポテンシャル
＜研究テーマ＞省エネルギー、AIとエネルギー需要、輸送の電動化にかかわる課題
＜主要研究業績＞
官公庁受託事業、国際機関受託事業等多数

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the environment and energy challenges including global governance and international cooperation. The objectives of this lecture series are:
・to objectively understand the current environment and energy issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
・to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
・to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/bilateral approaches as well as Japan's approaches.
[Goal]

This course focuses on the domestic and international landscape of environmental and energy policy, as well as approaches to international comparison and international cooperation. Using statistics and other relevant data, students will deepen their objective understanding of current environmental and energy issues. In addition, by examining the development and trends of environmental and energy policies both in Japan and abroad, the course explores how the international community and international cooperation should address energy challenges that are closely intertwined with global warming and other environmental problems, and considers Japan's role in these efforts.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this course is two hours each.
[Grading criteria/policy]
Participation in the discussions held after each lecture, as well as performance in the presentations conducted in the first and second halves of the course, will be evaluated. The evaluation consists of the following components: basic score (60%), originality (10%), proactiveness (10%), research ability (10%), and the ability to derive insights (10%).

ENV500P2 – 112（環境保全学 / Environmental conservation 500）

自然環境共生研究

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会に向けて、自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、自然環境を取り巻く問題の本質を探り、科学的・社会的な視点から、社会の各主体によって相乗的で多面的に取り組まれることが望まれます。本講義では、生態系とそれをめぐる諸課題を理解し、それらに対してこれまで取り組まれてきた様々な手立てと、今後の共生実現に向けた政策の可能性について考究することをテーマとします。

【到達目標】
学生が以下の3点について知識と理解を深め、その要点及び自らの考えを説明し、さらに学術的視点で自らの研究に応用する力を身に付けることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減じ、機能と恩恵を維持するために取り組まれてきた政策とその意義
③国際的視点に立って自然環境との共生に向けて取り組まれている諸政策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「主な生態系の理解と保全上の難題」、「日本における自然環境保全のための基盤的な諸施策」、「生物多様性保全・自然再生・里山保全などの近年の重要課題」、「諸外国における多面的な取り組み事例」、「生物多様性と経済」などについて学びます。国内外の実例を交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うことを通して到達目標に向かいます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境保全を取り巻く動向、生物多様性に関わる概念の進化
第2回	生物多様性のホットスポットと生物の進化	生物多様性のホットスポット、生物の大絶滅・大進化の歴史、哺乳類と人間の登場
第3回	生態系の理解1：森林・草原	森林生態系の構造と機能、半資源草原・高山草原の生態系
第4回	生態系の理解2：湿原・干潟	湧水湿地と泥炭地湿原・干潟生態系の特徴
第5回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第6回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第7回	日本の自然環境保全施策1	自然公園と自然環境保全地域、鳥獣保護制度、野生動物の保護管理
第8回	日本の自然環境保全施策2	環境アセスメントの特徴と手続き、制度構築経過、戦略的環境アセスメント
第9回	里山と生物多様性	里山の資源循環と共生、生物多様性とは、生態系サービス、バイオミミクリ
第10回	自然再生	自然再生とは、近自然河川工法、グリーンインフラ
第11回	海外の自然環境共生事例1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、イギリスのトラスト活動
第12回	海外の自然環境共生事例2	ドイツのビオトープ、欧州農業環境政策
第13回	国際的取り組み	自然環境に関わる国際条約、その他の国際的な枠組み
第14回	生物多様性と経済	生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、認証制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
人と自然との関わりや、自然環境政策、生物多様性などに関するメディア、文献、事例に触れることにより自主的な研究を進めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
毎回の講義において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）：毎回提出するリアクションペーパーにより理解度を評価します。
期末レポート（50%）：最終回に示すレポート課題によって総合的な理解度と考察力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci., 2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, Ornithol Sci., 2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
To achieve harmony and coexistence between the natural environment and human activities for a sustainable society, it is hoped that we will explore the essence of the issues surrounding the natural environment and address the issues from the scientific and social perspectives. In this lecture, the theme is to understand the ecosystem and the issues surrounding it, to learn the various measures that have been taken to address them, and the potential of policies for harmonization between human and nature.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters with academic thinking skills.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SES500P2－115（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

大気人間環境論

北川　徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気は人間生活圏を覆っており，人が呼吸し，生存するために必要なものである。一方で，時には脅威となる存在であり，またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては，大気の動きと人間生活，社会，都市，環境との関係について多角的に学ぶ。

【到達目標】
１．大気運動のスケールと性質，ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
２．大気による災害の種類と，それらの人と社会への影響を説明できる。
３．気流の人間生活への寄与・関与について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で進められる。また，質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	大気の動きと時空間スケール	地球の気流，ENSO
第3,4回	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風，台風，風災害
第5,6回	局地風と人間環境	海陸風，おろし・だし，フェーン，日本各地・世界各地の局地風
第7,8回	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻，ダウンバースト
第9,10回	気流の渦と人間環境	気流の乱れ，気流の渦と構造物の振動
第 11,12回	強風の統計的性質	大気観測，最大風速，再現期待値，再現期間
第 13,14回	ビル風と人間環境，風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境，住環境や風力発電施設における風騒音

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノートや資料などを用いて予習・復習し，後半に出題される課題に取り組み，レポートにまとめること。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる平常点評価（80％）：大気と人間生活，社会，都市あるいはエネルギーに関する課題に対し，到達目標１～３に要求される知識がレポートに展開されているか，また，適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。
授業への参加度の平常点評価（20%）：授業での修学状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスク
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み,日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments.　In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and and the see breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people.　Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
B. to study about the wind effects on cities and people, and
C. to understand the system of the indoor air ventilation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on reports for assignments (80%) and class participation (20%).

SES500P2 − 140（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地球環境生態学

鞠子　茂

備考（履修条件等）：公共政策学と合同
以下の日程で実施予定
7月30日（木）6・7限
7月31日（金）6・7限
8月1日（土）6・7限
8月3日（月）6・7限
8月4日（火）6・7限
8月5日（土）6・7限
8月6日（木）6・7限

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学の基礎と応用を教授し，地球環境問題に対する本質的な理解を深める。

【到達目標】
環境問題の適切な解決に向けて行動できる環境力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業をオンデマンド配信し，予習復習の課題を課してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンスと地球環境生態学への招待	授業の進め方，成績評価，地球環境生態学とは何かを説明する
第2回	なぜ「環境」という言葉が誕生したのか	われわれは環境をどのように理解すべきかを考える
第3回	地球生命系におけるヒエラルキー	遺伝子から生物圏まで，地球の生命世界における階層性について解説する
第4回	地球システムの成り立ち	地球システムのサブシステムと駆動エネルギーについて解説する
第5回	生物多様性の保全に関する是非論	生物多様性の基本的知識と保全の是非について考える
第6回	自然からの恩恵としっぺ返し	生態系サービスについて概説し，環境破壊がもたらすブーメラン現象を考える
第7回	公害から学ぶ環境被害の本質	水俣病を例にして，環境被害が起こるメカニズムを考察する
第8回	地球温暖化のウソホント	地球温暖化がもたらす環境変化についての是非を問う
第9回	地球温暖化が生態系に与える有意な影響	温暖化が生態系の分布などに与える確かな影響について解説する
第10回	人類の発展をもたらしたエネルギー革命と環境問題	環境問題の根本原因をエネルギー革命の歴史から探る
第11回	環境問題の解決に向けたエネルギー戦略	環境への負荷のないエネルギー供給戦略について考える
第12回	地球環境問題の最新トピックス	忍び寄る新たな地球環境問題について概説する
第13回	人類の存続のために必要なこと	人間活動の問題を生態学的に考察する
第14回	試験・まとめの授業	授業全体のまとめをした後，試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが，説明を補助するための資料を授業で配布する。

【参考書】
「面白くてよくわかる！ エコロジー」満田久義，アスペクト（2013）

【成績評価の方法と基準】
オンラインによるレポート課題の提出と試験を行い，レポート課題40％，試験60％の配分で成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を専門としない学生にもわかりやすい授業を行う。

【その他の重要事項】
生態学に関する参考図書を事前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】
The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

GEO500P2 – 142（地理学 / Geography 500）

サステイナビリティ学事例研究 II

杉戸　信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地震災害は、発生した場合の影響が大きく、地域社会の持続可能性を考える重要な鍵のひとつとなる。本事例研究では、土地条件評価と地震発生予測の現状と課題を検討し、今後の土地利用や社会基盤のあり方を考える。

【到達目標】
土地条件評価と地震発生予測について説明できる。
土地利用や社会基盤の課題を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式。図上作業等も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形と災害	日本列島の地形環境について自然地理学的な視点から概観する。地理院地図の概要を理解する。
第2回	地形調査法と実習	変動地形と古地震の調査法を概観したのち、活断層の位置情報を知るための地形判読実習を行う。
第3回	土地条件評価と実習	地形と地質、災害脆弱性、地域危険度などについて検討を行い、理解を深めるため机上作業を行う。
第4回	地震発生予測	地震発生繰り返しモデルや長期評価について検討を行う。
第5回	地震と活断層	活断層分布とその地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第6回	プレート境界の地震	プレート境界の地震に関し、地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第7回	土地利用と社会基盤	災害危険区域や高台移転、防潮堤、建築基準など、土地利用および社会基盤に関わる話題について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）・期末レポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
Risk management for recurrent earthquake disasters is a key to improve social resilience, which supports sustainable society, because earthquakes generally cause serious damages. We examine land-condition evaluation and long-term earthquake prediction, in order to propose future land use as well as to suggest how to use social infrastructures.
Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain land-condition evaluation and long-term earthquake prediction in the Japanese islands, and (2) to explain issues for land use and social infrastructures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final report (70%).

ENV500P2 – 143（環境保全学 / Environmental conservation 500）

サステイナビリティ学事例研究III

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、環境問題について「エネルギーと物質」という観点から研究する。社会の持続可能性を達成する条件などに関して、物理学の一分野である熱力学に着目しながら、現在展開されている具体的な事例をもとに考察する。エネルギーは保存されているが、その変換に際して（時間が経過すると）質は劣化（エントロピーが増大）する。これらは熱力学の第一法則、第二法則として知られている。物質についても同様のことがいえる。このような自然の法則性を理解し、地球システムの描像と人間活動（人為）との関連を理解しておくことは、持続可能性を具体的に考察する上で極めて重要であると思われる。現代社会が抱えているエネルギー問題、廃棄物問題、温暖化問題はまさにこの線上にある。

【到達目標】
概ね次の内容の修得をめざしている。（1）地球システムを概観することができる。（2）熱力学の第一法則、第二法則を理解し、人間活動（人為）との関連性を考察することができる。（3）人間活動としてのエネルギーと廃棄物に関わる諸問題をそれらの観点から検討することができる。（4）エネルギー問題、気候変動問題について持続可能性という概念をふまえて考察することができる。（5）修士課程において各自進めている研究との関連性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では、著書、論文、各種資料などをもとに輪読とディスカッションを行っていく。事例研究として受講者が持ち寄った資料をもとに検討を行うことも含める。また受講者が現在遂行している研究内容を報告してもらい、授業内容との関連について考察することも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方などの説明。参考図書などの紹介。
第2回	地球システムについて	宇宙から微生物までを眺める。太陽エネルギー、光合成、炭素循環、水の大循環など。
第3回	エネルギーと物質（地球システムと人間活動）	エネルギー資源の採取、変換、利用と損失。物質の利用と廃棄、そして人工的循環。地球システムとの比較を通して見る人間活動。
第4回	エネルギーと物質（事例研究）	具体的な事例による考察。
第5回	成長の限界（持続可能性と自然科学的条件）	幾何級数成長とその限界。システムダイナミックス。ナチュラルステップによる持続可能社会の条件。
第6回	成長の限界（事例研究）	具体的な事例による考察。
第7回	熱力学と人間活動（熱力学とエネルギー・物質）	熱力学の第一法則と第二法則。エントロピーの概念とその増大則。
第8回	熱力学と人間活動（事例研究）	具体的な事例による考察。
第9回	環境負荷と指標（人間活動と地球の有限性）	ライフサイクルアセスメント（LCA）とエコロジカルフットプリント（EF）。
第10回	環境負荷と指標（事例研究）	具体的な事例による考察。
第11回	共生の概念と持続（生物学的共生現象から）	生物学に見る共生関係と種の持続性。捕食・被食関係とダイナミックス。社会における地域連携の意義を考える。
第12回	共生の概念と持続（事例研究）	具体的な事例による考察。
第13回	総合討論（物理から考える社会）	クローズド・ループ・インダストリとゼロエミッション。永久機関とエントロピー増大則。これらの概念から環境問題の考察へ。
第14回	総合討論（事例研究）	参加者からの論点提示と総合討論。レポート出題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加時の積極性50％と提出されたレポート内容50％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の理解度を確認しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This course deals with the theme as “energy and materials” which relates to the environmental problems. We introduce the concept of thermodynamics in the field of physics. By means of the concept, we investigate various realistic cases for energy and waste problems in society. Thermodynamics states that energy is always conserved even though time passes (the first law), but the quality is spent (the second law). This is valid not only for energy systems but also for materials. In order to understand the concept of sustainability, it is very important to know the natural law as thermodynamics and the structure of the earth system including material circulation in nature. In class, additionally we obtain the concept of Life-Cycle Assessment and Ecological Footprint. Dynamics for biotic systems is simulated in clarifying symbiosis relation among different species.
（Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the concepts as the earth system, the first and the second law of thermodynamics, the energy and waste problems in society, and their relation with human actions.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and End-term report 50%.

SOS500P2 – 063（その他の社会科学 / Social science 500）

労働政策論

櫻井　洋介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本における雇用や働き方をめぐる制度や施策について、労働法の視点から学びます。
雇用の安定、賃金や処遇のあり方、働き方改革、多様な働き方への対応、人材育成やキャリア形成などに関する制度は、企業の経営や個人の働き方に大きな影響を与えています。本授業では、これらの制度について、背景となる考え方や法制度の仕組みを整理し、実際の運用や企業実務との関係を踏まえて理解することを目的とします。

【到達目標】
日本の雇用・働き方をめぐる制度や施策について、労働法の視点から理解し、企業経営との関係を踏まえて、現行制度の特徴や課題を説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とします。授業内で紹介する主要な判例については、事前に配布資料等をもとに事案の概要や争点を確認したうえで出席することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	労働政策の概要と採用・労働条件の形成	日本の労働政策の全体像と労働法の基本構造を確認したうえで、採用や労働条件がどのように決定・形成されているのかを整理する。
第3,4回	賃金・労働時間に関する法制度	最低賃金制度や労働時間規制を中心に、賃金・労働時間に関する基本的な法制度の仕組みと運用の実態を理解する。
第5,6回	配置転換・労働条件の変更と雇用の終了	配置転換、労働条件の変更、解雇・雇止めに関する法理と判例を通じて、企業の人事権と労働者保護の関係を整理する。
第7,8回	多様な働き方・人材とキャリア形成	非正規雇用や高齢者・障害者雇用、外国人労働者などを取り上げ、多様な働き方や人材活用をめぐる制度の現状を確認したうえで、後半では現代のキャリア形成やキャリア論に関する議論を扱う。
第9,10回	労働安全衛生・労災補償と労働組合の役割	労働災害の防止や補償制度の仕組みを確認するとともに、職場におけるハラスメント対策や相談体制のあり方について理解する。あわせて、労働組合の役割にも触れる。
第 11,12回	サステナビリティ経営と労働問題	サステナビリティ経営や人的資本経営の文脈において、労働分野の課題がどのように認識され、企業の取組として位置づけられているのかを整理する。
第 13,14回	労働政策の課題と展望	デジタル化や働き方の多様化、人口構造の変化などを踏まえ、日本の労働政策が直面している課題を整理し、今後の方向性についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しませんが、労働法の基本書を１冊購入することを推奨します。推奨図書は、参考書の欄をご参照ください。

【参考書】
水町 勇一郎『労働法〔第10版〕』(有斐閣, 2024年) ※第11版が2026年3月発刊予定。
浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第９版』(有斐閣アルマ，2023年)
中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』(有斐閣, 2019年)
判例を学習する際の参考書として、『労働判例百選（第10版）』(有斐閣，2022年)

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元するとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施します。
また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタント）であり、企業のサステナビリティ経営に関するコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、具体的な事例を交えながら実務的な観点を踏まえた授業を行います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナビリティ経営、ビジネスと人権、責任ある企業行動（RBC／CSR)、労働法・国際人権法
＜研究テーマ＞
企業の人権尊重責任に関する制度的研究
＜主要研究業績＞
櫻井洋介『人権尊重の経営　SDG s 時代の新たなリスクへの対応』(日本経済新聞出版，2022)

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course examines institutions and policies related to employment and working styles in Japan from the perspective of labor law.
Systems concerning employment stability, wages and treatment, work style reform, responses to diverse working arrangements, human resource development, and career formation have a significant impact on corporate management and individual working lives. This course aims to organize the underlying ideas and legal frameworks of these systems and to deepen understanding of their practical operation and relevance to corporate practice.
（Learning Objectives）
This course aims to enable students to understand employment-related institutions and policies in Japan from a labor law perspective and to explain the key features and challenges of the current system in relation to corporate management.
（Learning activities outside of classroom）
At the end of each class, instructions for preparation for the next class will be provided. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each
（Grading Criteria /Policy）

Evaluation will be based on a final report (80%), assessing students' understanding of key issues covered in the course and the depth of their analysis, as well as class participation (20%), including attendance.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

岡松　暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者の関心のあるテーマにつき、修士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

【到達目標】
修士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程１年生を対象とし、国際環境問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに 関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。
文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
第2回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第3回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第4回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第5回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第6回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第7回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第8回	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
第9回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第10回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第11回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第12回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第13回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第14回	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ

【学生の意見等からの気づき】
特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際海洋法、国際原子力法、国際環境法
＜主要研究業績＞
１．繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
２．「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
３．「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」
『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

【Outline (in English)】
This course provides guidance for writing the master thesis on the theme of students' interests.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

岡松　暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者の関心のあるテーマにつき、修士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

【到達目標】
修士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士課程１年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに 関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。
文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
第2回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第3回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第4回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第5回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第6回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第7回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第8回	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
第9回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第10回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第11回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第12回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第13回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第14回	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（授業内の報告50％、討論への参加50％）

【学生の意見等からの気づき】
特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際海洋法、国際原子力法、国際環境法
＜主要研究業績＞
１．繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
２．「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
３．「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」
『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

【Outline (in English)】
This course provides guidance for writing the master thesis on the theme of students' interests.
Participants are required to study at least 2 hours before andafter the class.
The course grade will be based on presentations (50%), and discussions (50%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を有効的に進めていくために必要とされる研究・調査の方法論を習得していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、①研究の目的や視点の設定方法と、②先行研究の分析方法（文献調査の方法）、といった修士課程で行っていくための研究・調査の基礎的な方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文のフレームワークを講義するとともに、その中でこの授業で取り扱う内容について確認する。また、履修者がこれまでに取り組んできた（学部時の）研究・調査（卒業論文）の内容を報告し、その内容をこの回で講義したフレームワークに当てはめながら再確認する。
第2回	研究の目的と視点の設定方法①	研究の目的と視点の設定方法を講義する。
第 3 回～第6回	研究の目的と視点の検討	関心のある研究テーマに関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第7回	研究の目的と視点の設定方法②	第3回から第6回までの報告内容の検討から、修士論文における研究の目的と視点を報告する。
第8回	先行研究の分析方法①	第7回で設定された研究の目的と視点に基づく先行研究の分析方法を講義する。
第 9 回～第12回	先行研究の分析	研究の目的と視点に関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第13回	先行研究の分析方法②	第9回から第12回までの報告内容に基づいて、先行研究の分析内容をリスト化し、それを報告する。
第14回	小論文の作成方法	第13回までの内容を加味した小論文（研究計画書）の作成方法を講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などから、研究の目的と視点の検討やこれらに基づく先行研究の調査・分析を計画的に行うとともに、その結果を報告に反映させてください。
なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・報告用配布レジュメの内容（20％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20％）
・討論への参加（発言内容）（20％）
・小論文（研究計画書）の内容（40％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Content of the resume：20%
2）Content of the presentation：20%
3）Participation in the discussion ：20%
4）Short thesis based on the research：40%

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の完成度を高めていくために必要とされる研究・調査の方法論について習得していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、論文研究指導1Aでの取組みを加味しながら、次の方法論を習得することを目指していく。
①修士論文の基盤となる理論モデルの検討方法
②アンケート調査およびヒアリング調査とこれらの調査結果の分析方法
③企業や地域の事例研究（ケーススタディ）の方法
④論文研究指導1Aと①～③の検討結果のまとめ方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文のフレームワークとその中で1年次春学期までの研究・調査の内容を再確認する。
第2回	理論モデルの検討方法①	論文研究指導１Ａの内容に基づいて、修士論文の基盤になる理論モデルの検討方法を講義する。
第３回～第4回	理論モデルの検討	論文の基盤になると考えられる理論モデルを「著書」、「研究論文」、「報告書」から検討し、その内容を報告する。
第5回	理論モデルの検討方法②	第3回から第4回までに検討した理論モデルを整理し、修士論文に適したモデルを決定する。
第6回	アンケート調査の方法	アンケート調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第７回～第8回	アンケート調査票の作成	アンケート調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第9回	ヒアリング調査の方法	ヒアリング調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第10回	ヒアリング調査票の作成	ヒアリング調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第11回	事例研究の方法	企業や地域の取組事例の研究・調査（ケーススタディ）の意義とその方法について講義する。
第12回～第13回	ケーススタディの報告	ケーススタディの結果を報告する。
第14回	修士論文の構想	第13回までの内容を加味して、修士論文の構想について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書、研究論文、報告書から、修士論文の基盤になると考えられる理論モデルの検討や、アンケート調査やヒアリング調査のための調査票の作成・分析方法を計画的に学習するとともに、その結果を報告や小論文（研究計画書）に反映させてください。
なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20％）
・報告用配布レジュメの内容（20％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20％）
・修士論文の構想（40％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Content of the presentation：20%
2）Content of the resume：20%
3）Participation in the discussion ：20%
4）Submission of master thesis plan:40%

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

金光　秀和

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程1年生を対象とし、技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学の観点から論文研究を進めるための基礎的な指導を行います。各自の研究テーマの明確化、先行研究の整理、研究計画の立案、論文執筆の方法論を習得することを目的とします。履修者は、研究の進捗に応じて発表を行い、相互にフィードバックを行うことで、論理的思考力や批判的検討能力を養います。

【到達目標】
本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
・研究テーマの明確化と適切なリサーチクエスチョンの設定ができる。
・先行研究を批判的に整理し、研究の位置付けを明確にできる。
・研究計画を構築し、適切な研究方法を選択・実践できる。
・学術論文の基本構成を理解し、論理的な文章を書くスキルを身につける。
・学術的な議論を適切に行い、建設的なフィードバックを提供できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業では、文献レビューの方法、研究計画の立て方、論文執筆の基礎について講義を行います。また、履修者は、文献講読を通じて研究の進め方や問題意識を深めます。さらに、レポートを作成し、フィードバックを受けながら研究を発展させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究の進め方、論文執筆の基礎について説明します。
第2回	研究テーマの構想①	どのようなテーマに関心があるのかについて話し合います。
第3回	研究テーマの構想②	各自の関心をもとに、文献レビュー、研究計画について考察します。
第4回	文献講読①	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第5回	文献講読②	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第6回	文献講読③	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第7回	研究テーマの設定	本授業で執筆するレポートのリサーチクエスチョンを明確化します。
第8回	文献講読④	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第9回	文献講読⑤	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第10回	文献講読⑥	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第11回	文献講読⑦	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第12回	論文執筆の実践①	本授業で執筆するレポートのアウトラインを考察します。
第13回	論文執筆の実践②	本授業で執筆するレポートの内容を考察します。
第14回	総括	これまでの研究を総括し次学期以降の研究計画を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読んで要点を整理し、講義内容をより深く理解することが求められます。また、自身の研究テーマに関連する文献を探し、適宜レビューを進めてください。さらに、講義で得たフィードバックをもとに論文執筆や研究内容の修正を重ね、各自が能動的に修士論文の内容を向上させていく姿勢が大切です。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と準備（40％）とレポート（60％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は授業改善アンケート対象外のため、学生からの公式な意見はありません。

【その他の重要事項】
履修者の状況に応じて、オンラインでの開講を検討する場合があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学
＜研究テーマ＞
技術と人間・社会の関係性、先端技術の倫理的問題、専門家と非専門家の協働、技術者倫理など各種専門職における倫理、デザインと価値の関係性
＜主要研究業績＞
The Robot as Other: A Postphenomenological Perspective, *Philosophical Inquiries*, 2019, pp. 51-61.
『技術の倫理への問い: 実践から理論的基盤へ』（勁草書房、2023年）
『技術哲学』（昭和堂、2024年）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed for first-year master's students and provides fundamental guidance for conducting master's thesis research from the perspectives of philosophy of technology, ethics of technology, social theory of science and technology, professional ethics, and philosophy of design. The aim is for each student to clarify their research theme, review previous studies, formulate a research plan, and acquire the necessary methodologies for writing their thesis. Through presentations and mutual feedback, students will develop logical thinking and critical analysis skills as their research progresses.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to:
Clarify their research theme and set appropriate research questions.
Critically review previous studies and establish the position of their research.
Develop a research plan and select and implement appropriate research methods.
Understand the basic structure of an academic paper and improve their logical writing skills.
Engage in academic discussions effectively and provide constructive feedback.
【Learning Activities Outside of Classroom】

This course includes lectures on conducting literature reviews, planning research projects, and the fundamentals of thesis writing. Students will further deepen their understanding of research methods and issues through assigned readings. Additionally, they will develop their research skills by writing reports and receiving feedback for continuous improvement.
【Grading Criteria / Policy】
Students will be assessed based on their active participation and preparation for class (40%) and submitted reports (60%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

金光　秀和

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、修士課程1年生を対象とし、技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学の観点から論文研究を進めるための基礎的な指導を行います。各自の研究テーマの明確化、先行研究の整理、研究計画の立案、論文執筆の方法論を習得することを目的とします。履修者は、研究の進捗に応じて発表を行い、相互にフィードバックを行うことで、論理的思考力や批判的検討能力を養います。

【到達目標】
本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
・研究テーマの明確化と適切なリサーチクエスチョンの設定ができる。
・先行研究を批判的に整理し、研究の位置付けを明確にできる。
・研究計画を構築し、適切な研究方法を選択・実践できる。
・学術論文の基本構成を理解し、論理的な文章を書くスキルを身につける。
・学術的な議論を適切に行い、建設的なフィードバックを提供できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業では、文献レビューの方法、研究計画の立て方、論文執筆の基礎について講義を行います。また、履修者は、文献講読を通じて研究の進め方や問題意識を深めます。さらに、レポートを作成し、フィードバックを受けながら研究を発展させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究の進め方、論文執筆の基礎について確認します。
第2回	研究テーマの構想①	どのようなテーマに関心があるのかについて話し合います。
第3回	研究テーマの構想②	各自の関心をもとに、文献レビュー、研究計画について考察します。
第4回	文献講読①	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第5回	文献講読②	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第6回	文献講読③	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第7回	研究テーマの設定	本授業で執筆するレポートのリサーチクエスチョンを明確化します。
第8回	文献講読④	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第9回	文献講読⑤	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第10回	文献講読⑥	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第11回	文献講読⑦	各自の関心をもとに、文献を講読します。
第12回	論文執筆の実践①	本授業で執筆するレポートのアウトラインを考察します。
第13回	論文執筆の実践②	本授業で執筆するレポートの内容を考察します。
第14回	総括	これまでの研究を総括し次学期以降の研究計画を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読んで要点を整理し、講義内容をより深く理解することが求められます。また、自身の研究テーマに関連する文献を探し、適宜レビューを進めてください。さらに、講義で得たフィードバックをもとに論文執筆や研究内容の修正を重ね、各自が能動的に修士論文の内容を向上させていく姿勢が大切です。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と準備（40％）とレポート（60％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は授業改善アンケート対象外のため、学生からの公式な意見はありません。

【その他の重要事項】
履修者の状況に応じて、オンラインでの開講を検討する場合があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学
＜研究テーマ＞
技術と人間・社会の関係性、先端技術の倫理的問題、専門家と非専門家の協働、技術者倫理など各種専門職における倫理、デザインと価値の関係性
＜主要研究業績＞
The Robot as Other: A Postphenomenological Perspective, *Philosophical Inquiries*, 2019, pp. 51-61.
『技術の倫理への問い: 実践から理論的基盤へ』（勁草書房、2023年）
『技術哲学』（昭和堂、2024年）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed for first-year master's students and provides fundamental guidance for conducting master's thesis research from the perspectives of philosophy of technology, ethics of technology, social theory of science and technology, professional ethics, and philosophy of design. The aim is for each student to clarify their research theme, review previous studies, formulate a research plan, and acquire the necessary methodologies for writing their thesis. Through presentations and mutual feedback, students will develop logical thinking and critical analysis skills as their research progresses.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to:
Clarify their research theme and set appropriate research questions.
Critically review previous studies and establish the position of their research.
Develop a research plan and select and implement appropriate research methods.
Understand the basic structure of an academic paper and improve their logical writing skills.
Engage in academic discussions effectively and provide constructive feedback.
【Learning Activities Outside of Classroom】

This course includes lectures on conducting literature reviews, planning research projects, and the fundamentals of thesis writing. Students will further deepen their understanding of research methods and issues through assigned readings. Additionally, they will develop their research skills by writing reports and receiving feedback for continuous improvement.
【Grading Criteria / Policy】
Students will be assessed based on their active participation and preparation for class (40%) and submitted reports (60%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

北川　徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する。
２．既往の研究に関する文献調査を行う。
３．課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査，整理，理解
2	現状分析	文献調査，整理，理解
3	現状分析	文献調査，整理，理解
4	現状分析	文献調査，整理，理解
5	現状分析	文献調査，整理，理解
6	現状分析	文献調査，整理，理解
7	第１～６回のとりまとめ	文献調査，整理，理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第８～１３回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料およびスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
資料およびスライド（70％：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（30％：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み,日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (70%) and the discussion (30%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

北川　徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する。
２．既往の研究に関する文献調査を行う。
３．課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
7	第１～６回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
14	第８～１３回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料およびスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
資料ならびにスライド（50％：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50％：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

杉戸　信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
修士論文の作成に向け、テーマを設定して調査を実施し、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の方向性の検討（1）	研究の方向性について検討を行う。
第2回	研究の方向性の検討（2）	研究の方向性について検討を行い決定する。
第3回	関連文献のレビュー（1）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第4回	関連文献のレビュー（2）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第5回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第6回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第7回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第8回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第9回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第10回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第11回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第12回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第13回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第14回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2 – 202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

杉戸　信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
修士論文の作成に向け、テーマを設定して調査を実施し、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第2回	関連文献のレビュー（1）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第3回	関連文献のレビュー（2）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第4回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第5回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第6回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第7回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第8回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第9回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第10回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第11回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第12回	調査計画の立案（4）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第13回	調査結果のまとめ（4）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第14回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 – 202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-naturalgrasslands,ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrikeand Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai BirdSanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 – 202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
修士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

高橋　五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）修士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、４）事前調査を含む現地調査を実施する、５）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	研究テーマを絞る（１）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	研究テーマを絞る（２）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	研究テーマを絞る（３）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	研究テーマを絞る（４）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	研究テーマを絞る（５）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	研究テーマを絞る（６）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	研究テーマを絞る（７）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	研究テーマを絞る（８）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	現地調査計画と準備（１）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第11回	現地調査計画と準備（２）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第12回	現地調査計画と準備（３）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第13回	現地調査計画と準備（４）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第14回	リサーチプロポーザル進捗状況発表	リサーチプロポーザルの進捗状況を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０%）、リサーチプロポーザル（７０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing a master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside the classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) and their research proposals (70%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

高橋　五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）修士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、４）事前調査を含む現地調査を実施する、５）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	研究テーマを絞る（１）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	研究テーマを絞る（２）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	研究テーマを絞る（３）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	研究テーマを絞る（４）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	研究テーマを絞る（５）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	研究テーマを絞る（６）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	研究テーマを絞る（７）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	研究テーマを絞る（８）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	現地調査計画と準備（１）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第11回	現地調査計画と準備（２）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第12回	現地調査計画と準備（３）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第13回	現地調査計画と準備（４）	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第14回	リサーチプロポーザル発表	リサーチプロポーザル発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０%）、リサーチプロポーザル（７０%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing a master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside the classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) and their research proposals (70%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導

【到達目標】
修士課程1年生を対象とする本演習では、①修士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	到達目標としての「修士論文」を概観する
第2回	研究の進め方	研究の進め方について基本的な知識を習得する
第3回	研究テーマ検討	演習参加者の問題関心を研究テーマに結びつける取り組みを開始する。
第4回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第1回）
第5回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第2回）
第6回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第3回）
第7回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第4回）
第8回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第5回）
第9回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第6回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第1回）
第10回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第7回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第2回）
第11回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第8回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第3回）
第12回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第9回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第4回）
第13回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第10回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第5回）
第14回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第11回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第6回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度60％、修士論文執筆準備の進捗状況40％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year master's course students aims at (1) acquiring basic skills for writing a master's thesis and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start researching for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course. The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing the master's thesis 40%.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導

【到達目標】
修士課程1年生を対象とする本演習では、①修士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第1回）
第2回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第2回）
第3回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第3回）
第4回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第4回）
第5回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第5回）
第6回	研究手法の検討（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第1回）
第7回	研究手法の検討（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第2回）
第8回	研究手法の検討（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第3回）
第9回	研究手法の検討（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第4回）
第10回	研究手法の検討（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第5回）
第11回	研究構想の検討（第1回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第1回）
第12回	研究構想の検討（第2回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第2回）
第13回	研究構想の検討（第3回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第3回）
第14回	研究構想の検討（第4回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第4回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度60％、修士論文執筆準備の進捗状況40％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year master's course students aims at (1) acquiring basic skills for writing a master's thesis and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start researching for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing the master's thesis 40%.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

辻　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程1年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】
　修士論文執筆に必要な歴史学研究の理論的方法論的基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。
　2025年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究関心の確認	参加者各自が自分のテーマについて考えていることや現状を報告する。
第2回	先行研究の把握①和文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第3回	先行研究の把握②欧文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第4回	先行研究の把握③同時代文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第5回	研究動向の把握①	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第6回	研究動向の把握②	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第7回	問題提起の検証	研究動向を踏まえ、独自性のある論文のテーマを導き出す作業をおこなう。
第8回	史料の調査①文献史料（1）	新聞、雑誌、書籍、パンフレットなど、刊行された文献史料について、どのようなものがあるかを調査し、その概要を報告する。
第9回	史料の調査①文献史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第10回	史料の調査②統計史料（1）	統計集など数量データについて、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第11回	史料の調査②統計史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第12回	史料の調査③文書館史料（1）	公文書、未刊行史料など文書館史料について、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第13回	史料の調査③文書館史料（2）	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第14回	仮説の検証	問題提起をふまえ、論文執筆の前提となる仮説の構築と、それに基づいた行論を組み立てる作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の課題をしっかりこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。
　とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこないえないので、各自で必要な能力を身につけるよう努力すること。
　なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】
　授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
　議論への参加（40％）とレポート（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　とくになし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for master student to improve methodological knowledge and to advance research plan.
It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

辻　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　修士課程1年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】
　修士論文執筆に必要な歴史学研究の実践的実証的基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。
　2025年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	作業状況の確認	参加者各自が現在の問題関心と作業状況について報告する。
第2回	論文構成の検討①	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第3回	論文構成の検討②	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第4回	論文構成の検討③	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第5回	研究史の分析①	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第6回	研究史の分析②	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第7回	研究史の分析③	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第8回	他事例研究の分析①同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第9回	他事例研究の分析②同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第10回	他事例研究の分析③同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第11回	史料分析の準備①	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第12回	史料分析の準備②	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第13回	史料分析の準備③	修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。
第14回	論文中間報告	修士論文のテーマ、章立て、中心となる仮説を提示し、全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の課題をしっかりこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。
　とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこないえないので、各自で必要な能力を身につけるよう努力すること。
　なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】
　授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
　議論への参加（40％）とレポート（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　とくになし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for master students to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their master's thesis.
It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

永野　秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】
修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
社会科学系の環境問題等について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。
また、授業は、対面授業を予定しておりますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業といたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1～2回	修士論文テーマ	学生の方の修士論文構想について、意見を聞きます。
第3～4回	修士論文レベルのリサーチ方法（１）	修士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
第5～6回	修士論文レベルのリサーチ方法（２）	仮の修士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索と確認。
第7～8回	修士論文レベルのリサーチ方法（３）	仮の修士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索と確認。
第 9～10回	修士論文の書き方（１）	修士レベルの論文の執筆方法の基礎について学ぶ。
第 11～12回	修士論文の書き方（２）	修士レベルの論文に関する論理展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
第 13～14回	修士論文執筆計画の策定	具体的な修士論文のテーマを話し合い、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師により前回指導された点について、必要なリサーチ、検討、起案を行うこと。
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
リサーチの状況（５０%）、リサーチの結果（５０%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.
＜Learning Objectives＞
The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible
< Learning Activities outside of Classroom>
Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on your research (50%) and its results (50%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

永野　秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】
修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
社会科学系の環境問題について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。
また、授業は、対面授業を予定していますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1～2回	先行文献の調査（１）（春学期の続き）	先行文献の調査を行い、その報告を受け、検証する（法令、判例、その他データ等）。
第3～4回	先行文献の調査（２）	その他、先行文献や英語文献等の調査が必要であれば、その報告を受け、検証する。
第5～6回	中間報告書骨子案のテーマ、論旨の検証	先行文献調査から、受講者が選んだテーマが、これまで検証されたものではなく、かつ、立証可能なものか否かを検討する。
第7～8回	中間報告骨子案の理論展開の検証	中間報告骨子案における、本文の理論展開の整合性について検証する。
第 9～10回	中間報告骨子案の立証責任の検証	中間報告骨子案における、本文の立証可能性について検証する。
第 11～12回	中間報告骨子案に関する話し合い	受講者から、中間報告骨子案に関する報告を受け、話し合い、最終案を検討する。
第 13～14回	中間報告骨子案の画定	中間報告骨子案を検討し、内容を画定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師により前回指導された点について、必要なリサーチ、検討、起案を行うこと。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
先行論文の調査（２０%）、中間報告骨子案（８０%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.
＜Learning Objectives＞
The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible
< Learning Activities outside of Classroom>
Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on the survey of previous papers (20%) and the draft of interim report (80%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導１Ａ・１Ｂでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第2回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第3回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第4回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第5回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第6回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第7回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第8回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第9回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第10回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第11回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第12回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第13回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第14回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ白書2023』日本経営協会，2019年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
修士論文の取組状況：80％
平常点：20%（報告・討議）
修士論文の取組状況については、問題認識、先行研究のレビュー、テーマ選定、研究方法・分析プロセス、データ解析等の妥当性とオリジナリティを評価します。
平常点は報告内容および討議への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master’s thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.
This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master’s thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master’s thesis (80%) and the presentation (20%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導２Ａでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第2回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第3回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第4回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第5回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第6回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第7回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第8回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第9回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第10回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第11回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第12回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第13回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第14回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
修士論文の学術的意義：90％
平常点：10%（報告・討議）
修士論文の学術的な意義については、問題認識、先行研究のレビュー、テーマ選定、研究方法・分析プロセス、データ解析の妥当性とオリジナリティ等を評価します。
平常点は報告内容および討議への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master’s thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master’s thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master’s thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究の基礎	論文執筆の概要、先行研究や新聞記事などの文献・資料の収集方法を学ぶ。
第3回	研究報告①	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告②	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第5回	研究報告③	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー②	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー③	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー④	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑤	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑥	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑦	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー⑧	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	文献レビュー⑨	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋文献レビュー（30%）＋研究報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.
- Set the research themes for writing their master's thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究報告①	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第3回	研究報告②	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告③	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー①	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー②	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー③	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー④	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー⑤	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑥	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑦	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑧	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第13回	研究報告④	研究の成果を報告し、ディスカッションする。
第14回	研究報告⑤	研究の成果を報告し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋文献レビュー（30%）＋研究報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.
- Set the research themes for writing their master's thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
収集データ等の解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながらデータ収集等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第2回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第3回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第4回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第5回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第6回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第7回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第8回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第9回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第10回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第11回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第12回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第13回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第14回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
データ解析等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
Students will draft their master theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on participation.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
収集データ等の解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながらデータ収集等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第2回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第3回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第4回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第5回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第6回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第7回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第8回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第9回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第10回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第11回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第12回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第13回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導
第14回	報告及び議論	収集データ等の解析結果に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
データ解析等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
Students will draft their master theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on participation.

SES600P2 – 201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

松本　倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第2回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第3回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第4回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第5回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第6回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第7回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第8回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第9回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第10回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第11回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第12回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第13回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第14回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、プログラミング（Python など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., &Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., &Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., &Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
（Course outline）Seminar for master thesis.
（Learning Objectives）This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
（Learning activities outside of classroom）Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）Research progress (100%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

松本　倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第2回	研究の方法	研究方法について指導する。
第3回	研究の方法	研究方法について指導する。
第4回	研究の方法	研究方法について指導する。
第5回	研究の方法	研究方法について指導する。
第6回	研究の方法	研究方法について指導する。
第7回	研究の方法	研究方法について指導する。
第8回	研究の方法	研究方法について指導する。
第9回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第10回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第11回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第12回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第13回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第14回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., &Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., &Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., &Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
（Course outline）Seminar for master thesis.
（Learning Objectives）This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
（Learning activities outside of classroom）Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）Research progress (100%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文および研究論文作成のための演習指導を行う。
学生はテーマを選定し、先行論文の調査を行い、それらをまとめて課題をみつけ、仮説をたて、課題解決のための方法を探り、論文を執筆することを最終的な目標とする。

【到達目標】
学生は修士論文執筆のために、まず研究テーマの設定を行う。関心のある分野の学術的な背景を先行研究を調査することにより明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究の進め方について
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第4回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第5回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第6回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第7回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第8回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第9回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第10回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第11回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第12回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第13回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第14回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者それぞれが自分の問題関心に合わせて文献調査を行い、報告する。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60％）、研究の準備状況（40％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012年
ビタミンDの健康効果　人間環境論集19巻号79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか
人間環境論集　20巻1号1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
【Course outline】Practice for preparing master's thesis and research paper.
Students will select a topic, conduct a survey of previous papers, summarize them, find a problem, formulate a hypothesis, and explore ways to solve the problem. Students are expected to write a master's thesis at the end of the course.
【Learning Objectives】To write a master's thesis, students must first establish a research topic. The academic background of the area of interest is clarified by surveying previous studies.
【Learning activities outside of classroom】Each participant will conduct and report on a literature review according to his or her own problematic interests.
【Grading Criteria】The content of the report in the exercise (60%) and the state of preparation for the research (40%) will be comprehensively evaluated.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けた問題意識の醸成、文献検索の方法、調査、解析方法などを身につけ、論文作成に必要な能力を身につける。学生は先行研究を調査し、自分の研究テーマを決定する。課題発見、仮説の設定、先行研究を交えながら論を展開し、考察し、結論を導き出し、最終的に論文を執筆する。

【到達目標】
学生が適切なテーマを選択し、文献検索を行って自身の研究テーマの先行研究における位置づけを明確にする。
必要な調査を明らかにすることにより、調査方法を決定する。得られたデータを適切に分析するための解析方法を学ぶ。
論文作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第2回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第3回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第4回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第5回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第6回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第7回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第8回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第9回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第10回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第11回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第12回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第13回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第14回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は研究テーマについて調査、研究を継続して行う。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、発表10％、研究内容60％で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当無し。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞栄養と健康、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health　2012年
ビタミンDの健康効果　人間環境論集19巻号79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか
人間環境論集　20巻1号1-17
https://eiyouryohou.com/

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will develop an awareness of the issues involved in writing a master's thesis.Students will investigate previous research and determine their own research topic. Students discover issues, formulate hypotheses, and develop and discuss their arguments with previous research. Students are expected to draw a final conclusion and write a paper.
【Learning Objectives】Students will select an appropriate topic and conduct a literature search to clarify the position of their own research topic in previous studies. Determine the research method by identifying the necessary research. Students will learn how to analyze the data obtained in an appropriate manner.
Students will tart writing a paper.
【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate their research topic.
【Grading Criteria】Evaluation will be made on the basis of 30% of normal points, 10% of presentations, and 60% of research content.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

湯澤　規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は修士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を明確にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を共有、テーマと文献の選定
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（１）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第１回）
第4回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（２）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第２回）
第5回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（３）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第３回）
第6回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（４）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第４回）
第7回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（５）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第５回）
第8回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（１）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第9回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（２）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第10回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（３）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第11回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（４）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第12回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（５）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第13回	修士論文のテーマ設定（１）	２回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第１回）
第14回	修士論文のテーマ設定（２）	２回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第２回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は自分の問題関心に合わせて参考文献を選定したうえで熟読し、報告してください。かならず１度はフィールドワークに取り組み、その報告をして下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60％）、研究の準備状況（40％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』（単著、光文社新書、2023年）
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.
◆Learning Objectives
Students will have the following three goals for their master's thesis
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

湯澤　規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は、修士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を洗練する。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③研究計画を立て、調査を実施し、報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の報告と検討（１）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第１回）
第2回	研究計画の報告と検討（２）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第２回）
第3回	研究計画の報告と検討（３）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第３回）
第4回	研究計画の報告と検討（４）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第４回）
第5回	研究計画の報告と検討（５）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第５回）
第6回	フィールドワークの報告と検討（１）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第１回）
第7回	フィールドワークの報告と検討（２）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第２回）
第8回	フィールドワークの報告と検討（３）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第３回）
第9回	フィールドワークの報告と検討（４）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第４回）
第10回	フィールドワークの報告と検討（５）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第５回）
第11回	研究計画のブラッシュアップ（１）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第１回）
第12回	研究計画のブラッシュアップ（２）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第２回）
第13回	研究計画のブラッシュアップ（３）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第３回）
第14回	研究計画のブラッシュアップ（４）	２回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第４回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読することをすすめます。2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60％）、研究の準備状況（40％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』（単著、光文社新書、2023年）
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.
◆Learning Objectives
Students will have the following three goals for their master's thesis
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

吉永　明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関するレポート・論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境倫理学のレポートや論文を書くためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、レポートを作成し、それを添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第2回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第3回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第4回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の書き方を紹介する。
第5回	文献購読（１）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第6回	文献購読（２）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第7回	文献購読（３）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第8回	文献購読（４）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第9回	文献購読（５）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第10回	文献購読（６）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第11回	文献購読（７）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第12回	文献購読（８）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第13回	レポートの添削指導（１）	提出されたレポートを添削し、問題点を共有する。
第14回	レポートの添削指導（２）	再提出されたレポートを添削し、改善点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理　増補改訂版』勁草書房、2025年
吉永明弘、寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
そのほか、授業内で購読する文献を決定する。

【参考書】
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】
作成したレポートについて評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write reports and papers on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to writing report. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
final reports : 100%.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

吉永　明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する研究発表の仕方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを研究発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で行う。環境倫理学の研究発表を行うためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、発表資料を作成し、パワーポイント等を用いて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第2回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第3回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第4回	研究発表のしかた	研究発表のしかたを説明する。
第5回	文献購読（１）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第6回	文献購読（２）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第7回	文献購読（３）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第8回	文献購読（４）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第9回	文献購読（５）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第10回	文献購読（６）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第11回	文献購読（７）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第12回	文献購読（８）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第13回	研究発表（１）	各自のテーマについて発表し、コメントしあう。
第14回	研究発表（２）	コメントをふまえて修正したものを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の準備を各自ですること。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理　増補改訂版』勁草書房、2025年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【参考書】
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】
期末の発表（60%）と授業内での作業（40%）をあわせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞環境倫理学
＜主要研究業績＞都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』
いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to make research presentations on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to make research presentations on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end presentation: 60%,in class contribution:40%.

SES600P2－201（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ａ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、先行研究の調査、リサーチクエスションの導出、テーマ選定、分析手法・技法を含めた研究方法の検討、結果の評価と検証などの考え方について検討する。また論文作成と口頭発表のための基礎事項を学修する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力を身につけることをめざしている。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文執筆あるいは口頭発表に対して効果的な表現とプレゼンテーションができるようになることも目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的にアプローチすることの重要性を意識することになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行うことにする。
この授業では各自進めている研究について助言指導していく。実際の授業では大方毎回受講者のもっている関心事の確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになると思われるが、以下の【授業計画】は特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討
第3回	テーマ検討（妥当性、実現性の観点から）	課題の検討とテーマ選定へ向けての考察
第4回	テーマ検討（新規性、社会的意義の観点から）	研究の意義と社会的インパクトの検討
第5回	先行研究の調査と分析（文献収集）	文献調査
第6回	先行研究の調査と分析（論点整理）	文献調査と先行研究の精査
第7回	視点・論点の検討（研究課題の検討）	リサーチクエスションの導出
第8回	視点・論点の検討(研究課題の論点整理）	研究テーマの検討
第9回	分析・評価手法の検討（論点整理）	分析・評価手法の検討
第10回	分析・評価手法の検討（選定）	分析・評価手法の選定
第11回	研究の設計・計画（概要設計）	研究計画の概要検討
第12回	研究の設計・計画（詳細設計）	研究計画の詳細検討
第13回	研究活動の方針（再確認）	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テーマの考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. We will mainly discuss the following processes: study of previous works, derivation of research questions, research planning, verification of analysis methods, evaluation of results, report technics. This seminar deals with the basic aspects in preparing master's thesis.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2－202（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導１Ｂ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、先行研究の調査、リサーチクエスションの導出、テーマ選定、分析手法・技法を含めた研究方法の検討、結果の評価と検証などの考え方について検討する。また論文作成と口頭発表のための基礎事項を引き続き学修する。

【到達目標】
研究遂行のための基礎力をさらに身につけることをめざしている。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文執筆あるいは口頭発表に対してより効果的な表現とプレゼンテーションができるようになることも目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的にアプローチすることの重要性を意識することになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行うことにする。
この授業では各自進めている研究について助言指導していく。実際の授業では大方毎回受講者のもっている関心事の確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになると思われるが、以下の【授業計画】は特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討
第3回	総合討論（研究報告と検討）	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論（研究報告と論点確認）	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究（資料作成法）	資料作成法の検討
第6回	口頭報告と表現研究（プレゼンテーション法）	表現法の検討
第7回	総合討論（課題検討）	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論(主張事項検討）	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究（章、節の構成）	章・節構造検討
第10回	論文構造研究（文章構成）	文章展開法検討
第11回	論文作成と表現研究（学術的表現）	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討
第12回	論文作成と表現研究(効果的表現）	図表、各種データの掲載法などの検討
第13回	研究活動成果の検討	研究の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テーマの考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加の積極性100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a basic seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. We will mainly discuss the following processes: study of previous works, derivation of research questions, research planning, verification of analysis methods, evaluation of results, report technics. This seminar deals with the basic and practical aspects in preparing master's thesis.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、論文研究指導1A・Bで習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、そして、修士論文の構想に基づいて、研究・調査内容を報告するとともに、その報告結果を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、修士論文の中間報告書（粗原稿）を作成していくために、論文研究指導1A・Bよりも論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、論文研究指導1A・Bで習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）、修士論文の構想に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	1年次までに行った研究・調査とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第2回	修士論文の構成（案）の検討	修士論文を構成する章や節の設定方法を講義するとともに、その案について報告する。
第 3 回～第11回	研究・調査の成果報告	第2回の構成（案）に基づいて、研究・調査を進めていくとともに、その成果を報告する。
第12回	修士論文の体裁	修士論文の体裁を整えていくための方法を講義する。
第13回	修士論文の構成（案）の再検討	これまでの講義に基づいて、章や節の構成（案）を再検討する。
第14回	修士論文の中間報告書（粗原稿）の作成	第13回の構成に基づいて作成される修士論文の全体内容を報告するとともに、その内容の粗原稿を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を修士論文の中間報告書（粗原稿）に反映させてください。
なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・修士論文（粗原稿）の内容（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Content of master thesis （rough draft)：50%

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、論文研究指導1A・Bで習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、そして、論文研究指導2Aで作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、研究・調査を進め、その結果を報告するとともに、その報告内容を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、論文研究指導1A・Bや論文研究指導2Aでの学習内容を参考にしながら、修士論文を作成していくための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、論文研究指導1A・Bで習得した研究・調査の方法論、作成した小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、論文研究指導2Aで作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、完成から提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第5回	追加的作業の確認	修士論文の完成のために必要不可欠となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 6 回～第13回	修士論文の作成	論文研究指導2Aで作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）に、これまでに行ってきた研究・調査内容を反映させた（加筆修正した）部分、また、内容調整した部分について報告する。
第14回	修士論文の最終版の調整	修士論文の形式と内容の最終調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その内容を修士論文に反映させ、完成度の高い論文にしてください。
なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・修士論文（提出前原稿）の内容（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Content of master thesis：50%

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

小島　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①研究テーマの細部の再調整
②追加的な調査研究
③修士論文の草稿の執筆

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
・修士論文の執筆能力を身につける。
・学術論文の技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文の草稿執筆に向けて、章構成に関する指導、調査研究の遂行に関する指導、調査研究から得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場ともする。なお、この授業は対面授業を基本としつつも、当日の天候その他の諸事情に応じて、オンライン授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１年間の調査研究成果の報告	M1の調査研究成果について報告し、今後の方向性について確認する。
2	修士論文完成までの工程確認	修士論文作成までの工程と具体的な調査研究課題を確認する。
3	修士論文の構造と技法の学習	修士論文の論理展開の重要性、章構成、技法について学ぶ。
4	章節構成案の報告	章節構成案を報告し、論文の構造について検討する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	章節構成案の再検討	調査研究の進展をふまえて、章節構成案を再検討する。
9	草稿執筆の準備作業の報告	草稿執筆に向けた準備作業について報告し、工程を確認する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。
13	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。
14	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。
・修士論文の草稿を執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50％）、課題への取り組み（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論、自治体政策論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と行政
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
「グローカルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.
Students work on the following contents:
(1)Readjust the details of the research theme.
(2)Work on additional research.
(3)Write the draft of master's thesis.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Acquire the ability to write master's thesis.
(2)Acquire the techniques of academic paper.
Students need to proceed with research, and to write the draft of master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

小島　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①修士論文の草稿の検討と修正
②研究成果と今後の研究課題の確認

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下の通りである。
・修士論文を完成させる。
・修士論文について的確に説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文の完成に向けて、草稿修正に関する指導、追加的な調査研究の遂行に関する指導、そこから得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、修士論文の草稿については、添削とコメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場ともする。なお、この授業は対面授業を基本としつつも、当日の天候その他の諸事情に応じて、オンライン授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の草稿に関する報告	草稿について報告し、今後の修正課題について検討する。
2	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
3	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
4	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
5	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
6	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
7	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
8	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
9	修士論文の参考文献・資料に関する報告	修士論文の参考文献・資料について報告し精査する。
10	修士論文の全章に関する構成の最終確認	修士論文の全章に関する構成を最終確認し、重要な箇所について内容を精査する。
11	修士論文（案）の提出と報告	修士論文（案）を提出し、内容について報告する。
12	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
13	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
14	修士論文の最終案の報告と形式的調整	修士論文の最終案の報告と論文形式に関する調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。
・調査研究を進めること。
・修士論文を執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50％）、課題への取り組み（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論、自治体政策論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と行政
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
「グローカルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.
Students work on the following contents:
(1)Review and revise the draft of master's thesis.
(2)Confirm of research results and future research issues.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Complete the master's thesis.
(2)Acquire the ability to explain the master's thesis accurately.
Students need to proceed with research, and to write the master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】
修士課程2年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを入手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第2回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第3回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第4回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第5回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第6回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第7回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第8回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第9回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第10回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第11回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第12回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第13回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第14回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.
The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】
修士課程2年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを入手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第2回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第3回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第4回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第5回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第6回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第7回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第8回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第9回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第10回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第11回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第12回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第13回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第14回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.
The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導（2年目以降）

【到達目標】
修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究構想の検討（第6回）	前年度の演習に引き続き、演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第6回 前年度からの継続）
第2回	研究構想の検討（第7回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第3回	研究構想の検討（第8回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第4回	研究構想の検討（第9回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第5回	研究構想の検討（第10回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第6回	研究構想の検討（第11回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第7回	研究構想の検討（第12回）	演習参加者による研究構想の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第8回	修士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第9回	修士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第10回	修士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第11回	修士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第12回	修士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第13回	修士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第14回	修士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第7回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70％、演習における積極性と貢献度30％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is a second year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための演習指導（2年目以降）

【到達目標】
修士課程2年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に修士論文を執筆、完成させると同時に的確な報告ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	修士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	修士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	修士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	修士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	修士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	修士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	修士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	修士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	修士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	修士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	修士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	修士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）
第14回	修士論文執筆と進捗報告（第14回）	演習参加者による修士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第14回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、修士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。修士論文（内容およびプレゼンテーション）70％、演習における積極性と貢献度30％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is a second year seminar for authoring master thesis.
[Learning Objectives]
The goal of this exercise for second-year master's students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a master's thesis, and appropriately present their research.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of the master's thesis writing will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and write their theses accordingly. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. Participants are also expected to make presentations at academic conferences.
The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall evaluation will be based on the following balance. Master's thesis (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution to the seminar: 30%

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導１Ａ・１Ｂでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第2回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第3回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第4回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第5回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第6回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第7回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第8回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第9回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第10回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第11回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第12回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第13回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第14回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ白書2023』日本経営協会，2019年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
修士論文の取組状況：90％
平常点：10%（報告・討議）
修士論文の取組状況については、分析プロセスから導かれた結果の妥当性とオリジナリティについて評価します。
平常点は報告内容および討議への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master’s thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.
This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master’s thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master’s thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文研究指導２Ａでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】
学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第2回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第3回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第4回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第5回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第6回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第7回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第8回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第9回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第10回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第11回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第12回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第13回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第14回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
修士論文の完成度：90％
平常点：10%
修士論文の完成度については、リサーチクエスチョンに対する分析プロセスから導かれた結論の妥当性とオリジナリティを評価します。平常点は報告内容および討議への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（202年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will guide students to complete their master’s thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master’s thesis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the content of the master’s thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2 – 203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究の基礎	論文執筆の概要、先行研究や新聞記事などの文献・資料の収集方法を学ぶ。
第3回	研究報告①	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告②	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第5回	研究報告③	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー②	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー③	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー④	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑤	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑥	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑦	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー⑧	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	文献レビュー⑨	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋文献レビュー（30%）＋研究報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.
- Set the research themes for writing their master's thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究報告①	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第3回	研究報告②	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告③	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー①	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー②	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー③	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー④	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー⑤	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑥	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑦	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑧	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第13回	研究報告④	研究の成果を報告し、ディスカッションする。
第14回	研究報告⑤	研究の成果を報告し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋文献レビュー（30%）＋研究報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their master's thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the basic knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and understand the recent research trends.
- Set the research themes for writing their master's thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Literature Review (30%) + Research Presentation (40%).

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
修士論文の執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、各自修士論文執筆の進捗状況を報告し、それに対して教員が研究指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第2回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第3回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第4回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第5回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第6回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第7回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第8回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第9回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第10回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第11回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第12回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第13回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第14回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
修士論文執筆の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
Students will draft their master theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on participation.

SES600P2 – 204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
修士論文の執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、各自修士論文執筆の進捗状況を報告し、それに対して教員が研究指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第2回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第3回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第4回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第5回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第6回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第7回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第8回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第9回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第10回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第11回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第12回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第13回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導
第14回	報告及び議論	修士論文執筆の進捗状況に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
修士論文執筆の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
Students will draft their master theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on participation.

SES600P2－203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成のステップとして修士課程2年生を対象として、修士論文作成のための研究調査活動、論文執筆の指導を行う。学生は定めたテーマについて先行研究をまとめ、課題を提示し、仮説を設定して考察を行うことを目的とする。

【到達目標】
学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の作成	先行研究について
第2回	修士論文の作成	これまでの研究、調査結果の報告、問題点の把握
第3回	修士論文の作成	問題点の解決について
第4回	修士論文の作成	調査についての報告
第5回	修士論文の作成	調査の問題点について
第6回	修士論文の作成	調査結果の解析
第7回	修士論文の作成	調査結果解析についての課題検討
第8回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第9回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第10回	修士論文の作成	これまでに得られた結果の総括と新知見の再確認
第11回	修士論文の作成	論文執筆の開始
第12回	修士論文の作成	論文執筆についての報告と内容の確認
第13回	修士論文の作成	追加的調査、文献検索についての検討
第14回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、指示した課題の消化状況40％、研究内容30％として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年

【Outline (in English)】
【Course outline】As a step toward the completion of the master's thesis, research and survey activities for the preparation of the master's thesis and guidance in writing the thesis are provided. Students are expected to summarize previous research on a defined topic, present a problem, set a hypothesis, and conduct a study.
【Learning Objectives】Students will be guided through the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.
【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.
【Grading Criteria】The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2－204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成のための最終段階として、論文執筆の指導を行う。
学生は修士論文を仕上げることを目標とする。

【到達目標】
学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正
第2回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第3回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第4回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第5回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第6回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第7回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第8回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第9回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第10回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第11回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第12回	修士論文の作成	論文を完成させる
第13回	修士論文の作成	論文を完成させる
第14回	修士論文の作成	論文を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、指示した課題の消化状況40％、研究内容30％として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞水素栄養療法の健康効果、就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年
人生１００年の健康づくりに医師がすすめる最高の水素術　サンライズパブリッシング　2023年

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will receive guidance in writing their paper as the final step in preparing their master's thesis. Students are expected to complete their master's thesis.
【Learning Objectives】Students will be guided the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.
【Learning activities outside of classroom】Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.
【Grading Criteria】The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2 – 203（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ａ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導を行う

【到達目標】
修士論文の分析を実施する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
2	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
3	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
4	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
5	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
6	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
7	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
8	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
9	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
10	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
11	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
12	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
13	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
14	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとＰＰＴファイルを事前に準備すること。

【テキスト（教科書）】
適宜指示を行う

【参考書】
適宜指示を行う

【成績評価の方法と基準】
修士論文の進捗状況(100%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Students will draft their own thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation and discussion.

SES600P2 – 204（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 600）

論文研究指導２Ｂ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための個別指導を行う。

【到達目標】
論文研究指導２Ａまでの指導をもとに修士論文作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
2	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
3	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
4	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
5	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
6	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
7	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
8	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
9	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
10	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
11	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
12	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
13	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
14	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとＰＰＴファイルを事前に準備する

【テキスト（教科書）】
適宜指示を行う

【参考書】
適宜指示を行う

【成績評価の方法と基準】
データ解析の進捗状況(100%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Complete your master thesis.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

岡松　暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者の関心のあるテーマにつき、博士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

【到達目標】
博士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士課程１年生を対象とし、国際環境問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに 関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。
文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
第2回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第3回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第4回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第5回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第6回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第7回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第8回	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
第9回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第10回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第11回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第12回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第13回	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
第14回	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。
各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。

【テキスト（教科書）】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％

【学生の意見等からの気づき】
特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際海洋法、国際原子力法、国際環境法
＜主要研究業績＞
１．繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
２．「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
３．「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」
『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

【Outline (in English)】
This course provides guidance for writing the doctoral dissertation on the theme of students' interests.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

岡松　暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の設定したテーマにつき、博士論文執筆のための指導を行う。

【到達目標】
博士論文の提出に向けて、文献解題、問題点に関する討論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士課程1年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき設定したテーマにそった博士論文の作成を行う。毎回行われる論文執筆の進捗状況報告に対する指導を行う。また、設定されている中間報告や最終報告に向けたプレゼンテーションについても指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第2回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第3回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第4回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第5回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第6回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第7回	目次案提出	初稿を提出し、検討する。
第8回	中間報告会のための指導	中間報告に向け、要点を簡潔にまとめ、目指す方向を明確に示す。
第9回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第10回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第11回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第12回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第13回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討
第14回	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論点の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。
各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。
論文の執筆を進める。

【テキスト（教科書）】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】
受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％

【学生の意見等からの気づき】
特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際海洋法、国際原子力法、国際環境法
＜主要研究業績＞
１．繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
２．「ロンドン条約・議定書と福島原発「ALPS処理水」問題」『外交』Vol. 77、2023年。
３．「国際原子力機関（IAEA）の安全基準と原発事故－国際法上の観点から」
『論究ジュリスト』2016年秋号（19号）。

【Outline (in English)】
This course provides guidance for writing the doctoral dissertation on the theme of students' interests.
Participants will acquire the theory of international cooperation and field research methods through literature and practice.
Participants will improve their writing skills as well.
Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.
The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を検討し、報告するとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成していくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、博士論文の作成で行っていく高度な研究・調査に必要とされる論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルの特長や問題点、そして、実践適用可能性をさらに深く検討してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士課程までに行った研究・調査の内容（修士論文の内容）とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第 2 回～第3回	博士論文の構成・内容（案）の検討	博士論文の章・節の構成・内容（案）について検討する。
第 4 回～第12回	研究・調査の成果報告	第2回～第3回の構成・内容（案）に基づいて、研究・調査の成果を報告する。
第13回	博士論文の構成・内容（素案）の検討	これまでの研究・調査に基づいて、章・節の構成・内容（素案）を検討する。
第14回	小論文の作成	第13回の構成・内容（素案）に基づいて、博士論文の方向性を報告するとともに、その報告内容に基づく小論文（研究計画書）を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文のための小論文（研究計画書）の作成に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20％）
・報告用配布レジュメの内容（20％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20％）
・小論文（研究計画書）の内容（40％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：20%
2）Content of the resume：20%
3）Content of the presentation ：20%
4）Short thesis based on the research ：40%

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論、修士論文の内容、サステイナビリティ特殊研究1Ａで作成した小論文（研究計画書）の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を再検討し、報告するとともに、その報告内容を参考にしながら、博士論文の中間報告と博士論文の内容を検討していくこと（学会誌（研究誌）などへの投稿論文や学会報告も含む）を目的とする。

【到達目標】
本演習では、博士論文の中間報告と博士論文の作成で行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論、修士論文の内容、博士論文のための小論文（研究計画書）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、博士論文の中間報告および博士論文（投稿論文も含む）の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第11回	追加的作業の確認	博士論文の中間報告および博士論文の作成のために必要な作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第12回～第13回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討・調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文の構成・内容（案）に反映させ、論文内容を再検討し、調整する。
第14回	博士論文の構成・内容（素案）の決定	博士論文の構成・内容（素案）を再調整し、決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文の中間報告や、博士論文の中間報告書に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・博士論文の中間報告、投稿論文を含む博士論文（中間報告書）の構成・内容（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a paper.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Structure and content of doctoral thesis or research paper ：50%

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

金光　秀和

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士課程1年生を対象とし、博士論文執筆のための指導を行います。

【到達目標】
履修者が自身の研究を発展させ、博士論文執筆に向けた基盤を確立することを目的とします。特に、研究の理論的枠組みの構築、先行研究の体系的整理、適切な研究手法の選択・適用、論理的で説得力のある学術論文の執筆能力の向上を目指します。なお、1年次終了時までに、博士論文のテーマを設定することが具体的な目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献収集・文献講読を通じて、先行研究を批判的に整理し、自身の研究の位置付けを明確にします。また、研究テーマを明確化し、適切なリサーチクエスチョンを設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の検討	各自の関心をもとに研究計画を検討します。
第2回	文献講読①	文献を収集し、講読します。
第3回	文献講読②	文献を収集し、講読します。
第4回	文献講読③	文献を収集し、講読します。
第5回	文献講読④	文献を収集し、講読します。
第6回	文献講読⑤	文献を収集し、講読します。
第7回	研究テーマの検討	博士論文のテーマを検討します。
第8回	文献講読⑥	文献を収集し、講読します。
第9回	文献講読⑦	文献を収集し、講読します。
第10回	文献講読⑧	文献を収集し、講読します。
第11回	文献講読⑨	文献を収集し、講読します。
第12回	文献講読⑩	文献を収集し、講読します。
第13回	文献講読⑪	文献を収集し、講読します。
第14回	総括	これまでの研究を総括し次学期以降の研究計画を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。
各自の関心に沿って、文献収集・文献講読、執筆等を行います。

【テキスト（教科書）】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【参考書】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は授業改善アンケート対象外のため、学生からの公式な意見はありません。

【その他の重要事項】
履修者の状況に応じて、オンラインでの開講を検討する場合があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学
＜研究テーマ＞
技術と人間・社会の関係性、先端技術の倫理的問題、専門家と非専門家の協働、技術者倫理など各種専門職における倫理、デザインと価値の関係性
＜主要研究業績＞
The Robot as Other: A Postphenomenological Perspective, *Philosophical Inquiries*, 2019, pp. 51-61.
『技術の倫理への問い: 実践から理論的基盤へ』（勁草書房、2023年）
『技術哲学』（昭和堂、2024年）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed for first-year PhD students and provides guidance on writing a doctoral thesis.
【Learning Objectives】
The primary aim of this course is to help students develop their research and establish a strong foundation for writing a doctoral thesis. In particular, the course focuses on building a theoretical framework, systematically organizing previous research, selecting and applying appropriate research methods, and enhancing the ability to write logical and persuasive academic papers. The specific objective is for students to define their doctoral thesis theme by the end of the first year.
【Learning Activities Outside the Classroom】
Through literature collection and critical reading, students will systematically analyze previous research and clarify the position of their own study. Additionally, they will refine their research theme and formulate appropriate research questions.
【Grading Criteria / Policy】
Evaluation is based entirely on continuous assessment (100%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

金光　秀和

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、博士課程1年生を対象とし、博士論文執筆のための指導を行います。

【到達目標】
履修者が自身の研究を発展させ、博士論文執筆に向けた基盤を確立することを目的とします。特に、研究の理論的枠組みの構築、先行研究の体系的整理、適切な研究手法の選択・適用、論理的で説得力のある学術論文の執筆能力の向上を目指します。なお、1年次終了時までに、博士論文のテーマを設定することが具体的な目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献収集・文献講読を通じて、先行研究を批判的に整理し、自身の研究の位置付けを明確にします。また、研究テーマを明確化し、適切なリサーチクエスチョンを設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の検討	各自の関心をもとに研究計画を検討します。
第2回	文献講読①	文献を収集し、講読します。
第3回	文献講読②	文献を収集し、講読します。
第4回	文献講読③	文献を収集し、講読します。
第5回	文献講読④	文献を収集し、講読します。
第6回	文献講読⑤	文献を収集し、講読します。
第7回	研究テーマの検討	博士論文のテーマを検討します。
第8回	文献講読⑥	文献を収集し、講読します。
第9回	文献講読⑦	文献を収集し、講読します。
第10回	文献講読⑧	文献を収集し、講読します。
第11回	文献講読⑨	文献を収集し、講読します。
第12回	文献講読⑩	文献を収集し、講読します。
第13回	文献講読⑪	文献を収集し、講読します。
第14回	総括	これまでの研究を総括し次学期以降の研究計画を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。
各自の関心に沿って、文献収集・文献講読、執筆等を行います。

【テキスト（教科書）】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【参考書】
履修者の関心や研究テーマに応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は授業改善アンケート対象外のため、学生からの公式な意見はありません。

【その他の重要事項】
履修者の状況に応じて、オンラインでの開講を検討する場合があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
技術哲学、技術倫理、科学技術社会論、専門職倫理、デザイン哲学
＜研究テーマ＞
技術と人間・社会の関係性、先端技術の倫理的問題、専門家と非専門家の協働、技術者倫理など各種専門職における倫理、デザインと価値の関係性
＜主要研究業績＞
The Robot as Other: A Postphenomenological Perspective, *Philosophical Inquiries*, 2019, pp. 51-61.
『技術の倫理への問い: 実践から理論的基盤へ』（勁草書房、2023年）
『技術哲学』（昭和堂、2024年）

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed for first-year PhD students and provides guidance on writing a doctoral thesis.
【Learning Objectives】
The primary aim of this course is to help students develop their research and establish a strong foundation for writing a doctoral thesis. In particular, the course focuses on building a theoretical framework, systematically organizing previous research, selecting and applying appropriate research methods, and enhancing the ability to write logical and persuasive academic papers. The specific objective is for students to define their doctoral thesis theme by the end of the first year.
【Learning Activities Outside the Classroom】
Through literature collection and critical reading, students will systematically analyze previous research and clarify the position of their own study. Additionally, they will refine their research theme and formulate appropriate research questions.
【Grading Criteria / Policy】
Evaluation is based entirely on continuous assessment (100%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

北川　徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する。
２．既往の研究に関する文献調査を行う。
３．課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査，整理，理解
2	現状分析	文献調査，整理，理解
3	現状分析	文献調査，整理，理解
4	現状分析	文献調査，整理，理解
5	現状分析	文献調査，整理，理解
6	現状分析	文献調査，整理，理解
7	第１～６回のとりまとめ	文献調査，整理，理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第８～１３回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料とスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
資料とスライド（50％：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50％：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

北川　徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】
１．課題を設定する。
２．既往の研究に関する文献調査を行う。
３．課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
調査とディスカッションを通じて，研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索，中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
7	第１～６回のとりまとめ，中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化，中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
14	第８～１３回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全回：研究の実施，資料とスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
資料とスライド（50％：論述の適切さ，到達目標１～３への到達度），議論（50％：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to deliberate on the research objective and plan,
B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

杉戸　信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
博士論文の作成に向け、テーマを設定して調査を実施し、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の方向性の検討（1）	研究の方向性について検討を行う。
第2回	研究の方向性の検討（2）	研究の方向性について検討を行い決定する。
第3回	関連文献のレビュー（1）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第4回	関連文献のレビュー（2）	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第5回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第6回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第7回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第8回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第9回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第10回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第11回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第12回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第13回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第14回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

杉戸　信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】
博士論文の作成に向け、テーマを設定して調査を実施し、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第2回	関連文献のレビュー（1）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第3回	関連文献のレビュー（2）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第4回	調査計画の立案（1）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第5回	調査計画の立案（2）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第6回	調査結果のまとめ（1）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第7回	調査結果のまとめ（2）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第8回	関連文献のレビュー（3）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第9回	関連文献のレビュー（4）	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第10回	調査計画の立案（3）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第11回	調査結果のまとめ（3）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第12回	調査計画の立案（4）	研究内容に応じた調査計画を検討する。
第13回	調査結果のまとめ（4）	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第14回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】
応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176．doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第2回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第3回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第4回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第5回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第6回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第7回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第8回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第9回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第10回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第11回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第12回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第13回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第14回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】
博士課程1年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第2回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第3回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第4回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第5回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第6回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第7回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第8回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第9回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第10回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第11回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第12回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第13回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第14回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

高橋　五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士課程１年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究で必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）博士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）事前調査を含む現地調査を実施する、４）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー（１）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー（２）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー（３）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー（４）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー（５）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー（６）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー（７）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー（８）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	民族誌の記述（１）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述（２）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述（３）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述（４）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、プロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside the classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

高橋　五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士課程１年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究で必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】
学生の到達目標は、１）博士論文のテーマを絞る、２）テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、３）事前調査を含む現地調査を実施する、４）リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー（１）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー（２）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー（３）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー（４）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー（５）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー（６）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー（７）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー（８）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	民族誌の記述（１）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述（２）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述（３）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述（４）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、プロポーザル（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】
Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside the classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（1年目）

【到達目標】
博士課程1年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	到達目標としての「博士論文」を概観する
第2回	研究の進め方の確認	研究の進め方について基本的な知識を確認する
第3回	研究テーマ検討	演習参加者の修士論文などをレビューするとともに問題関心を研究テーマに結びつける取り組みを開始する。
第4回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第1回）
第5回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第2回）
第6回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第3回）
第7回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第4回）
第8回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に理論面）（第5回）
第9回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第6回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第1回）
第10回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第7回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第2回）
第11回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第8回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第3回）
第12回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第9回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第4回）
第13回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第10回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第5回）
第14回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第11回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に事例面）（第6回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度60％、博士論文執筆準備の進捗状況40％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year doctoral students aims at (1) acquiring the basic skills for writing a doctoral dissertation and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start research for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course. The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]

The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（1年目）

【到達目標】
博士課程1年生を対象とする本演習では、①博士論文執筆のための基礎的なスキルの獲得、および、②研究テーマ設定を目標とします。「研究論文」とはいかなるものかについてよく理解し、執筆に向けたリサーチを開始することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。論文執筆やリサーチの基礎的なスキルに関しては、紹介する文献などを通じて学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第1回）
第2回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第2回）
第3回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第3回）
第4回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第4回）
第5回	先行研究レビューと研究テーマ設定（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（第5回）
第6回	研究手法の検討（第1回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第1回）
第7回	研究手法の検討（第2回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第2回）
第8回	研究手法の検討（第3回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第3回）
第9回	研究手法の検討（第4回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第4回）
第10回	研究手法の検討（第5回）	演習参加者による先行研究レビューと、研究テーマ設定に関する議論を行う（特に研究手法について）（第5回）
第11回	研究構想の検討（第1回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第1回）
第12回	研究構想の検討（第2回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第2回）
第13回	研究構想の検討（第3回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第3回）
第14回	研究構想の検討（第4回）	これまでの先行研究レビュー等の結果に基づき、研究構想を検討する（第4回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者と協議のうえ、各回の参考文献を選定します。それらの参考文献（主に先行研究）の内容について熟読のうえ、自らの研究テーマについてよく考慮し、準備することが望まれます。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。演習における積極性と貢献度60％、博士論文執筆準備の進捗状況40％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the first year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
This seminar for first-year doctoral students aims at (1) acquiring the basic skills for writing a doctoral dissertation and (2) setting a research theme. Students are expected to have a good understanding of what a "research paper" is and to start research for writing one.
[Learning Activities outside of classroom]
References for each session will be selected in consultation with the seminar participants. It is recommended that you carefully read the texts of these references (mainly prior research), consider your own research theme, and prepare for the course. The standard preparation and review time for this session is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Proactive participation and contribution in the seminar 60%, progress in preparation for writing a doctoral dissertation 40%.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

辻　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】
3年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
第1年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文の内容として構築する。春学期では、独創性のある論文のテーマを設定するため、隣接学問領域を含めた幅広く知識を吸収することで問題意識を広げていく。
第2年は、史料収集をおこなう。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、さらにそれを整理する方法を学ぶ。春学期ではまず刊行文献を扱うことからはじめる。
第3年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。
2025年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第2回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第3回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第4回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第5回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第6回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第7回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第8回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第9回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第10回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第11回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第12回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第13回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第14回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】
授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40％）、レポート（60％）により評価する。3年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for doctoral candidates to improve methodological knowledge and to advance research plan.
The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

辻　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】
3年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
第1年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文へ拡大深化させていく。秋学期は論文の内容をさらに掘り下げるため、論文で扱う分野に限定して先行研究を徹底的に読み込む作業をおこなう。
第2年は、必要な史料を収集する。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、それを整理する方法を学ぶ。必要に応じて統計や文書館史料に取り組む。
第3年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。
2025年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第2回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第3回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第4回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第5回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第6回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第7回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第8回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第9回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第10回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第11回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第12回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第13回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第14回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】
授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（40％）、レポート（60％）により評価する。3年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　歴史学（ドイツ近現代史）
＜研究テーマ＞　市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史
＜主要研究業績＞　『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】
Small group workshop for doctoral candidates to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their dissertations.
The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

永野　秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等をある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と，本講義を通じて収集する最新情報に基づいて，米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	博士論文のテーマ	学生の方の博士論文構想について、意見を聞きます。
第3,4回	博士論文レベルのリサーチ（１）	博士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
第5,6回	博士論文レベルのリサーチ（２）	仮の博士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索方法の指導。
第7,8回	博士論文レベルのリサーチ（３）	仮の博士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索方法の指導
第9,10回	博士論文の書き方（１）	博士論文レベルの執筆方法の基礎について学ぶ。
第 11,12回	博士論文の書き方（２）	博士論文レベルの論文に関する理論展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
第 13,14回	博士論文執筆計画の策定	具体的な博士論文の構成と、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生と相談し，進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
参加３０％、進捗状況７０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.
＜Learning Objectives＞
Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.
< Learning Activities outside of Classroom>
The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

永野　秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について，個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】
米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し，最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等をある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と，本講義を通じて収集する最新情報に基づいて，米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	先行文献の調査	先行文献の調査に関する報告を受け、検証する。
第3,4回	学会における発表状況の報告	テーマに関連する学会における発表状況につき、報告を受ける。
第5,6回	今後の学会における発表テーマの検討	今年度中に発表可能な論文について、特定の学会における報告可能性を検討する。
第7,8回	博士論文の構成に関する検証	これまで行ってきた学会発表論文と博士号論文の章立てとの検討を行う。
第9,10回	博士号論文の構成の確定	博士号論文の構成を確定する。
第 11,12回	博士号論文の本文校正	博士号論文の本文に関する校正を行う。
第 13,14回	博士号論文のサイテーションに関する校正	博士号論文のサイテーションにつき、米国法の引用方式であるブルーブックに基づく校正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生と相談し，進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】
適宜，推薦する。

【参考書】
適宜，推薦する。

【成績評価の方法と基準】
参加３０％、進捗状況７０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.
＜Learning Objectives＞
Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.
< Learning Activities outside of Classroom>
The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文執筆に必要な先行研究を検討します。参加者は、自分の博士論文の構想や論点に基づき、調査すべき先行研究のリストを作成し、毎回報告します。授業を通じて、先行研究の主な論点と自身の研究テーマとの関係を整理することを目指します。

【到達目標】
博士論文のテーマを絞り込むために、先行研究の成果（論点）や研究方法を広く調査し、それらを踏まえて博士論文のフレームワークを構想します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	修士論文の内容についての報告
第3回	博士論文の中間研究報告	研究テーマ・研究方法についての途中経過を報告
第4回	学会誌投稿論文の執筆計画	検討すべき先行研究のリストアップ
第5回	先行研究に関する報告①［E（環境）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第6回	先行研究に関する報告②［E（環境）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第7回	先行研究に関する報告③［S（社会）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第8回	先行研究に関する報告④［S（社会）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第9回	先行研究に関する報告⑤［G（ガバナンス）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第10回	先行研究に関する報告⑥［G（ガバナンス）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第11回	学会誌投稿論文のテーマ報告	博士論文提出の条件である学会誌投稿論文のテーマ決定
第12回	学会誌投稿論文の論点整理①	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第13回	学会誌投稿論文の論点整理②	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第14回	学会誌投稿論文の論点整理③	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。
この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
研究報告の内容：90％
討議への貢献度：10％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し講義に反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、博士論文執筆に必要な先行研究を検討します。参加者は、自分の博士論文の構想や論点に基づき、調査すべき先行研究のリストを作成し、毎回報告します。授業を通じて、先行研究の主な論点と自身の研究テーマとの関係を整理することを目指します。

【到達目標】
博士論文のテーマを絞り込むために、先行研究の成果（論点）や研究方法を広く調査し、それらを踏まえて博士論文のフレームワークを構想します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回、重要な先行研究について受講者による報告を求め、報告内容に関する討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	学会誌投稿論文、学会発表など、これまでの研究業績についての報告
第3回	博士論文執筆のベースとなる予備論文に関する報告・討議	予備論文のテーマ・内容についての報告と討議
第4回	予備論文のフレームワークの確定	予備論文の執筆内容と執筆スケジュールの確定
第5回	最新論文の検討①	博士論文に関係する論文の検討
第6回	最新論文の検討②	博士論文に関係する論文の検討
第7回	最新論文の検討③	博士論文に関係する論文の検討
第8回	予備論文の中間報告	予備論文の進捗状況についての報告・討議
第9回	最新論文の検討④	博士論文に関係する論文の検討
第10回	最新論文の検討⑤	博士論文に関係する論文の検討
第11回	最新論文の検討⑥	博士論文に関係する論文の検討
第12回	予備論文の最終報告	完成された予備論文の報告・討議
第13回	予備論文の課題検討①	予備論文で抽出された研究課題等の整理
第14回	予備論文の課題検討②	予備論文で抽出された研究課題等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
研究報告：90％
討議への貢献度：10％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業に反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this seminar, I will provide guidance on writing doctoral dissertations. The objective of this seminar is to develop multifaceted and scholarly problem-solving skills through the process of composing a doctoral thesis. The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを探求できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究の基礎	論文執筆の概要、先行研究や新聞記事などの文献・資料の収集方法を学ぶ。
第3回	研究報告①	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告②	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第5回	研究報告③	研究テーマ、研究計画について報告し、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー②	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー③	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー④	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑤	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑥	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑦	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー⑧	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	文献レビュー⑨	農村計画学の文献を読み、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（15%）＋文献レビュー（25%）＋研究報告（60%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their doctoral thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the advanced knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and critically review the recent research trends.
- Develop the research themes for writing their doctoral thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (15%) + Literature Review (25%) + Research Presentation (60%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

藤田　研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO論などの文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究について報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】
環境社会学、NPO論などの発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを探求できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献レビュー、研究報告とディスカッションを中心とする。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、研究報告、文献レビューの進め方を示す。
第2回	研究報告①	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第3回	研究報告②	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第4回	研究報告③	研究の進捗状況を報告し、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー①	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー②	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー③	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー④	生物多様性政策に関する文献を読み、ディスカッションする。
第9回	文献レビュー⑤	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第10回	文献レビュー⑥	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第11回	文献レビュー⑦	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー⑧	農業経営に関する文献を読み、ディスカッションする。
第13回	研究報告④	研究の成果を報告し、ディスカッションする。
第14回	研究報告⑤	研究の成果を報告し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を事前に読む。自身の研究を進め、報告に向けて準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】
環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
環境社会学会編，2023,『環境社会学事典』丸善出版.

【成績評価の方法と基準】
平常点（15%）＋文献レビュー（25%）＋研究報告（60%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】
提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】
修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will provide students with research guidance for writing their doctoral thesis. Students will review literature and recent research trends in environmental sociology, non-profit organization research, etc. as well as report and discuss their research.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the following:
- Learn the advanced knowledge of environmental sociology, non-profit organization research, etc., and critically review the recent research trends.
- Develop the research themes for writing their doctoral thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Reading literature. Preparing for research presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (15%) + Literature Review (25%) + Research Presentation (60%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

松本　倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第2回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第3回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第4回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第5回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第6回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第7回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第8回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第9回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第10回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第11回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第12回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第13回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第14回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., &Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., &Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., &Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
（Course outline）Seminar for doctoral thesis.
（Learning Objectives）This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
（Learning activities outside of classroom）Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）Research progress (100%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

松本　倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】
博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第2回	研究の方法	研究方法について指導する。
第3回	研究の方法	研究方法について指導する。
第4回	研究の方法	研究方法について指導する。
第5回	研究の方法	研究方法について指導する。
第6回	研究の方法	研究方法について指導する。
第7回	研究の方法	研究方法について指導する。
第8回	研究の方法	研究方法について指導する。
第9回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第10回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第11回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第12回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第13回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第14回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導中に適宜指示する。

【参考書】
指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論天文学
＜研究テーマ＞星形成、宇宙天気
＜主要研究業績＞
① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., &Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., &Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., &Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】
（Course outline）Seminar for a doctoral thesis.
（Learning Objectives）This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.
（Learning activities outside of classroom）Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）Research progress (100%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法はそのときの状況をふまえて適宜対面またはオンラインで行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況（100％）

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy:Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を完成させる。

【到達目標】
博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況による（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年

【これまで指導した博士論文】
1名

【Outline (in English)】
Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.
Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.
Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

湯澤　規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は博士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を明確にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を報告し、議論する。
第2回	研究を進めるにあたって	博士論文作成に向けてのスキルと、キャリア形成について情報を共有し、議論する。
第3回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（１）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第１回）
第4回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（２）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第２回）
第5回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（３）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第３回）
第6回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（４）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第４回）
第7回	「問い」の設定と先行研究レヴュー（５）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレヴューを行い議論する（第５回）
第8回	研究論文作成に向けて（１）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第9回	研究論文作成に向けて（２）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第10回	研究論文作成に向けて（３）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第11回	研究論文作成に向けて（４）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第12回	研究論文作成に向けて（５）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第13回	研究論文作成に向けて（６）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第６回）
第14回	研究論文作成に向けて（７）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第７回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における出席と報告内容（60％）、研究の準備状況（40％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.
◆Learning Objectives
Students will have the following three goals for their doctoral dissertation
(1) Clarify the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
(3) Conduct and report on empirical research.
◆Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

湯澤　規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】
学生は博士論文を作成するために、次の３つを目標にします。
①研究の核心となる「問い」を洗練にする。
②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
③研究論文を作成し、その公表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究論文作成に向けて（１）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第１回）
第2回	研究論文作成に向けて（２）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第２回）
第3回	研究論文作成に向けて（３）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第３回）
第4回	研究論文作成に向けて（４）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第４回）
第5回	研究論文作成に向けて（５）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第５回）
第6回	調査の報告と検討（１）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第１回）
第7回	調査の報告と検討（２）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第２回）
第8回	調査の報告と検討（３）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第３回）
第9回	調査の報告と検討（４）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第４回）
第10回	調査の報告と検討（５）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第５回）
第11回	調査の報告と検討（６）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第６回）
第12回	調査の報告と検討（７）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第７回）
第13回	調査の報告と検討（８）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第８回）
第14回	調査の報告と検討（９）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第９回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習における報告内容（60％）、研究の準備状況（40％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.
◆Learning Objectives
Students will have the following three goals for their doctoral dissertation
(1) Refine the "question" that is the core of the research.
(2) To understand the relevant academic background through literature reading and other means.
(3) Prepare a research paper and aim to publish it.
◆Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

吉永　明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学と環境倫理学	倫理学と環境倫理学について概説する。
第2回	修士論文の概要紹介	受講者の修士論文の概要を共有する。
第3回	博士論文の書き方	博士論文の書き方について解説する。
第4回	研究経過の報告（１）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第5回	研究経過の報告（２）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第6回	研究経過の報告（３）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第7回	研究経過の報告（４）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第8回	研究経過の報告（５）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第9回	研究経過の報告（６）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第10回	研究経過の報告（７）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第11回	研究経過の報告（８）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第12回	研究経過の報告（９）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第13回	研究経過の報告（１０）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第14回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理　増補改訂版』勁草書房、2025年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【参考書】
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】
研究経過の報告（40％）と最終レポート（60％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理・災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%,in class contribution: 40%.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

吉永　明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】
環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の共有	受講者の問題意識を表明しあう。
第2回	博士論文の書き方	博士論文の書き方を復習する。
第3回	研究経過の報告（1）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第4回	研究経過の報告（2）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第5回	研究経過の報告（3）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第6回	研究経過の報告（4）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第7回	研究経過の報告（5）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第8回	研究経過の報告（6）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第9回	研究経過の報告（7）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第10回	研究経過の報告（8）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第11回	研究経過の報告（9）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第12回	研究経過の報告（10）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第13回	研究経過の報告（11）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第14回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘『都市の環境倫理　増補改訂版』勁草書房、2025年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【参考書】
吉永明弘『ブックガイド　環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】
研究経過の報告（40％）と最終レポート（60％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境倫理学
＜研究テーマ＞都市の環境倫理・災後と人新世時代の環境倫理
＜主要研究業績＞
『都市の環境倫理』
『ブックガイド　環境倫理』
『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%,in class contribution: 40%.

SES700P2－001（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ａ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文を作成するために必要な事項について学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭においている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

【到達目標】
研究を遂行するための高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、効果的な口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。
この授業では受講者が進めている研究について助言指導する。実際の授業では大方毎回受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになることが想定される。以下の【授業計画】は、特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。いずれも研究の完成度を高めることを意識した高度な内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討
第3回	テーマ検討（妥当性、実現性の観点から）	課題の検討とテーマ選定へ向けての考察
第4回	テーマ検討（新規性、社会的意義の観点から）	研究の意義と社会的インパクトの検討
第5回	先行研究の調査と分析（文献収集）	文献調査
第6回	先行研究の調査と分析（論点整理）	文献調査と先行研究の精査
第7回	視点・論点の検討（研究課題の検討）	リサーチクエスションの導出
第8回	視点・論点の検討(研究課題の論点整理）	研究テーマの検討
第9回	分析・評価手法の検討（論点整理）	分析・評価手法の検討
第10回	分析・評価手法の検討（選定）	分析・評価手法の選定
第11回	研究の設計・計画（概要設計）	研究計画の概要検討
第12回	研究の設計・計画（詳細設計）	研究計画の詳細検討
第13回	研究活動の方針（再確認）	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2－002（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究１Ｂ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文を作成するために必要な事項についてさらに学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭においている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、その基礎的かつ発展的な内容を修得する。

【到達目標】
研究を遂行するためのより高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、効果的な口頭発表を行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。
この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では大方毎回受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになることが想定される。以下の【授業計画】は、特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。いずれも研究の完成度を高めることを意識した高度な内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討
第3回	総合討論（研究報告と検討）	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論（研究報告と論点確認）	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究（資料作成法）	資料作成法の検討
第6回	口頭報告と表現研究（プレゼンテーション法）	表現法の検討
第7回	総合討論（課題検討）	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論(主張事項検討）	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究（章、節の構成）	章・節構造検討
第10回	論文構造研究（文章構成）	文章展開法検討
第11回	論文作成と表現研究（学術的表現）	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討
第12回	論文作成と表現研究(効果的表現）	図表、各種データの掲載法などの検討
第13回	研究活動成果の検討	研究の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the basic and developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2－003（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究1A・Bで作成した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文（学会誌（研究誌）などへの投稿論文を含む）の作成を進めていくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、研究報告と博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
履修者には、サステイナビリティ特殊研究1A・Bで作成した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第２回～第12回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第13回～第14回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討・再調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・研究報告、博士論文（案）の内容（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a doctoral thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Content of research report and doctoral thesis ：50%

SES700P2－004（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究2Aで再調整した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告していく。さらに、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）や、博士論文（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）の作成を進めていくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、研究報告や、博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
履修者には、サステイナビリティ特殊研究2Aで再調整した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第２回～第11回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第12回～第13回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第14回	博士論文の構成・内容の決定（原案）	博士論文の構成を再調整し、内容を決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・研究報告、博士論文の内容（粗原稿）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to study the details of a doctoral thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Content of research report and doctoral thesis ：50%

SES700P2－003（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況（100％）

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy:Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2－004（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を完成させる。

【到達目標】
博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況による（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.
Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.
Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2－003（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士論文執筆の前提条件である査読論文の投稿に向けた指導を行います。参加者は投稿論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行います。この授業を通じて、参加者は投稿論文の完成を目指します。

【到達目標】
博士論文の執筆条件である査読論文の完成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回、投稿論文の内容について参加者からの報告を求め、報告内容に関する討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	修士論文の内容についての報告
第3回	博士論文の中間研究報告	研究テーマ・研究方法についての途中経過を報告
第4回	学会誌投稿論文の執筆計画	検討すべき先行研究のリストアップ
第5回	先行研究に関する報告①［E（環境）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第6回	先行研究に関する報告②［E（環境）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第7回	先行研究に関する報告③［S（社会）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第8回	先行研究に関する報告④［S（社会）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第9回	先行研究に関する報告⑤［G（ガバナンス）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第10回	先行研究に関する報告⑥［G（ガバナンス）］	サステイナブル経営に関する先行研究論文の検討
第11回	学会誌投稿論文のテーマ報告	博士論文提出の条件である学会誌投稿論文のテーマ決定
第12回	学会誌投稿論文の論点整理①	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第13回	学会誌投稿論文の論点整理②	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議
第14回	学会誌投稿論文の論点整理③	学会誌投稿論文の論定についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。
この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
投稿論文の完成度：90％
討議への貢献度：10％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、講義に反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
This seminar provides guidance toward the submission of a peer-reviewed paper, a requirement for writing a doctoral dissertation. Participants will prepare a list of previous studies to be considered and report each time based on the concept and discussion points of the submitted paper. Through this seminar, participants will aim to complete the submitted paper.”The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2－004（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は博士論文執筆の前提条件である査読論文の投稿に向けた指導を行います。参加者は投稿論文の構想や論点を踏まえ、検討すべき先行研究のリストを作成し毎回報告を行います。この授業を通じて、参加者は投稿論文の完成を目指します。

【到達目標】
博士論文の執筆条件である査読論文の完成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回、投稿論文の内容について参加者からの報告を求め、報告内容に関する討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	これまでの研究内容について	学会誌投稿論文、学会発表など、これまでの研究業績についての報告
第3回	博士論文執筆のベースとなる予備論文に関する報告・討議	予備論文のテーマ・内容についての報告と討議
第4回	予備論文のフレームワークの確定	予備論文の執筆内容と執筆スケジュールの確定
第5回	最新論文の検討①	博士論文に関係する論文の検討
第6回	最新論文の検討②	博士論文に関係する論文の検討
第7回	最新論文の検討③	博士論文に関係する論文の検討
第8回	予備論文の中間報告	予備論文の進捗状況についての報告・討議
第9回	最新論文の検討④	博士論文に関係する論文の検討
第10回	最新論文の検討⑤	博士論文に関係する論文の検討
第11回	最新論文の検討⑥	博士論文に関係する論文の検討
第12回	予備論文の最終報告	完成された予備論文の報告・討議
第13回	予備論文の課題検討①	予備論文で抽出された研究課題等の整理
第14回	予備論文の課題検討②	予備論文で抽出された研究課題等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書2023』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
投稿論文の完成度：90％
討議への貢献度：10％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し講義に反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
This seminar provides guidance toward the submission of a peer-reviewed paper, a requirement for writing a doctoral dissertation. Participants will prepare a list of previous studies to be considered and report each time based on the concept and discussion points of the submitted paper. Through this seminar, participants will aim to complete the submitted paper.The standard preparation and review time for this seminar is set at 2 hours each. Evaluation will be based on research content (90%) and presentation skills (10%).

SES700P2－003（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ａ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－004（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究２Ｂ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究1A・1Bおよび2A・Bで作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文の作成（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）を進めていくことを目的とする。

【到達目標】
本演習では、学会などでの研究報告や博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、サステイナビリティ特殊研究1A・1Bおよび2A・2Bで作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第6回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 7 回～第14回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討・再調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
・研究報告、博士論文の内容（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to write a doctoral thesis based on the results of previous research.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：30%
4）Content of research report and doctoral thesis ：50%

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

金藤　正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、サステイナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告する。さらに、その報告内容に基づいて、博士論文の作成を進め、完成することを目的とする。

【到達目標】
本演習では、学会などでの研究報告や博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本演習は原則対面で実施する。履修者には、サステイナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、「博士論文に関する報告⇒内容の作成⇒作成した内容の加筆修正」というプロセスを繰り返し、同論文を完成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、博士論文の作成および完成までのスケジュールを確認する。
第 2 回～第3回	博士論文の構成・内容（原案）の再検討	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第4回	博士論文の構成・内容の決定（決定案）	博士論文の構成を最終調整し、内容を決定する。
第 5 回～第13回	博士論文の構成・内容の報告、作成、加筆修正	第4回に基づいて、博士論文の構成・内容に関する報告とともに、その報告を参考にしながら内容を作成し、加筆修正を行う。
第14回	博士論文の最終調整と完成	博士論文の構成・内容を調整し、同論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。なお、本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】
履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（10％）
・報告用配布レジュメの内容（10％）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20％）
・博士論文の内容（60％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　環境経営論、地域経営論、健康経営論/人的資本経営論
＜研究テーマ＞
　企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
＜主要研究業績＞
・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。
・金藤正直（2024）「健康経営評価システムの戦略的適用-人的資本経営に関する運営・管理および情報開示の関係を中心として-」『人間環境論集』第25巻第1号、1-30頁。
・金藤正直（2025）「健康経営の社内浸透のための基盤形成の方法」『中央大学経済研究所年報』第57号、207-225頁。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this seminar is to complete a doctoral thesis.
②Learning Objectives
Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.
③Learning Activities outside of Classroom
Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.
1）Participation in the discussion：10%
2）Content of the resume：10%
3）Content of the presentation ：20%
4）Content of doctoral thesis ：60%

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

小島　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、博士課程の3年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①博士論文の作成に向けて計画的に研究を進める。
②博士論文の草稿を執筆する。

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
①研究成果を博士論文にまとめる。
②高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文の草稿の執筆状況に関する報告に基づいて指導を行う。なお、この授業は対面授業を基本としつつも、当日の天候その他の事情に応じて、オンライン型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の完成に向けたタイムスケジュールの確認	博士論文の執筆に関するタイムスケジュールに関するプランを作成する。
第2回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第3回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第4回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第5回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第6回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第7回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第8回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第9回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第10回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第11回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第12回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第13回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の執筆状況について報告する。
第14回	今後の作業課題の確認	博士論文の草稿全体を確認し、加筆修正等の今後の作業課題を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。
・博士論文に関する研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50％）、課題への取り組み（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論、自治体政策論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と行政
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
「グローカルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the third year of the doctorial program.
Students work on the following contents:
(1)Pland research for doctoral dissertation.
(2)Write a draft of doctoral dissertation.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Consolidate resarch findings into a doctoral dissertation.
(2)Acquire advanced research ability.
Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

小島　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、博士課程の3年生の学生に対して研究指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。
①博士論文の完成に向けて計画的に研究を進める。
②博士論文の完成稿を執筆する。

【到達目標】
この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。
①研究成果を博士論文にまとめる。
②高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文の草稿の修正作業に関する報告に基づいて指導を行う。さらに完成稿とその研究成果としての価値を確認し、審査や公表への対応についても指導を行う。なお、この授業は対面授業を基本としつつも、当日の天候その他の事情に応じて、オンライン授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の完成に向けてタイムスケジュールの確認	博士論文の草稿の修正に関するタイムスケジュールをプランを作成する。
第2回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第3回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第4回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第5回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第6回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第7回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第8回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第9回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第10回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第11回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第12回	進捗状況の報告	博士論文の草稿の修正状況について報告する。
第13回	博士論文の総括	博士論文の完成稿と研究成果としての価値を確認する。
第14回	今後のスケジュールの確認	博士論文の審査と公表への対応について調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。
・博士論文に関する研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的な参加姿勢）（50％）、課題への取り組み（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【教員の専門分野等】
＜専門領域＞行政学、地方自治論、自治体政策論
＜研究テーマ＞持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、市民社会と行政
＜主要研究業績＞
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
「グローカルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境　持続可能な地域社会をめざして(第2版)』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】
This seminar provides research guidance to students in the third year of the doctorial program.
Students work on the following contents:
(1)Pland research for doctoral dissertation.
(2)Write a completed doctoral dissertation.
Students aim at achieving the following goals:
(1)Consolidate resarch findings into a doctoral dissertation.
(2)Acquire advanced research ability.
Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Your overall grade in this class will be decided based on the following:Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士論文提出に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法は対面・オンラインを併用して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告の準備	中間報告会の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者と相談のうえ決定する

【参考書】
適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
報告（PPT資料の作成および準備）40%と博士論文の進捗状況60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.
The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on research progress（60%）and preparation of presentation material (40%).

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

杉野　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

【到達目標】
博士課程中間報告会の準備を完了し、中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	中間報告の準備	中間報告会の準備を行う。
第10回	中間報告の準備	中間報告会の準備を行う。
第11回	中間報告の準備	中間報告会の準備を行う。
第12回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。
第14回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者と相談のうえ決定する

【参考書】
適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
報告（PPT資料の作成および準備）40%と博士論文の進捗状況60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
（Course outline）Preparing for the mid-term presentation of doctoral dissertation.
（Learning Objectives）Finalize the content of the doctoral dissertation and prepare for the mid-term presentation.
（Learning activities outside of classroom）You are required to read and prepare the presentation material you read. In addition, updating/writing your doctoral dissertation is mandatory.
（Grading Criteria /Policy）You will be evaluated according to the presentation(40%) and the completion of your doctoral dissertation(60%).

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（3年目以降）

【到達目標】
博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）
第14回	博士論文執筆と進捗報告（第14回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に中間報告に向けた発表準備）（第14回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70％、演習における積極性と貢献度30％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

武貞　稔彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための演習指導（3年目以降）

【到達目標】
博士課程3年生を対象とする本演習では、各演習参加者が必要なリサーチを行ない、実際に博士論文を執筆、完成させると同時に的確な研究発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の演習は、受講者からの進捗報告、教員および演習参加者からのコメントを中心にすすめます。その過程で報告や発表（プレゼンテーション）の技術についても学ぶ機会が得られます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文執筆と進捗報告（第1回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第1回）
第2回	博士論文執筆と進捗報告（第2回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第2回）
第3回	博士論文執筆と進捗報告（第3回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第3回）
第4回	博士論文執筆と進捗報告（第4回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第4回）
第5回	博士論文執筆と進捗報告（第5回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第5回）
第6回	博士論文執筆と進捗報告（第6回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第6回）
第7回	博士論文執筆と進捗報告（第7回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第7回）
第8回	博士論文執筆と進捗報告（第8回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第8回）
第9回	博士論文執筆と進捗報告（第9回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第9回）
第10回	博士論文執筆と進捗報告（第10回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第10回）
第11回	博士論文執筆と進捗報告（第11回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第11回）
第12回	博士論文執筆と進捗報告（第12回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第12回）
第13回	博士論文執筆と進捗報告（第13回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（第13回）
第14回	博士論文執筆と進捗報告（第14回）	演習参加者による博士論文執筆状況の報告と内容の検討を行う。（特に最終発表に向けた発表準備）（第14回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習参加者との協議を通じて、博士論文執筆の進捗管理を行います。参加者は自ら執筆計画を立て、それに従って論文執筆をすすめて下さい。必要な先行研究事例のレビューや、フィールド調査も並行して実施することとなります。また、外部学会での発表も実施を目指します。本演習の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
おおむね以下のバランスで総合的な成績評価を行います。博士論文（内容およびプレゼンテーション）70％、演習における積極性と貢献度30％

【学生の意見等からの気づき】
少人数演習のため該当せず。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline (in English)】
[Seminar Outline]
This is the third year seminar for authoring a doctoral dissertation.
[Learning Objectives]
The goal of this seminar for third-year doctoral students is to enable each participant to conduct the necessary research, write and complete a doctoral dissertation, and give an appropriate research presentation.
[Learning Activities outside of classroom]
The progress of writing the doctoral dissertation will be managed through discussions with the seminar participants. Participants are expected to make their own writing plans and follow them. They will also review necessary previous research cases and conduct field surveys in parallel. We will also aim to make presentations at academic conferences. The standard preparation and review time for this exercise is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be evaluated based on the following balance. Doctoral dissertation (content and presentation): 70%, Proactive participation and contribution in the seminar: 30%.

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文の完成に向けた演習はもとより、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の準備、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進めるための指導を行ないます。中間報告会終了後には、教員からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進めます。

【到達目標】
博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要論点となる論文の提出とそれに基づいた報告が求められます。中間報告会における複数の教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者には論文もしくはそれに準ずる文章を提出を求め、中間報告会に向けた準備を行います。中間報告会終了後は複数の教員による助言や批判を踏まえて、論点や研究方法の質を高めるよう指導します。中間報告会には、報告をしない博士課程大学院生も全員参加することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文全体構想の提示と検討①	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第2回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	主要論点についての報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第4回	主要論点についての報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第5回	主要論点についての報告③	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第6回	博士課程プレ中間報告①	博士課程の中間報告会の発表内容を報告
第7回	博士課程プレ中間報告②	博士課程の中間報告会の発表内容報告
第8回	学会の研究発表の構想提示と検討①	学会での研究発表に向けた構想を報告。
第9回	学会の研究発表の構想提示と検討②	学会での研究発表に向けた構想を報告。
第10回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討①	中間報告会での指摘事項に基づき、「全体構想と主要章(論文)」を再検討
第11回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討②	中間報告会での指摘事項に基づき、「全体構想と主要章(論文)」を再検討
第12回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討③	中間報告会での指摘事項に基づき、「全体構想と主要章(論文)」を再検討
第13回	投稿論文（学術誌）の構想の提示と検討①	博士論文の申請に必要な査読雑誌に投稿する論文の検討
第14回	投稿論文（学術誌）の構想の提示と検討②	博士論文の申請に必要な査読雑誌に投稿する論文の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。
この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
研究報告および博士論文の完成度：90%
討議への貢献度：10%

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this class, students will prepare for the completion of a doctoral dissertation, prepare a research presentation at an academic conference, submit a paper to a peer-reviewed journal, and provide guidance to advance systematically and steadily for interim reports.After the interim report meeting, we will give advice and criticisms from faculty members and provide feedback to improve the dissertation.
Final grades will be determined according to the following criteria:
Quality and completion of the research report and doctoral dissertation: 90%
Participation and contribution to discussions: 10%

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

長谷川　直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、サステナビリティ経営、企業倫理、ESG投資、ビジネスヒストリーなどの領域を中心に、博士論文の完成に向けた指導を行ないます。

【到達目標】
この授業では博士論文の完成に向けた指導を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者が無理なく博士論文の執筆できるように、個人別のスケジュールを作成し論文指導を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文全体構想の提示と検討①	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第2回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	博士論文全体構想の提示と検討③	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	博士論文全体構想の提示と検討④	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	博士論文全体構想の提示と検討⑤	「研究計画書」、「サーベイ論文」、論文構成」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第6回	主要論点についての報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第7回	主要論点についての報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第8回	主要論点についての報告③	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第9回	主要論点についての報告④	全体構想に基づく博士論文の主要章を報告
第10回	博士課程プレ中間報告	博士課程の中間報告会の発表内容報告
第11回	学会の研究発表の構想提示と検討①	学会での研究発表に向けた構想を報告。
第12回	学会の研究発表の構想提示と検討②	学会での研究発表に向けた構想を報告。
第13回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討①	中間報告会での指摘事項に基づき、「全体構想と主要章(論文)」を再検討
第14回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討②	中間報告会での指摘事項に基づき、「全体構想と主要章(論文)」を再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者の研究内容と個別事情を踏まえて進め方を決めていきます。
この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
研究に使用する文献・資料は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
研究報告および博士論文の完成度：90%
討議への貢献度：10%

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021 年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this class, students will be guided toward the completion of their doctoral dissertation, focusing on areas such as sustainable management, business ethics, ESG investing, and business history.
Final grades will be determined according to the following criteria:
Quality and completion of the research report and doctoral dissertation: 90%
Participation and contribution to discussions: 10%

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

佐々木　大輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための個別指導

【到達目標】
論文執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週実施するゼミで、研究の進捗報告・他の院生の報告等を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら論文執筆を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第2回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第3回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第4回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第5回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第6回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第7回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第8回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第9回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第10回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第11回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第12回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第13回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導
第14回	論文執筆	論文執筆等の進捗報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
また、ゼミでの指摘事項等を踏まえた対応を行う。
なお、疑問点等については適宜メールで教員と連絡を取り合う。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各回指導中に適宜指示

【参考書】
各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
論文執筆等の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談等で対応する。

【その他の重要事項】
授業は原則オンラインで行うが、必要に応じて対面でも実施する。

【Outline (in English)】
Students will draft their doctoral theses.
Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
Grading will be based on the progress of doctoral research (100%).

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】
博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。
講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況（100％）

【学生の意見等からの気づき】
お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年

【Outline (in English)】
As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.
The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.
Learning Objectives
The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.
Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.
Learning activities outside of classroom
Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.
Grading Policy:Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

宮川　路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を完成させる。

【到達目標】
博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文の進捗状況による（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学
＜研究テーマ＞就労者のストレスと健康
＜主要研究業績＞Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study),The European Journal of Public Health　2012年
ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー　労働安全衛生広報　2010年
マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健２１　2010年

【これまで指導した博士論文】
1名

【Outline (in English)】
Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.
Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.
Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文を作成するために必要な事項について総合的に学ぶ。受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭においている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、実践的な内容を修得する。

【到達目標】
研究を遂行するための総合的な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表をより効果的に行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。
この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では大方毎回受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになることが想定される。以下の【授業計画】は、特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。いずれも研究の完成度を高めることを意識したより高度な内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究活動の方針	学術的関心事と研究目標・目的の検討および確認
第3回	テーマ検討（妥当性、実現性の観点から）	課題の検討とテーマ選定へ向けての考察および確認
第4回	テーマ検討（新規性、社会的意義の観点から）	研究の意義と社会的インパクトの検討および確認
第5回	先行研究の調査と分析（文献収集）	文献調査およびその確認
第6回	先行研究の調査と分析（論点整理）	文献調査と先行研究の精査および確認
第7回	視点・論点の検討（研究課題の検討）	リサーチクエスションの導出および確認
第8回	視点・論点の検討(研究課題の論点整理）	研究テーマの検討および確認
第9回	分析・評価手法の検討（論点整理）	分析・評価手法の検討および確認
第10回	分析・評価手法の検討（選定）	分析・評価手法の選定および確認
第11回	研究の設計・計画（概要設計）	研究計画の概要検討および確認
第12回	研究の設計・計画（詳細設計）	研究計画の詳細検討および確認
第13回	研究活動の方針（再確認）	研究目標・目的の再検討および再確認
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a developed seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report technics concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

渡邊　誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項についてさらに総合的に学ぶ。受講者が研究者になるために必要な研究力と実践力を修得することを念頭においている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、分析・評価手法の選定、論文技法と表現法、口頭発表法などについて、実践的な内容をさらに修得する。

【到達目標】
研究を遂行するための総合的な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、口頭発表をより効果的に行うことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。
この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。実際の授業では大方毎回受講者のもっている学術的関心事および研究テーマの確認から論文作成、学会報告までの広範囲にわたる内容に触れることになることが想定される。以下の【授業計画】は、特に授業の中で意識したい内容を示したものとして理解してほしい。いずれも研究の完成度を高めることを意識した高度な内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	リサーチクエスションの再検討	研究課題、研究目標の再検討と再確認
第3回	総合討論（研究報告と検討）	研究進捗状況の報告、ディスカッション
第4回	総合討論（研究報告と論点確認）	研究進捗状況の報告、論点確認
第5回	口頭報告と表現研究（資料作成法）	資料作成法の検討および確認
第6回	口頭報告と表現研究（プレゼンテーション法）	表現法の検討および確認
第7回	総合討論（課題検討）	研究進捗状況の報告、課題の確認
第8回	総合討論(主張事項検討）	研究進捗状況の報告、主張事項検討
第9回	論文構造研究（章、節の構成）	章・節構造検討および確認
第10回	論文構造研究（文章構成）	文章展開法検討および確認
第11回	論文作成と表現研究（学術的表現）	アカデミックライティングと文章表現技法などの検討および確認
第12回	論文作成と表現研究(効果的表現）	図表、各種データの掲載法などの検討および確認
第13回	研究活動成果の検討	研究の完成度、社会的貢献性などの検討
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
討論参加の充実度100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
対面形式で授業を進めていく予定であるが、状況によりオンライン授業とすることもある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This is a developed seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of research questions, planning of investigation, verification of analysis methods, derivation of the points at issue, evaluation of results, report techniques concerning articles and oral announcement, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.
（Learning Objectives） In class, we are expected to have research execution of each theme for participants. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.
（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2－005（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ａ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの研究成果を取りまとめるとともに、追加的な文献調査、分析評価、博文構成の検討を行い、博士論文完成を目指します。

【到達目標】
これまでの研究成果を総括し、必要な追加的研究を行い、博士論文の完成に至るための結果のまとめと分析評価を行うスキルを身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文の執筆に向けてこれまでの成果を検証するとともに、追加的研究について分析評価の上で統合します。そして博士論文のストーリー組み立て・執筆・推敲を行い、博士論文の完成を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	学術成果のまとめ1	これまでの研究成果についてレビューする
第3回	学術成果のまとめ2	これまでの研究成果の相互関係を検討する
第4回	学術成果の検証1	これまでの研究成果の内容を分析評価する
第5回	学術成果の検証2	これまでの研究成果の内容を検証する
第6回	追加的研究の検討1	追加的研究の必要性について検討する
第7回	追加的研究の検討2	追加的研究の情報を収集する
第8回	追加的研究の分析評価1	追加的研究の内容を分析評価する
第9回	追加的研究の分析評価2	他の追加的研究の内容を分析評価する
第10回	追加的研究の分析評価3	追加的研究の分析評価を検討する
第11回	追加的研究の統合1	追加的研究と自身の研究と統合について検討する
第12回	追加的研究の統合2	追加的研究と自身の研究と統合について再検討する
第13回	追加的研究の統合3	追加的研究と自身の研究との統合を図る
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文の作成に向けて、追加的な文献レビュー、データ分析と解析評価を行い、博士論文の完成を目指します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Students will compile their research findings to date, progress additional reviews, analysis and evaluation, and they re-consider the structure of research story, aiming to complete their doctoral thesis.

SES700P2－006（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 700）

サステイナビリティ特殊研究３Ｂ

高田　雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの研究成果を取りまとめるとともに、追加的な文献調査、分析評価、博文構成の検討を行い、博士論文完成を目指します。

【到達目標】
これまでの研究成果を総括し、必要な追加的研究を行い、博士論文の完成に至るための結果のまとめと分析評価、執筆スキルを身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
博士論文の執筆に向けてこれまでの成果検証と必要な追加的研究を行い、博士論文の構成と執筆・推敲を行い、博士論文の完成を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	博士論文の検討1	博士論文の流れを組み立てる
第3回	博士論文の検討2	博士論文の組み立てを再検討する
第4回	博士論文の検討3	博士論文構成を確定させる
第5回	博士論文執筆指導1	博士論文（前半部分）の執筆を指導する
第6回	博士論文執筆指導2	博士論文（後半部分）の執筆を指導する
第7回	博士論文執筆指導3	博士論文の初稿をまとめる
第8回	博士論文推敲1	博士論文の初稿について検証する
第9回	博士論文推敲2	博士論文の初稿について再検討する
第10回	博士論文推敲3	博士論文の初稿について追加的に検証する
第11回	博士論文指導1	博士論文全体を見直す
第12回	博士論文指導2	博士論文の必要な修正を行う
第13回	博士論文指導3	博士論文を完成させる
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文の作成に向けて、最終的なデータ分析と解析評価をもとに博士論文の完成を目指します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, ApplVegSci.,2017.
Drastic declines in Brown Shrike and Yellow-breasted Bunting at the Lake Utonai Bird Sanctuary, OrnitholSci.,2017.
Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
Students will compile their research findings to date, progress additional reviews, analysis and evaluation, and they re-consider the structure of research story, aiming to complete their doctoral thesis.

LAW500P2 - 007（法学 / law 500）

環境法基礎D

永野　秀雄、岡松　暁子、武田　真一郎

備考（履修条件等）：修士「環境法基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題に関する民事法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶ。本授業は、法律の初学者向けに行われる。

【到達目標】
環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。
最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における環境に関する紛争解決、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。
また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（１）（永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（２）（永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（１）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（２）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（３）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（４）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（１）（武田真一郎）	環境行政法の展開 (1)環境基本法を概観する。
8	環境行政法（２）（武田真一郎）	(2) 環境影響評価法（環境アセスメント法）を概観する。
9	環境行政法（３）（武田真一郎）	(3)排出規制法（大気汚染防止法等）、循環管理法（廃棄物処理法等）を概観する。
10	環境行政法（４）（武田真一郎）	(4)自然環境保護法（自然公園法、景観法等）を概観する。
11	国際環境法（１）（岡松暁子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（２）（岡松暁子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（３）（岡松暁子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（４）（岡松暁子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布または紹介する。

【参考書】
奥田進一＝長島光一『環境法～将来世代との共生』（成文堂、2023）
北村喜宣『環境法（第５版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度30％、期末レポート70％。
評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
岡松　暁子
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法
＜主要研究業績＞
『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「海洋環境保護における国家の義務－福島第一原子力発電所からのALPS処理水の海洋放出を契機として」（2025年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。
永野秀雄
＜専門領域＞アメリカ法（特に、サイバーセキュリティ法、環境法、防衛法）
＜研究テーマ＞
米国のサイバーセキュリティ法、米国の環境監査と法、米国の国防授権法
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。
武田真一郎
＜専門領域＞行政法
＜研究テーマ＞国家賠償　行政訴訟　住民参加制度
＜主要研究業績＞
『異説・行政法』（東信堂、単著、2022年）『自治と参加の理論』（東信堂、単著、2024年）『条解・国家賠償法』（弘文堂、共著、2019年）、「辺野古争訟における三つの『反則』について」（2025年）

【Outline (in English)】
< Course Outline>
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.
＜Learning Objectives＞
The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.
< Learning Activities outside of Classroom>

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy＞
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2－008（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地球環境学基礎Ｄ

佐々木　大輔

備考（履修条件等）：修士「地球環境学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。

【到達目標】
本授業では、地球規模での環境問題を中心に、その実態について正しく理解することを目標としている。
具体的には、（１）気候変動、（２）生物多様性、（３）化学物質汚染、（４）大気環境汚染、（５）水環境汚染、（６）土壌・地下水汚染、（７）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて授業を行う。
資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（１）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（２）	エネルギー資源、再生可能エネルギー
第4回	気候変動（３）	緩和策
第5回	気候変動（４）	適応策
第6回	気候変動（５）	気候変動に係る国内外の取り組み
第7回	気候変動（６）	気候変動と防災・減災
第8回	生物多様性	生物多様性の意義、現状と課題、国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第9回	化学物質汚染	化学物質汚染の現状と課題、国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第10回	大気環境汚染	大気環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第11回	水環境汚染	水環境汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第12回	土壌・地下水汚染	土壌・地下水汚染の歴史と現状、メカニズム、対策
第13回	廃棄物処理	廃棄物処理の歴史と現状、日本における廃棄物の定義・区分、対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門［第3版］』　有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】
授業内に実施する期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
環境政策・環境社会システム、気候変動適応、災害社会科学、国際開発学、インドネシア地域研究
＜主な研究テーマ＞
気候変動適応投資・防災投資、気候変動による移民、レジリエンスの数量化、エビデンスに基づく政策立案
＜主要研究業績＞
・Sasaki, D., Yolanda, Y., Hara, Y., Sasmita, N. R., &Sofyan, H. (2025). Perception of university faculty members on providing policy recommendations for disaster risk reduction and sustainable development: A case study of Aceh Province, Indonesia. Sustainability, 17(17), 8033. https://doi.org/10.3390/su17178033
・Sasaki, D., Suppasri, A., &Imamura, F. (2025). Japanese foreign aid to fisheries in response to disaster: The case of the 2022 Tonga volcanic eruption and transoceanic tsunami. International Journal of Disaster Risk Reduction, 118, 105268. https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2025.105268
・Sasaki, D., Sakamoto, A., Laila, A., Aslam, A., Feng, S., Kaku, T., Sasaki, T., Shinomura, N., &Nakayama, M. (2024). Facilitating the smooth migration of inhabitants of atoll countries to artificial islands: Case of the Maldives. Sustainability, 16(11), 4582. https://doi.org/10.3390/su16114582
・Ishiwatari, M., &Sasaki, D. (2022). Financing investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Asian perspectives. Springer Nature Singapore. (ISBN: 9789811929236)

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture focuses on environmental issues primarily on a global scale.
[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.
[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of the final exam administered during class time (100%).

ARS500P2 – 009

国際協力論D

武貞　稔彦

備考（履修条件等）：修士「国際協力論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】
一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。
　報告対象とする文献については、2026年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション　国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景ー途上国の貧困と先進国との格差ーについて概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第11,12回	「開発」とは何か:開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第13,14回	民間企業と国際協力	国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
松本勝男著（2023年）『日本型開発協力　途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】
　過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
＜主要研究業績＞
"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,
『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012年,
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】
　担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.
[Learning Objectives]
Completing the course, students are expected;
1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and

3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.
{Learning Activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

LAW500P2 － 015（法学 / law 500）

環境私法D

永野　秀雄

備考（履修条件等）：修士「環境私法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、学生は民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】
　この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。修士の方は、この視点で受講して頂きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　まず、環境私法で最も基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。
　これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。
最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。
また、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（１）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（２）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（３）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（４）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（１）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（２）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物をHoppiから配布します。

【参考書】
大塚直『環境法（第４版）』（有斐閣、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
　授業内での発表、議論への参加・貢献度30%、期末レポート70％。期末レポートは、環境私法のテーマの中から1つを取り上げ、法律論文等を3つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4で10頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】
今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞
①共著『分断・多元化世界と国際関係』（内外出版、2023年）。
②共著『海洋と国際関係』（内外出版、2019年）。
③共著『災害と住民保護』（内外出版、2012年）。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.
＜Learning Objectives＞
The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.
< Learning Activities outside of Classroom>
Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

ENV500P2 － 016（環境保全学 / Environmental conservation 500）

自然環境共生研究D

高田　雅之

備考（履修条件等）：修士「自然環境共生研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会に向けて、自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、自然環境を取り巻く問題の本質を探り、科学的・社会的な視点から、社会の各主体によって相乗的で多面的に取り組まれることが望まれます。本講義では、生態系とそれをめぐる諸課題を理解し、それらに対してこれまで取り組まれてきた様々な手立てと、今後の共生実現に向けた政策の可能性について考究することをテーマとします。

【到達目標】
学生が以下の3点について知識と理解を深め、その要点及び自らの考えを説明し、さらに学術的視点で自らの研究に応用する力を身に付けることを目標とします。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減じ、機能と恩恵を維持するために取り組まれてきた政策とその意義
③国際的視点に立って自然環境との共生に向けて取り組まれている諸政策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「主な生態系の理解と保全上の難題」、「日本における自然環境保全のための基盤的な諸施策」、「生物多様性保全・自然再生・里山保全などの近年の重要課題」、「諸外国における多面的な取り組み事例」、「生物多様性と経済」などについて学びます。国内外の実例を交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね、持続可能な自然環境との共生に向けた自らの意見を養うことを通して到達目標に向かいます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境保全を取り巻く動向、生物多様性に関わる概念の進化
第2回	生物多様性のホットスポットと生物の進化	生物多様性のホットスポット、生物の大絶滅・大進化の歴史、哺乳類と人間の登場
第3回	生態系の理解1：森林・草原	森林生態系の構造と機能、半資源草原・高山草原の生態系
第4回	生態系の理解2：湿原・干潟	湧水湿地と泥炭地湿原・干潟生態系の特徴
第5回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第6回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第7回	日本の自然環境保全施策1	自然公園と自然環境保全地域、鳥獣保護制度、野生動物の保護管理
第8回	日本の自然環境保全施策2	環境アセスメントの特徴と手続き、制度構築経過、戦略的環境アセスメント
第9回	里山と生物多様性	里山の資源循環と共生、生物多様性とは、生態系サービス、バイオミミクリ
第10回	自然再生	自然再生とは、近自然河川工法、グリーンインフラ
第11回	海外の自然環境共生事例1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、イギリスのトラスト活動
第12回	海外の自然環境共生事例2	ドイツのビオトープ、欧州農業環境政策
第13回	国際的取り組み	自然環境に関わる国際条約、その他の国際的な枠組み
第14回	生物多様性と経済	生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、認証制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
人と自然との関わりや、自然環境政策、生物多様性などに関するメディア、文献、事例に触れることにより自主的な研究を進めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
毎回の講義において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）：毎回提出するリアクションペーパーにより理解度を評価します。
期末レポート（50%）：最終回に示すレポート課題によって総合的な理解度と考察力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学
＜研究テーマ＞
湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット、都市における野鳥
＜主要研究業績＞
Combinedburningandmowingforrestorationofabandoned semi-naturalgrasslands,ApplVegSci.,2017.
DrasticdeclinesinBrownShrikeandYellow-breastedBunting attheLakeUtonaiBirdSanctuary,OrnitholSci.,2017.
TropicalPeatFormation,TropicalPeatlandEcosystems, Springer,2016.
企業緑地の野鳥飛来ポテンシャルを考える，都市緑化技術，2023.
「図説日本の湿地」（朝倉書店，2017）編著
「湿地の科学と暮らし」（北大出版会，2017）共著
「水辺に暮らすSDGs」（朝倉書店，2023）編著

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
To achieve harmony and coexistence between the natural environment and human activities for a sustainable society, it is hoped that we will explore the essence of the issues surrounding the natural environment and address the issues from the scientific and social perspectives. In this lecture, the theme is to understand the ecosystem and the issues surrounding it, to learn the various measures that have been taken to address them, and the potential of policies for harmonization between human and nature.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters with academic thinking skills.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SES500P2－018（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

大気人間環境論Ｄ

北川　徹哉

備考（履修条件等）：修士「大気人間環境論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気は人間生活圏を覆っており，人が呼吸し，生存するために必要なものである。一方で，時には脅威となる存在であり，またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては，大気の動きと人間生活，社会，都市，環境との関係について多角的に学ぶ。

【到達目標】
１．大気運動のスケールと性質，ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
２．大気による災害の種類と，それらの人と社会への影響を説明できる。
３．気流の人間生活への寄与・関与について説明できる。
４．上記１～３のうち，少なくとも一つについて定量的に評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で進められる。また，質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	大気の動きと時空間スケール	地球の気流，ENSO
第3,4回	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風，台風，風災害
第5,6回	局地風と人間環境	海陸風，おろし・だし，フェーン，日本各地・世界各地の局地風
第7,8回	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻，ダウンバースト
第9,10回	気流の渦と人間環境	気流の乱れ，気流の渦と構造物の振動
第 11,12回	強風の統計的性質	大気観測，最大風速，再現期待値，再現期間
第 13,14回	ビル風と人間環境，風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境，住環境や風力発電施設における風騒音

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノートや資料などを用いて予習・復習し，後半に出題される課題に取り組み，レポートにまとめること。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる平常点評価（80％）：大気と人間生活，社会，都市あるいはエネルギーに関するレポート課題に対し，到達目標１～４に要求される知識がレポートに展開されているか，また，適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。
授業への参加度の平常点評価（20%）：授業での修学状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境流体，気象社会論，流体関連振動
＜研究テーマ＞強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析
＜主要研究業績＞屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰Ornstein-Uhlenbeck過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博2000に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24.　Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み,日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments.　In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and and the see breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people.　Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.
（Learning Objectives）
The goals of this course are
A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
B. to study about the wind effects on cities and people,
C. to understand the system of the indoor air ventilation and
D. to learn a statistical evaluation on atmospheric environments.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.
（Grading Criteria /Policies）
Grading will be decided based on reports for assignments (80%) and class participation (20%).

ECN500P2 – 021（経済学 / Economics 500）

環境経済論D

杉野　誠

備考（履修条件等）：修士「環境経済論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の３つを最終目的とする。① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようになる。②日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。③博士論文を環境経済学の文脈の中での位置づけられるようになる。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】
経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。
また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。
さらに、博士論文を環境経済学の文脈の中に位置づけることができある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。
なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。
また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第2回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第3回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどの様な問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第4回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどの様な影響をもたらすかを解説します。
第5回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第6回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第7回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	どの様な環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第8回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第9回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第10回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第1約束期間までの状況を解説する。
第11回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第12回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図としているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第13回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第14回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。
また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】
『入門　環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】
Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】
小テストおよび最終課題を総合的に評価します。
具体的には、小テスト45%、最終課題55%の合計100%点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。

【学生が準備すべき機器他】
電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】
特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください（makoto.sug@gmail.com）。
質問などがあった場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学、応用ミクロ経済学
＜研究テーマ＞環境経済学
＜主要研究業績＞ Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013年

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues. This course has three objectives; 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues, 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed and 3) position doctoral dissertations within environmental economics context. This course will also discuss microeconomic theory because it is essential in understanding environmental economics.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in class will be decided based on the following:
Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

MAN500P2 – 024（経営学 / Management 500）

サステイナブル経営論D

長谷川　直哉

備考（履修条件等）：修士「サステイナブル経営論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではサステナビリティを巡る国際的な動向を整理し、CSR、CSV、SDGsが時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステナビリティ経営の強化を求めるコーポレートガバナンス・コードや東証市場再編、影響力を強めているESGマネー（投資・融資・保険）が企業経営にもたらす影響について理解を深めることを目指します。

【到達目標】
SDG に関する基本的な知識を習得したうえで、現代企業のサステナビリティ経営や脱炭素経営の実態を正しく評価する能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。社会人院生の履修環境に配慮してオンラインを中心とした授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	価値共創時代のサステ ナビリティ経営とは	サステナビリティ経営の概観
第2回	責任経営ケーススタディ①	住友財閥／伊庭貞剛・鈴木馬左也
第3回	サステナビリティ経営 の最新動向「ガバナン ス編」	日本型ガバナンスの現状 コーポレートガバナンスコード
第4回	責任経営ケーススタディ②	大日本報徳社／岡田良一郎
第5回	サステナビリティ経営 の最新動向「環境編」	脱炭素経営の本質企業評価の新た な尺度となる炭素利益率
第6回	責任経営ケーススタディ③	豊田自動織機／豊田佐吉 スズキ／鈴木道雄
第7回	ESG 経営の最新動向「社会編」	人権・ダイバーシティ 人的資本経営
第8回	責任経営ケーススタディ④	倉敷紡績・クラレ 大原孫三郎 大原総一郎
第9回	近代産業の勃興と経済 倫理「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第10回	責任経営ケーススタディ⑤	グンゼ／波多野鶴吉 天竜木材／金原明善
第11回	日本社会における企業 倫理の形成	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第12回	責任経営ケーススタディ⑥	第一生命／矢野恒太 東京海上／各務鎌吉
第13回	ゲストスピーカーによる講義①	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します
第14回	ゲストスピーカーによる講義②	詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業が発行する統合報告書やサステナビリティ報告書を参照しながら、SDGsやパリ協定と企業はどのように向き合おうとしているのかについて自己学習を深めて下さい。詳細については、初回授業において説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023 年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資－長期的な企業価値創出メカニズムを求めて』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
下記基準に基づいて評価します。
期末レポート：90％
発表・討議：10％

【学生の意見等からの気づき】
複雑な数式等は使わず、財務分析や証券投資に関する知識の無い方にも理解しやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステイナビリティ
＜最近の主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, We will review how international trends in sustainability (CSR, CSV, SDGs) have been changing. We will also examine the impact of the Corporate Governance Code, the restructuring of the Tokyo Stock Exchange and ESG money (investment, financing and insurance) on corporate management.Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.Grading will be based on the final report (90%) and presentation (10%).

SES500P2－025（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

地域環境計画研究Ｄ

湯澤　規子

備考（履修条件等）：修士「地域環境計画研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」と「農」と「風景」をキーワードとして、その関係性を歴史的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、様々な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】
食と農と風景の歴史を理解し、地域環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域環境を論じる視点
第2回	問題提起	地域環境を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（１）	地域環境に関わる文献講読
第4回	文献講読（２）	地域環境に関わる文献講読
第5回	文献講読（３）	地域環境に関わる文献講読
第6回	地域・環境・計画についての討論	様々なアクターについて考える
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
下記の文献を輪読し、討論します。
・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはん―食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年、1760円（税込）

【参考書】
講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
報告（50％）と最終レポート（50％）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
＜主要研究業績＞
・『焼き芋とドーナツ―日米シスターフッド交流秘史』（単著、KADOKAWA、2023年）
・『７袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】
◆Course outline
Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "landscape" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.
◆Learning Objectives
Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.
◆Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.
◆Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

LAW500P2 – 026（法学 / law 500）

国際環境法D

岡松　暁子

備考（履修条件等）：修士「国際環境法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成・発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際社会における環境問題の本質を国際法的側面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。判例については、受講者による発表と全体討論も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の形成と展開	国際環境法へのアプローチの仕方、国際環境問題の特徴の変遷とそれに対応した国際環境法の生成について概観する。
第3,4回	国際環境法の性質、国際環境法の制度化	国際環境法の性質とそれに対応した定立形式、制度化について検討する。
第5,6回	国際環境法の手続的義務、国際環境法上の義務の履行確保	国際環境法に特徴的に見られる手続的義務と、国際環境法上の義務の履行確保制度について考察する。
第7,8回	受講者による発表と討論①	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第9,10回	受講者による発表と討論②	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第 11,12回	受講者による発表と討論③	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
第 13,14回	日本と国際環境問題	日本に大きな影響のある国際環境問題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
その他、適宜講読文献を指示する。

【参考書】
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50％）、発表（30％）、討論（20％）

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
受講者の人数により、授業の方法を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際法
＜研究テーマ＞国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法
＜主要研究業績＞
『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before and after the class.
The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

CUA500P2 – 029（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 500）

ヒューマン・エコロジーD

高橋　五月

備考（履修条件等）：修士「ヒューマン・エコロジー」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒューマン・エコロジーでは、サステイナビリティに関する文化的、社会的側面について学びます。授業では、主に文化人類学や関連分野の文献購読をもとに、サステイナビリティに関連する課題だけでなく、関連する主要な概念や理論について意見交換し、検討します。また課題の取り組みをとおして、学生が自らリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するためのリサーチスキルおよびライティングスキルを高めることを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は演習授業として、文献講読とディスカッションをもとに進めます。具体的には、学生は事前に必須講読文献をもとにコメントや質問を準備し、Zoom 授業ではファシリテーター担当の学生が進行役を務めながら文献で扱われる概念、理論、事例研究について意見交換を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1,2回	ガイダンス	授業の目的および進め方の説明。
第3,4回	文献講読（１）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第5,6回	文献講読（２）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第7,8回	文献講読（３）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第9,10回	文献講読（４）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第 11,12 回	文献講読（５）	文献を通して、サステイナビリティに関連する主要概念、理論を学び、ディスカッションで理解を深める。
第 13,14 回	リサーチペーパー発表	リサーチペーパーについて発表し、フィードバックを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、コメントペーパーを書く、ファシリテーターとして進行計画を立てる、リサーチペーパーに取り組むことを含みます。

【テキスト（教科書）】
講読する文献については、第1回授業で相談のうえ決定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと議論への参加（40%）、発表（20％）、期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　環境人類学、海洋人類学、震災人類学
＜研究テーマ＞　日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学、共生の人類学
＜主要研究業績＞　『Fukushima Futures: Survival Stories in a Repeatedly Ruined Seascape』(単著 University of Washington Press, 2023)、『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、３・１１後の世界に生きる）』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5– 23 (2014)、他

【Outline (in English)】
"Human Ecology" is a graduate seminar to learn the cultural and social dimensions of sustainability. We will examine key concepts and theoretical debates relating to sustainability. The main goal of this seminar is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations.
Students will be expected to actively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries and class participation (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

GEO500P2 － 031（地理学 / Geography 500）

サステイナビリティ学事例研究ＤⅡ

杉戸　信彦

備考（履修条件等）：修士「サステイナビリティ学事例研究Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地震災害は、発生した場合の影響が大きく、地域社会の持続可能性を考える重要な鍵のひとつとなる。本事例研究では、土地条件評価と地震発生予測の現状と課題を検討し、今後の土地利用や社会基盤のあり方を考える。

【到達目標】
土地条件評価と地震発生予測について説明できる。
土地利用や社会基盤の課題を具体的に記述し、解決案を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式。図上作業等も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形と災害	日本列島の地形環境について自然地理学的な視点から概観する。地理院地図の概要を理解する。
第2回	地形調査法と実習	変動地形と古地震の調査法を概観したのち、活断層の位置情報を知るための地形判読実習を行う。
第3回	土地条件評価と実習	地形と地質、災害脆弱性、地域危険度などについて検討を行い、理解を深めるため机上作業を行う。
第4回	地震発生予測	地震発生繰り返しモデルや長期評価について検討を行う。
第5回	地震と活断層	活断層分布とその地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第6回	プレート境界の地震	プレート境界の地震に関し、地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第7回	土地利用と社会基盤	災害危険区域や高台移転、防潮堤、建築基準など、土地利用および社会基盤に関わる話題について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）・期末レポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞
1）杉戸信彦，2014，大地震の歴史とメカニズムを捉える－活断層への地理学的アプローチ－，木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編，「災害フィールドワーク論」，FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ5，古今書院，212p，132-149.
2）杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘，2015，津波浸水域データと数値標高モデルのGIS解析に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布，地学雑誌，124，157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157
3）Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】
Risk management for recurrent earthquake disasters is a key to improve social resilience, which supports sustainable society, because earthquakes generally cause serious damages. We examine land-condition evaluation and long-term earthquake prediction, in order to propose future land use as well as to suggest how to use social infrastructures.
Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain land-condition evaluation and long-term earthquake prediction in the Japanese islands, and (2) to explain issues and propose ideas for land use and social infrastructures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final report (70%).

ENV500P2 – 032（環境保全学 / Environmental conservation 500）

サステイナビリティ学事例研究DIII

渡邊　誠

備考（履修条件等）：修士「サステイナビリティ学事例研究III」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、環境問題について「エネルギーと物質」という観点から研究する。社会の持続可能性を達成する条件などに関して、物理学の一分野である熱力学に着目しながら、現在展開されている具体的な事例をもとに考察する。エネルギーは保存されているが、その変換に際して（時間が経過すると）質は劣化（エントロピーが増大）する。これらは熱力学の第一法則、第二法則として知られている。物質についても同様のことがいえる。このような自然の法則性を理解し、地球システムの描像と人間活動（人為）との関連を理解しておくことは、持続可能性を具体的に考察する上で極めて重要であると思われる。現代社会が抱えているエネルギー問題、廃棄物問題、温暖化問題はまさにこの線上にある。

【到達目標】
概ね次の内容の修得をめざしている。（1）地球システムを概観することができる。（2）熱力学の第一法則、第二法則を理解し、人間活動（人為）との関連性を考察することができる。（3）人間活動としてのエネルギーと廃棄物に関わる諸問題をそれらの観点から検討することができる。（4）エネルギー問題、気候変動問題について持続可能性という概念をふまえて考察することができる。（5）博士後期課程において各自進めている研究との関連性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では、著書、論文、各種資料などをもとに輪読とディスカッションを行っていく。事例研究として受講者が持ち寄った資料をもとに検討を行うことも含める。また受講者が現在遂行している研究内容を報告してもらい、授業内容との関連について考察することも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方などの説明。参考図書などの紹介。
第2回	地球システムについて	宇宙から微生物までを眺める。太陽エネルギー、光合成、炭素循環、水の大循環など。
第3回	エネルギーと物質（地球システムと人間活動）	エネルギー資源の採取、変換、利用と損失。物質の利用と廃棄、そして人工的循環。地球システムとの比較を通して見る人間活動。
第4回	エネルギーと物質（事例研究）	具体的な事例による考察。
第5回	成長の限界（持続可能性と自然科学的条件）	幾何級数成長とその限界。システムダイナミックス。ナチュラルステップによる持続可能社会の条件。
第6回	成長の限界（事例研究）	具体的な事例による考察。
第7回	熱力学と人間活動（熱力学とエネルギー・物質）	熱力学の第一法則と第二法則。エントロピーの概念とその増大則。
第8回	熱力学と人間活動（事例研究）	具体的な事例による考察。
第9回	環境負荷と指標（人間活動と地球の有限性）	ライフサイクルアセスメント（LCA）とエコロジカルフットプリント（EF）。
第10回	環境負荷と指標（事例研究）	具体的な事例による考察。
第11回	共生の概念と持続（生物学的共生現象から）	生物学に見る共生関係と種の持続性。捕食・被食関係とダイナミックス。社会における地域連携の意義を考える。
第12回	共生の概念と持続（事例研究）	具体的な事例による考察。
第13回	総合討論（物理から考える社会）	クローズド・ループ・インダストリとゼロエミッション。永久機関とエントロピー増大則。これらの概念から環境問題の考察へ。
第14回	総合討論（事例研究）	参加者からの論点提示と総合討論。レポート出題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加時の積極性50％と提出されたレポート内容50％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の理解度を確認しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞非線形力学、物性理論、計算科学
＜研究テーマ＞カオスとフラクタル、交通流のダイナミックス
＜主要研究業績＞「学際性の視点による複合的問題の構造分析―焼畑についてのエントロピー論的考察―」人間環境論集（法政大学人間環境学会）,Vol.26,No.2（2026年1月）,pp.27-48. Traffic Dynamics and Congested Phases Derived from an Extended Optimal-Velocity Model, Engineering 6(2014)pp.462-471. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I &II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 &17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】
（Course outline） This course deals with the theme as “energy and materials” which relates to the environmental problems. We introduce the concept of thermodynamics in the field of physics. By means of the concept, we investigate various realistic cases for energy and waste problems in society. Thermodynamics states that energy is always conserved even though time passes (the first law), but the quality is spent (the second law). This is valid not only for energy systems but also for materials. In order to understand the concept of sustainability, it is very important to know the natural law as thermodynamics and the structure of the earth system including material circulation in nature. In class, additionally we obtain the concept of Life-Cycle Assessment and Ecological Footprint. Dynamics for biotic systems is simulated in clarifying symbiosis relation among different species.
（Learning Objectives）At the end of this class, we are expected to have the concepts as the earth system, the first and the second law of thermodynamics, the energy and waste problems in society, and their relation with human actions.

（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.
（Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and End-term report 50%.

SOC500P2 – 033（社会学 / Sociology 500）

環境ガバナンスＤⅠ

藤田　研二郎

備考（履修条件等）：修士「環境ガバナンスⅠ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】
現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。社会運動論、協同組合論、NPO論の先行研究を批判的にレビューし、新たな論点を提起できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。
2026年度は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。Zoomの接続情報は学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
坂本治也編，2017,『市民社会論』法律文化社.

【成績評価の方法と基準】
平常点（15%）＋期末レポート（85%）、を想定。
期末レポートでは、社会運動論、協同組合論、NPO論の先行研究に対する批判的なレビューを重視する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
修士課程「環境ガバナンスⅠ」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】
（専門領域）
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
（研究テーマ）
環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
地域の課題解決と環境保全の両立を考える
（主要研究業績）
藤田研二郎，2019,『環境ガバナンスとNGOの社会学』ナカニシヤ出版.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations, and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:
- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
- Review critically previous studies on social movements, cooperatives, and non-profit organizations and propose theoretical issues.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (15%) + Final Report (85%).
Final report will focus on critically reviewing previous studies on social movements, cooperatives, and non-profit organizations.

法政大学
HOSEI University